中期目標の達成状況報告書

平成２０年６月

東京芸術大学

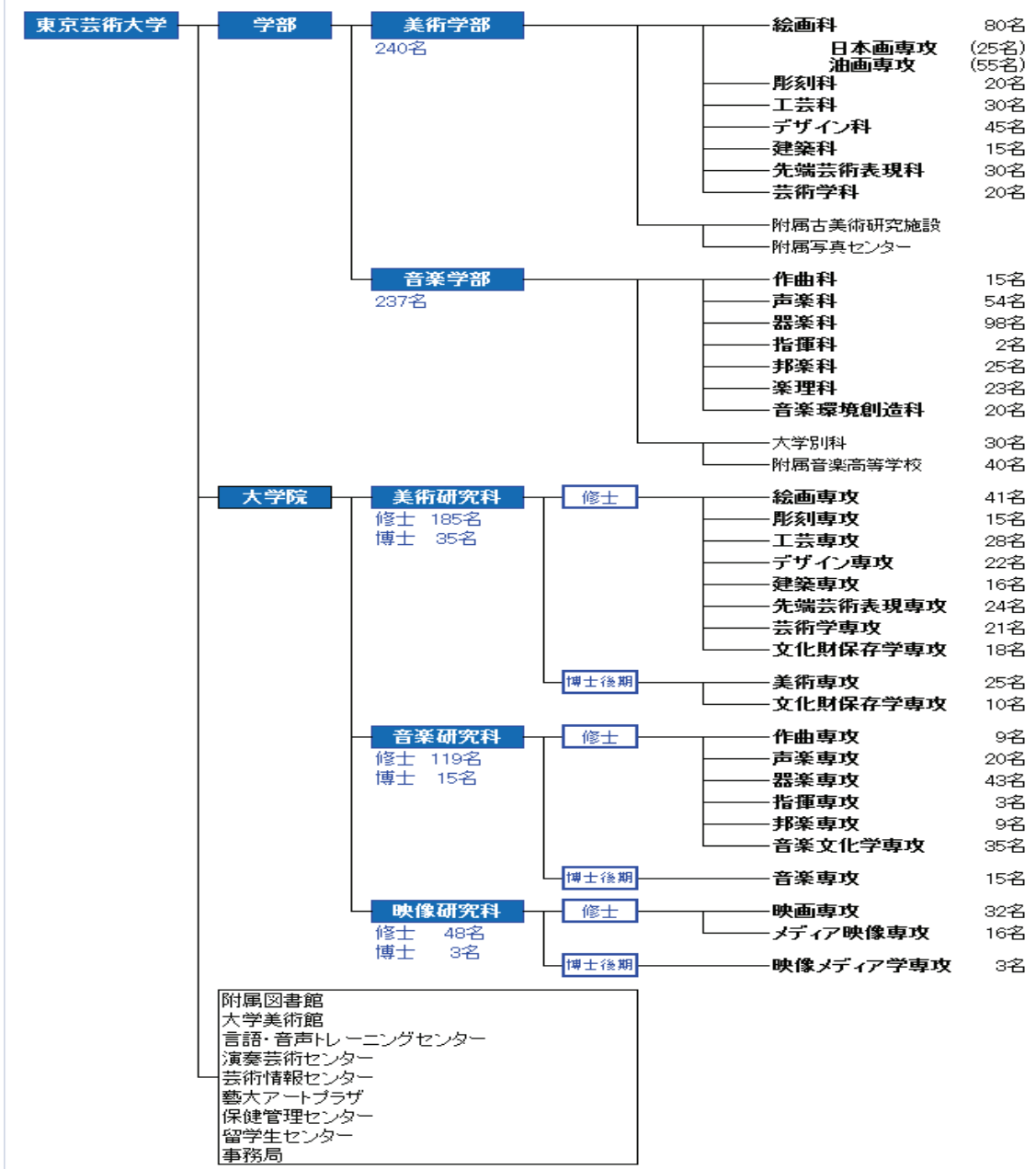
目　　次

Ⅰ．法人の特徴　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
Ⅱ．中期目標ごとの自己評価　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３
　１　教育に関する目標　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３
　２　研究に関する目標　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６５
　３　社会との連携，国際交流等に関する目標　・・・・・・・・・・１０６

Ⅰ　法人の特徴

1　本学は，前身である東京美術学校，東京音楽学校の創立以来，通算して約 120 年の歴史があり，これまで，日本の近代美術史や音楽史に輝く多くの芸術家を輩出してきている我が国唯一の国立芸術大学である。美術学部は，絵画（日本画，油画），彫刻，工芸，デザイン，建築，先端芸術表現，芸術学の各科がある。音楽学部は，作曲，声楽，器楽（鍵盤楽器，弦管打楽器，古楽），指揮，邦楽，楽理，音楽環境創造の各科がある。大学院は，両学部の専門分野に対応した，修士課程，博士後期課程の専攻があり，さらに美術研究科には，独立専攻として，文化財保存学専攻が置かれている。また，平成 17 年度には独立研究科として新たに映像研究科を設置したところである。

資料　東京芸術大学　教育研究組織の構成(平成19年度)　　数字は入学定員



2　本学の専門教育の特色は，美術学部・美術研究科においては，主としてアトリエを中心とした制作活動，音楽学部・音楽研究科においては個人レッスンを中心とした個人指導，映像研究科においては，映像作品の創作活動によって，学生の実技修練，創造性の開発を図ることにある。そのため，教育方法については，１対多数ではなく，少人数指導または１対１のマンツーマンによる方法が，芸術教育の伝統的教育手法として確立されている。こうした伝統的手法による地道で，

継続的な教育活動が，本学の大きな特色の一つである。また，新しい創造活動の基盤として，伝統芸術を専門的な見地から学ぶことを重視しており，数千年を超える伝統を持つ諸芸術を学ぶために，様々な授業科目を設けているほか，実地見学や特別講義・講演会といった機会を設けて，伝統的芸術技法を学生が習得できるように配慮している。

3　本学の教員は，「教育研究者」というだけでなく，それぞれが作家，演奏家として個々に「表現者」「芸術家」として成り立っていることも特徴といえる。学長は，芸術家集団である本学の教員組織を率いて行くために，各教員の個性を尊重しつつリーダーシップを発揮し，法人化のメリットを活かして，世界に伍する個性ある大学となるよう努めている。

4　本学は，大学全体として，国立大学の中で唯一の芸術大学としての使命（即ち芸術家の育成と芸術創造の具現化）を果たすだけでなく，芸術をもって，より社会に貢献できる大学として各種の取組・活動を行うことを重視している。また，本学には，国宝・重要文化財から学生の卒業制作品まで多数の所蔵品があり，東京国立博物館に次ぐ所蔵品数を誇る大学美術館と国内で最も音響効果の優れたコンサートホールのひとつである奏楽堂を有している。これらの施設は，本学の教育研究の場として活用されているだけではなく，各種の展覧会，演奏会が開催され，多くの一般の鑑賞者を集めており，本学の教育研究成果を社会に発信し，還元する場として十分な役割を果たしている。

Ⅱ　中期目標ごとの自己評価

１　教育に関する目標（大項目）

（１）中項目「１　教育の成果に関する目標」の達成状況分析

①小項目の分析

○小項目１ ウェイト「１．大学の目標の実現をめざし，現代社会における芸術の創作拠点として，独創性，国際性豊かな芸術家を育成する。さらに，芸術研究者，教育者，文化財専門家，芸術文化拠点の運営者，芸術文化政策の立案者など，芸術の関連分野の専門家を育成する。」の分析

a)関連する中期計画の分析

計画１－１ ウェイト「【１】我が国芸術文化向上に多大な貢献を果たしてきた本学の芸術教育伝統を継承し，伝統的な芸術表現手法及び自己表現手法の獲得を一層強力に推進するとともに，新しい芸術表現・自己表現手法の獲得のための教育も積極的に展開していく。」に係る状況

本学各科専攻の専門教育においては，新しい芸術表現・自己表現手法をつくり出していく基盤として，伝統文化・伝統的な芸術表現手法や技術の教授に力を入れている。

特に，「古美術研究」は，京都・奈良地方の古美術（国宝・文化財等）を見学し，美術を専攻する学生の基礎的視野を拡げ，各自の専攻分野の研究に資するものとして，先端芸術表現科を含めた美術学部各科で必修としている（資料１－１：教育課程表，資料１－２：選択授業科目一覧　参照）。

また，本学では，1990 年代以降の経済のグローバル化やコンピュータテクノロジーの急激な進歩と普及に伴って，音楽，美術，映像，舞台といった芸術文化諸分野間の融合や芸術文化の経済・工学・社会学などの他分野との関わり合いの深化といった現代的要請に応えるものとして，平成 11 年度に美術学部先端芸術表現科，平成 14 年度に音楽環境創造科，平成 17 年度に大学院映像研究科を設置した（資料１－３：学部・研究科の関係と専攻等の新設履歴　参照）。

これらのほか，新しい芸術表現・自己表現手法をつくり出していくための基礎知識として，美術・音楽の両学部の学生とも選択できる科目として，芸術情報概論，サウンドプログラミング演習，スタジオサウンド演習，Web デザイン演習などの多様な科目を提供している。さらに，外部の工房や博物館，修復現場等の実地見学や，技術者，国内外で活躍する作家，演奏家等を講師に招いての集中講義・特別講義を行って，学生が伝統的な芸術表現や新しい芸術表現についての視野を拡げることができるよう努めている（資料１－２：選択授業科目等について，資料１－４：特別講義等の例　参照）。

資料 １－１　教育課程表

例１：美術学部デザイン科

区分	基礎課程		専門課程		修得単位数
	１年次	２年次	３年次	4年次	
必修	デザイン基礎実技Ⅰ(4) （デッサン 塑造） デザイン実技Ⅰ(14) 観察と表現 （視覚 空間 機能） デザイン技法Ⅰ(2) （毛筆 タイポグラフィー パース レタリング）	デザイン基礎実技Ⅱ(4) ［デザイン技法Ⅱ］ デザイン実技Ⅱ(14) 発想と表現 （視覚 空間 機能 映像・画像 環境 描画・装飾）	デザイン実技Ⅲ(16) 構想と表現 （視覚 空間 機能 映像・画像 環境 描画・装飾）	デザイン実技Ⅳ(12) デザイン表現 （視覚 空間 機能 映像・画像 環境 描画・装飾） 卒業制作(14) （視覚 空間 機能 映像・画像 環境 描画・装飾） 上記領域を中心とした研究と創作	84単位
			専門科目(4) グラフィックデザインⅠ(2) グラフィックデザインⅡ(2) プロダクトデザインⅠ(2) プロダクトデザインⅡ(2) スペースプランニングⅠ(2) スペースプランニングⅡ(2) 映像論Ⅰ(2) 映像論Ⅱ(2) ※左記の講義科目より4単位		
	20単位	18単位	20単位	26単位	
			古美術研究(10)		10単位
	指定科目： 1・2年次　図学Ⅰ(4)又は図学Ⅱ(4) 2年次　デザイン原論(4)，芸術情報演習(デザイン)(4) 1～4年次　日本美術史概説(4)、西洋美術史概説(4)、東洋美術史概説(4)、デザイン概説のうちから1科目を履修				16単位
選択	共通科目				16単位
	合計				126単位

（デザイン科　実技年間スケジュール）

月	週	1年生			2年生			3年生		4年生	
4	1	ガイダンス		毛筆	ガイダンス	プレゼンテーション		ガイダンス		ガイダンス等	
	2	デザイン基礎実技Ⅰa デッサン 中島	デザイン基礎実技Ⅰb 塑造（彫刻科教員）		デザイン実技Ⅱa 発想と表現（空間・演出） 池田 「Materials」			デザイン実技Ⅲa 構想と表現 松下	デザイン実技Ⅲa 構想と表現 長濱	デザイン実技Ⅳa 箕浦 蓮見	デザイン実技Ⅳa 尾登 清水
	3							「都市」		「メッセージ」	
	4										
5	5	デザイン基礎実技Ⅰb 塑造（彫刻科教員）	デザイン基礎実技Ⅰa デッサン 中島		デザイン実技Ⅱb 発想と表現（機能・演出） 尾登 「トキのカタチ」			デザイン実技Ⅲb 構想と表現			
	6										
	7										
	8	デザイン実技Ⅰa 観察と表現（機能・設計） 長濱 「にぎる」		タイポグラフィーⅠ		アニメーションⅠ	モデリング	古美術研究 A/B班別に実施		デザイン実技Ⅳb（プレ卒業制作） 中島 河北 松下	デザイン実技Ⅳb（プレ卒業制作） 池田 長濱 橋本
6	9				デザイン実技Ⅱc 発想と表現（描画・装飾） 中島 「生活」			池田・中島 「伝統とデザイン」			
	10										
	11										
	12										
7	13	デザイン実技Ⅰb 観察と表現（視覚・伝達） 松下									
	14										
	15									プレゼンテーション期間	
夏期休業											
10	1	「植物園」		パース	デザイン実技Ⅱd 発想と表現（映像・画像） 箕浦 「コマーシャルメッセージ」	タイポグラフィーⅡ	金属	デザイン実技Ⅲc 構想と表現 蓮見 「セルフプロジェクト」	デザイン実技Ⅲc 構想と表現 清水 「エコ・サスティナブル」	卒業制作 学生のテーマにより各研究室ごとに指導。 池田政治 中島千波 河北秀也 尾登誠一 箕浦正一 蓮見智幸 清水泰博 長濱雅彦 松下 計 橋本和幸	
	2										
	3						樹脂				
	4	デザイン実技Ⅰc 観察と表現（空間・設計） 橋本 「住まう」									
11	5				デザイン実技Ⅱe 発想と表現（環境・設計） 清水 「プレイグラウンド」			デザイン実技Ⅲd 構想と表現 河北 「雑誌の創刊」	デザイン実技Ⅲd 構想と表現 尾登 「家族のカタチ」		
	6										
	7										
	8										
12	9	デザイン実技Ⅰd 観察と表現 進級課題（視覚・構成） 蓮見 「本」		レンダリングⅠ			レンダリングⅡ			卒業制作講評 全教員 卒業制作提出・採点 全教員	
	10										
	11										
1	12				デザイン実技Ⅱf 発想と表現 進級課題（視覚・演出） 河北 「地域とデザイン」			デザイン実技Ⅲe 構想と表現 箕浦 「マイルーム」	デザイン実技Ⅲe 構想と表現 橋本		
	13										
	14										
	15	プレゼンテーション期間			プレゼンテーション期間			プレゼンテーション期間		プレゼンテーション期間	

例:音楽学部器楽科(弦楽)

区分	授業科目	年次	1年次		2年次		3年次		4年次		修得単位数		
		期別	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	小計	中計	合計
必修科目	専門実技		4	4	4	4	4	4	4	4	32	86	142
	学内演奏						2				2		
	卒業演奏								4		4		
	ピアノⅠ		1	1							2		
	ソルフェージュA-Ⅰ		2	2	2	2					8		
	ソルフェージュA-Ⅱ		2	2	2	2							
	和声初級		4								4		
	和声中級				4						4		
	弦楽合奏		4								4		
	オーケストラ				8		8		8		24		
	室内楽Ⅰ		2								2		
選択科目	ピアノⅡ				1	1	1	1	1	1	16	48	
	副科実技				2		2		2				
	ソルフェージュB-Ⅰ						2	2	2	2			
	ソルフェージュB-Ⅱ						2	2	2	2			
	和声上級						4						
	室内楽Ⅱ				4								
	室内楽Ⅲ						4						
	室内楽Ⅳ								4				
	吹奏楽				4		4		4				
	西洋音楽史		4										
	教養科目		16								16		
	外国語科目Ⅰ		8								8		
	外国語科目Ⅱ						4				8		
	専門基礎科目		8										
	保健体育		2										
自由科目			8								8	8	

資料１－２　選択授業科目等について

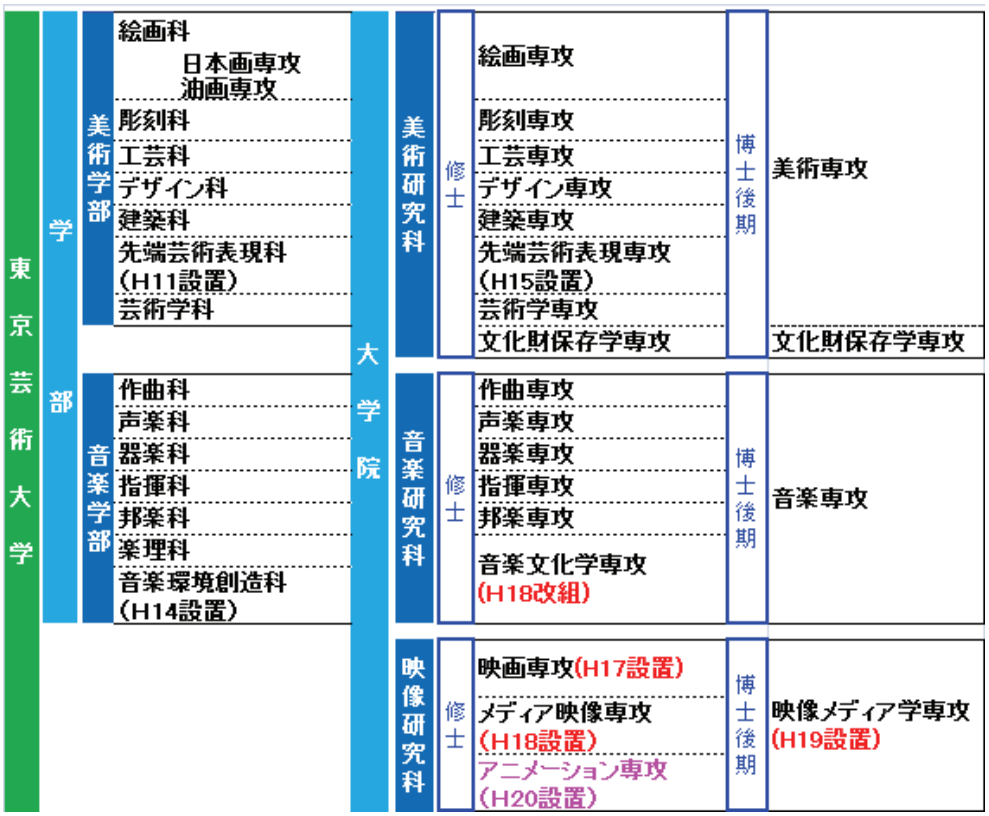
①一般教養的科目（教養科目，専門基礎科目，自由科目）として開設されている授業科目

美術学部	音楽学部	両学部共通	※美術学部選択科目で音楽学部音楽環境創造科で履修が認められている科目
絵画技法史・絵画材料論	西洋音楽史	哲学	
彫刻概論Ⅰ	日本・東洋音楽史	経済学	
彫刻概論Ⅱ	声楽史	文化史	
日本金工史	鍵盤音楽史	文化人類学	複合表現演習Ⅰ
金属材料学	管弦楽史	法学（日本国憲法を含む）	複合表現演習Ⅱ
漆工史	ジャズ・ポピュラー音楽	倫理学	複合表現演習Ⅲ
化学塗装学	管弦楽法	歴史	伝統演劇論
化学塗装実験	対位法Ａ	思想史	映像芸術論
東洋陶磁史	対位法Ｂ	社会学	音表現論
陶磁原料学	管弦楽概論	宗教学	環境表象論
染織工芸史	楽式原論Ａ	心理学	環境保護論
染色化学	楽式原論Ｂ	生物学	芸術社会論
デザイン概説	フーガ	健康教育	身体言語論
舞台美術	作曲家作品研究Ａ（声楽）		ｱｰﾄｱﾄﾞﾐﾆｽﾄﾚｲｼｮﾝ概論
建築概論	作曲家作品研究Ｂ（鍵盤）	日本文学	空間演出演習
日本・東洋建築史	作曲家作品研究Ｃ（管弦楽）	イタリア文学	写真表現演習Ⅱ
西洋建築史	作曲家作品研究Ｄ（室内楽）	ドイツ文学Ⅰ（詩）	戦後視覚文化論
美学史概説	邦楽概論Ａ（雅楽）	ドイツ文学Ⅱ（小説と戯曲）	
日本美術史概説	邦楽概論Ｂ（声明・琵琶楽）	フランス文学	※音楽学部音楽楽環境創造科専門科目で，美術学部の専門基礎科目として履修が認められている科目
東洋美術史概説	邦楽概論Ｃ（能楽）	アートマネージメント概論	
西洋美術史概説	邦楽概論Ｄ（三曲）	英米文学	
日本工芸史概説	邦楽概論Ｅ（長唄・歌舞伎音楽）	演劇論	
工芸理論	邦楽概論Ｆ（浄瑠璃）		文化環境論
図学Ⅰ	楽曲分析Ⅰ	ポップ論	芸術運営論Ⅰ：基礎概論
図学Ⅱ	楽曲分析Ⅱ	メディア・リテラシー	芸術運営論Ⅰ：音楽ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ１
色彩概論	合奏Ⅲ－１	メディア論１：基礎理論研究	芸術運営論Ⅰ：音楽ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ２
色彩学	合奏Ⅲ－２	メディア論２：応用分析編	芸術運営論Ⅰ：著作権
美術解剖学Ａ	古典舞踏Ⅰ	映画史	芸術運営論Ⅱ：文化政策
美術解剖学Ｂ	古典舞踏Ⅱ	音楽文化史	芸術運営論Ⅱ：経営学
素材表現演習Ⅰ（金工）	古典舞踏＜集中＞	芸術論	芸術運営論Ⅱ：ＮＰＯ論
素材表現演習Ⅱ（鋳造）	音楽文芸演習		芸術運営論Ⅱ：社会事業ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
素材表現演習Ⅲ（七宝）	音楽文芸研究（シナリオ作法）	３Ｄグラフィックス演習	芸術運営論Ⅱ：地方自治体の文化行政
素材表現演習Ⅳ（木材）	音楽リサーチ法Ⅰ・Ⅱ	DTP デザイン演習	芸術運営論Ⅱ：マーケティング
素材表現演習Ⅴ（塗装）	循環呼吸	DTP デザイン演習初級	芸術運営論Ⅱ：芸術支援
素材表現演習Ⅵ（石材）		Web デザイン演習	音響技術史
ガラス工芸演習（取手）	美学	Web デザイン演習初級	身体芸術論
ステンドグラス実習	音響学	Web ﾓｰｼｮﾝｸﾞﾗﾌｨｯｸｽ演習	録音技術概論
工芸制作論	音声学	ｸﾞﾗﾌｨｯｸｽﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ演習	ジャズ・ポピュラー音楽理論
工芸制作実習		ｺﾝﾋﾟｭｰﾀﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ演習	コマーシャルにおける映像と音楽
塑造	芸術文化環境論	コンピュータ基礎演習	現代ダンス概説
現代芸術論Ⅰ	音楽療法概論	ｻｳﾝﾄﾞﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ演習	日本音楽概論
現代芸術論Ⅱ	応用医学研究	スタジオサウンド演習	声楽実技演習
ドローイング演習Ⅰ	サウンドスケープ論	芸術情報概論	サウンドデザイン演習
ドローイング演習Ⅱ	ミュージカル概論	芸術情報特論	芸術運営演習
絵画空間論	詩のリズム	実写映像演習	芸術批評演習
写真概論	著作権概論	情報機器概説	脚本読解演習
メディア音楽演習Ⅰ	音楽文化研究：日本のうた		文化研究
メディア音楽演習Ⅱ	文章表現論	劇場技術論	リズムのフィールドワーク
写真表現演習Ⅰ	音楽教育論	劇場芸術論	音響表現論
映像演習Ⅰ		創造の今日と未来	舞台技術論１（舞台機構）
映像演習Ⅱ	音楽情報プレゼンテーション		舞台技術論２（舞台照明・舞台音響）
メディアデザイン演習Ⅰ	コンサート制作論	演奏録音研究	サウンドアート概論
メディアデザイン演習Ⅱ	ＡＶメディア		音響心理学概論
モデリング演習	サウンドレコーディング基礎演習		芸術特論
プログラミング演習Ⅰ	ホール音響概論		
プログラミング演習Ⅱ	CAD 図法演習	考古学	
現代写真論（後期）	芸術情報演習（デザイン）	音楽	

②音楽学部副科実技（ピアノ以外）開設科目一覧

科目		科目		科目	
声楽	独唱 合唱	管打楽器	フルート オーボエ クラリネット ファゴット サクソフォン ホルン トランペット トロンボーン ユーフォニアム チューバ 打楽器	邦楽	長唄三味線 清元三味線 常磐津三味線 長唄 常磐津 清元 邦楽囃子（小鼓） 邦楽囃子（大鼓） 邦楽囃子（太鼓） 邦楽囃子（笛） 箏曲（山田流） 箏曲（生田流） 尺八（琴古流） 尺八（都山流） 能楽囃子（小鼓） 能楽囃子（大鼓） 能楽囃子（太鼓） 能楽囃子（笛）
鍵盤楽器	オルガン				
弦楽器	ヴァイオリン ヴィオラ チェロ ハープ	古楽	チェンバロ フォルテピアノ バロックヴァイオリン バロックチェロ ヴィオラ・ダ・ガンバ バロックオーボエ フラウト・トラヴェルソ		
指揮	指揮法				

資料１－３:学部･研究科の関係と専攻等の新設履歴



資料１－４:特別講義等の例(平成 19 年度)

No.	日付	対象	題目	講師氏名	講師所属等
美術分野					
1	4 月 27 日, 6 月 27 日, 8 月 31 日	日本画院生	徳川美術館特別観覧(源氏物語絵巻原本の臨模及び色合わせ, 資料作成等)	―	徳川美術館
2	4 月 20 日	油画	パリへ一洋画家たち百年の夢「出品アーティストによる座談会」	小川佳夫･佐藤利成･森江秀夫他	作家
3	4 月 25, 26 日	油画	バンコク　コンドミニアムで	佐藤利成	作家
4	5 月 28 日	油画学部1年	山口晃　集中講義	山口晃	作家

5	6 月 18 日	油画	バトル十番勝負	O Jun, 長谷川繁	作家
6	6 月 27, 28 日	油画	版画制作の実演（自作についての説明，作品鑑賞も含む）	田村文雄	作家
7	7 月 2 日	油画	展開の可能性2007	是枝開	神奈川県立美術館主任学芸員・作家
8	10 月 19 日	油画	ウィーンの版画事情（自作についても含む）	ミヒャエル・シュナイダー	ｳｪﾌﾞｽﾀｰ大学ｳｨｰﾝ校視覚文化助教授
9	10 月 29 日	油画	見たままに	押江千衣子	作家
10	11 月 6 日	油画	アクリル絵の具について	マーク・ゴールデン他	ゴールデン社最高経営責任者
11	11 月 7 日	油画	「時代と絵画」～中村宏の「タブロオ機械」と「図画事件」～	中村宏	アーティスト
12	11 月 13, 14 日	油画	社会とアート	秋元雄史	金沢 21 世紀美術館館長
13	11 月 19 日	油画	自作について	筆塚稔尚	東京造形大学非常勤講師
14	12 月 3 日	油画	現代アートの＜現在＞を読みとく。	市原研太郎	美術評論家
15	12 月 7 日	油画	「”近代洋画”再考～藤田嗣治，青木繁，そして熊谷守一～」	山下裕二	明治学院大学教授
16	12 月 10 日	油画	「『絵画』という問題」	本江邦夫	多摩美術大学教授・府中美術館館長
17	12 月 11 日	油画	＜＜鷲田めるろ氏による作品講評ディスカッション＞＞	鷲田めるろ	金沢21世紀美術館学芸員
18	1 月 29 日	全学生	ヨーロッパの現代美術の現状と諸問題について	バーバラ・ホルブ	オーストリア SECESSION 館長
19	10 月 24 日	版画	日本の伝統的水性木版画技法の公開講義と実演	安達以作牟及び彫師，摺師	アダチ伝統木版画技術保存財団理事長他
20	4 月 18 日	全学生	オーストラリア現代美術シーンと自作について	ピーター　ヘネシー	作家
21	7 月 10, 11 日	油画	キャンバスの製作過程の見学	―	日本画材工業（株）工場
22	10 月 10, 17, 31 日	油画	「キャンバスの使命，日本のキャンバス製造の歴史と現況」，「世界のキャンバス製造の現況と展望，今後の展開」，「麻生地の枠張り方法，キャンバス枠張り，再度・タッキング，バックタッキング方法」	船岡廣正 船岡義正	日本画材工業（株）代表取締役 日本画材工業（株）製造部
23	7 月 19 日	全学生	ヨーロッパのジュエリー史と現代の動向	コーネリア・ホルザッハ	ドイツ　フォルツハイム装身具美術館長
24	10 月 10,24,31 日，11月 7,14,21 日	彫金	宝飾研磨等の実技指導及び講義	三木稔	日本ジュエリーデザイナー協会会長
25	7 月 11 日,10 月 3,10,17 日	彫金	ハンドリングセミナーとヨーロッパ宝飾史	有川一三	ジュエリーコレクター
26	7 月 11 日，10 月 3 日	彫金	現代ジュエリーの動向	関昭郎	東京都現代美術館キュレーター
27	4 月 19 日，5 月 7 日	鍛金	「へら絞り」集中講義		技術熟練者
28	11 月 8,9 日	陶芸	鋳込み成形の実演講義とスライドによる講義	深見陶治	
29	12 月 10, 11 日	陶芸	「萩焼と私の仕事」	三輪休雪	萩陶芸家協会　会長
30	7 月 3 日	漆芸	「韓国螺鈿漆器の研究」	鄭容宙	嶺南大学校造形大学デザイン学部教授
31	10 月 5 日	漆芸	「中国漆藝の現状」	周剣石	清華大学美術学院副教授
32	5 月 7 日	染織	伝統技法による実技指導（友禅）	上原利丸	作家
33	11 月 5 日	染織	伝統技法による実技指導（型染）	斎藤孝子	作家
34	4 月 20 日	建築	Architecture of relations	Gabu Heindl	Graz University of Technology,Austria

35	4 月 26 日	建築	住宅をとおして 建築を考える 1	八島正年・八島夕子	建築家
36	5 月 24 日	建築	住宅をとおして 建築を考える 2	山口誠	建築家
37	6 月 14 日	建築	住宅をとおして 建築を考える 3	堀部安嗣	建築家
38	7 月 12 日	建築	住宅をとおして 建築を考える 4	永田昌民	建築家
39	11 月 16 日	全学生	世界の建築家	二川幸夫	(A,D,A,EDITA Tokyo)
40	11 月 30 日	建築	BORDERS	Marco Corbella	(株)石本建築事務所 ﾃﾞｻﾞｲﾝﾏﾈｰｼﾞｬｰ
41	11 月 23,24,25 日	全学生	映像表象の技術を学ぼう	百束昭幸　内田英治　高木敏文	(共催)：ペタアートネットジャパン
42	2 月 9,10,11 日	全学生	映像表象の技術を学ぼう	百束昭幸　内田英治　高木敏文	(共催)：ペタアートネットジャパン
43	6 月 22 日	全学生	木造建築物の現代的意義	中村義明	中村外二工務店代表取締役
44	12 月 6 日	全学生	クシシュトフ・ヴォディチコ特別講演会	クシシュトフ・ヴォディチコ	ﾏｻﾁｭｰｾｯﾂ工科大学 先端視覚研究所 教授
45	5 月 31 日	全学生	「わたしたちの過去に，未来はあるのか」	岡部昌生 港千尋	アーティスト 写真家・写真評論家
46	5 月 9 日	全学生	『美術館，ギャラリー，もう一つの場所 ―現代芸術の生まれる所，生きる所』	アラナ・ハイス	ニューヨークP.S.1 現代アートセンター館長，ニューヨーク近代美術館副館長
47	7 月 11 日	全学生	「クリエティヴ・インタヴェンション（創造的介入） ――オルタティヴスペース，アーティスト，パブリック」	マーガレット・シュウ	台湾，オルタナティヴスペースBamboo Curtain Stuido 主宰
48	10 月 23 日	芸術学	「ヨーロッパにおける「風景を熟視する」	ラファエーレ・ミラーニ	ボローニャ大学教授
49	9 月 14 日	全学生	「美術作品に見られるさまざまな物質を解き明かす」	アントニオ・ズガメロッティ	ペルージャ大学教授
50	10 月 15 日	全学生	臨床美術基幹－今，求められている感性教育と芸術の役割－	大橋啓一	広島芸術専門学校校長
51	10 月 30 日	全学生	美術による人と社会の活性化	横尾哲生 照沼秀也	埼玉大学教育学部教授 医療法人社団　いばらき会
52	6 月 4 日 6 月 11 日	美術教育	「花と悟」－華道とは，専応口伝，禅と修行，猫の妙術－	伊藤敏隆	池坊総家督
53	7 月 9 日	美術教育	創造性への視点	田中康二郎	文部科学省教科書調査官
54	2 月 23 日	大学院生	芸術の授業	クリストフ・ヴルフ	ベルリン自由大学教授
55	10 月 3 日	全学生	「オキナワ・カメラ 2007／沖縄写真をめぐって」	比嘉豊光 北島敬三	写真家 写真家
56	6 月 11,12 日	全学生	フォトグラムに関する講義・実技指導	杉浦邦恵	美術家
音楽分野					
1	4 月 12 日 ～ 4 月 27 日	学生オーケストラ	グリーグ＆シベリウス・プロジェクト第 1 回「学生オーケストラ演奏会Ⅰ」指導及び指揮	ダグラス・ボストック（特別招聘教授）	カルロヴィ・ヴァリ交響楽団他
2	4 月 17 日～5 月 8 日の火曜日	音楽環境創造	講義「演劇の実際についての講義」及び個別のアドヴァイス	和栗由紀夫	舞踏家
3	4 月 17 日～7 月 3 日の火曜日	音楽環境創造	講義「演劇の実際について」及び個別のアドヴァイス	阿部初美	演出家
4	5 月 16 日	全専攻	特別講座「ヴァイオリン特別講座」	アナ・チュマチェンコ	ミュンヘン音楽大学教授
5	5 月 22 日～6 月 5 日の火曜日	音楽環境創造	実技「コンテンポラリーダンス」	岩淵多喜子	振付家・舞踊家
6	6 月 5 日	音楽環境創造	講義「デジタル音楽について」	菅木真治	フィンランドアカデミー講師
7	6 月 6 日	全専攻	特別講座「チェロ特別講座」	堤　剛	桐朋学園大学学長
9	6 月 15 日	音楽環境創造	講義「芸術支援の運営論」	岩本直子	ｱｰﾄ・ﾏﾈｰｼﾞｬｰ/ｱﾄﾞﾐﾆｽﾄﾚｰﾀｰ

10	6 月 19 日	楽理	特別講座「19 世紀のドイツ語圏におけるベートーヴェンの《ミサ・ソレムンス》の受容」	沼口　隆	国立音楽大学専任講師
11	6 月 19 日	音楽環境創造	講義「アートアクティヴィズムについて」	島田美子	アーティスト
12	6 月 19 日 7 月 3 日 10 月 16 日 10 月 23 日 10 月 30 日	全専攻	特別講座「楽器学（管打楽器）」	山領　茂　／ 小島　修一	ヤマハ銀座管楽器アトリエ
13	6 月 22 日	全専攻	特別講座「日本歌曲概論」	畑中　良輔	本学名誉教授
14	6 月 25 日 ～ 6 月 30 日	チェンバーオーケストラ	「東京藝大チェンバーオーケストラ第 9 回定期演奏会」指導及び指揮	ゲルハルト・ボッセ（特別招聘教授）	元本学客員教授
17	7 月 11 日	音楽環境創造	「作品制作への講評及びアドバイス」	郷泰典	東京都現代美術館教育普及担当学芸員，ワークショップコーディネーター
18	7 月 29 日	音楽環境創造	トークセッション「取手アートプロジェクト 2006 の成果，課題の検証」	藤本由紀夫　／ 野村誠	取手アートプロジェクト 2006 ゲストプロデューサー
19	7 月 30 日 10 月 20 日 3 月 18 日	オルガン	集中講義「オルガン建造法実習」	マテュー・ガルニエ	マルク　ガルニエ　オルグジャポン有限会社（オルガン・ビルダー）
20	9 月 3 日	全専攻	特別講座「古典フルート音楽」	ウイリアム・ベネット	元ロンドン・ロイヤルアカデミー教授
21	9 月 21 日 ～ 10 月 30 日	オーボエ	オーボエ専攻学生特別指導	オットー・ヴィンター（非常勤講師）	元本学外国人教師
22	10 月 10 日	全専攻	特別講座「ディートリヒ・ブクステフーデのオルガン音楽」	ステッフ・タンストラ	北オランダオルガンアカデミー主宰
23	10 月 12 日	全専攻	特別講座「グリーグ音楽の真髄に迫る」	ﾄﾛﾝ・ｾｰｳﾞｪﾙ―／ ｱｲﾅﾙ・ﾛｯﾃｨﾝｹﾞﾝ	メイン州立大学准教授，バンガー交響楽団コンサートマスター／ピアニスト
27	10 月 17 日	全専攻	特別講座「古楽邦楽器で有る三味線製作の伝統的技法の実演と講演」	堀込敏雄，清水善一，白田千明，津布久清一郎，岡田和浄，谷中満	東京都優秀技能者等
28	10 月 19 日 ～ 10 月 26 日	学生オーケストラ，指揮科	「学生オーケストラ演奏会Ⅲ」指導及び指揮，指揮科特別講義	ジョルト・ナジ（特別招聘教授）	国立パリ高等音楽院教授
29	10 月 22 日 ～ 11 月 1 日	ﾁｪﾝﾊﾞｰｵｰｹｽﾄﾗ，弦楽器・室内楽専攻	ハイドン・シリーズ第 1 夜「オーケストラ演奏会」指導及び指揮，弦楽器・室内楽専攻学生指導	マルコム・レイフィールド（特別招聘教授）	英国王立北音楽院弦楽科主任教授
30	10 月 23 日	楽理	特別講座「教養の歴史社会学 ― ドイツの市民社会と音楽」	宮本　直美	立命館大学准教授
31	10 月 23 日	音楽環境創造	講義「リズムの構成，展開，その即興性への取り組み」	外山明	フリーインプロヴィゼーションのドラマー
32	10 月 23 日	音楽環境創造	講義「作品の演出について」	小野寺修二	マイム
33	10 月 26 日	全専攻	特別講座「シューベルトの歌曲に於けるテンポについて　演奏法と解釈」	ラモン・ワルター	フライブルク音楽大学教授（ピアニスト，役者）
34	10 月 30 日～12 月 18 日の火曜日	音楽環境創造	講義及び個別のアドヴァイス	阿部初美	演出家
35	10 月 31 日	全専攻	特別講座「弦楽四重奏公開レッスン」	ライプツィヒ弦楽四重奏団	ライプツィヒ弦楽四重奏団
36	11 月 1 日	ｿﾙﾌｪｰｼﾞｭ 1 限受講生	特別講座「日本伝統音楽入門（唱歌とは何か）」	増本　喜久子	桐朋学園大学音楽学部特任教授

37	11 月 6 日	全専攻	特別講座「フランスロマン派・近代フルート音楽について」	ヴィンセンス・プラッツ＝パリス	パリ管弦楽団スーパーソロイスト
38	11 月 6 日，11 月 20 日	音楽環境創造	講義「音響について」	片桐雅司	プロメディアオーディオ社長
39	11 月 7，14 日	弦楽 1 年	弦楽合奏	トーマス・マイニング	ドレスデン歌劇場オーケストラコンサートマスター
40	11 月 8 日	全専攻	特別講座「公開講座（ヴィオラ）」	ジークフリート・フューリンガー	元ウィーン国立音楽大学ヴィオラ科主任教授
41	11 月 8 日	打楽器	特別講座「マリンバの現代奏法について」	エリック・サミュ	パリ国立高等音楽院及び英国王立音楽院教授
42	11 月 12 日	全専攻	特別講座「古楽とクラリネット」	コリン・ローソン	英国王立音楽大学学長
43	11 月 12 日	全専攻	特別講座「ブラームス:ピアノ小品集作品 118 の解釈について」	エヴァ・ボブウォッカ	ビドゴシチ音楽院教授
44	11 月 22 日	全専攻	特別講座「ドイツ歌曲　演奏法・解釈法」	コンラート・リヒター	元シュトゥットガルト音楽大学教授，元本学客員教授
45	11 月 22 日	弦楽器	特別講座「弦楽器奏法，合奏，演奏解釈」	トーマス・マイニング他 3 名	ドレスデン歌劇場オーケストラコンサートマスター
46	11 月 27 日	全専攻	特別講座「－吹奏楽－『朝鮮民謡の主題による変奏曲』演奏と解釈」	キム・ヨンユル	韓国ソウル大学校音楽大学教授（副学長）
47	12 月 4 日	全専攻	特別講座「Minimal Music als post-heroisches Management」	セバスティアン・クロッツ	ライプツィヒ大学教授
48	12 月 13 日	音楽環境創造	特別講座「音楽のサラウンド制作について」	富田勲	音楽家（シンセサイザー）
49	12 月 13 日	管打楽器	特別講座「ロマン派クラリネット作品の演奏と解釈」	ヴェンツェル・フックス	ベルリンフィルハーモーニー管弦楽団ソロ奏者
50	12 月 14 日	全専攻	特別講座「金管楽器と古楽」	ﾀﾞﾆｴﾙ・ﾗｻﾙ，ﾙｲｽ・ｺﾙ・ｲ・ﾂｳﾙｰｽ，ｴﾚｰﾇ・ﾒﾄﾞｩｰｽ，康子・ﾌﾞﾊﾞｰﾙ	トゥールーズ古典金管アンサンブル「レ・サックブチエ」
51	12 月 15 日	全専攻	特別講座「フルートデュオ公開録音講座」	神田寛明，竹澤栄祐	NHK 交響楽団(首席奏者)，埼玉大学准教授
52	12 月 16 日	全専攻	特別講座「文化生産者は『格差社会論』をどう考えるか　～『芸術』と『社会』の狭間で～」	鈴木謙介，川崎昌平，福住廉	国際大学 GLOCOM 研究員，美術家，美術評論家
53	1 月 8 日	全専攻	特別講座「複数音源が統合的に制御された音場の設計と音響心理学的評価」	ウィリアム・L・マーテンス	マギル大学シューリック音楽学校サウンドレコーディング学科准教授
54	2 月 7 日 ～ 2 月 15 日	ﾁｪﾝﾊﾞｰｵｰｹｽﾄﾗ	「藝大チェンバーオーケストラ第 10 回定期演奏会」指導及び指揮	ｼﾞｬﾝ・ﾋﾟｴｰﾙ・ﾂﾞｧﾚｰｽﾞ（特別招聘教授）	ジュネーブ音楽院教授
55	2 月 15 日 3 月 14 日	全専攻	特別講座「奈良・京都・近江における邦楽関係史跡について」	中井猛	箏曲生田流宮城社大師範，元東京芸術大学非常勤講師
56	3 月 26 日 ～ 3 月 28 日	全専攻	G.ヴェルディの「ファルスタッフ」におけるイタリア語の表現法	エルマンノ・アリエンティ	慶応大学イタリア語講師

計画１－２「【２】本学の伝統であり，芸術教育に欠かせない，少人数教育，個人指導を充実させる。」に係る状況

本学の専門教育においては，１対多数ではなく，少人数指導または１対１のマンツーマンによる方法が，確立されている。美術学部・美術研究科においては，アトリエでの課題制作における指導（主に平日の午前中）を行うほか，課題制作品の学内の展示スペースを利用しての発表会，学科・専攻あるいは研究室単位で企画実施する展覧会や学科・専攻を超えて実施するアートパス（取手校地で年に一度の大規模な作品発表。キャンパスが 300 を超える作品を持つ大展覧会場に姿を変え，また，学生の企画したイベントも多数行われる。展示される作品は，授業の課題によるものや有志によるもの等様々。）等での展示などにおいての指導を通して，個々の学生の技術と創造性の向上を図っている。音楽学部・音楽研究科では，教員と学生のマンツーマン方式の実技指導による個人レッスンを原則的に週１回行うほか，教員の指導による学内

でのリサイタル，試演会などを行うことにより個々の学生の技術や感性の進歩や問題点を把握し，自身演奏家でもある教員の芸術的な感性を活かした指導を行っている。映像研究科においては，映像作品制作における指導と領域別ゼミを中心に少人数グループによる教育を実践している。

こうした授業方法を採っていることから，専門実技（又は制作）に関する授業においては，常に教員と学生の間での双方向のやりとりが行われ，個別的にあるいは適時的に指導方法を見直しつつ，進められていることが，大きな特徴であり利点であると言える。

また，授業中でのやりとりを通した指導の充実以外にも，例えば，「週１回，学生２～３人が制作等について発表し，教員・学生全員で討論する場を設けている（工芸科　鍛金）」，「研究室ごとに個別相談日を設け，随時指導教員がコンセプトから表現技術に至るまで具体的にアドバイスを行う機会を設けている（デザイン科，先端芸術表現科）」，「学生に年間目標，計画を作成，提出させ，各自の目的に合わせた指導実施（工芸科　鍛金，陶芸）」，「すべての授業記録などを整理・保管，データベース化し，カリキュラムの見直しや引継ぎ，ＦＤに活用（先端芸術表現科）」，「複数教員担当制の充実（声楽科）」，「アンケート調査を活用（ソルフェージュ）」など各科・専攻ごとによりきめ細やかな指導を行うために，指導体制を充実させる取組がなされている。

さらに，実技又は制作を主としない学科系各科においても，学生の研究テーマに即した個別指導を常時行っており，修士論文･博士論文の中間発表会の実施，学内での研究発表会の実施，関係学会への参加，発表・論文投稿などの推奨を通した指導を行っている。

計画１－３「【３】学生の個性・能力に応じた指導を徹底し，きめ細かな教育環境を整える。」に係る状況

計画１－２（【２】）を参照願う。

計画１－４ ウェイト「【４】国際的視野を持った芸術家育成のため，社会連携，国際交流を積極的に推進していく。」に係る状況

①　国際交流

本学では，国内外の芸術家との交流や共同についても積極的に推進しており，例えば，特別講演会等において，国際的に活躍する作家，キュレーターなどを講師に迎え，学生に視野を広げる機会を設けている（計画１－１（【１】）の資料１－４（P.6-10）参照）。

本学の国際交流協定校は，15 カ国・地域の 38 機関（平成 20 年 3 月 31 日現在）でこれらの協定校やその他の芸術系大学を中心に交流展覧会及び交流演奏会を中心とした様々な活動に，学生も教員とともに参加している（資料４－１：国際交流協定一覧，４－２：国際交流活動例　参照）。

なかでも「東京芸術大学チェンバーオーケストラ　ヨーロッパ公演」（４都市，平成 18 年），「ユネスコ平和祈念コンサート」（パリ，平成 19 年）は，学生を海外に派遣しての演奏会としては，大規模なものであり，特筆に値する。また，平成 17 年度に新設された映像研究科での韓国映画アカデミー（韓国）との短編映画共同制作（平成 18-19 年）は，日本側学生の監督は韓国に，韓国側学生の監督は日本にと，互いに国に渡って相手国の学生と混成チームを組み，相互理解を深めながら作品を完成させるというもので，本学にとって新しい分野での国際交流の取組となった。

資料4－1　東京芸術大学　国際交流協定校一覧　　15 カ国･地域の 38 機関（H20.3.31 現在）

	大学/機関	国/地域	締結年月日	対象学部･研究科等
1	中央美術学院	中国	平成元年 4 月 1 日	美術学部･研究科
2	ミュンヘン音楽演劇大学	ドイツ	平成元年 7 月 31 日	音楽学部･研究科
3	シュトゥットガルト芸術大学	ドイツ	平成元年 7 月 31 日	音楽学部･研究科
4	ソウル大学校美術大学	韓国	平成元年 12 月 7 日	美術学部･研究科
5	シベリウス音楽大学	フィンランド	平成 4 年 12 月 10 日	音楽学部･研究科
6	中央音楽学院	中国	平成 5 年 4 月 1 日	音楽学部･研究科

7	ウィーン音楽演劇大学	オーストリア	平成 8 年 5 月 27 日	音楽学部･研究科
8	パリ国立高等音楽舞踊院	フランス	平成 9 年 11 月 10 日	音楽学部･研究科
9	英国王立音楽院	イギリス	平成 10 年 5 月 18 日	音楽学部･研究科
10	清華大学美術学院	中国	平成 12 年 11 月 7 日	美術学部･研究科
11	王立ﾒﾙﾎﾞﾙﾝ工科大学ﾃﾞｻﾞｲﾝｱﾝﾄﾞｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学部	オーストラリア	平成 13 年 1 月 31 日	美術学部･研究科
12	ソウル大学校音楽大学	韓国	平成 13 年 4 月 24 日	音楽学部･研究科
13	王立北部音楽院	イギリス	平成 13 年 10 月 12 日	音楽学部･研究科
14	ﾕﾆﾊﾞｰｼﾃｨ･ｶﾚｯｼﾞ･ﾌｫｰ･ｻﾞ･ｸﾘｴｲﾃｨﾌﾞ･ｱｰﾂ(旧ｻﾘｰ芸術＆ﾃﾞｻﾞｲﾝ研究大学)	イギリス	平成 14 年 5 月 13 日	美術学部･研究科
15	スミソニアン研究所フリーア美術館，サックラー美術館	アメリカ	平成 14 年 7 月 30 日	美術学部･美術館
16	アナドール大学	トルコ	平成 14 年 12 月 20 日	美術学部･研究科
17	ワイマール・バウハウス大学	ドイツ	平成 15 年 12 月 18 日	美術学部･研究科
18	ウズベキスタン国立音楽院	ウズベキスタン	平成 16 年 5 月 5 日	音楽学部･研究科
19	リヒテンシュタイン国立大学	リヒテンシュタイン	平成 16 年 6 月 30 日	美術学部･研究科
20	シカゴ美術館附属美術大学	アメリカ	平成 16 年 9 月 17 日	美術学部･研究科
21	上海音楽学院	中国	平成 16 年 12 月 16 日	音楽学部･研究科
22	ﾊﾚ･ﾌﾞﾙｸﾞ･ｷﾞｰﾋﾞﾋｪﾝｼｭﾀｲﾝ芸術大学	ドイツ	平成 17 年 1 月 10 日	美術学部･研究科
23	シュトゥトガルト美術大学	ドイツ	平成 17 年 1 月 12 日	美術学部･研究科
24	シドニー大学	オーストラリア	平成 17 年 5 月 3 日	美術学部･研究科
25	国立台南芸術大学	台湾	平成 17 年 6 月 16 日	美術学部･研究科
26	中国美術学院	中国	平成 17 年 7 月 28 日	美術学部･研究科
27	ミマール・シナン美術大学	トルコ	平成 17 年 10 月 10 日	美術学部･研究科
28	新疆芸術学院	中国	平成 17 年 11 月 24 日	美術学部・研究科・音楽学部・研究科
29	韓国芸術綜合学校	韓国	平成 17 年 12 月 6 日	美術学部・研究科・音楽学部・研究科
30	大邱大学校	韓国	平成 18 年 3 月 7 日	美術学部･研究科
31	ウィーン工科大学建築･地域計画学部	オーストリア	平成 18 年 11 月 3 日	美術学部･研究科
32	ロンドン芸術大学	イギリス	平成 18 年 12 月 1 日	美術学部･研究科
33	パリ国立高等美術学院	フランス	平成 19 年 4 月 5 日	美術学部･研究科
34	韓国映画アカデミー	韓国	平成 19 年 8 月 3 日	映像研究科
35	ブロツワフ美術大学	ポーランド	平成 19 年 8 月 31 日	美術学部･研究科
36	フォーラム・ド・イマージュ	フランス	平成 19 年 9 月 10 日	映像研究科
37	ラサール・シア美術大学	シンガポール	平成 19 年 9 月 28 日	美術学部･研究科
38	グリフィス大学	オーストラリア	平成 19 年 9 月 28 日	美術学部･研究科

資料４－２　国際交流活動例（平成１９年度）

No	交流活動等の概要 実施時期：場所，主な参加学科・専攻 相手国，相手先機関等
1	**日中韓藝術大学交流事業　藝大アーツ・サミット** 海外における本学の芸術活動の拠点作りを未来に見据え，120 周年を契機に，本学に留学し，各々の母国で活躍する人達のネットワーク構築を整備する第一歩として，また，日中韓の文化・芸術交流を促進するため，本学が中国及び韓国を代表する芸術大学と連携して開催したもの。 「藝術大学サミット」では，中国から 6 大学，韓国から 4 大学の学長を招聘して「東アジアから藝術を世界に」をテーマに，今後の芸術及び芸術教育の方向性について意見交換を行い，共通のメッセージとして取りまとめた『藝術宣言』に署名し，世界に向けて発信した。そのほか，記念講演会「日・中・韓の美を語る ～特質，交流，比較～」，教員作品展「美の環」，学生交流展「美の環」，伝統芸術の公演「舞の饗宴」，留学生による演奏会「音の架け橋」を関連イベントとして実施した。
	H19.10.4～10.14：本学構内，上野日展会館 各学部・研究科，演奏芸術センター
	中国：中央美術学院，中央音楽学院，清華大学美術学院，上海音楽学院，中国美術学院，新疆芸術学院

	韓国：ソウル大学校美術大学，ソウル大学校音楽大学，韓国芸術綜合学校，大邱大学校
2	**東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校オーケストラパリ公演（ユネスコ平和祈念コンサート）** 本公演は，平山郁夫前学長の発案によって2年以上をかけて計画されたもので，世界の紛争や貧困に苦しむ子どもたちのための平和祈念と，コンサートを通じての募金活動による教育環境向上を願って行われた。演奏は平成18年度の卒業生及び平成19年度の2年生，3年生の弦楽器，管楽器，打楽器，ピアノ科(チェンバロ演奏)，及び演奏補助の大学生数名の約70名によって行われた。ユネスコ本部第1会議場での演奏会では，世界各国からの1,000名を超える観客からの鳴りやまぬ拍手に，当初予定になかったアンコールの演奏では，スタンディングオベーションの歓迎を受けた。反響も大きく，日本の音楽教育のレベルの高さを示すことが出来た。
	H19.4.23　ユネスコ本部, H19.4.25　パリ日本文化会館 音楽学部附属音楽高等学校
	フランス：ユネスコ本部，パリ日本文化会館
3	**De Kuroda à Foujita / Peintres japonais à Paris** **「黒田清輝から藤田嗣治まで～パリに学んだ洋画家たち～」展** 東京藝術大学創立120周年，パリ日本文化会館開館10周年，日本洋画商協同組合創立50周年を記念して組織された展覧会。この展覧会は近代日本における西洋様式の絵画(洋画)の半世紀を通観し，パリに滞在した12人の画家の代表作51点，初期洋画家の師ラファエル･コランの代表作4点，合計55点を展示。日本美術の近代化において重要な文化的役割を演じ，日本では美術史的評価が高い画家たちでありながら，フランスでは藤田を除いてはまったく知られていないため，彼らの人と作品をパリの人々に紹介する機会として意義ある企画となっている。 4～6月に日本で行った「パリへー洋画家たち百年の夢」展の流れをくむものであり，大学美術館主催展としては初めて海外で開催する展覧会である。関連シンポジウムも開催。
	H19.10.24～H20.1.26　パリ日本文化会館 大学美術館
	フランス：パリ日本文化会館
4	**国立映画教育機関による短編映画共同制作** 韓国映画アカデミー（韓国）と映像研究科の学生とが共同して映画作品を制作するもの。18年度より脚本の作成，下打ち合わせなどを行い，準備を進めてきた。19年4月に相互に訪問，撮影を行う等，制作を進め，編集作業を経て，19年11月19日に東京国際フォーラム/ホールDで発表上映会及びシンポジウム「アジア映画の未来」を開催，11月23日にも上映会を本学横浜校地馬車道校舎で行った。また，韓国映画アカデミー（韓国）とは8月3日に交流協定も締結した。）
	18年度～19年度：本学，韓国映画アカデミー **映像研究科**
	韓国：韓国映画アカデミー
5	**ポケットフィルム・フェスティバル** ポケットフィルム･フェスティバルは，平成17年(2005 年)に「フォーラム･ド･イマージュ(Forumdes images)」（パリ市立映像フォーラム）が世界に先駆けて開催し，平成19年6月にはその3回目がポンピドゥー・センターで開かれている。本学からも藤幡教授が大学院生とともに参加し，登場人物に携帯を持たせ「演じる人」が同時に「撮る人」にもなる斬新な表現が注目を浴びた。平成19年12月には，このフェスティバルを世界規模で発展させるため，　本学とフォーラム・ド・イマージュが提携し，横浜でも開催した。これによって，アジアや環太平洋地域からの作品参加を積極的に働きかけられると共に，横浜とパリが相互に優秀作品を交流するなど，携帯電話による映像表現の発展により貢献できる体制ができた。本学とフォーラム・ド・イマージュは平成19年9月に交流協定も締結している。
	H19.7月　ﾎﾟﾝﾋﾟﾄﾞｩｰ･ｾﾝﾀｰ, H19.12.7-9　本学横浜校地 映像研究科
	フランス：フォーラム・ド・イマージュ
6	**藝大21「アジア・躍動する音たち～日本・中国・韓国の組歌～」** 日本と密接な関係のある中国，韓国の<<組歌>>に焦点をあて，韓国芸術綜合学校伝統藝術院より演奏者を招聘して伝統歌曲の真髄を披露し，日本の伝統では箏曲（山田流）の真髄ともいえる組歌を紹介し，中国からはシルクロードより招聘する演奏者による悠久の響を披露した。
	H19.6.23　奏楽堂 演奏芸術センター
	韓国：韓国芸術綜合学校伝統芸術院 中国：新疆芸術学院，新疆ムカーム芸術団，新疆愛楽楽団
7	**うたシリーズⅦ－2「日本・中国歌の饗宴」** 中国の西洋音楽教育における一大拠点として高い水準を誇り，国際交流協定締結校である中央音楽学院（中国）との交流演奏会及び意見交換を実施した。同じアジア系の西洋音楽教育に携わる教員同士が演奏実技の実践と教育の両面で互いに啓発することは，国際交流という意味だけではなく教育上大きな成果をもたらした。しかも，本学奏楽堂においての演奏会は，本学学生に対する大きな刺激となり教育上も大きな意味がある。

	H19.9.3 奏楽堂 音楽学部声楽科
	中国：北京中央音楽学院
8	**Nong project** 国際交流協定校である韓国芸術綜合学校主催の Nong project では，2003 年以来，本学作曲科の学生・教員の作品交流が行われている。本年は，修士課程学生２名が招待され，その作品が演奏された。協定にもとづき，学部長裁量経費で渡航費を支援，派遣した。
	H19.9.17～19 韓国芸術綜合学校 音楽研究科作曲専攻
	韓国：韓国芸術綜合学校
9	**グリーグ＆シベリウス・プロジェクト第８回「弦楽シリーズ～ドレスデン・シュターツカペレ弦楽器奏者と共に」** 標記演奏会について合同交流演奏及び指導を行った。伝統ある名門オーケストラの主要メンバーとの共演は，教員及び学生にとって芸術的に実りが多いものとなった。
	H19.11.27 奏楽堂 音楽学部器楽科弦楽専攻･音楽研究科器楽専攻弦楽研究分野
	ドイツ：ドレスデン国立歌劇場管弦楽団
10	**藝大定期吹奏楽第 73 回（ソウル大学友好交流演奏会）** 国際交流協定校であるソウル大学校音楽大学（韓国）と学生を主体とした交流演奏会を実施する。これに伴い，ソウル大学校音楽大学から教員・学生計 58 名を招へいした。
	H19.11.28 奏楽堂 音楽学部器楽科管打楽器専攻･音楽研究科器楽専攻管打楽器研究分野
	韓国：ソウル大学校音楽大学
11	**日中現代音楽展** 国際交流協定校である上海音楽学院（中国）と，教員・学生の作曲作品による交流作品展を開催する。これに伴い，上海音楽学院副院長他計２名の教員を招聘した。同じ東洋人として，未来の音楽について共通の課題をかかえる両校の間で作曲作品による交流展を開催した。このような交流を進めることにより，具体的な検証を行い，可能性を探り共有する。また，上海音楽学院の教育水準は世界的レベルに達しており，学生がそれを知る教育上の効果もあった。
	H19.12.5 音楽学部第６ホール 音楽学部作曲科･音楽研究科作曲専攻
	中国：上海音楽学院
12	**Places and Spaces I Have Never Been　国際交流デザイン展** **―日本・イギリス・韓国―東京藝術大学，UCCA 芸術大学，中央大学校の３校の授業交換による学生作品** 美術学部デザイン科では，海外諸国とのデザイン交流を図る為，イギリス・韓国・日本の３大学で各年ごとにテーマを出題し，３年間を通しての学生作品の交流展を行っている。第２回目として UCCA 芸術大学出題の″Places and Spaces I Have Never Been″をテーマに３大学の学生が制作を行い，各校 10 作品（計 30 作品）選出し展示した。この交流を通してそれぞれの国におけるデザイン意識を探ると同時に教育や文化を比較し，お互いに刺激のある作品を生み出す場としていくことを目的としている。(昨年の第１回は本学デザイン科の３年生の授業である『伝統とデザイン』を課題に行った。)
	H20.1.10～1.20:陳列館 美術学部デザイン科
	イギリス：UCCA 芸術大学，韓国：中央大学校
13	**「表層の内側Ⅲ」東京―大邱　展** 平成 16 年度より，東京芸術大学大学院油画研究室と大邱カトリック大学校大学院との研究室間交流展「表層の内側」展を行ってきた。平成 16・17 年度は東京・韓国（大邱）で，平成１８年度には韓国（大邱）で行い，平成 19 年度，この展覧会の総まとめとして日本の東京芸術大学陳列館にて展示を行った。期間は平成 19 年６月 23 日から６月 29 日の７日間。展覧会期間中は，415 名の観覧者を動員した。また大邱カトリック大学校大学院副教授の宋重徳氏を招へいし，自費で学生が８名訪日した。訪日中には学生同士の交流や，両国の美術教育の違いについて展示を通して学んだ。
	H19.6.23～6.29:大学美術館陳列館 美術研究科絵画専攻(油画)
	韓国：大邱カトリック大学校
14	**世界遺産ガッラ・プラチディア廟モザイク壁画の保存修復調査と修復技法の実証的研究** 教員・教育研究助手・博士課程１年生をイタリアに派遣し，先方の学校の教員と共同で研究を行った。
	17 年度～19 年度 美術研究科絵画専攻(油画)
	イタリア：国立ラヴェンナモザイク修復専門学校

15	**「ハイドン共同研究プロジェクト」** 音楽学部器楽科室内楽専攻とウィーン音楽演劇大学(ウィーン音大)Joseph Hydn Institut(室内楽科)の間で，ハイドンの室内楽研究をテーマにした共同研究を実施。東京財団の助成を得て岡山教授を客員教授としてウィーンへ派遣(H19.4.8～5.18/6.3～8.2)。同教授はウィーン音大において，ハイドンの室内楽作品をテーマに学生グループへのレッスン及び研究発表までの指導を実施。さらにマイスル教授との合同でのクラス授業，ハイドンゼミナールを開催。またウィーン音大室内楽科教授たちとの合同レッスン(複数の教員による指導)においてハイドンの弦楽四重奏とピアノ三重奏曲の作品分析と演奏解釈及び室内楽レッスンの指導方法についても共同研究を行った。 ・11 月 3 日(土)に本学奏楽堂で開催した「ハイドン・シリーズ第 2 夜　弦楽四重奏曲全曲演奏シリーズその 9」において本学とウィーン音大の両大学でハイドンを研究したクァルテット・アルモニコと本学大学院で研鑽を積んだクァルテット・クライゼルによるハイドンの弦楽四重奏曲の演奏会を開催。 ・今年度秋から 3 年間に亘って“Haydn Total”というタイトルで「Joseph Haydn 弦楽四重奏曲全曲の CD 録音」を開始。
	H19.4.8～5.18/6.3～8.2/11.3: ウィーン音楽演劇大学，本学 音楽学部器楽科(室内楽)
	オーストリア：ウィーン音楽演劇大学
16	**メキシコ・ベラクルス州立大学交流展** メキシコ，ベラクルス州立大学に学生が滞在し，交流展を行った．また，ベラクルス大学の教員と学生が，芸大で作品展示をおこなった。
	H19.5.1～5.11:取手校地メディア教育棟１階ピロティ 美術学部先端芸術表現科
	メキシコ・ベラクルス州立大学
17	**日本音楽に関するシンポジウム参加** メキシコのベラクルス大学で開催された初の日本音楽シンポジウムに，教員(名誉教授含む)2 名と，博士後期課程学生 1 名，及びその修了者 2 名の計 5 名が参加し，メキシコでの日本音楽紹介に成果をあげた。
	H19.4.23～26：ベラクルス州立大学 音楽研究科音楽専攻音楽学研究領域
	メキシコ：ベラクルス州立大学
18	**第 7 回中日音楽比較研究国際シンポジウム参加** シンポジウムに，教員 2 名と博士後期課程学生 5 名が参加し，研究発表と学術交流をおこなった。
	H19.9.8～11：武漢音楽学院 音楽研究科音楽専攻音楽学研究領域
	中国：武漢音楽学院
19	**グリーグ＆シベリウス・プロジェクト第１回「学生オーケストラ演奏会Ⅰ」** 特別招聘教授としてダグラス・ボストック氏を招聘し，標記演奏会の指揮及び指導を委嘱した。
	H19.4.27　奏楽堂 音楽学部指揮科，学生オーケストラ
	イギリス：カルロヴィ・ヴァリ交響楽団他
20	**「学生オーケストラ演奏会Ⅲ」** 国際交流協定校である国立パリ高等音楽院（フランス）から特別招聘教授としてジョルト・ナジ教授を招聘し，標記演奏会の指揮及び指導，指揮科特別講義を委嘱した。
	H19.10.26　奏楽堂 音楽学部指揮科･音楽研究科指揮専攻，学生オーケストラ
	フランス：国立パリ高等音楽院
21	**ハイドン・シリーズ第１夜「オーケストラ演奏会」** 国際交流協定校である王立北音楽院（イギリス）から特別招聘教授としてマルコム・レイフィールド教授を招聘し，標記演奏会におけるチェンバーオーケストラの指揮及び指導，弦楽器・室内楽専攻学生指導を委嘱した。
	H19.11.1　奏楽堂 音楽学部･音楽研究科チェンバーオーケストラ
	イギリス：王立北音楽院

②　社会連携

本学では，「芸術は社会との関わりの上に成り立つものである」という認識のもと，常に社会との連携及び協力を視野に入れながら教育研究を行っており，特にキャンパスが所在する台東区，取手市，横浜市，足立区を始め，その周辺地域を中心に様々な地域において，連携活動

を行っている(資料４－３：社会連携・地域貢献に関する取組例 参照)。なかでも，平成 11 年より市民と取手市，東京芸術大学の三者が連携して行っているアートプロジェクトである「取手アートプロジェクト(ＴＡＰ)」では，芸術家やアートマネジメントなどの人材育成と地域文化の振興を推進している。本プロジェクトは，本学の取手市との連携活動の中核をなす活動となっており，取手校地の学生を中心に多くの学生が運営への参画，企画への参加をしており，社会連携・地域貢献活動としてだけでなく，実地体験として教育面での効果も高い取組となっている。(平成 16 年度文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」採択（平成 16～18 年度)，平成 18 年度文化庁「文化芸術による創造のまち」支援事業，平成 18 年度地域づくり表彰国土交通大臣賞受賞)

さらに，これまで美術研究科の各専攻で個別的に行ってきた「社会と連携した芸術教育プロジェクト」(大学院学生の教育研究指導に社会と連携した活動を取り入れたもの)を「上野タウンアートミュージアム(UTM)」として位置づけて，平成 19 年度より台東区と本学で実行委員会を設置して，組織的に実施することとした。UTM は，教育研究活動実施及びその社会への還元というだけでなく，地域文化の活性化にも寄与する内容となっている点で，本学の特徴を十分に生かした取り組みとなっている。

資料４－３　地域連携・社会貢献に関する取組例（平成 19 年度）

No	プロジェクト等の名称 主な参加学科･専攻	会期等 連携，協力先など	概　　要
1	「上野タウンアートミュージアム」		「上野タウンアートミュージアム」とは，東京藝術大学大学院美術研究科の学生や教員が，台東区内のあちこちでアート活動を行い，台東区のまちそのものをミュージアム化する取組み。同時に社会と連携した芸術教育手法の研究を行う。下記の 1-1～1-12 として展開。
1-1	「小島アートプロジェクト」	通年	小島アートプラザで教員・学生が講師となって行う無料の公開講座（教材費のみ必要）や同プラザを活用したワークショップ，シンポジウム等。H19.5.26(土)～27(日)英語で美術を楽しもう/フロッタージュで町をタッチ H19.6.16(土)～17(日)墨で表現しよう H19.7 月 24(火)～25(水)アニメーションを作ろう H19.8.1(水)～2(木)写真で町を切り取ろう H19.9.15(土)～16(日) 此処はどこ？H19.10.20(土)～21(火)上野美術探訪（大学美術館や陳列館の見学会など）H19.10.20(土)～11.4(火)「町とアート」展 －地域に根ざしたアート研究プロジェクトーH19.10.27(土)シンポジウム「美術がもたらす新たな市民活動」（「小島アートプロジェクト」の独自性，「町とアート」について）H19.11.17(土)～18(火)十人十色の混色法（ワークショップ）H20.3.22(土)～30(火)オープンスタジオ･区民講座作品展示(ワークショップ)
	油画	台東区	
1-2	「浮世絵と伝統」	H19.8.2～H19.8.6	かつて江戸の下町であった台東区周辺に伝わる木版画，浮世絵の伝統とその現在の姿を検証する試みとして木版画専攻大学院の学生による木版画展を浅草区民ホールにて開催。また会期中，展示会場にて助手，大学院生の指導のもと台東区の中学生を対象に伝統木版画公開制作を実施。8 月 5 日には浮世絵版画の技法を現代に継承するアダチ伝統木版画技術保存財団の彫り師，摺り師による江戸時代から受け継がれた日本の浮世絵版画の技の実演も実施。
	版画	台東区	
1-3	「彫刻の風景－路地」	H19.7.24～H19.8.3	彫刻専攻では大学院以上の学生に，社会での作品，空間，そして場との関係を実感する制作研究発表を積極的に推進している。今回，彫刻と地域との関係を考え合わせ，下町にかつて存在した「路地」といった狭いが興味深い空間をテーマに，上野の森美術館ギャラリーでの彫刻の展覧会を企画した。台東区の伝統的な下町文化の象徴である「路地」と今を生きる彫刻専攻大学院生との交感を主な目的とした実験的な試みとなっている。学外の美術館での発表は学生にとって緊張感ある機会となり，また地域の文化芸術環境を意識した教育カリキュラムを模索する実践的研究発表でもある。
	彫刻	台東区	

1-4	「MACHI-YATAI PROJECT －めくるめくろじめぐりー」	H19.9.7～H19.10.8	MACHI-YATAI PROJECTは，台東区のまちの一画に仮設の空間や装置を配置し，日常の風景を一変させるプロジェクト。2007年は，谷中玉林寺境内脇の狭く細長い路地を対象とし，「精神的な浄化」をテーマに取り組んだ。その場のもつ環境と呼応，もしくは対峙させながら，新たな空間的なメッセージを発信する試み。「すわる・はかる・あむ」と同時開催。
	建築，工芸（染織）	台東区	
1-5	「時空の街」－カタチは呼応する－	H19.10.10～ H19.11.11	街文化と彫刻の可能性を重ねた地域連携プロジェクトを計画し，浅草テプコ館の協力のもとに彫刻展「時空の街－カタチは呼応する」を美術学部彫刻科が企画。上野タウンアートミュージアム研究事業の，アートを通じて地域の人々とコミュニケーションを交わすプログラムの一つであり，彫刻科の研究助手，大学院学生11名によるそれぞれの彫刻観を街という視点から作品にする展示を2会期に分けて行った。
	彫刻	台東区	
1-6	台東・言問通り現代美術展サスティナブル・アートプロジェクト2007 『事の場』	H19.10.20～H19.11.4	サスティナブル・アートプロジェクトは，実施本部である環境プロセスアート，並びに東京芸術大学を中心に市民と台東区が協力し合い，行っているアートプロジェクト。台東区内を会場とし，使用されなくなった空き家などの場所を修復再生させながら進行し，作品展示という試みによりその場所に風を通すことで，今後の使用方向や可能性を探っていくもの。若いアーティストたちの創作発表活動を支援し，広く市民のみなさんが芸術に身近に触れる機会を提供することで，地域が持続的に文化的発展していくことをめざし，平成16年より続けている。
	油画	台東区	
1-7	『アートランドコミュニケーション』～隅田公園がアートになる日～ 東京藝術大学染織研究室の大学院生による試み	H19.10.20～H19.11.4	染織研究室では，これまでにも山形県金山町や三重県紀北町で同様な野外展示を行ってきたが，今回は隅田公園という都市の中の空間での展示となった。布や紐といった繊維素材を使って，隅田公園を造形的に新しい空間となるように変身させた。
	工芸（染織）	台東区	
1-8	「伝統と現代」 －墨，単色の世界－	H19.11.10～ H19.11.30	国際シンポジウムと国際現代美術展を実施。 展覧会では水墨という世界観と時間軸の延長線上にある墨，水，紙など，単色の世界の表現を照射し，今日の写真や映像，インスタレーションの世界にまで繋がる東アジア的伝統と美意識を典型的な単色の多様性を通じて考察した。シンポジウムでは，「アジアの現代美術「－伝統と現代（延承，演绎，滲透）」について－」，をテーマに中国と日本の様々な伝統と現代論について討論した。
	版画	台東区	
1-9	児童教育プロジェクト「地球と宇宙を結ぶひとがたワークショップ」	H19.11.24～ H19.11.27	美術学部彫刻科第五研究室は，JAXA（宇宙航空研究開発機構）の行なうJAM文化・人文社会科学利用のパイロットミッション実験（国際宇宙ステーションにある日本の有人実験施設「きぼう」の文化的利用のための実験）に参加している。平成20年に日本人宇宙飛行士に「きぼう」内の無重力空間において手びねりの‘ひとがた’を制作してもらい日本に持ち帰ってもらうことに先立ち，彫刻専攻の大学院生と台東区の小学生３，４年生が一緒に‘ひとがた’を作るワークショップを実施。「第一部　JAXAによる宇宙授業」，「第二部　芸大大学院生と一緒にひとがたを作る」で構成。
	彫刻	台東区，宇宙航空研究開発機構（JAXA），（株）パジコ社	
1-10	アトリエの末裔あるいは未来３	H19.11.22～H19.12.2	上野桜木に所在する彫刻家平櫛田中の旧邸を使用した彫刻展。本学彫刻専攻の大学院生，教員の作品を展示。社会と連携した芸術教育プロジェクトの一環として実施した。
	彫刻	台東区	
1-11	オペラ公演 岡倉天心作オペラ「白狐」－よみがえる日本のこころー	H19.12.8	岡倉天心による幻のオペラ「白狐」を上演。本演目の上演は，これまで部分的な試演に止まっていたが，本格的に幻のオペラを再現。また，オペラ公演と同時にトークセッション「天心とオペラ『白狐』」を開催し，日本の伝統や文化を生かしつつ国際的な視点で描かれた，岡倉天心のオペラ「白狐」創作への思いを再考し，現代における日本の伝統や文化の在り方について考察。
	美術，音楽	台東区	

1-12	伝統技術の応用によるイノベーション商品開発プロジェクト発表展 「技と工芸感」	H20.1.22～H20.2.3	平成19年度から始めた「伝統技術の応用によるイノベーション商品開発プロジェクト」は，三年計画で台東区内の伝統工芸の製造業者と連携し，伝統技術を応用して，大学院生の感性のもと，新しい工芸作品の可能性や商品の共同研究，開発を目的としている。 学生らは，区内の伝統工芸職人（皮革加工や鼈甲，提灯，桐箪笥など）を大学に招いての技術体験会（ワークショップ）や実際の作業場訪問などを重ねて，いろいろな可能性を探りながら両者の接点を見つけ，アイディアをかたちにしてきた過程を発表した。
	工芸（彫金，鋳金）	台東区	
2	上野の山文化ゾーン	通年	本学を含む上野の山にある文化施設など23団体が参加する「上野の山文化ゾーン連絡協議会」は，各文化団体等が相互に交流しながら，その叡智と力を結集し，上野の山を芸術・文化の拠点として発展させることを目的としている。各施設の年間スケジュールを掲載したパンフレットの作成や毎秋には上野の山文化ゾーンフェスティバルを開催。「上野の山文化ゾーン連絡協議会」は平成１７年度地域づくり総務大臣表彰（地域振興部門）を受賞している。
	大学美術館，奏楽堂	上野の山文化ゾーン連絡協議会	
3	学生ボランティア ギャラリートーク		平成15年度より東京国立博物館と行っている連携事業。博物館来館者への学習機会の提供とともに将来，美術館・博物館で学芸員として働くことに関心を持つ本学学生の実地研修の意味合いを持つ。展示作品の解説などを来館者に行う。本年度は，９月～３月に大学院美術研究科芸術学専攻の学生６名が計55回，ギャラリートークを実施した。また，文化財保存学専攻の学生による制作工程模型作成は，今年度は法隆寺宝物館の押田仏「阿弥陀三尊と僧形像」について行った。作成した模型は，H20.2.26～6.1に展示され，３月には展示解説を５回行った。
	芸術学，文化財保存学	東京国立博物館	
4	TASKプロジェクト 台東区/墨田区/荒川区/葛飾区地域資源活用プロジェクト		「デザインと伝統を活かしたものづくり産業の活性化」をメインテーマとした台東区，荒川区，墨田区，葛飾区(TASK)のプロジェクト。18.2月のTASKものづくり現場の視察，18.7.10の美術学部生と台東，荒川，墨田，葛飾の４区で「ものづくり」を続ける企業との交流会に続いて，19.10.23にが台東，荒川，墨田，葛飾４区の中小企業経営者・技術者との交流会が開かれた。本学学生とTASKの技術者との商品共同開発等を構想中。
	美術学部・研究科	台東区　墨田区 荒川区　葛飾区	
5	台東御徒町中学校吹奏楽指導及び芸大生との合同演奏会	H19.12.22	区立御徒町台東中学校吹奏楽部と音楽部学生有志による合同演奏会。本演奏会は，中学生に貴重な体験をさせるとともに，大学の施設で演奏会を行うことで大学生や地域との交流を図ることを目的に企画されたもので，平成19年度で７回目。本学の教員と学生が中学生に直接実技指導を行い，中学生にとっては高度な専門技能を有する者から直接指導を受けることで，楽器奏法の向上と音楽の感性が刺激され，今まで以上に音楽への関心が高まるとともに，教える大学生にとっても貴重な経験となるもの。
	音楽学部	台東区教育委員会	
6	台東区立小中学校音楽鑑賞教室	H20.3.6～H20.6.7	区立小中学校の児童生徒がオーケストラの演奏や能・狂言を鑑賞することにより，情操豊かな児童生徒の育成及び鑑賞態度を身につけさせることを目的とした台東区の事業への協力。本学奏楽堂を使用しての演奏会を提供している。
	音楽学部	台東区教育委員会	
7	藝大アーツ イン 丸の内	H19.9.9～H19.9.11	「キャンパスから丸ビルへ進出して，「まち」とダイナミックな接点を持とう！」そんな考えから，三菱地所株式会社と共同して開催したもの。 丸ビル１階マルキューブでは，毎年，学生が芸術祭の象徴として制作する「藝大みこし」の中から，19年度の優秀な２作品を展示したほか，金管五重奏や邦楽のコンサートなどを開催。さらにイベント期間中，このイベントを象徴する映像を用いた吊り幕のオブジェを設置。ま

	美術学部・研究科，音楽学部・研究科	三菱地所株式会社	た，3 階回廊では「油画」「文化財保存学日本画」「彫刻」の学生たちによる十二支をテーマとした作品の展示，7 階丸ビルホールにおいては，音楽学部を優秀な成績で卒業する者に与えられる「アカンサス音楽賞」昨年度受賞者によるリサイタルや，学長と有識者による文化をテーマとした鼎談や対談を開催。
8	芸術と教育 2007 －芸術教育の新たなる展開－	H19.11.25	本学が 120 周年の節目を迎えるにあたり，芸術文化及び教育の振興において本学が果たしてきた役割をさらに充実発展させることを目的に，これからの社会における芸術と教育の在り方を包括的に考えるシンポジウムを開催。第一部の公開シンポジウム「子どもたちに，より豊かな芸術環境を」では，芸術教育及び文化の振興において本学が担っている役割を再確認しながら，我が国の芸術文化を根底から支える，初等・中等教育分野における芸術教育の更なる充実を目指した意見交換を，第二部「子どもたちに芸術の根源に触れる感動を」では，小学生 5,6 年生，中学生，高校生を対象とした「芸術体験」と音楽・美術について話し合う「子供討論会」を行った。
	美術学部・研究科，音楽学部・研究科		
9	創立 120 周年記念音楽祭	H20.1.4～H20.1.6	「藝大 120 年をふり返って」をテーマに国内外で活躍する東京藝術大学の卒業生，教員，学生が一体となって演奏会やシンポジウム等を開催。「その時，西洋では！」，「日本近代音楽史に見る伝統の響き」，シンポジウム「藝大の 120 年～藝大はアメリカの影響から始まった」（楽理科），「日本の弦楽教育・草分けの時代」，「藝大ブラスの醍醐味・蘇るサウンド」，「〈日本電子音楽の創成期〉～藝大音響研究室の活動～」，「黎明期の日本声楽曲」，「オーケストラ・コンサート＜藝大 120 年をふり返って＞」の 8 プログラムを実施。
	音楽学部・研究科，演奏芸術センター	台東区，台東区芸術文化財団，東京芸術大学音楽学部同声会	
10	「藝大とあそぼう in 北とぴあ」	H19.10.28	奏楽堂における過去の「藝大とあそぼう」の演奏会の実績が㈶北区文化振興財団の目にとまり，18 年度の「北とぴあ国際音楽祭」の一演目として，ファミリーを対象とした「藝大とあそぼう」を上演して欲しいという要請を受け 18 年に実施したのが始まり。今年度は声楽科学生，附属音楽高等学校オーケストラが参加し，「伝説から伝説へ　壇ノ浦奇蹟渦潮～チンギス・ハーン対義経」と題し，芝居と音楽の演奏が一体となったコンサートを実施した。また，10/23（火）～11/11（日）にかけて，同コンサートのポスター・チラシ画公募作品展が実施された。
	演奏芸術センター，音楽学部，附属音楽高等学校	北区文化振興財団	
11	「藝大 Design Project in ADACHI」 －足立区をフィールドにした藝大生によるデザイン提案－	H19.4.24～H19.5.6	大学院修士課程 1 年生の授業としての「デザインプロジェクト」は「社会連携によるデザイン開発」を授業テーマに，グラフィック，プロダクト，空間・環境などの既存デザインジャンルを横断したチームメンバー編成により，複合的なデザイン開発を行おうとするもので，トータルなデザイン成果を高め，かつ深化することを目的としている。平成 18 年度は，対象を「足立区」とし，街に学生たちが入り込み，街を身近に感じた中からテーマ，コンセプトを見つけ出し，デザインの提案を行った。本展覧会は，27 人の学生たちの 1 年間のデザイン成果を展示したもので，4 月 25 日にはシンポジウムも開催し，「足立区内外への皮革産業アピールの提案」，「人・公園・地域をつなぐプロジェクトの提案」，「ヤッホー！Adachi キャンペーンの提案」，「路地空間＝リビング（対話の場）の提案」，「フレームフォトコンテストの提案」についてそれぞれ発表を行った。
	デザイン	足立区	
12	店舗空間における音楽とその音響効果に関する研究	H19.10.1～H20.3.31	有楽町に開店する丸井の新店舗で再生する音楽について，次の研究を行う。１．開店時の合図など店舗内の流す音楽の制作，２．再生音楽を店舗内で効果的に聞こえるようにするための音響調整，３．店舗内に流れる既成音楽の構成についてのアドバイス
	音楽環境創造	株式会社ﾊｰﾌﾉｰﾄ	

13	足立区における音楽教育支援活動	H19.7.18～H20.3.25	区内の小中学校等(中学校6，小学校24，幼稚園2，幼保園1)に出張し，音楽教育支援活動をとおして音楽鑑賞会，音楽科授業指導補助，部活動指導補助などを行った。また，足立の現職小学校教員を対象に，和楽器（日本音楽）に対する知識と技能の向上を目指した講習会を実施した。
	音楽教育	足立区教育委員会	
14	高齢者，障害児対象の音楽療法活動	H19.7.18～H20.3.29	区内高齢者施設において高齢者を対象とした音楽療法活動を2施設で計10回行った。また，区内高齢者施設のスタッフを対象とした，音楽療法講習会(2日×2回)を実施し，16施設42名が参加した。東京芸術大学千住校地においては障害児（主に自閉症児）とその家族を対象にしたコンサートを2回行い，計30組83名が参加した。
	応用音楽学	足立区教育委員会	
15	生涯学習事業	H19.7.18～H20.3.26	東京芸術大学千住校地及び区内文化芸術関連施設において文化講座や親子音楽教室(1期当たり4グループ各10～11組を対象に各グループ6回を2期)，親子コンサート(2回)，文化講座(3講座全10回)を実施した。
	音楽教育，音楽文芸	足立区教育委員会	
16	足立区民向け演奏会等の文化芸術活動	H19.9.10～H20.3.31	区内文化芸術関連施設において区民を対象とした様々な大小17回のコンサートを開催し，また東京芸術大学千住校地を舞台としたミュージックフェスタを実施した。
	器楽	足立区教育委員会	
17	冬季における音楽と光のイベント	H19.11.8～H20.1.31	東京芸術センター「天空劇場」にて足立区在住の親子を対象としたクリスマスコンサートを実施，また，同センター前の広場に「光のお化け煙突」モニュメントを設置し，約50日間点灯した。
	応用音楽学，彫刻	足立区教育委員会	
18	千住キャンパス活動発信事業	H20.3.28～H20.3.30	東京芸術大学千住校地の「音楽環境創造科（学部)」,「音楽音響創造（大学院)」の教育研究活動に関する研究成果の発信を大学院映像研究科と協力しつつ，映画音楽に関する講演及び及び映画上映，映画音楽制作に関する講演とミニコンサートのイベント形式で実施した。
	応用音楽学，美術学部彫刻科	足立区教育委員会	
19	児童生徒を対象とした早期英才教育の在り方検討プロジェクト	H19.4.1～H20.3.31	足立区を中心に，１．ソルフェージュ能力調査及び楽典・ソルフェージュ集中的レッスン，２．演奏能力とソルフェージュ能力の関係の実証的研究，３．早期音楽専門教育プログラムの基礎研究，を実施した。
	音楽環境創造，音楽教育	足立区教育委員会	
20	メサイア公演	H19.12.12	年末恒例のチャリティー公演，ヘンデルのオラトリオ「メサイア」の演奏会。 「芸大メサイア」の愛称で親しまれているこの演奏会は，1951年から毎年，東京芸術大学音楽学部の無償出演で開かれており，今回が57回目。教員や学生ら約250名が演奏した。収益は社会福祉事業に充てられている。
	音楽学部・研究科	社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団	
21	平成19年度伝統音楽研修会	H19.8.20～8.21	小・中・高の音楽教員のための邦楽実技研修会。本学を会場に全国から190名の現職教員が参加し，箏，尺八，三味線，邦楽囃子のコースに分かれて本学邦楽科教員より指導を受けた。
	邦楽	文部科学省	
22	取手市内学校との文化交流	通年	〈取手市における社会貢献事業を推進するために締結している協定に基づく交流事業の１つ〉 平成19年度は，中学校における吹奏楽部演奏指導８校など。年によっては，市内学校の美術科・音楽科教員の教員研修会なども開催。
	美術学部・研究科，音楽学部・研究科	取手市教育委員会	
23	取手アートプロジェクト2007	H19.11.9～H19.11.25	〈取手市と締結している協定に基づく事業の１つ〉 取手アートプロジェクト(TAP)は，平成11年より市民と取手市，東京芸術大学の三者が協働で行なっているアートプロジェクト。若いアーティストたちの創作発表活動を支援し，市民に広く芸術とふれあう機会を提供することで，取手市が文化都市として発展していくことをめざすもの。主要事業は，１．全国的な公募により展開され

	美術学部・研究科，音楽学部・研究科	取手アートプロジェクト実行委員会（本学，取手市，アート取手，取手市教育委員会，取手市商工会，財団法人 取手市文化事業団，茨城みなみ農協協同組合で組織）	る作品発表の場・隔年開催，２．「オープンスタジオ」（取手在住作家の活動の紹介・隔年開催），３．環境整備事業（芸術環境の整備，芸術教育・普及，人材育成など） 平成 19 年は「オープンスタジオ」を開催する年にあたっており，テーマは「自分たちで「使う」「つくる」ができる公共空間」。イベント期間中外も，環境整備事業としてアーティストの学校派遣などを行っている。 平成 16 年度文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」採択（16～18 年度） 平成 18 年度文化庁「文化芸術による創造のまち」支援事業 平成 18 年度地域づくり表彰国土交通大臣賞受賞 平成 19 年度内閣府全国都市再生モデル調査事業採択 第 29 回サントリー地域文化賞受賞
24	壁画によるまちづくり	H19.8.1～H19.9.17	〈取手市と締結している協定に基づく事業の１つ〉 取手市が取り組んでいる快適な環境整備のための計画的な壁画制作への協力。市の「壁画によるまちづくり委員会」への参加，市民ボランティアと共同しての壁画制作を実施。19 年度は，取手市藤代の国道６号バイパス藤代大橋下のよう壁に縦約５ｍ×横約 26ｍの壁画を制作。（原画は，大学院美術研究科１年生青木愛弓さんがデザインした作品。）次年度以降も継続予定。
	壁画	茨城県取手市	
25	共同アトリエ「井野アーティストヴィレッジ」		〈取手市と締結している協定に基づく事業の１つ〉 本学と取手市が，独立行政法人都市再生機構（ＵＲ都市機構）の協力により，茨城県取手市井野団地内にあるショッピングセンター一棟を改修して，若い芸術家のための共同アトリエ「井野アーティストヴィレッジ」を開設したもの。本学にとっては，大学卒業後の意欲ある若手アーティストが作家活動を継続していくために必要不可欠な制作活動の拠点（制作場所，作品の保管場所）とアーティスト同士が集れる魅力的な場所を確保し，割安な条件で提供することにより，学生・卒業生の創作活動を支援することができる。同時に，地域住民との交流を通して地域の文化的活性化をはかり，本学と取手市が TAP を代表として様々な形で進めてきた「アートタウン取手」を目指したまちづくりに資する事業である。平成 19 年 12 月 10 日に開所。
	美術学部・研究科	茨城県取手市，独立行政法人都市再生機構	
26	取手市民講座「炎の祭り」	H19.10.31～11.19	〈取手市における社会貢献事業を推進するために締結している協定に基づく交流事業の１つ〉 取手校地で，大学院生らを講師に市民 40 名が，粘土制作から登り窯での本焼きまでを体験。平成 10 年より毎年実施。 平成 19 年度は，講演会(10 月 31 日)，粘土制作(11 月 3 日)，絵付け(11 月 17 日)，窯出し(11 月 26 日)
	陶芸	茨城県取手市	
27	横浜市主催の映像文化都市フェスティバル「ヨコハマＥＩＺＯＮＥ（エイゾーン）」	H19.7.28～H19.8.5	横浜市では文化芸術創造都市づくりの重点施策として「映像文化都市づくり」を推進しており，本フェスティバルは本学映像研究科が共催した。本学横浜校地馬車道校舎では，映画専攻学生の「OPEN THEATER 2007」，新港校舎ではメディア映像専攻学生による作品展示「OPEN STUDIO vol.4」を実施。（期間中の合計来場者数：馬車道校舎約 600 名，新港校舎約 450 名）
	映像研究科	横浜市	
28	香川県＝芸大交流事業	８月～10 月	香川県が進める「県民アートアクション 21」に協力。「美術ワークショップ　イン　小豆島」は，平成 13 年から毎年行われ，７回目の開催となった。毎年デザイン科教員(名誉教授を含む)，大学院生ら（19 年度は 14 名）が協力している。19 年度のコースは小学生，中学生(立体・平面)の三コースで，デッサン及び作品制作を指導

	デザイン，声楽	香川県	する。 「かがわ声楽講座」は，５回目の開催。声楽科教員が協力し，講師として指導した。受講生によるコンサートにも協力している。（19 年度は 10 月 7 日に香川県県民ホールで開催。）
29	ヒミング・2007	H19.8.26～H19.9.8	「ヒミング」は，平成 16～17 年に行われたビデオアート・プロジェクト「氷見クリック」が発展した，地域創造型アート・プロジェクト。 「ヒミング／himming=氷見+ハミング」という言葉は，富山県氷見市において「自然環境／人／社会」とのやさしい調和をゆっくりと創っていく気持ちを表している。中村助教授が，企画立案，制作，実施の全般にわたって協力している。
	壁画	富山県氷見市	
30	妙高市との交流	H19.7.21～H19.8.5	妙高市赤倉温泉は，本学の前身の１つである東京美術学校の設立に尽力し，校長も務めた岡倉天心が愛し，没した場所であることを縁にして，妙高市に協力して，これまでにも数々の美術や音楽の事業を開催している。 ○「妙高市夏の芸術学校」（7/31～8/3） 芸術創作教室の講師として協力。平成 8 年から毎年開講。平成 19 年度は本学美術教育研究室が協力。 ○「東京芸術大学創立 120 周年記念　妙高ゆかりの作家たち展 ～東京芸術大学を中心として～ 」（7/21～8/5） これまでの各種事業を通して，妙高市とゆかりのある本学教員による日本画・洋画・工芸作品の展覧会。
	美術学部・研究科	新潟県妙高市	
31	群馬県みなかみ町との交流		群馬県みなかみ町の「芸術村設立実行委員会」と連携し，町民の皆さんが芸術に触れることのできるワークショップや，同町の本学の学生の卒業・修了作品の収蔵事業等を通じ，芸術活動によって得られる”感動”や”癒し”を体験できる町づくりに協力。
	油画	群馬県みなかみ町	
32	伊澤修二記念音楽祭	H19.10.27	高遠町（現，伊那市）出身で本学の前身である東京音楽学校の初代校長である伊澤修二を記念した記念音楽祭。本学学生オーケストラが毎年出演している。 また，毎年，記念音楽会に併せて地元の中学校を訪問し演奏指導を行っている。 伊那市は，本学との繋がりを活かして「自然，歴史，文化等地域資源を活用した「人づくり」計画」により第７回地域再生計画（「文化芸術による創造のまち」支援事業）の認定を受けた。
	音楽学部・研究科	長野県伊那市教育委員会	
33	みやこ町愛郷音楽祭	H19.10.20	みやこ町（旧豊津町）出身の里見義（本学前身である音楽取調掛教授），高橋信夫（音楽活動家）を記念して 9 年間続いた「福岡県豊津町愛郷音楽祭」を継続し，町村合併後 2 回目となる音楽祭。金管楽器アンサンブル（指導者を含め 9 名）を派遣し，記念演奏会に出演した。
	音楽学部	福岡県みやこ町	
34	「下北の子どもたち&若手演奏家によるジョイントコンサート　心に響く『日本のうた』～音楽が世代と地域をつなぐ～」	H19.12.26	本学修了，在学中の若手声楽家たちと下北の子どもたちのジョイントコンサート。なじみ深い「日本のうた」の数々を，独唱・重唱・合唱，吹奏楽によって演奏した。 また，コンサートに先立って開催したワークショップでは，若手演奏家たちが，地域の子どもたちやアマチュア合唱団を対象に，発声，日本語の表現，具体的な曲想表現，作品の解釈などについて指導を行った。
	音楽教育，音楽文芸	青森県むつ市，むつ市教育委員会，大間町教育委員会	

計画１－５「【５】専門教育と教養教育双方の充実と深化を図るため，授業科目のバランス，授業内容の見直しを図る。」に係る状況

各学科・専攻において，より教育効果を高めるための教育課程や授業内容の見直し等を行っている。主な事例は下記のとおり。

① 美術学部先端芸術表現科…平成 18 年度から，英語力の強化のために IMA 英語を必修科目とし，共通科目の履修に関して，幅広い選択肢から各自の必要に即した履修が行

えるよう改善。

② 美術学部デザイン科…「デザイン概論」と「デザイン史」を見直し，デザインの創造行為を，自然・風土・伝統文化・生活・素材・技術・経済，等の諸相からデザインの原点を領域を超えた横断的な思想と展開をはかる「デザイン原論」と「グラフィックデザイン」「プロダクトプランニング」「空間・環境デザイン」「映像デザイン」のデザインジャンルをデザイン思想の形成やデザイン運動を史学的に捉え，その文化や思想の再考をし新たな展望をはかる「デザイン概説」に再編。

③ 美術学部芸術学科…平成 17 年度から外国語科目の履修について変更。平成 18 年度には，学部１，２年生の履修状況を調査するなど，変更後の影響についても検証し，問題がなかったことを確認。

④ 情報処理教育に関する科目の見直し(両学部共通)…平成 19 年度から芸術情報センターを活用して行う情報処理教育関係科目の授業内容を見直し，授業科目を再編。

⑤ 実技制作の課題を随時見直し…例えば，美術学部デザイン科 3 年次について，古美術研究後に「伝統とデザイン」をテーマとした実技課題を課し，古美術研究と実技課題に連続性を持たせる，社会性のあるデザイン研究を目的として，少子・高齢化問題など社会の変化をテーマにした実技課題「家族のかたち」を課す，など

⑥ 音楽学部カリキュラム改訂…専門科目と教養・外国語教育とのバランスの検討するとともに，単位の実質化を推進するために平成 19 年度にカリキュラム改訂ＷＧを設置し，検討を行い，平成 20 年度より音楽環境創造科以外の各科のカリキュラム改訂を実施することとした(資料５－１　音楽学部卒業要件単位数　参照)。

資料5－1　音楽学部卒業要件単位数

①改訂前(平成 19 年度まで)

科・専攻			必修科目（専門科目）	選択科目			自由科目	合計単位数
				教養科目	外国語科目	その他（専門科目）		
作曲			84	16	8	16	0	124
声楽			58	16	16	36	4	130
器楽	ピアノ		100	16	10	12	8	146
	オルガン		84	16	10	16	8	134
	弦楽		86	16	8	24	8	142
	管打楽		96	16	8	10	12	142
	古楽		84	16	10	16	8	134
指揮			90	16	10	14	4	134
邦楽	三味線音楽		92	16	8	12	8	136
	邦楽囃子		92	16	8	12	8	136
	日本舞踊		90	16	8	12	10	136
	箏曲	山田流	96	16	8	4	12	136
		生田流	92	16	8	4	16	136
	尺八		88	16	8	8	16	136
	能楽		90	16	8	10	12	136
	能楽囃子		88	16	8	12	12	136
	雅楽		84	16	8	16	12	136
楽理			48	16	14	40	16	134
音楽環境創造			64	16	8	28	8	124

②改訂後(平成 20 年度から)

科・専攻		専門科目		共通科目(選択科目)		合計単位数
		必修科目	選択科目	教養科目	外国語科目	
作曲		66	34	16	8	124
声楽		64	28	16	16	124
器	ピアノ	92	8	16	8	124

楽	オルガン		84	14	16	10	124
	弦楽		90	10	16	8	124
	管打楽	Sx. Euph 専修以外	88	12	16	8	124
		Sx. Euph	72	28	16	8	124
	古楽		84	14	16	10	124
指揮			90	10	16	8	124
邦楽	三味線音楽		88	12	16	8	124
	邦楽囃子		90	10	16	8	124
	日本舞踊		80	20	16	8	124
	箏曲	山田流	88	12	16	8	124
		生田流	90	10	16	8	124
	尺八		80	20	16	8	124
	能楽		92	8	16	8	124
	能楽囃子		88	12	16	8	124
	雅楽		74	26	16	8	124
楽理			70	20	20	14	124

※音楽環境創造は，平成 21 年度改訂予定

計画１－６「【６】芸術系教員や学芸員等の芸術関連分野の専門家養成のため，教職関係科目，学芸員科目の充実を図るとともに，インターンシップ制度の従来以上の導入を図る。」に係る状況

①┌教職科目

教職科目については，授業内容の発展段階や学年進行により校地を移動する学生の利便性等を考慮して，履修すべき学年の指定や集中講義形式を取り入れるなどして，実施にあたっている。

音楽学部では，平成 19 年度から音楽教科教育法について，内容の充実を図るため，学部２年生を対象とした「音楽教科教育法Ⅰ」と，その既修者を対象とした「音楽教科教育法Ⅱ」とに区分することに変更した。また，教職科目としてではなく，成人を対象とした社会教育等に興味・関心のある学生のニーズにこたえるため，教養科目として「音楽教育入門」を新設した。

②学芸員科目

本学では博物館学課程（学芸員資格）の教育は，大学美術館教員を主体として，学部教員と連携し行っている。「博物館学Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ」及び「視聴覚教育メディア論」の授業科目は，大学美術館教員が担当し，大学美術館の展示施設及び収蔵品を活用して授業を行っている。また，一部の科目には，他博物館・美術館のみならず，新聞社文化事業部，サザビーズなどの外部から講師を招いたオムニバス講義を取り入れて，講義内容を幅広い視野から構築し，充実させている。また，生涯学習審議会と中央教育審議会において，学芸員資格そのものの見直しについて検討されていることを受けて，より高水準の学芸員の養成を可能とする博物館学課程の教育方法，内容等について，平成 19 年度より検討を開始した。

③インターンシップ等

本学で，授業科目（選択科目）として単位化されているのは，「応用音楽学特殊講義（インターンシップ）」（音楽研究科音楽文化学専攻）と「インターンシップ」（美術学部先端芸術表現科）となっており，単位化の面では事例は決して多くはない。しかし，キャリア・デザインという観点から，課外活動として学生掲示板にインターンシップ情報を随時掲示し，学生の社会参画を積極的に促している。

派遣先の例としては，日本芸術文化振興会，文化庁文化部芸術文化課，（財）アフィニス文化財団，東京都歴史文化財団（東京都文化会館），広告会社ビーコン，制作会社ポリゴンピクチャアズ，デザインコンサルティング会社ランド-アソシエイツなどがあげられる。

また，平成 15 年度より行っている東京国立博物館との連携事業「学生ボランティアギャラ

リートーク」は，将来，美術館・博物館で学芸員として働くことに関心を持つ本学学生の実地研修の一つの機会となっている。さらに例えば，同博物館の特別展「仏像」，「マーオリ」の実務補佐としてを大学院生を派遣したり，国立西洋美術館の特別展「ベルギー王立美術館展」のカタログ執筆への参加，「計画１－４（【４】）の資料４－３地域連携・社会貢献に関する取組例(P.16-22)」に記載の活動等を通じて，実務的な経験の機会を数多く学生に与えている。

計画１－７ウェイト「【７】学部卒業作品・演奏・論文，大学院修士博士論文・作品・演奏のＷｅｂ公開など，教育成果の公表システムを充実させる。」に係る状況

美術学部・美術研究科においては，大学美術館(陳列館，取手館を含む)での各研究室主催の展覧会や大学会館展示室を利用しての作品展，各校舎内の展示スペースや教室を活用した課題制作の展示など様々な展覧会・発表会を開催して，教育の成果を広く公開している(資料７－１：東京芸術大学　学生の学内外での成果発表例　No.1～48　参照)。

また，卒業・修了作品だけでなく，卒業・修了論文の概要も含めた作品集を刊行しており，平成 19 年３月卒業・修了生の作品集より，本学公式 Web サイト上での公開も開始した。

音楽学部・音楽研究科においては，奏楽堂を活用して定期演奏会や公開試験等を行い，教育の成果を広く公開している。また，学外からの演奏依頼についても，成果発表の機会として学生に紹介し，毎年数多く行っている(資料７－１　No.49～80，７－２：東京芸術大学　公開試験等一覧，７－３：演奏依頼等一覧　参照)。

映像研究科においては，横浜校地校舎内のスタジオや教室を活用して，作品の発表を行っている他，平成 19 年３月に第１期の修了生を出した映像研究科映画専攻では，横浜校地校舎や都内映画館で上映を行った(資料７－１　No.81～89　参照)。

また，平成 19 年８月に教育研究成果を社会に発信することを目的として，東京藝術大学出版会を設立し，10 月には，映像研究科映画専攻第１期生の修了作品集を DVD 化し刊行した(資料７－４：東京藝術大学出版会 HP より　参照)。

資料７－１：東京芸術大学　学生の成果発表例(平成１９年度分)

No	展覧会名	会場(※ゴシック文字は学外会場)	会期	出展学生 学科・専攻
1	アート・パス'07	取手校地	H19.12.7～12.9	取手校地学生
2	取手アートプロジェクト 2007 -はじまりは隣の家のｱｰﾃｨｽﾄ-	取手校地及び**取手市内各所，利根町，柏市，松戸市**	H19.11.9～11.25 の金土日祝　９日間	美術学部・美術研究科の各学科・専攻，音楽学部音楽環境創造科
3	東京藝術大学大学院美術研究科博士審査展	大学美術館	H19.12.4～12.16	美術研究科
4	「Project the Projectors 2008」先端芸術表現科 卒業・修了制作展	**横浜 BANKart NYK（学部４年），横浜 ZAIM（修士２年）**	H20.1.19～1.27	美術学部先端芸術表現科
5	東京芸術大学　卒業・修了制作展	**東京都美術館**，大学美術館，同陳列館，同正木記念館，絵画棟，彫刻棟，中央棟，総合工房棟，大学会館，大学美術館前広場 他	H20.2.21～2.26	美術学部・美術研究科の各学科・専攻
6	日中韓藝術大学交流事業　藝大アーツサミット'07 学生交流展 『美の環』	大学会館他	H19.10.4～10.14	美術学部・美術研究科
7	藝大アーツ イン 丸の内「アート展」	**丸ビル**	H19.11.9～11.10	美術学部・美術研究科
8	日銀ウォーキングミュージアム　ＫＩＮＣＯ　～日本銀行×東京藝術大学　地下金庫展～ (http://www.kinco.info/)	**日本銀行本店**	H19.11.3～11.16	美術学部・美術研究科，音楽学部・音楽研究科
9	第２回　藝大アートプラザ大賞入賞作品展	藝大アートプラザ	H19.12.4～12.24	美術学部・美術研究科
10	東京芸大　SPRING BOARD 2007 Part1	**上野駅** Break Station Gallery	H19.4.3～4.19	日本画，油画，美術教育
11	東京芸大　SPRING BOARD 2007	**上野駅**	H19.4.21～5.10	日本画，油画，彫刻，

	Part2	Break Station Gallery		建築，美術教育
12	五人五色	上野駅 Break Station Gallery	H19.8.25～9.27	日本画，油画，デザイン
13	共鳴するヴィジョン2007－取手のアーティストたち－	上野駅 Break Station Gallery	H19.10.27～12.6	卒業・修了生ほか
14	ケレン － 主張する色彩 －	大学美術館陳列館	H19.4.19～5.3	美術学部・美術研究科の卒業・修了生や在学生
15	茨城県指定文化財 西念寺蔵 阿弥陀如来坐像修復研究発表会	大学美術館陳列館	H19.4.12～4.15	文化財保存学保存修復彫刻
16	素描展　～思索のなかで～	大学美術館陳列館	H19.7.22～7.31	日本画第二研究室
17	ICHIKEN 展＜東京藝術大学日本画第一研究室発表展＞	大学美術館陳列館,正木記念館	H19.9.20～9.27	日本画第一研究室
18	芸大生による動物日本画展	上野動物園西園ズーポケット	H19.11.20～12.2	日本画
19	油一開発プロジェクトメンバー展	藝大アートプラザ	H19.5.8～6.17	油画技法・材料
20	「表層の内側Ⅲ」東京-大邱　展	大学美術館陳列館	H19.6.23～6.29	油画
21	版画の彩展2007　第32回 全国大学版画展	町田市立国際版画美術館	H19.12.1～12.16	版画
22	壁画によるまちづくり	取手市国道６号バイパス藤代大橋下壁面	H19.8.1～9.17	壁画
23	東京芸術大学美術学部紀要第４５号「ガッラ・プラチディア廟モザイク壁画保存修復調査（１）」を発表		平成19年12月	壁画
24	第６回　金属彫刻作家新鋭展　－Metal Spectra －東京藝術大学彫刻科と筑波大学彫塑による研究交流展	メタルアートミュージアム　光の谷	H19.6.30～7.29	彫刻
25	「彫刻の風景－路地」	上野の森美術館ｷﾞｬﾗﾘｰ	H19.7.24～8.3	彫刻
26	「時空の街」－カタチは呼応する－	浅草テプコ館	H19.10.10～11.11	彫刻
27	アトリエの末裔あるいは未来３	旧平櫛田中邸	H19.11.22～12.2	彫刻
28	伝統技術の応用によるイノベーション商品開発プロジェクト発表展 「技と工芸感」	台東区生涯学習センター１階アトリウム	H20.1.22～2.3	彫金，鋳金
29	「金属のコトバ」展 東京藝術大学鍛金研究室　卒業修了制作	天王洲セントラルタワーアートホール(1F)	H19.5.14～6.29	鍛金
30	鍛金展	藝大アートプラザ	H19.7.31～9.9	鍛金
31	『ｱｰﾄﾗﾝﾄﾞｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ』～隅田公園がアートになる日～東京藝術大学染織研究室の大学院生による試み	隅田公園	H19.10.20～11.4	染織
32	JAPAN TEX 2007 クリエーターズタウン『触覚の化現』	東京ビッグサイト	H19.11.21～11.24	染織
33	「URUSHI FROM ASIA」	漆藝ギャラリー	H19.10.4～11.16	漆芸
34	「藝大 Design Project in ADACHI」－足立区をフィールドにした藝大生によるデザイン提案－	シアター1010　アトリエ（千住マルイ10階）	H19.4.24～5.6	デザイン
35	Places and Spaces I Have Never Been 国際交流デザイン展　東京藝術大学，UCCA芸術大学，中央大学校の３校の授業交換による学生作品	大学美術館陳列館	H20.1.10～1.20	デザイン
36	「すわる・はかる・あむ －藝大建築科教育100年のあゆみ－」	総合工房棟４階	H19.9.25～10.8	建築
37	学部一年生椅子展 「都市を読むための椅子」	総合工房棟２階多目的ラウンジ	H18.9.25～10.8	建築
38	学部二年実測展	総合工房棟４階メディアスタジオ	H19.9.25～10.8	建築
39	2008年度 卒業設計合同講評会　東工大×藝大×東大	東京大学安田講堂	H20.3.2	建築
40	トウキョウ建築コレクション　2008	代官山ヒルサイドテラ	H20.3.2～3.9	建築

	「全国修士設計展」	ス・ヒルサイドフォーラム		
41	メキシコ・ベラクルス州立大学交流展	取手校地メディア教育棟１階ピロティ	H19.5.1～5.11	先端芸術表現
42	１年生実技：概念構築 展覧会"Flake box"	取手校地メディア教育棟１階ピロティ，ギャラリー	H19.5.14～5.20	先端芸術表現
43	TRUNK TRANCE（トランク・トランス）	取手校地メディア教育棟１階ピロティ	H19.7.13	先端芸術表現
44	SOUND AND VISION 2007 展	ZAIM	H19.10.12～10.21	先端芸術表現
45	先端芸術表現科 安宅賞・平山賞受賞展「デジャメーヴユ　既／未視感」	絵画棟１階ギャラリー	H19.10.29～11.2	先端芸術表現
46	ａｔｌａｓ 展「先端° M1’07"」	取手校地メディア教育棟，大学美術館取手館ほか	H19.11.5～11.9	先端芸術表現
47	日本金属学会秋季講演大会	岐阜大学	H19.9.19	保存科学
48	保存科学研究室発表会	上野校地	H19.10.12	保存科学
49	千住アートパス 2007	千住校地	H19.12.15～12.16	音楽環境創造
50	東京芸術大学音楽環境創造科 音楽環境創造科 卒業制作・修士論文発表会「マーブル!!」	千住校地	H20.2.8～2.10	音楽環境創造
51	同声会新人演奏会	奏楽堂	H19.4.21	音楽学部
52	藝大フィルハーモニア定期　新卒業生紹介演奏会	奏楽堂	H19.4.26	音楽学部
53	日中韓藝術大学交流事業　藝大アーツサミット 07 藝大留学生による演奏会『音の架け橋』	第６ホール	H19.10.5	音楽学部・音楽研究科の留学生
54	藝大アーツ イン 丸の内「金管五重奏」	丸ビル	H19.11.9～11.10	管打楽器
55	藝大アーツ イン 丸の内「アカンサス音楽賞受賞者によるリサイタル」	丸ビル	H19.11.10	ピアノ，バイオリン
56	藝大アーツ イン 丸の内「邦楽演奏」	丸ビル	H19.11.11	邦楽
57	モーニングコンサート１～13	奏楽堂	H19.5.10～2.14	音楽学部各科・専攻
58	オペラ「アルチーナ」	旧東京音楽学校奏楽堂	H19.7.13	音楽学部
59	藝大ミュージックフェスタ　千住	千住校地第７ホール	H19.10.6～10.7	ピアノ，金管楽器，音楽環境創造
60	千住ｷｬﾝﾊﾟｽ１周年記念ｺﾝｻｰﾄ	東京芸術ｾﾝﾀｰ天空劇場	H19.11.17	金管・打楽器
61	ｸﾞﾘｰｸﾞ＆ｼﾍﾞﾘｳｽ・ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ第１回「学生オーケストラ演奏会Ⅰ」	奏楽堂	H19.4.27	学生ｵｰｹｽﾄﾗ
62	学生オーケストラ演奏会Ⅱ	奏楽堂	H19.5.25	弦楽，管打楽　学部２年以上
63	学生オーケストラ演奏会Ⅲ	奏楽堂	H19.10.26	学生ｵｰｹｽﾄﾗ
64	東京藝大ﾁｪﾝﾊﾞｰｵｰｹｽﾄﾗ 第９回定期演奏会	奏楽堂	H19.6.30	ﾁｪﾝﾊﾞｰｵｰｹｽﾄﾗ
65	東京藝大ﾁｪﾝﾊﾞｰｵｰｹｽﾄﾗ第 10 回定期演奏会	奏楽堂	H19.2.15	ﾁｪﾝﾊﾞｰｵｰｹｽﾄﾗ
66	東京藝大ﾁｪﾝﾊﾞｰｵｰｹｽﾄﾗ演奏会	東京芸術ｾﾝﾀｰ天空劇場	H20.2.16	ﾁｪﾝﾊﾞｰｵｰｹｽﾄﾗ
67	ハイドン・シリーズ第１夜「オーケストラ演奏会」	奏楽堂	H19.11.1	ﾁｪﾝﾊﾞｰｵｰｹｽﾄﾗ
68	定期演奏会「第 39 回学生オーケストラ定期演奏会」	奏楽堂	H19.11.30	学生ｵｰｹｽﾄﾗ
69	定期吹奏楽第 73 回「東京藝術大学・韓国ソウル大学校音楽大学　交流吹奏楽合同演奏会」	奏楽堂	H19.11.28	管打楽器
70	「うたシリーズⅦ－1　松田トシ賞受賞者によるオペラ・ガラ」	奏楽堂	H19.6.28	弦楽，管打楽　学部２年以上
71	藝大オペラ定期第５３回　Ｇ．プッチーニ　「ラ・ボエーム」	奏楽堂	H19.10.13～10.14	声楽
72	オペラハイライトⅠ～Ⅲ	第６ホール	H19.7.3，11.30 H20.1.22	声楽（オペラ）
73	管弦ミニコンサート	第６ホール	H19.11.22	弦楽，管楽　学部１年

74	Nong project	**韓国総合芸術学校**	H19.9.17～9.19	作曲
75	藝大21　第3回奏楽堂企画学内公募演奏会「国撃たれて響き在り～祝・創楽120年～」	奏楽堂	H19.3.15	楽理
76	博士コロキアム	上野校地5-401室	H19.6.12,6.19,10.23,11.6,11.20	音楽学(原則博士後期課程2年次)
77	楽理科研究演奏会	第6ホール	H19.12.11	楽理
78	楽理科卒論・修論・博論発表会	5-109室	H20.3.24	楽理，音楽学
79	東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校ｵｰｹｽﾄﾗパリ公演（ﾕﾈｽｺ平和祈念ｺﾝｻｰﾄ)	**ユネスコ本部** **パリ日本文化会館**	H19.4.23,4.25	附属音楽高等学校
80	東京芸術大学音楽学部附属音楽高等学校定期演奏会	奏楽堂	H19.11.2	附属音楽高等学校
81	東京芸術大学大学院映像研究科第1期生修了制作展	①横浜校地馬車道校舎 ②**渋谷ユーロスペース**	①H19.5.12～5.13 ②H19.5.19～6.1	映画
82	大学院映像研究科メディア映像専攻修了制作展『ＯＳ１』	横浜校地新港校舎	H20.1.18～1.27	メディア映像専攻
83	Open Theater 2007	横浜校地馬車道校舎	H19.7.28～8.5	映画
84	OPEN STUDIO vol.4	横浜校地新港校舎	H19.7.30～8.5	メディア映像
85	第12回釜山国際映画祭	**釜山 MegaBox**	H19.10.8，10.11	映画
86	第10回 京都国際学生映画祭	**ART COMPLEX1928**	H19.11.23～11.25	映画
87	日韓学生共同制作映画上映	**①東京国際フォーラム/ホールD** ②馬車道校舎 3階 大視聴覚室	①H19.11.19, ③ H19.11.23	映画
88	OPEN STUDIO vol.5	横浜校地新港校舎	H19.12.22～12.24	メディア映像
89	夕映え少女　上映	**渋谷ユーロスペース**	H20.1.26～2.1	映画

資料7－2：東京芸術大学　公開試験等　一覧(平成19年度分)

No.	演奏会名	会場	開催日		開演時間
1	博士ﾘｻｲﾀﾙ	第6ホール	H19.4.17	火	18:00
2	博士ﾘｻｲﾀﾙ	第6ホール	H19.4.24	火	18:30
3	学内演奏会(ｵｰｹｽﾄﾗ)	奏楽堂	H19.4.27	金	19:00
4	博士ﾘｻｲﾀﾙ	第1ホール	H19.4.27	金	18:15
5	博士ﾘｻｲﾀﾙ	第6ホール	H19.5.8	火	18:30
6	学内演奏会(管打楽)	奏楽堂	H19.5.11	金	13:00
7	学内演奏会(ピアノ)	奏楽堂	H19.5.22	火	13:00
8	学内演奏会(オルガン)	奏楽堂	H19.5.23	水	14:30
9	学内演奏会(管打楽)	奏楽堂	H19.5.24	木	14:00
10	学内演奏会(オーケストラ)	奏楽堂	H19.5.25	金	19:00
11	学内演奏会(管打楽)	奏楽堂	H19.5.28	月	13:00
12	学内演奏会(古楽)	奏楽堂	H19.5.30	水	14:00
13	学内演奏会(ピアノ)	奏楽堂	H19.6.1	金	13:00
14	学内演奏会(ピアノ)	奏楽堂	H19.6.5	火	13:00
15	学内演奏会(ピアノ)	奏楽堂	H19.6.12	火	13:00
16	学内演奏会(ピアノ)	奏楽堂	H19.6.13	水	13:00
17	学内演奏会(吹奏楽)	奏楽堂	H19.6.27	水	19:00
18	課程博士学位審査会演奏審査会	第6ホール	H19.7.10	火	15:30
19	課程博士学位審査会演奏審査会	第6ホール	H19.7.12	木	18:00
20	博士ﾘｻｲﾀﾙ	東京文化会館	H19.9.8	土	15:00
21	博士ﾘｻｲﾀﾙ	東京文化会館	H19.9.9	日	14:00
22	博士ﾘｻｲﾀﾙ	第6ホール	H19.9.12	水	18:00
23	学内演奏会(弦楽)	奏楽堂	H19.10.15	月	13:00
24	学内演奏会(弦楽)	奏楽堂	H19.10.16	火	13:00
25	課程博士学位審査会演奏審査会	第6ホール	H19.10.16	火	18:00
26	学内演奏会(弦楽)	奏楽堂	H19.10.17	水	13:00

27	学内演奏会(指揮)	奏楽堂	H19.10.18	木	11:00
28	学内演奏会(声楽)	奏楽堂	H19.10.18	木	13:30
29	学内演奏会(雅楽)	第6ホール	H19.10.18	木	18:00
30	学内演奏会(声楽)	奏楽堂	H19.10.19	金	13:30
31	学内演奏会(声楽)	奏楽堂	H19.10.23	火	13:30
32	学内演奏会(能楽)	第4ホール	H19.10.24	水	14:00
33	学内演奏会(声楽)	奏楽堂	H19.10.26	金	13:30
34	学内演奏会(箏曲・尺八)	奏楽堂	H19.10.29	月	12:30
35	学内演奏会(三味線音楽・日本舞踊)	奏楽堂	H19.10.30	火	11:00
36	学内演奏会(作曲)	奏楽堂	H19.11.6	火	14:00
37	博士リサイタル	第6ホール	H19.11.8	木	18:00
38	学内演奏会(作曲)	奏楽堂	H19.11.9	金	14:00
39	博士リサイタル	第1ホール	H19.11.16	金	18:00
40	課程博士学位審査会演奏審査会	第6ホール	H19.11.20	火	19:00
41	修士リサイタル(オルガン)	奏楽堂	H19.11.26	月	15:00
42	課程博士学位審査会演奏審査会	奏楽堂	H19.11.27	火	19:00
43	課程博士学位審査会演奏審査会	奏楽堂	H19.12.4	火	15:00
45	卒業試験公開演奏会(ピアノ)	奏楽堂	H19.12.10	月	10:00
46	卒業試験公開演奏会(ピアノ)	奏楽堂	H19.12.11	火	10:00
47	卒業試験公開演奏会(ピアノ)	奏楽堂	H19.12.12	水	10:00
48	博士リサイタル	第２ホール	H19.12.14	金	18:30
49	課程博士学位審査会演奏審査会	第4ホール	H19.12.18	火	14:00
50	卒業試験公開演奏会(古楽)	奏楽堂	H20.1.7	月	11:00
51	卒業試験公開演奏会(三味線・日本舞踊)	奏楽堂	H20.1.10	木	11:00
52	卒業試験公開演奏会(管打楽器)	奏楽堂	H20.1.11	金	10:30
53	卒業試験公開演奏会(管打楽器)	奏楽堂	H20.1.15	火	11:00
54	卒業試験公開演奏会(声楽)	奏楽堂	H20.1.16	水	10:00
55	博士リサイタル	第6ホール	H20.1.16	水	18:00
56	卒業試験公開演奏会(声楽)	奏楽堂	H20.1.17	木	10:00
57	卒業試験公開演奏会(指揮)	第6ホール	H20.1.17	木	11:00
58	卒業試験公開演奏会(雅楽)	第6ホール	H20.1.17	木	18:00
59	卒業試験公開演奏会(弦楽:ヴァイオリン)	奏楽堂	H20.1.18	金	9:30
60	卒業試験公開演奏会(弦楽:ｳﾞｨｵﾗ･ﾁｪﾛ･ｺﾝﾄﾗﾊﾞｽ･ﾊｰﾌﾟ)	奏楽堂	H20.1.21	月	10:00
61	卒業試験公開演奏会(オルガン)	奏楽堂	H20.1.22	火	11:00
62	卒業試験公開演奏会(尺八・箏曲)	奏楽堂	H20.1.22	火	14:30
63	課程博士学位審査会演奏審査会	第1ホール	H20.1.22	火	19:00
64	課程博士学位審査会演奏審査会	第4ホール	H20.1.23	水	18:45
65	卒業試験公開演奏会(能楽)	第4ホール	H20.1.24	木	14:00
66	修士課程学位審査会演奏会(指揮)	第6ホール	H20.1.24	木	11:00
67	修士課程学位審査会演奏会(室内楽)	第6ホール	H20.1.24	木	13:00
68	修士課程学位審査会演奏会(独唱 1・3 講座)	奏楽堂	H20.1.24	木	11:00
69	修士課程学位審査会演奏会(独唱 2・4 講座)	奏楽堂	H20.1.25	金	11:00
70	修士課程学位審査会演奏会(ソルフェージュ:ピアノ)	第6ホール	H20.1.25	金	15:30
71	修士課程学位審査会演奏会(弦楽)	第6ホール	H20.1.28	月	13:30
72	修士課程学位審査会演奏会(オルガン)	奏楽堂	H20.1.28	月	11:00
73	修士課程学位審査会演奏会(古楽)	奏楽堂	H20.1.28	月	14:00
74	修士課程学位審査会演奏会(ピアノ)	第1ホール	H20.1.29	火	10:00
75	修士課程学位審査会演奏会(ピアノ)	第1ホール	H20.1.30	水	10:00
76	修士課程学位審査会演奏会(邦楽)	第6ホール	H20.1.31	木	13:00
77	修士課程学位審査会演奏会(邦楽:能楽)	第4ホール	H20.1.31	木	14:00
78	修士課程学位審査会演奏会(オペラ)	奏楽堂	H20.1.31	木	13:30
79	修士課程学位審査会演奏会(オペラ)	奏楽堂	H20.2.1	金	13:30
80	修士課程学位審査会演奏会(管打楽)	第6ホール	H20.2.1	金	10:00
81	修士課程学位審査会演奏会(古楽)	奏楽堂	H20.2.4	月	9:30
82	博士リサイタル	第4ホール	H20.2.6	水	17:00

83	博士リサイタル	第6ホール	H20.2.7	木	18:30
84	博士リサイタル	奏楽堂	H20.2.14	木	16:00
85	課程博士学位審査会演奏審査会	第1ホール	H20.2.18	月	14:00
86	課程博士学位審査会演奏審査会	第3ホール	H20.2.19	火	14:00
87	博士リサイタル	第3ホール	H20.2.20	水	17:00
88	博士リサイタル	日本福音ルーテル東京教会	H20.3.13	木	19:00
89	博士リサイタル	第6ホール	H20.3.14	金	17:00
90	博士リサイタル	第6ホール	H20.3.17	月	17:00
91	博士リサイタル	第6ホール	H20.3.31	月	18:00
92	芸高3年公開実技試験(ピアノ)	奏楽堂	H19.6.24	日	10:00
93	芸高3年公開実技試験(弦楽器)	奏楽堂	H19.6.29	金	10:00
合　　計					(93 件)

資料7－3:演奏依頼一覧(平成 19 年度)

※編みかけ部分は教員のみ。その他は学生のみ又は教員と学生によるもの。

	月	日	曜日	演　奏　会　名	主　催
1	4	5	木	平成 19年度東京工業大学学部・大学院入学記念演奏会	東京工業大学
2		6	金	「芸大さくらコンサートIN科博」	東京芸術大学・国立科学博物館
4		19	木	木曜コンサート	(財)台東区芸術文化財団奏楽堂
5		19	木	【受託演奏】日本国際賞授賞式	国際科学技術財団
6		21	土	平成19年度同声会賞新人演奏会	東京芸術大学音楽学部同声会
7					
8		27	金	第1回みどりの式典	内閣府
9		27	金	昭和音楽大学新百合ヶ丘キャンパスオープニング記念演奏会「9音楽大学の学生による室内楽の祭典」	昭和音楽大学
10	5	5	土	第77回読売新聞社主催新人演奏会	読売新聞社
11		6	日		
12		10	木	【受託演奏】平成19年度春の叙勲　勲章伝達式	文部科学省人事課
13		16	水	【受託演奏】平成19年度紫綬褒章・藍綬褒章及び黄綬褒章伝達式	
14		26	土	平成19年度取手市小・中学校と交流事業(吹奏楽部指導)	取手市教育委員会
15		30	水	京都・国際音楽学生フェスティバル2007	(財)ﾛｰﾑﾐｭｰｼﾞｯｸﾌｧﾝﾃﾞｰｼｮﾝ
16		31	木	木曜コンサート	(財)台東区芸術文化財団奏楽堂
17	6月	2	土	平成19年度取手市小・中学校と交流事業(吹奏楽部指導)(2カ所)	取手市教育委員会
18					
19		5	火	ｵｰｹｽﾄﾗ・アンサンブル金沢 2007 年度　学校公演リハーサル	(財)石川県音楽文化振興事業団
20		6	水	オーケストラ・アンサンブル金沢　2007 年度　学校公演	(財)石川県音楽文化振興事業団
21		7	木	オーケストラ・アンサンブル金沢　2007 年度　学校公演	(財)石川県音楽文化振興事業団
22		8	金	オーケストラ・アンサンブル金沢　2007 年度　学校公演	(財)石川県音楽文化振興事業団
23		10	日	2007レクサス演奏会	東京ﾄﾖﾍﾟｯﾄ株式会社
24		11	月	第97回日本学士院授賞式	日本学士院
25		11	月	オーケストラ・アンサンブル金沢　2007 年度　学校公演	(財)石川県音楽文化振興事業団
26		12	火	オーケストラ・アンサンブル金沢　2007 年度　学校公演	(財)石川県音楽文化振興事業団
27		13	水	オーケストラ・アンサンブル金沢　2007 年度　学校公演	(財)石川県音楽文化振興事業団
28		15	金	九段自立プラン総合的な学習	千代田区立九段中等教育学校
29		16	土	平成19年度取手市小・中学校と交流事業(吹奏楽部指導)(2カ所)	取手市教育委員会
30					
31		18	月	平成18年度　第63回日本芸術院授賞式	日本芸術院
32		20	水	能登半島地震　復興記念演奏会オペラ「カルメン」ミニコンサート・説明会	(財)金沢芸術創造財団・(財)石川県音楽文化振興事業団
33		21	木	木曜コンサート	(財)台東区芸術文化財団奏楽堂
34		22	金	九段自立プラン総合的な学習	千代田区立九段中等教育学校
35		23	土	平成19年度取手市小・中学校と交流事業(吹奏楽部指導)(3カ所)	取手市教育委員会
36					
37					

38		29	金	九段自立プラン総合的な学習	千代田区立九段中等教育学校
39		29	金	平成19年度三輪田学園邦楽鑑賞会	三輪田学園中学校
40		30	土	平成19年度取手市小・中学校と交流事業 (吹奏楽部指導)(2カ所)	取手市教育委員会
41					
42		7	土	平成19年度取手市小・中学校と交流事業 (吹奏楽部指導)(2カ所)	取手市教育委員会
43					
44		13	金	オペラアンサンブル「アルチーナ」	オペラアンサンブル“Incanto” ALCINA 実行委員会
45		13	金	九段自立プラン総合的な学習	千代田区立九段中等教育学校
46	7月	14	土	平成19年度取手市小・中学校と交流事業 (吹奏楽部指導)(3カ所)	取手市教育委員会
47					
48					
49		18	水	東京藝大表参道フレッシュコンサート	カワイ音楽振興会
50		19	木	木曜コンサート	(財)台東区芸術文化財団奏楽堂
51		21	土	平成19年度取手市小・中学校と交流事業(吹奏楽部指導)	取手市教育委員会
52		27	金	未来館コンサート	女性と仕事の未来館
53		2	木	平成19年度　第1回安曇野市立穂高東・西中学校楽器演奏 指導・コンサート	安曇野市教育委員会
54		3	金		
55		4	土	第56回社会を明るくする運動音楽教室 「竹の太鼓を作って 演奏しよう」	法務省保護局
56		15	水	全国戦没者追悼式典	厚生労働省
57	8月	18	土	したまち邦楽ワークショップ	(財)台東区芸術文化財団
58		19	日	したまち邦楽ワークショップ	(財)台東区芸術文化財団
59		20	月	平成19年度伝統音楽研修会	文部科学省初等中等教育局
60		21	火		
61		21	火	JSPSサマープログラム送別会における和楽器演奏	総合研究大学院大学
62		23	木	木曜コンサート	(財)台東区芸術文化財団奏楽堂
63		25	土	埼玉大学　大学歌録音	埼玉大学
64		1	土	したまち邦楽ワークショップ	(財)台東区芸術文化財団
65		2	日	したまち邦楽ワークショップ	(財)台東区芸術文化財団
66		5	水	長唄東音会50周年記念演奏会	長唄東音会
67		7	金	東京藝大表参道フレッシュコンサート	カワイ音楽振興会
68		15	土	したまち邦楽ワークショップ	(財)台東区芸術文化財団
69		16	日	したまち邦楽ワークショップ	(財)台東区芸術文化財団
70		16	日	それいけ！オルガン探検隊	サントリーホール
71		16	日	高橋節郎記念美術館	安曇野市
72	9月	20	木	木曜コンサート	(財)台東区芸術文化財団奏楽堂
73		20	木	期待の音大生によるアフタヌーンコンサート	日本たばこ産業株式会社
74		22	土	平成19年度取手市教育委員会主催ミニコンサート	取手市教育委員会
75		22	土	オペラセミナー	(財)足利市みどりと文化・ｽﾎﾟｰﾂ財団
76		22	土	東京藝術大学による指導(ｱｰﾄｽﾃｰｼﾞ妙高推進事業)	(財)新井文化振興事業団
77		23	日	東京藝術大学による指導(ｱｰﾄｽﾃｰｼﾞ妙高推進事業)	(財)新井文化振興事業団
78		29	土	平成19年度取手市小・中学校と交流事業 (吹奏楽部指導)	取手市教育委員会
79		29	土	**【受託演奏】**文京シビック第5回定期演奏会	文京シビック合唱団
80		4	木	綾瀬小学校音楽鑑賞教室(2回公演)	足立区立綾瀬小学校
81		5	金	上野・浅草ーにほんの音 「藝大生による邦楽ﾌﾚｯｼｭｺﾝｻｰﾄ」	(財)台東区芸術文化財団
82		6	土	平成19年度旧奏楽堂ﾃﾞﾋﾞｭｰｺﾝｻｰﾄ	(財)台東区芸術文化財団
83		6	土	石川県立音楽堂　シューベルト・フェスティバル	(財)石川県音楽文化振興事業団
84		6	土	平成19年度取手市小・中学校と交流事業(吹奏楽部指導) (2カ所)	取手市教育委員会
85					
86		13	土	平成19年度取手市小・中学校と交流事業(吹奏楽部指導)	取手市教育委員会
87	10月	13	土	平成19年度　第2回安曇野市立穂高東・西中学校楽器演奏 指導	安曇野市教育委員会
88		14	日		
89		14	日	オペラセミナー	(財)足利市みどりと文化・ｽﾎﾟｰﾂ財団
90		18	木	木曜コンサート	(財)台東区芸術文化財団奏楽堂
91		19	金	九段自立プラン総合的な学習	千代田区立九段中等教育学校

92		20	土	オーケストラ・アンサンブル金沢　津幡公演	(財)石川県音楽文化振興事業団
93		20	土	平成19年度取手市小・中学校と交流事業(吹奏楽部指導)	取手市教育委員会
94		20	土	第2回みやこ町愛郷音楽祭(東京藝術大学演奏会)	福岡県京都郡みやこ町
95		20	土	東京藝術大学による指導(ｱｰﾄｽﾃｰｼﾞ妙高推進事業)	(財)新井文化振興事業団
96		21	日	東京藝術大学による指導(ｱｰﾄｽﾃｰｼﾞ妙高推進事業)	(財)新井文化振興事業団
97		21	日	上野・浅草－にほんの音「邦楽爛漫」	(財)台東区芸術文化財団
98		26	金	期待の音大生によるアフタヌーンコンサート	日本たばこ産業株式会社
99		26	金	九段自立プラン総合的な学習	千代田区立九段中等教育学校
100		27	土	第21回伊澤修二先生記念音楽祭	長野県伊那市
101		28	日	「芸大と遊ぼうin北とぴあ」	東京都北区
102		30	火	「光彩時空'07」における管楽アンサンブルライブ及び屋外コンサート	国立西洋美術館，光彩時空'07実行委員会
103		31	水		
104		1	木		
105		2	金		
106		3	土		
107		4	日		
108		3	土	平成19年度国立磐梯青年の家主催事業「部活動ｻﾎﾟｰﾄ磐梯ﾐｭｰｼﾞｯｸｾﾐﾅｰ2007」	国立青年の家　国立磐梯青年の家
109		4	日		
110		4	日	シリーズ「歌」こころ響き合うとき Vol.10　熱狂の浅草オペラ	(財)新日鐵文化財団(紀尾井ホール)
111		5	月	**【受託演奏】**文化功労者顕彰式	文部科学省大臣官房人事課
112		8	木	**【受託演奏】**平成19年度秋の叙勲伝達式	文部科学省大臣官房人事課
113	11月	11	日	平成19年度取手市小・中学校と交流事業(吹奏楽部指導)	取手市教育委員会
114		14	水	秋の火災予防運動表彰記念　防火演奏会	東京消防庁　上野消防署
115		15	木	木曜コンサート	(財)台東区芸術文化財団奏楽堂
116		16	金	**【受託演奏】**平成19年度秋の褒章伝達式	文部科学省大臣官房人事課
117		17	土	東京オリンピック　2016	(株)ﾒﾄﾛｱﾄﾞｴｰｼﾞｪﾝｼｰ
118		19	月	第23回国際生物学賞授賞式	日本学術振興会
119		23	金	ファミリーコンサート「親子で歌いつごう！日本のうた100選」	(財)石川県音楽文化振興事業団ほか
120		24	土	音楽音響研究会(ミニコンサート)	日本音響学会音楽音響研究会
121		25	日	ファミリーコンサート「親子で歌いつごう！日本のうた100選」	(財)石川県音楽文化振興事業団ほか
122		1	土	平成19年度取手市教育委員会主催ミニコンサート	取手市教育委員会
123		4	火	東京藝大表参道フレッシュコンサート	カワイ音楽振興会
124		8	土	平成19年度取手市小・中学校と交流事業(吹奏楽部指導)	取手市教育委員会
125		9	日	クリスマス&メサイア公演	(財)石川県音楽文化振興事業団
126		12	水	第57回チャリティーコンサート「メサイア」	朝日新聞厚生文化事業団
127		15	土	第27回「台東第九公演」	台東区
128	12月	16	日	LEXUSコンサートin芸大'07	東京ﾄﾖﾍﾟｯﾄ
129		20	木	木曜コンサート	(財)台東区芸術文化財団奏楽堂
130		20	木	「大学地域開放事業」御徒町台東中学校吹奏楽指導	台東区立御徒町台東中学校・台東区教育委員会
131		21	金		
132		21	金	期待の音大生によるアフタヌーンコンサート	日本たばこ産業株式会社
133		22	日	御徒町台東中と芸大による奏楽堂演奏会	台東区教育委員会
134		23	日	天皇陛下御誕生祝賀ﾚｾﾌﾟｼｮﾝにおける国歌独唱	外務省
135		25	火	Atorionワンコイン vol.6 クリスマス・スペシャル	大星ビル管理(株)秋田アトリオン音楽事業部
136		6	日	平成19年度取手市小・中学校と交流事業(吹奏楽部指導)	取手市教育委員会
137		11	金	平成19年度学習院初等科邦楽鑑賞教室	学習院初等科
138	1月	17	木	木曜コンサート	(財)台東区芸術文化財団奏楽堂
139		17	木	期待の音大生によるアフタヌーンコンサート	日本たばこ産業株式会社
140		19	土	平成19年度旧奏楽堂ﾃﾞﾋﾞｭｰｺﾝｻｰﾄ	(財)台東区芸術文化財団
141		28	月	財団法人日本視聴覚教育協会創立80周年記念式典	財団法人日本視聴覚教育協会
142	2月	2	土	平成19年度　第3回安曇野市立穂高東・西中学校楽器演奏指導・コンサート	安曇野市教育委員会
143		3	日		

144		3	日	東京藝術大学演奏会(トランペットと打楽器によるコンサート)	坂東市文化振興事業団
145		10	日	「だて噴火湾アートビレッジ構想」関連演奏会(仮)	北海道伊達市
146		14	木	芸術鑑賞会	茨城県つくば市立二の宮小学校
147		14	木	平成19年度碧南市芸術文化ホール自主事業「小・中学生音楽教室・一般向けコンサート」　金管楽器のヒミツ	碧南市・碧南市教育委員会
148		15	金		
149		16	土		
150		18	月	【受託演奏】文部科学大臣優秀教員表彰式における演奏	文部科学省
151		21	木	木曜コンサート	(財)台東区芸術文化財団奏楽堂
152		22	金	平成19年度邦楽鑑賞教室	恵泉女学園中学・高等学校
153		23	土	取手市夢のコンサート	取手市教育委員会
154		23	土	隅田公園梅まつり2008　箏・尺八演奏会	台東区役所　都市づくり部公園緑地課
155		24	日		
156	3月	1	土	平成19年度旧奏楽堂ﾃﾞﾋﾞｭｰｺﾝｻｰﾄ	(財)台東区芸術文化財団
157		3	月	第4回日本学術振興会賞及び日本学士院学術奨励賞授賞式	日本学術振興会
158		6	木	平成19年度台東区立小・中学校音楽鑑賞教室(中学校)	台東区教育委員会
159		7	金	平成19年度台東区立小・中学校音楽鑑賞教室(小学校)	台東区教育委員会
160		7	金	東京藝大表参道フレッシュコンサート	カワイ音楽振興会
161		7	金	オペラ「カルメン」コンサート	(財)金沢芸術創造財団・(財)石川県音楽文化振興事業団
162		13	木	木曜コンサート	(財)台東区芸術文化財団奏楽堂
163		13	木	JT アフタヌーンコンサート	日本たばこ産業株式会社
164		14	金	合唱コンクールにおける模範演奏	足立区立第十中学校
165		22	土	藝大オペラ in 君津「椿姫」	房総オペラ愛好会
166		26	水	東京上野ロータリークラブ・第22回奏楽堂コンサート	東京上野ロータリークラブ
167		27	木	平成19年度音楽大学卒業生演奏会	当番校・・桐朋学園大学
					167(合計)　14(教員のみ)　153(学生参加)

資料７－４：東京藝術大学出版会 HP より

DVD 大学院映像研究科第一期生修了制作作品集 2007
大学院映像研究科製作

定価:2,940 円(本体 2,800 円)
ISBN:978-4-904049-01-3 C0874
発行:2007 年 10 月 18 日

藝大アートプラザにて店頭販売しております。

オンライン書店で購入:　amazon.co.jp

計画１－８「【８】卒業後の進路等に関する情報を収集し，長期的な教育成果を把握し，検討する体制を整える。」に係る状況

学生課(平成 20 年 4 月 1 日より学生支援課に再編)では，毎年，学位授与式にあわせて卒業・修了者の進路状況について調査を行っており，取りまとめ結果は，本学公式 Web サイトでも公表している。また，各学科・専攻で企画する展覧会等への参加要請，ホームページでの展覧会等の開催案内リンクなど，各学科・専攻ではそれぞれ進路と活動状況に関する情報収集，リスト化を行っている。

また，平成 19 年 8～9 月に企画・評価室が本学卒業生・修了生の同窓会組織の協力を得て行った「卒業・修了生アンケート」では，卒業後５年以上を経過した者から 2000 名余りを抽出してアンケート用紙を配布し，552 名から回答があった。(回収率 25.57%)このアンケートにおいて，学生の就職指導に関することについて企画・立案等を担当する理事室である「学生支援室」と連携して検討し，卒業・修了後の進路や活動等に関する情報を収集し，長期的な教育

成果を把握するための質問を設けた(資料８－１：卒業生・修了生アンケート抜粋　参照)。

資料８－１：卒業生・修了生アンケート　抜粋

１．調査の概要

①実施時期：2007 年 8 月 8 日～9 月 21 日
②対象：東京藝術大学　卒業生　2,176 名（実配布数　2,159 名）
③回答・回収状況：552 票（回収率：25.57%）
④回答者内訳　　（問１～７：略）

２．調査結果の要約（略）

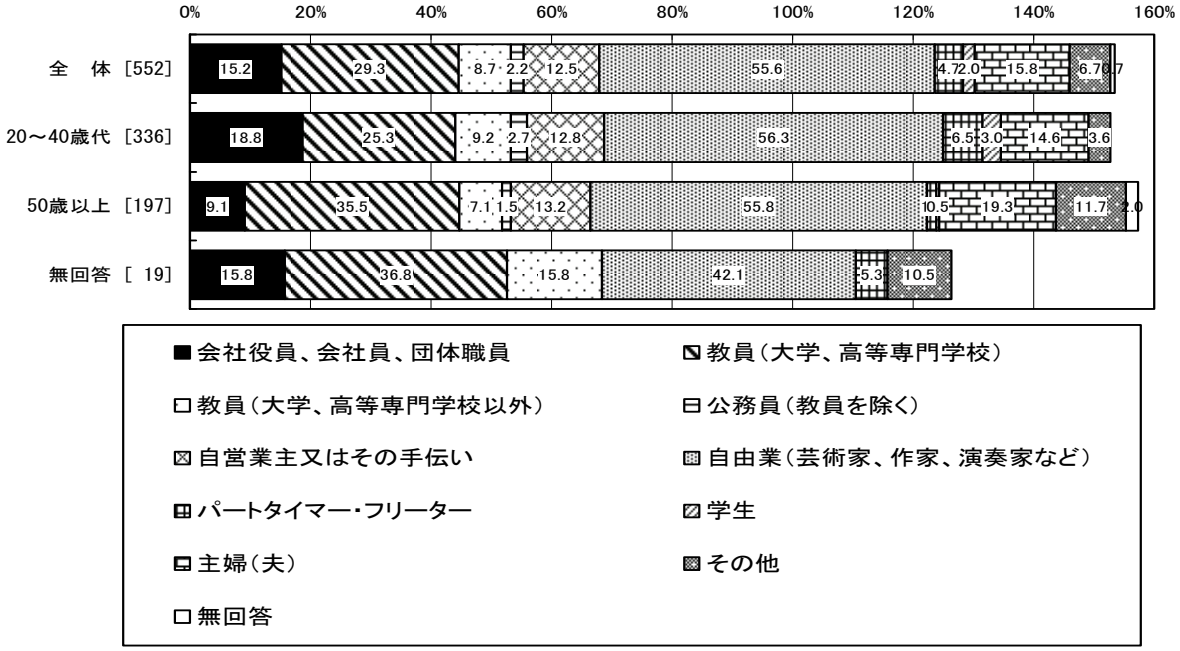
３．調査集計結果

（問８～１３略）

問１４　現在の職業

全体では「自由業（芸術家，作家，演奏家)」が 55.6%と最も多い。
年代別で大きな差異は認められないが，「教員（大学，高等専門学校)」の割合が，20～40 歳代 25.3%に対し，50 歳以上では 35.5%と約 10%高い数値となっている。
学部(研究科)別では，「会社役員，会社員，団体職員」の割合が，美術 27.8%に対し，音楽 5.1%，「教員（大学，高等専門学校)」の割合が，美術 17.0%に対し，音楽 39.1%と差異が見られた。

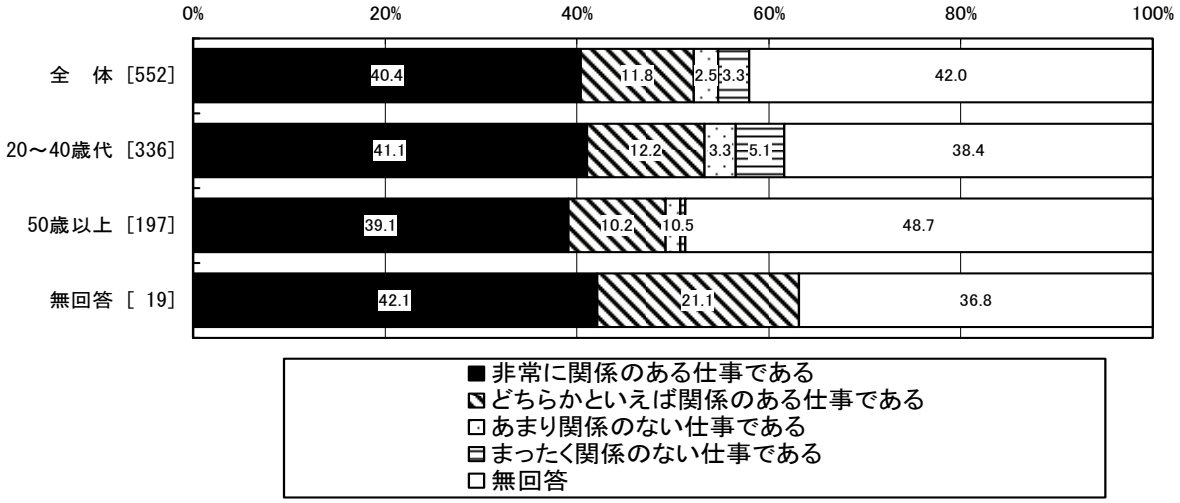
問14.現在のご職業は、次のうちどれですか（複数回答可）



問１５　現在の職種・仕事と，大学時代の専攻等との関係性

「非常に関係のある仕事である」「どちらかといえば関係のある仕事である」の肯定回答の割合は，全体で 52.2%。年代別で大きな差異は認められない。(但し，企業・団体に属していない者は無回答となるため，回答者のみでは９割が肯定的割合。)

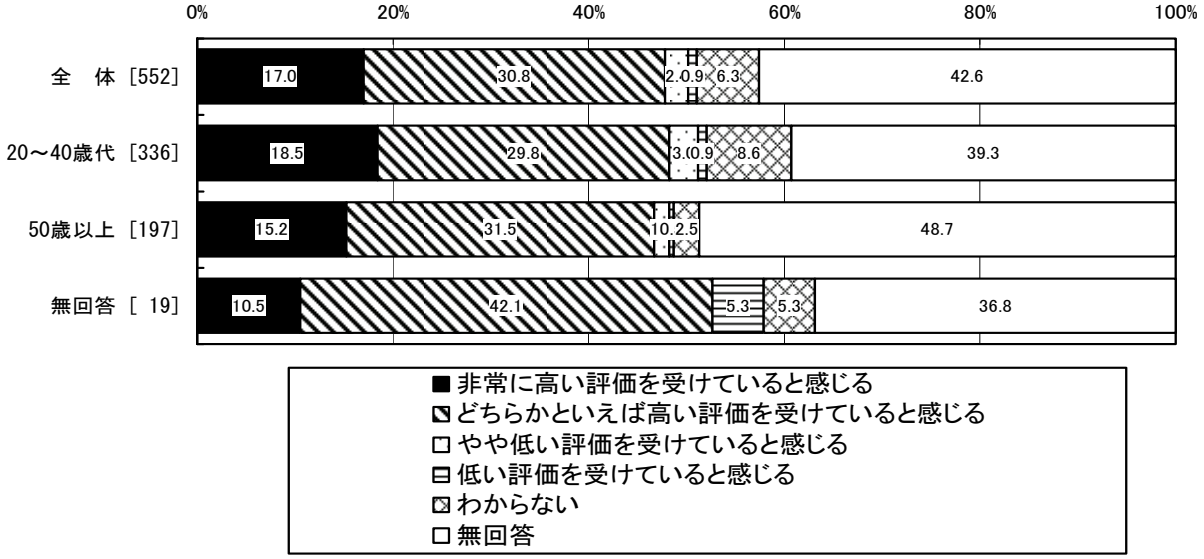
問15.（企業、団体等に所属している方）職種や仕事は、大学時代の専攻等とどのようなかかわりを持っていますか



問１６　現在の所属先での本学または本学卒業生への評価

「非常に高い評価を受けていると感じる」「どちらかといえば高い評価を受けていると感じる」の肯定回答の割合は，全体で 47.8%。(但し，企業・団体に属していない者は無回答となるため，回答者のみでは８割以上が肯定的割合。)

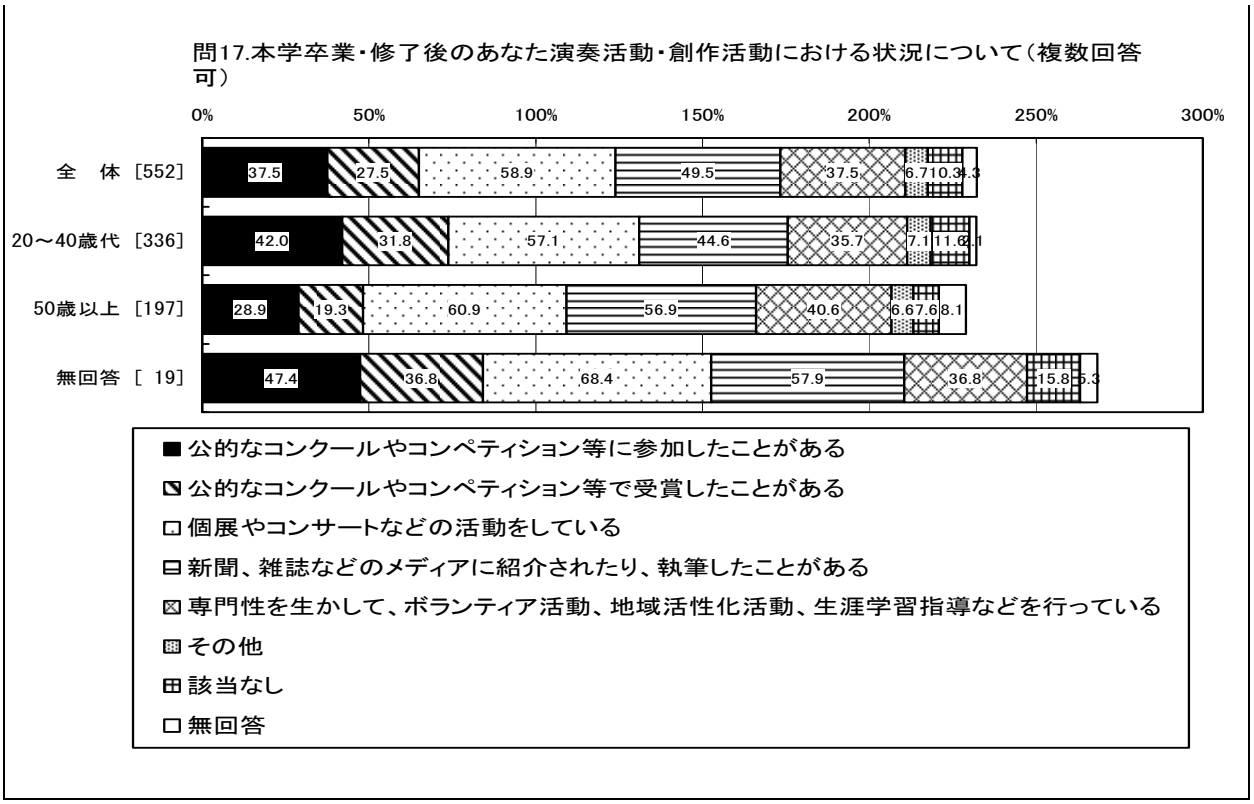
問16.（企業、団体等に所属している方）所属先での、東京芸術大学又は卒業生・修了生への評価をどのように感じていますか



問１７　卒業・修了後の演奏活動や創作活動の状況

全体では「個展やコンサートなどの活動をしている」58.9%と最も多い。

「公的コンクールやコンペティション等で受賞したことがある」20～40 歳代 31.8%，50 歳以上 19.3%と年代での差異も見られる。



計画１－９「【９】附属図書館，大学美術館など学内共同教育研究施設を活用した教育研究をより一層充実させる。」に係る状況

大学美術館に収蔵されている芸術資料は，文化財的価値が非常に高いもので，これらの収蔵品が，大学構内という身近な環境にあり，必要に応じて，主に収蔵庫内での閲覧や模写・模刻といった形で，本学の教育研究に活用することができるということは，本学の教育研究上特筆すべき点である。これらの収蔵品については，平成 19 年度実績で教育研究のために閲覧 96 件（延べ 793 人，957 点），模写等 34 日間（延べ 64 人）が実施されている。（※模写等については，平成 18 年度は 92 日間（延べ 232 人）であった。19 年度は実施場所となる大学美術館正木記念館の改修があったため少なかった。）

また，収蔵品を教材として，計画１－６の②(P. 24)に記載した学芸員科目の授業等を行っている。さらに，学生の自主的な学習を助けるために，大学美術館で有料で行う展覧会についても，本学学生は学生証の提示により無料で観覧することができる（平成 18 年度実績：延 3,341 名，平成 19 年度実績:延 2,388 名）。また，本学の収蔵品だけでなく，企画展のために国内外から借り受けた作品についても，休館日を利用して展示室内において作品の模写を実施するなど，展覧会事業を単に事業としてだけではなく，本学の教育研究に資するものとなるよう取組み，大学美術館の学習の場としての機能を充分に活用している。また，大学美術館（本館，陳列館又は取手館）で実施する展覧会のうち大きなウェイトを占めるものの一つが，学生の教育研究成果の発表である(計画１－７(【７】)の資料７－１(P. 25-28)の No. 3, 5, 15～17, 20, 36 参照)。特に「東京藝術大学大学院美術研究科博士審査展」は，博士学位の最終審査段階において，作品を一般に公開し，論文発表会と来場者との質疑応答を合わせて行うもので，ユニークな試みとなっている。

奏楽堂（演奏芸術センター）では，音楽学部・音楽研究科の公開試験や定期演奏会を行い，教育の成果を広く公開している(資料７－１(P. 25-28)の No. 59～81，資料７－２(P. 28-30)参照)。また，演奏芸術センター開設科目として，「音楽情報プレゼンテーション」「創造の今日と未来」「劇場技術論」「コンサート制作論」「ホール音響概論」等を設け，必要に応じて，奏楽堂の設備を使用したり，奏楽堂で開催される演奏会を実習の素材として取り扱うなど，様々な形で活用している。

附属図書館では，学生の自主的学習を支援するために貴重資料データベースの公開，美術系オンラインデータベースの利用講習会，書庫内ツアー等を開催している。また，館外への持ち

出しが困難な資料を用いて授業を行う際には，館内のグループ演習室を使用している（例:「イタリア語朗読法演習」，「音楽文芸特殊研究（４）」，「邦楽概論 B」など）。

b)「小項目１」の達成状況

（達成状況の判断）　目標の達成状況が非常に優れている

（判断理由）　芸術家，芸術関連分野の専門家育成のために，本学開学以来伝統的に行われてきた少人数教育の教育手法を堅持しつつ，指導に社会連携や国際交流を取り入れた活動をおこなう(計画１－４(【４】)の資料４－２(P. 12-15)，資料４－３(P. 16-22)参照)など，社会の変化や要請に応える取組を行っていること，大学美術館，奏楽堂（演奏芸術センター）という学生の教育成果発表の場を確保し，活用している(計画１－７(【７】)の資料７－１(P. 25-28)，資料７－２(P. 28-30)，資料７－３(P. 30-33)参照)ことから。

なお，本学の基本的目標に示されている「優れた芸術家，研究者，教育者の養成」，「国際的な拠点づくり」，「社会における芸術の必要性の発信」という理念に直接的に結びつく内容であるため，計画１－１，１－４及び１－７にウェイトを置いた。

○小項目２「修士課程において，芸術文化に関する高度専門職業人養成機能の拡充をめざすとともに，博士後期課程においては，教育研究の充実を図り，学位授与の促進を図る。」の分析

a)関連する中期計画の分析

計画２－１「【１０】現在の学部・大学院連絡協議会を廃し，新しく大学院改善委員会を設置し，大学院修士・博士後期課程についての組織編成，指導体制を点検の上，改善を図る。」に係る状況

平成 16 年度より，学部・大学院連絡協議会を廃し，大学院改善を担う組織として，教育推進室大学院部会を設置し，体制を整備した。

平成 16～19 年度においては，音楽学部音楽環境創造科（平成 14 年度新設）の学年進行に伴う，音楽研究科音楽学専攻の音楽文化学専攻への改組（平成 18 年 4 月），同専攻の千住キャンパスへの展開（平成 18 年 9 月）という組織編成，指導体制の見直し，改善を行った。

本学にとって新たな教育研究分野となる大学院映像研究科（平成 17 年 4 月設置）の整備に関しては，大学院映像研究科整備検討委員会を特に設けて組織編成や教育内容，指導体制などを検討し，メディア映像専攻（平成 18 年 4 月），博士後期課程映像メディア学専攻（平成 19 年 4 月），アニメーション専攻（平成 20 年 4 月）を順に整備を行った。

計画２－２「【１１】博士後期課程における学位授与学内制度等の見直しを行い，授与件数の増加を図る。」に係る状況

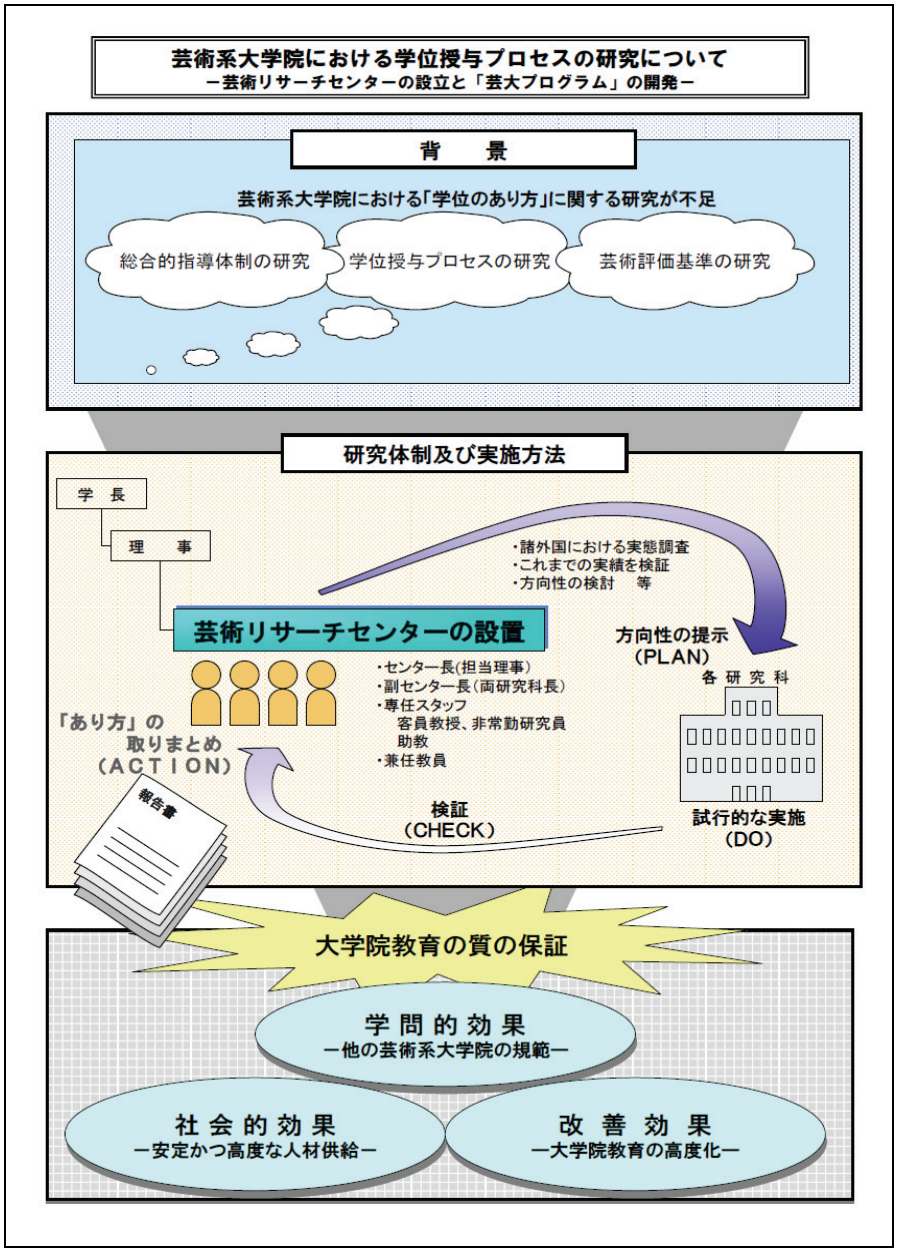
平成 16 年度より，博士号授与件数の増加に向け，研究科運営委員会において学位授与の在り方を検討（美術研究科），博士後期課程在学生への指導の強化(音楽研究科)等の取組を継続しており，博士の学位授与件数は，着実に増加してきている(資料１１－１:学位授与数　参照)。

本学大学院においては，実技を中心とした研究分野においては，研究論文と作品（演奏）の両方を用い，作品自体とその作品を客観的に位置づける研究能力をあわせて評価することで学位審査を行うというスキームを採用していることが特徴と言えるが，このスキームにより客観性を与え，(1)芸術分野における学位の在り方の研究，(2)作品審査の透明性の獲得，(3)研究論文と作品の一体審査，を実現するために教育改革事業として，「芸術系大学院における学位授与プロセスの研究－芸術系リサーチセンターの設立と「芸大プログラム」の開発－」を平成20年度から５ヶ年計画で行うこととしている。平成19年度には，このリサーチセンター構想の内容を先取りし，博士学位最終審査を公開で行う取組である「東京藝術大学大学院美術研究科博士審査展」を行った(資料１１－２：リサーチセンターイメージ図　参照)。

資料11－1:学位授与数

年度	美術研究科		音楽研究科		映像研究科	備考
	修士	博士	修士	博士	修士	
16	214	15	116	15		※美術研究科修士課程先端芸術表現専攻第1期生修了
17	205	27	118	15		
18	221	27	95	24	30	※映像研究科修士課程映画専攻第1期生修了
19	227	37	115	28	43	※映像研究科修士課程メディア映像専攻第1期生修了 ※音楽研究科修士課程音楽文化学専攻第1期生修了 ※美術研究科博士後期課程美術専攻先端芸術表現研究領域第1期生修了

資料１１－２　東京芸術大学芸術リサーチセンターイメージ図



b)「小項目２」の達成状況

（達成状況の判断） 目標の達成状況が良好である

（判断理由）　コンテンツ分野の人材育成を目的とした大学院映像研究科の整備を行い，社会の要請に応える人材教育を開始したこと，博士学位授与について他の芸術系大学の規範となるようなスキームの確立を目的とした取組を開始したことから。

②中項目１の達成状況

（達成状況の判断） 目標の達成状況が非常に優れている

（判断理由）

計画１－１（【１】）の資料１－１，１－２，１－３，１－４(P.3-10)のような教育課程や授業科目，あるいは特別講座等を設けていること，計画１－４（【４】）の資料４－２，４－３(P.12-22)のような国際交流活動，地域連携活動を取り入れていること，計画１－７（【７】）の資料７－１，７－２，７－３，７－４(P.25-33)のような学内外において数多くの教育成果の発表が行われていることは，本学の基本的目標を達成するために必要不可欠な取り組みが行われていること，新聞等にも在学生・卒業生の活動が取り上げられたり，数々のコンクール等で受賞したりするなど，客観的にも本学の学生の教育成果が高く評価されている(別添資料１，２参照)と言えることから，非常に優れているとした。

（なお，小項目１には，本学の基本的目標に示されている「優れた芸術家，研究者，教育者の養成」，「国際的な拠点づくり」，「社会における芸術の必要性の発信」という理念に直接的に結びつく内容である計画１－１，１－４及び１－７が含まれているため，ウェイトを置いた。）

③優れた点及び改善を要する点等

（優れた点）

・大学美術館，奏楽堂等の学内施設を活用し，活発な教育成果の発表をおこなっていること。
・国内外の著名な作家，演奏家等による特別講義等が充実していること。

（改善を要する点）

・学位授与式に合わせて行う進路状況調査について，回答率の向上の点で改善の余地がある。

（特色ある点）

・取手アートプロジェクト，上野タウンアートミュージアムなど，地域連携，社会貢献を取り入れた教育研究活動の取組

（２）中項目２「教育内容等に関する目標」の達成状況分析

①小項目の分析

○小項目１「１．各学部・各学科において明確なアドミッション・ポリシーを策定し，それに応じた学生受入れを実施する。」の分析

a)関連する中期計画の分析

計画１－１「【１２】芸術文化の伝統継承にふさわしい人材に加え，新たな芸術文化創造に資する多様な能力と可能性を持つ人材を確保するために，入試方法の改善を図る。」に係る状況

本学の入学者選抜においては，多くの学科・専攻で実技試験が課されていることが特徴であり，その内容も様々である。各学科・専攻では，それぞれの方針に拠って試験内容等の見直しを行っている。例えば，「ソルフェージュ科目の採点方法の変更」（平成 17 年度，音楽学部），「基礎能力検査内容の変更」（平成 18 年度，音楽学部），「従来では芸大受験を考えなかったような分野から志望してくる多彩な才能をもった受験生に門戸を開くため，1 次試験では実技か小論文の選択制，２次試験では提出資料と面接で総合的に受験生の資質を判断する視点を導入。」（平成 18 年度，美術学部先端芸術表現科）などの改善が行われた。

美術学部においては，平成 16 年度から継続して入試日程の変更について検討を行い，平成 22 年度入学者選抜より，従来の後期日程から前期日程へ移行することになった。これにより，美術・音楽の両学部ともに前期日程に集中することで，効率的で円滑な選抜業務の運営を図るとともに，優秀な人材の確保を図ることとした。

計画１－２「【１３】明確なアドミッション・ポリシーを策定し，大学案内，募集要項などにおいて具体的な教育方針，教育内容を公開する。」に係る状況

アドミッション・ポリシーは，各学部・研究科においてそれぞれ明確化し，本学公式 Web サイトに掲載している(資料１３－１:アドミッション・ポリシー掲載例　参照)。

また，受験生が，事前に本学を理解することに資するため，大学案内や公式 Web サイトでの各学科・専攻の教育内容や特徴等の紹介，学科・専攻が独自に設置した HP での，教育内容，

施設・設備，教員，過去の入試問題，過去の卒業・修士論文等のテーマ等の公開，独自のパンフレット・冊子の発行などそれぞれの特徴を伝える取り組みを行っている。

映像研究科では，毎年入試説明会を開催し，入試概要説明，教育内容紹介を行っている。また，音楽文化学専攻，楽理科，音楽環境創造科では，平成 18 年度にはじめてのオープン・キャンパスを行い，200 名以上の参加者があり，当日の質疑応答内容を HP にも掲載し，受験生への周知を図るなどの取組を行っている。

さらに，中項目１の計画１－７（【７】）(P.25-33)に記載したような数々の展覧会や演奏会等が，受験生等に本学の教育内容等を周知する機能も果たしている。

資料１３－１:アドミッション・ポリシー掲載例　（本学公式 Web サイトより）
(例: http://www.geidai.ac.jp/enter/policy/index.html→美術学部・美術研究科)

b)「小項目１」の達成状況

(達成状況の判断) 目標の達成状況が良好である

(判断理由)　従来，本学では，受験生に配布している大学案内において，各学科・専攻ごとに教育内容や方針，人材養成像等を紹介してきたが，明確な「アドミッションポリシー」は策定されていなかった。しかしながら，本学で養成する人材像は基本的目標にあるとおり，「優れた芸術家，研究者，教育者」，つまり「芸術諸分野の専門家」である。よって，入学者選抜にあたっては，それぞれの専門分野に対して主体的(自立的)に学ぶ意欲を持ち，それぞれの分野で創造力を発揮でき得る人材を求めていることは，言わずもがなという部分があった。そうしたいわば「アドミッション・ポリシー」に従って，これまで入学者選抜をおこなってきていた。これまで対外的に見えにくかったという点を改善するため，改めてアドミッション・ポリシーとして明確化・明文化して公表した。(平成 19 年度)他の国立大学に比べて公表が遅かったという点はあるものの，アドミッションポリシーに応じた学生の受け入れは行われているため，良好とした。

○小項目２「２．実技教育による伝統継承と新しい芸術の創造という本学の目標をより高度に実現するため，弾力性に富んだ教育課程の再編成を行う。」の分析

a)関連する中期計画の分析

計画２－１「【１４】各科毎の必修科目，選択科目，教養科目，専門科目などのバランスを再検討するとともに，多様性に富むカリキュラムの充実を図る。」に係る状況

中項目１の計画１－５（【５】）(P.22-23)を参照願う。

計画２－２ウェイト「【１５】地域社会や学外機関と連携し，フィールドワークや調査研究，演奏やワークショップ等実践的な授業を教育課程に取り入れる。」に係る状況

中項目１の計画１－４(【４】)並びに資料４－３(P.15-21)に記載のとおり，本学の所在する台東区，取手市，横浜市，足立区やその他の各地域とそれぞれ連携して，様々なワークショップやフィールドワークを行っている。これらの活動の多くは，実技科目の課題或いは演習科目の授業内容の一部分として取り入れられたものであり，学生が創作者，演奏者あるいは教育者としての実践を積む場となっている。また，美術研究科修士課程デザイン専攻１年次の必修科目「デザイン・プロジェクト」は，自治体や企業と連携を図りながらデザイン開発を行うものとして「社会連携によるデザイン開発」を授業テーマとして平成 18 年度から新たに開設された授業科目である(中項目１の計画１－４(【４】)の資料４－３の No.11(P.19)参照）。

計画２－３「【１６】学科・学部・研究科での交流プログラムを実施し，交流講座を増設する。に係る状況

教養科目，外国語科目，専門基礎科目においては，学部を問わず受講が出来る「交流科目」を設けて幅広い選択が出来るように配慮している(具体例は，中項目１の計画１－１の資料１－２(P.5)に両学部共通として記載されている科目)。特に美術学部先端芸術表現科と音楽学部また，一部の科目においては，学部生，大学院生を問わず受講を可能にしており，縦横の交流・連携がはかれるようになっている。

また，取手校地の「アートパス」，「取手アートプロジェクト」，奏楽堂における演奏プロジェクト（作曲家シリーズ，“うた”シリーズ，「和楽の美」等）などは，各学科・専攻間の垣根を越えた交流プログラムとして機能している。例えば，平成 19 年度の「和楽の美」においては，邦楽の各領域を中心に，音楽学部・研究科の各科・専攻が共同して一つの舞台作品の制作にあたり，さらに舞台美術・映像等は，美術学部・美術研究科の協力を得て行っている。

さらに，映像研究科映画専攻で授業で制作する映画作品の音楽制作を，音楽学部音楽環境創造科の課題とするなど，相互の課題を連携させた交流も行っている。

計画２－４「【１７】大学美術館・演奏芸術センター・芸術情報センターの授業開設などによる実践的な教育参加を推進する。」に係る状況

大学美術館では，「生涯学習論」，「博物館学Ⅰ～Ⅲ」，「視聴覚教育メディア論」の博物館学課程の５科目を開設して担当している。その他に美術学部専門基礎科目である「工芸理論」，「現代芸術論Ⅱ」，「日本金工史」も大学美術館教員が担当している(大学美術館での授業に関しては，中項目１の計画１－６（【６】）の②(P.24)及び計画１－９（【９】）(P.36)も参照願う)。

演奏芸術センターでは，「音楽情報プレゼンテーション」，「創造の今日と未来」，「劇場技術論」，「劇場芸術論」，「コンサート制作論」，「AV メディア」，「サウンドレコーディング基礎演習」，「ホール音響概論」の８科目を開設している。特に「コンサート制作論」では，奏楽堂で行う演奏芸術センター企画演奏会を教材として，コンサートの企画・運営を学び，打ち合わせから本番までのコンサートの流れを実習して，コンサート制作の実践的教育を行っている。また，録音・録画・編集を学ぶ「AV メディア」においては，奏楽堂で行う定期演奏会を録音の実習の機会として活用している(演奏芸術センターでの授業に関しては，中項目１の計画１－９（【９】）(P.36)も参照願う)。

芸術情報センターでは，情報処理教育に関する科目を担当している。平成 18 年にはそれまでの授業内容を見直して，平成 19 年度から科目を細分化・再編成し，「芸術情報概論」，「芸術情報特論」，「CAD 図法演習」，「コンピューター基礎演習」，「Web デザイン演習」，「同初級」，「DTP デザイン演習」，「同初級」，「Web モーショングラフィックス演習」，「３D グラフィックス演習」，「実写映像演習」，「スタジオサウンド演習」「芸術情報演習（デザ

イン）」，「サウンドプログラミング演習」，「グラフィックスプログラミング演習」，「コンピュータプログラミング演習」とし，教育内容の質の向上を図った。また，美術学部デザイン科２年次必修科目の「芸術情報演習（デザイン）」について，18 年度までは受講者 45 名に対して講師 1 人で対応だったが，19 年度からは講師 2 名体制を取り，きめ細かな指導を実施した。

b)「小項目２」の達成状況

（達成状況の判断）　目標の達成状況が良好である

（判断理由）　教育課程表上は，顕著な変更等は行っていないが，従前よりある授業科目の内容や，実技科目の課題等を弾力的に見直して，カリキュラムの事実上の変更を行っている。また，「社会における芸術の必要性の発信」を行うとともに，「優れた芸術家，研究者，教育者の養成」のための実践的な経験の場として，地域連携を取り入れた教育指導と，成果の発表が数多く行われていることから。

○小項目３「３．個々の学生の特性と志向を明確に把握し，その個性に応じた教育環境を整え，専門教育の深化と充実を図る。」の分析

a)関連する中期計画の分析

計画３－１「【１８】実技教育の特殊性を踏まえ，アトリエ・スタジオ・レッスン室・アンサンブル室など，一層の効果的な活用を図る。」に係る状況

本学は，実技教育を中心とした大学であり，学生には，課題作品の制作や演奏練習といった学生の自学自習の場として，アトリエ・スタジオ・レッスン室・アンサンブル室等の授業時間外の使用を認めて，学生が講義科目を履修していない空き時間や授業時間外もそれぞれに制作や練習等を行える環境を確保している。

それぞれの場所により対応は異なるが，時間外の使用時には，教員，事務担当者等の融通を利かした対応により，指導や機材の管理，施錠等を行うなど，学生ニーズに対し可能な限り対応している。

下記には，自宅で練習を行うことが難しいオルガン専攻の学生の奏楽堂(パイプオルガンを設置)での練習時間の確保について，資料１８－1:奏楽堂の使用状況として例を挙げる。(※学生が時間外に制作や練習等のために使用することが可能であるアトリエやレッスン室の概要については，資料１８－２のとおり)

また，芸術情報センターのコンピュータアトリエの開室時間の延長(平成 18 年度より，2 時間延長)，美術学部附属写真センターの休業期間中の平日開室(平成 19 年度より)なども新たに措置した。

資料18－1　奏楽堂の使用状況

例:平成19年11月分

※黄色は授業又は学生の自主練習に使用。ピンクは，定期演奏会や学内演奏会に使用。

日	曜日	9時　　13時		17時	21時
1	木	オルガン練習		ハイドンシリーズ第1日　G･P	ハイドンシリーズ第1日
2	金	第19回　附属高校　定期演奏会			
3	土	整備点検等		ハイドンシリーズ第2日　G･P	ハイドンシリーズ第2日
4	日	オルガン練習		オルガン練習	オルガン練習
5	月	ピアノ調律(18-1)		オルガン授業	オルガン練習
6	火	学内演奏会(作曲)G･P		学内演奏会(作曲)	オルガン練習
7	水	オルガン練習		オルガン授業	オルガン練習
8	木	学内演奏会(作曲)G･P		オルガン練習	オルガン調律
9	金	オルガン授業　～12:30 まで	拾調律	学内演奏会(作曲)G･P	オルガン練習
10	土	整備点検等			
11	日	整備点検等			

12	月	モーニングコンサート・リハーサル		オルガン授業			オルガン練習	
13	火	オルガン授業		オルガン練習			オルガン練習	
14	水	モーニングコンサート・リハーサル（2回目）　＊		オルガン授業			ピアノ調律（18-1）	
15	木	モーニングコンサート		オルガン練習			オルガン練習	
16	金	学生オーケストラ授業		オルガンシリーズ　リハーサル			オルガン練習	
17	土	上野の森のオルガンシリーズ8 「ブクステフーデ没後300年記念」					合唱定期用ベンチ／セット設営作業	
18	日	整備点検等						
19	月	オケ定期第326回　合唱付き練習		オケ定期第 326 回　合唱付き練習			オルガン練習	
20	火	オルガン授業		自主点検／下手袖カメラ関係修繕 ＋　新P搬入（14:00-16:30）			オルガン練習	
21	水	オケ定期第326回　合唱付き練習		オケ定期第326回 合唱付き練習	転換	オルガン授業	オルガン練習	
22	木	【開始】8：20～　オルガン練習		オルガン練習			オルガン調律	
23	金	藝大定期第326回　藝大フィルハーモニア・合唱定期（ 12:30～G・P　17:00～開演）						
24	土	シンポジウム　仕込み／リハーサル					オルガン練習	
25	日	創立120周年記念事業　シンポジウム「芸術と教育」						ピアノ調律（17-2）
26	月	モーニングコンサート・リハーサル		修士リサイタル（オルガン）　15：00～18：00				ピアノ調律（18-1）
27	火	学生オーケストラ授業		弦楽シリーズ 「ドレスデン・シュターツカペレのメンバーと共に」				
28	水	モーニングコンサート・リハーサル		第73回　定期吹奏楽G・P			第73回　定期吹奏楽	
29	木	拾調律	モーニングコンサート	サウンド・レコーディング演習	転換	オルガン練習	オルガン練習	
30	金	オルガン調律		転換	第 327 回学生オケ定期G・P		第 327 回　学生オケ定期	

資料18－2　施設の概要

①　美術学部・美術研究科
（アトリエ，実習室，工房等）

校地	学部生用		大学院生用		共用	
	室数	面積（㎡）	室数	室数	室数	室数
上野	43	3,686	66	3,464	106	106
取手	10	1,548	13	1,407	52	52

②　音楽学部・音楽研究科
（レッスン室，練習室等）

種類	室数	面積（㎡）
レッスン室	107	3,548
練習室	128	2,549
合奏室	10	710
院生室，ゼミ室等	29	1,058
ホール	7	1,879
奏楽堂	1	6,540

※①～③に講義室・演習室や教員室は含まない。

③ 映像研究科(スタジオ等)

種類	室数	面積（㎡）
視聴覚室	2	188
HD編集室	1	25
AVID 編集室	2	24
編集室	4	16
編集ブース	1	51
MA 室	2	63
製作室	1	15
撮影スタジオ	2	900
工作室	1	72
写真スタジオ	1	60
音響スタジオ	1	48
ﾌﾞﾙｰﾊﾞｯｸｽﾀｼﾞｵ	1	60
VR スタジオ	1	48
ゼミ室	4	192

計画３－２「【１９】様々なメディア，アーカイヴ，ネットワーク等を活用した具体的で，実験的な授業の充実を図る。」に係る状況

美術学部では，日本画専攻以外の各科において，「映像メディア表現」に関する内容が，実技科目の指導内容の一部或いは必修となっており，様々なメディアについての基礎を修得するカリキュラムとなっている。また，芸術情報センターでは，コンピュータ，映像メディアを使用した表現を行うための基本的な芸術情報処理の技術を学ぶための授業科目を開設(計画２－４（【１７】）(P. 41)参照)するとともに，授業時間以外の一般開室時間には，学生が自主的な創作活動を行うための場としても，使用されている。

さらに特に美術学部デザイン，建築，先端芸術表現の各科，音楽学部音楽環境創造科，映像研究科メディア映像の各科・専攻では，様々なメディア，デジタル技術を使用した授業が数多く行われている。

資料１９－１：メディア，デジタル技術に関する授業科目例

計画３－３「【２０】シラバスの記載方法，内容を充実させる。」に係る状況

本学のシラバスは，美術学部（含，美術研究科），音楽学部（含，音楽研究科），映像研究科に分けて作成している。

現在の記載項目は，授業科目名，担当教員名，単位数，時間割，授業テーマ，授業計画・内容，受講にあたっての注意点，成績評価基準，教科書・参考書，備考(オフィス・アワー)となっている。各学部等では，特に授業計画・内容の記載内容の充実やオフィス・アワーの掲載について，教務委員会或いは教授会において各教員に周知徹底を図って，全体的な内容の充実を図った。

また，音楽学部では，従来から実技関係科目（個人レッスン等）については，その特徴的な性格に鑑みシラバスに載せてこなかったが，音楽学部授業の全容を示すために平成１７年度より，全ての授業科目を記載することとし，あわせてこれまでの科目区分ごとに配列した授業科目の目次のほかに 50 音順の索引を作成して，学生が使いやすいように配慮した。

b)「小項目３」の達成状況

(達成状況の判断)　目標の達成状況が良好である

(判断理由)　中項目１の計画１－２（【２】）(P. 10-11)に記載のとおり，本学の専門教育においては，１対多数ではなく，少人数指導または１対１のマンツーマンによる方法が，確立されている。

こうした授業方法を採っていることから，専門実技（又は制作）に関する授業においては，常に教員と学生の間での双方向のやりとりが行われ，個々の学生の特性と志向を明確に把握することができる。これにより，個別的にあるいは適時的に指導方法を見直しつつ，進められていることが，本学の大きな特徴であり利点であると言える。

また，本学では，実技教育を中心としていることから計画３－１(【１８】)の資料１８－１，１８－２(P. 42-43)に示した通り，学生が時間外に制作あるいは練習できる環境を整えて，その使用にあたっては，例えば美術学部・研究科では，教員(専任教員及び教育研究助手)が輪番制で残って，指導や機材の管理，施錠等を行うなど，学生ニーズに対し可能な限り対応してい

ることから，目標の達成が良好であるとした。

○小項目４「４．成績評価について信頼性，客観性を高める。」の分析

a)関連する中期計画の分析

計画４－１「【２１】評価基準の明確化，成績分布データ作成など，成績評価制度の整備・充実を図る。」に係る状況

各科目の成績評価基準については，シラバス又は第１回目の授業時に，授業のテーマ(目的)及び授業計画や内容，成績評価方法(試験実施するのか，レポート提出かなど)をあらかじめ学生に周知している。

また，原則として実技科目の成績は，担当教員だけでなく当該科或いは専攻の複数の教員の合議によって決定される。美術学部・美術研究科や映像研究科の場合は，講評会やプレゼンテーションを行い，その際に教員同士或いは教員・学生間のディスカッションを行ったうえで，教員間の合議によって成績評価をしている。この講評会等には，外部の専門家の参加を仰ぐ場合もある。音楽学部・音楽研究科では，試験演奏を行って複数の教員が採点し，採点結果の分布データを作成するなどした上で，教員の合議によって成績評価をしている。試験演奏は原則的に学内公開され，そのうち多くは学外にも公開されている(資料７ － ２(P.28-30)参照)。これらの取り組みによって成績評価の信頼性や客観性の確保を図っている。

b)「小項目４」の達成状況

(達成状況の判断)　目標の達成状況が良好である

(判断理由)　本学の教育の中心となる実技科目について，複数教員による合議制，講評会等への外部の専門家の参加や公開試験といった取り組みによって，信頼性や客観性を高めていることから。

②中項目２の達成状況

(達成状況の判断)　目標の達成状況が良好である

(判断理由)　中項目１の計画１－１(【１】)の資料１－１，１－２，１－３，１－４(P.3-10)のような教育課程や授業科目，あるいは特別講座等を設けていること，中項目１の計画１－４(【４】)の資料４－２(P.12-15)，資料４－３(P.16-22)のような国際交流活動，地域連携活動や中項目１の計画１－７(【７】)の資料７－１，７－２，７－３，７－４(P.25-33)のような学内外での教育成果の発表を学生の教育指導に取り入れており，本学の基本的目標を達成するために必要不可欠な取り組みとなっている。

③優れた点及び改善を要する点等

(優れた点)

・学生には，アトリエ・スタジオ・レッスン室・アンサンブル室等の授業時間外の使用を認めて，課題作品の制作や演奏練習といった自学自習の環境を確保している(資料１８－１，１８－２(P.42-43)参照)。

(改善を要する点)

・特になし

(特色ある点)

・特になし

(３)中項目３「教育の実施体制等に関する目標」の達成状況分析

①小項目の分析

○小項目１「１．本学の目標である伝統継承並びに新しい芸術の創造それぞれの，教育課程・授業科目の特性に即した教員を配置する。」の分析

a)関連する中期計画の分析

計画１－１「【２２】各部局，学科が目的，特性，授業形態等を再検討の上，教育課程・授業科目の見直しを行い，それに即した教員配置を行う。」に係る状況

本学の専任教員の配置状況(平成 19 年 5 月 1 日現在)については，資料 A2-2007 入力データ

集:2-1 専任教員を,兼務教員については資料 A2-2007 入力データ集:2-9 兼務教員を参照願う。

兼務教員を多数配置しているのは,本学の特徴である個人指導や少人数グループ指導という授業形態のためである。例えば音楽学部では，専門実技並びに副科実技において個人レッスンを行う。また，アンサンブルなどにおいては少人数のグループ指導となり，１つの科目で複数の教員が指導にあたったり，教員とともに指導補助をおこなう者(伴奏等)が必要となるため，である。

また，授業の準備(モチーフや使用する教材等の用意や管理)に係る負担は，座学で行う講義に比して大きく，そのため，本学で行う教育研究を円滑に行えるよう，教育研究助手制度を整備して，専任教員と協同して学科等の運営や実技指導の補助にあたる者を配置している(資料２２－１：教育研究助手の人数 参照）。

大学院映像研究科の整備にあたっては，研究科設置時（平成 17 年 4 月）に８名新たな教員を配置，メディア映像専攻設置時（平成 18 年 4 月）には，新規２名の配置の他に美術研究科修士課程先端芸術表現専攻との間で教員配置を見直し，２教員を美術から映像研究科に配置換えし，博士後期課程設置時（平成 19 年 4 月）には，新たに映画理論等に関する教員 1 名を配置，アニメーション専攻設置時（平成 20 年 4 月）にもアニメーションやプロデュースに関する教員 3 名を新たに配置した。

資料２２－１　教育研究助手の人数(平成 19 年 10 月 1 日)

学部・研究科	人数
美術学部・美術研究科	113
音楽学部・音楽研究科	70
映像研究科	1

資料２２－２　教員一覧　（「大学案内 2008」より：平成 19 年 10 月現在）

美術学部･美術研究科

■絵画･日本画		
日本画	齋藤　典彦	准教授
	植田　一穂	准教授
	関　出	教授
	梅原　幸雄	教授
	手塚　雄二	教授
	吉村　誠司	准教授
	海老　洋	助教
■絵画･油画		
油画	絹谷　幸二	教授
	小山　穂太郎	准教授
	坂口　寛敏	教授
	齋藤　芽生	講師
	保科　豊巳	教授
	坂田　哲也	教授
	櫃田　伸也	教授
版画	東谷　武美	教授
	三井田　盛一郎	講師
壁画	中村　政人	准教授
	工藤　晴也	准教授
油画技法･材料	佐藤　一郎	教授
	大西　博	准教授
	佐々木浩一	助教
■彫刻		
彫刻	山本　正道	教授
	林　武史	准教授
	木戸　修	教授
	原　真一	准教授
	米林　雄一	教授
	深井　隆	教授
	北郷　悟	教授
	小俣　英彦	助教

音楽学部･大学院音楽研究科

■作曲		
	野田　暉行	教授
	尾高　惇忠	教授
	浦田　健次郎	教授
	川井　學	教授
	小鍛冶　邦隆	准教授
■声楽		
	伊原　直子	教授
	川上　茂	准教授
	朝倉　蒼生	教授
	佐々木　典子	准教授
	福島　明也	准教授
	多田羅　迪夫	教授
	寺谷　千枝子	教授
	永井　和子	教授
	直野　資	教授
	吉田　浩之	准教授
	林　康子	招聘教授
	市原　太郎	客員教授
	直井　研二	助教
■器楽		
ピアノ	植田　克己	教授
	青柳　晋	准教授
	角野　裕	教授
	伊藤　恵	准教授
	北川　暁子	教授
	東　誠三	准教授
	渡邊　健二	教授
	迫　昭嘉	教授
	粕谷　美智子	教授
	有森　博	准教授

■工芸		
彫金	飯野　一朗	教授
	前田　宏智	准教授
鍛金	篠原　行雄	准教授
	丸山　智巳	准教授
鋳金	橋本　明夫	教授
	赤沼　潔	准教授
漆芸	増村　紀一郎	教授
	三田村　有純	教授
陶芸	島田　文雄	教授
	豊福　誠	教授
染織	山下　了是	教授
	菅野　健一	准教授
木工芸	田中　一幸	教授
ガラス造形	藤原　信幸	講師
工芸基礎	山本　浩二	助教
	荒川　朋子	助教
■デザイン		
空間・演出	池田　政治	教授
描画・装飾	中島　千波	教授
視覚・演出	河北　秀也	教授
機能・演出	尾登　誠一	教授
映像・画像	箕浦　昇一	教授
視覚・構成	蓮見　智幸	教授
環境・設計	清水　泰博	准教授
機能・設計	長濱　雅彦	准教授
視覚・伝達	松下　計	准教授
空間・設計	橋本　和幸	准教授
	齋藤　篤	助教
	島名　毅	助教
■建築		
建築設計	黒川　哲郎	教授
	益子　義弘	教授
	六角　鬼丈	教授
環境設計	北川原　温	教授
	片山　和俊	教授
構造計画	金田　充弘	准教授
建築理論	光井　渉	准教授
	野口　昌夫	准教授
	柳澤　智洋	助教
■先端芸術表現		
先端芸術表現	伊藤　俊治	教授
	木幡　和枝	教授
	たほ　りつこ	教授
	渡辺　好明	教授
	高山　登	教授
	佐藤　時啓	准教授
	長谷部　浩	准教授
	日比野　克彦	教授
	古川　聖	准教授
	鈴木　理策	准教授
	小谷　元彦	准教授
	宮田　雅子	助教
■芸術学		
美学	松尾　大	教授
	井村　彰	准教授
日本・東洋美術史	竹内　順一	教授
	田口　榮一	教授
	佐藤　道信	准教授
	松田　誠一郎	准教授
西洋美術史（兼工芸史）	越　宏一	教授

	ﾀｯｷｰﾉ, ｶﾞﾌﾞﾘｴﾙ	外国人教師
オルガン	廣江　理枝	准教授
ヴァイオリン	清水　高師	教授
	浦川　宜也	教授
	澤　和樹	教授
	漆原　朝子	准教授
	玉井　菜採	准教授
	ﾌﾟｰﾚ, ｼﾞｪﾗｰﾙ	招聘教授
ヴィオラ	川崎　和憲	准教授
チェロ	河野　文昭	教授
	山崎　伸子	准教授
コントラバス	永島　義男	教授
クラリネット	山本　正治	准教授
フルート	金　昌国	教授
オーボエ	小畑　善昭	教授
ｻｷｿﾌｫｰﾝ	冨岡　和男	客員教授
ファゴット	岡崎　耕治	客員教授
ホルン	守山　光三	教授
トランペット	杉木　峯夫	教授
トロンボーン	秋山　鴻一	招聘教授
打楽器	藤本　隆文	准教授
室内楽	岡山　潔	教授
	稲川　榮一	教授
	松原　勝也	准教授
古楽	鈴木　雅明	教授
	野々下　由香里	准教授
■指揮		
	小林　研一郎	教授
	尾高　忠明	客員教授
■邦楽		
長唄三味線	藤原　睦子	教授
長唄	浅見　文子	准教授
箏曲（生田流）	安藤　政輝	教授
箏曲（山田流）	萩岡　松韻	教授
能楽（観世流）	関根　知孝	准教授
能楽（宝生流）	武田　孝史	教授
邦楽囃子	三浦　正義	教授
日本舞踊	大橋　萬壽子	准教授
■音楽文化学		
音楽学	舩山　隆	教授
	土田　英三郎	教授
	片山　千佳子	教授
	大角　欣矢	准教授
	塚原　康子	准教授
	植村　幸生	准教授
音楽教育	佐野　靖	教授
	山下　薫子	准教授
ソルフェージュ	ﾃｼｭﾈ,ﾛｰﾗﾝ	准教授
	林　達也	准教授
応用音楽学	根木　昭	教授
	枝川　明敬	教授
	畑　瞬一郎	教授
	松原　千代繁	客員教授
音楽文芸	成田　英明	教授
	中嶋　敬彦	教授
	檜山　哲彦	教授
	杉本　和寛	准教授
音楽環境創造	西岡　龍彦	教授
	熊倉　純子	准教授
	亀川　徹	准教授
	市村　作知雄	准教授

西洋美術史	越川　倫明	准教授
	田邊　幹之助	准教授
	北野　良枝	助教
美術教育	本郷　寛	教授
	木津　文哉	准教授
	小松　佳代子	准教授
	舘山　拓人	助教
美術解剖学	布施　英利	准教授
	宮永　美知代	助教
■保健体育		
体育	高橋　亨	教授
	檜皮　貴子	助教
■古美術研究施設		
	須賀　みほ	助教
■写真センター		
	椎木　康彦	助教
■文化財保存学		
保存修復	田渕　俊夫	教授
	宮廻　正明	教授
	木島　隆康	教授
	籔内　佐斗司	教授
	辻　賢三	准教授
	上野　勝久	教授
保存科学	稲葉　政満	教授
	北田　正弘	教授
	桐野　文良	准教授
ｼｽﾃﾑ保存学(連携)	三浦　定俊	教授
	石崎　武志	教授
	木川　りか	准教授
	川野邊　渉	教授
	中山　俊介	教授
	早川　泰弘	准教授
	劉　ヨンゴ	助教
	星　恵理子	助教
大学美術館		
学芸企画	薩摩　雅登	教授
	古田　亮	准教授
美術情報	新関　公子	教授
	横溝　廣子	准教授
	熊澤　弘	助教
	島津　京	助教
	毛利　嘉孝	准教授
	丸井　淳史	講師
音楽研究ｾﾝﾀｰ	関根　和江	助教
大学院映像研究科		
■映画		
監督	北野　武	特別教授
	黒沢　清	教授
脚本	筒井　ともみ	准教授
製作	堀越　謙三	教授
撮影証明	栗田　豊通	教授
美術	磯見　俊裕	准教授
録音	堀内　戦治	准教授
編集	筒井　武文	准教授
■メディア映像		
ﾒﾃﾞｨｱﾃﾞｻﾞｲﾝ	佐藤　雅彦	教授
ﾒﾃﾞｨｱｱｰﾄ	藤幡　正樹	教授
ｺﾝﾃﾝﾂｳｪｱ開発	桐山　孝司	准教授
ﾒﾃﾞｨｱ文化財	桂　英史	准教授
	木村　稔	助教
■映像メディア学		
映画史・映画理論	出口　丈人	教授
言語・音声トレーニングセンター		
独語	ｼｭﾀｲﾝ,ﾐﾋｬｴﾙ	外国人教師
仏語	コラ，アラン	外国人教師
伊語	ｷﾞｯﾂｫｰﾆ,ﾙﾁｱｰﾅ	外国人教師
英語	磯部　美和	助教
	大津　陽子	助手
演奏芸術センター		
	松下　功	教授
	大石　泰	准教授
	海藤　春樹	客員教授
	西川　信廣	客員教授
	瀧井　敬子	客員教授
	岩崎　真	助教
芸術情報センター		
	松村　誠一郎	助教
保健管理センター		
	須甲　松信	教授
	小野　博行	准教授

b)「小項目１」の達成状況

（達成状況の判断）　目標の達成状況が良好である

（判断理由）　本学の特徴である実技教育を充実させるために，専任教員をはじめとする教員を適切に配置していることから。

○小項目２「２．学生の自主性，創造性を引き出す教育環境を整備する。」の分析

a)関連する中期計画の分析

計画２－１「【２３】学生の意欲的な活動に対して学内規則の見直しなどを含めた柔軟な対応を図る。」に係る状況

本学では，中項目１の計画３－１（【１８】）及び資料１８－１(P. 42-43)に記載のとおり，アトリエや練習室等での制作や練習の環境を整え，かつ，その時間外使用に柔軟に対応して，

学生の主体的な学習を支援している。また，専門分野に関する器具や設備(例：楽器など＝資料２３－１:所蔵楽器数 参照)を整え，その貸出等(資料２３－１の例の楽器の場合，鍵盤楽器等の貸し出しに適さない楽器を除く大部分の楽器種について，貸出用の楽器を用意。)を行っている。

音楽学部では，音楽学部規則を見直し，学外演奏の届出の規定を廃止し，学生が学外において自主的な演奏活動を自由に行えるように柔軟性を高めた。(平成 17 年 7 月より)

また，本学の外国人留学生の地域との交流や教育研究の成果の発表を支援するため，平成 18 年 12 月に東京芸術大学外国人留学生地域交流要項を制定し，学生支援室（留学生部会）が窓口となって支援を行っていく体制を整えた。

資料23－1　所蔵楽器数

(「大学概要」より:H19.5.1 現在)

種類	数量	種類	数量
鍵盤楽器	395	金管楽器	220
弦楽器	188	打楽器	675
木管楽器	331	邦楽器	673
古楽器	26	民族楽器	326
計			2,834

計画２－２「【２４】優秀な学生を顕彰するとともに，作品等を公開する場を確保する。」に係る状況

本学では，学業優秀者を顕彰するために，安宅賞を始めとする各賞を設けている。また，優秀な成績を得て卒業・修了する者に対して，買上作品，サロン・ド・プランタン賞，芸大デザイン賞，アカンサス音楽賞を授与等している。その他，大学の所在する台東区から台東区長賞など，優秀な学生が表彰されている(資料２４－１：顕彰制度等一覧　参照。なお，平成 19 年度の顕彰学生数は延べ 202 名)。

これらの顕彰の受賞は，学生の学習意欲の向上に資するものであると同時に，国内外で活躍する卒業生が，芸術家，作家，演奏家としてのプロフィールの一事項として記載していることから，学生の芸術家，作家，演奏家としてのキャリア形成に充分な価値を持つものとして，広く認識されていると言うことができる。

作品等の公開については，中項目１の計画１－７(【７】)及び資料７－１，７－２，７－３(P.25-33)に実施例を記載しているので，参照願う。これらは，卒業・修了作品の展示発表(資料７－１の No.3,4,5,50,81,82 など)，顕彰受賞に係るもの(同　No.45,51,55 など)，課題制作の発表や定期演奏会などさまざまな内容となっている。

なかでも，藝大アートプラザ大賞入賞作品展（平成 18 年度からはじめた学生の制作活動の一端を学外に発信することを目的とする全学生を対象とした作品コンペを実施。受賞者及び入選者の作品展示と販売を行う。)，奏楽堂企画学内募集（平成 17 年度からはじめた演奏会企画コンペと最優秀企画の奏楽堂での上演）の２つは，顕彰制度と同様の学生のキャリア形成の一端を担うことが期待できる新たな取り組みとして特筆できる。

資料２４－１　顕彰制度等一覧

No	奨学金等名	学部・研究科	対象学科・専攻
1	安宅賞	美術・音楽	全学科・専攻
2	平山郁夫奨学金	美術	全学科・専攻
3	O氏記念賞	美術	油画
4	俵奨学金	美術	油画(版画)
5	久米桂一郎奨学基金	美術	油画，彫刻
6	内藤春治奨学基金	美術	工芸(鋳金)
7	原田賞奨学基金	美術	工芸
8	伊藤廣利奨学金	美術	工芸，美術教育
9	藤野奨学金	美術	工芸(鍛金)，美術教育
10	吉田五十八奨学基金	美術	建築

11	野村賞	美術	全学科・専攻(※博士課程のみ)
12	上野芸友会賞	美術	油画
13	菅原安男奨学基金	美術	彫刻
14	セプテーニ奨学基金	美術	油画(版画)
15	陶杜会奨学金	美術	工芸(陶芸)
16	お仏壇のはせがわ賞	美術	文化財保存学(保存修復)
17	長谷川良夫奨学基金	音楽	作曲
18	松田トシ賞	音楽	声楽
19	クロイツァー記念音楽賞	音楽	器楽(ピアノ)
20	浄観賞	音楽	邦楽
21	宮城賞	音楽	邦楽
22	常英賞	音楽	邦楽
23	アドリアネ・ムジカ賞	音楽	器楽(ピアノ)
24	卒業・修了作品買上	美術	全学科・専攻
		音楽	作曲
		映像	メディア映像
25	サロン・ド・プランタン賞	美術	全学科・専攻
26	芸大デザイン賞	美術	デザイン
27	吉田五十八修了制作賞	美術	建築
28	吉村順三卒業制作賞	美術	建築
29	アカンサス音楽賞	音楽	全学科・専攻

(参考)

外部団体が卒業・修了制作等に対して直接に授与等するもの

1	台東区長賞(台東区)	美術
2	取手市長賞(取手市)	美術
3	荒川区長賞(荒川区)	美術
4	横浜市長賞(横浜市)	映像
5	杜賞(杜の会=同窓会)	美術
6	同声会賞(同声会＝同窓会)	音楽
7	上野恩賜公園「芸術の散歩道」東京都知事賞(東京都)	美術

計画２－３「【２５】学生の学外での研究創造活動を積極的に支援する体制をつくる。」に係る状況

学生が学内外で作品や演奏を発表することは，大学の教育研究成果の公開という意味だけではなく，芸術文化の社会への普及又は芸術家を目指す学生にとって今後の活躍の場を広げるためのきっかけづくりの場という意味もあり，大学としても積極的に推進している。

学内においては，奏楽堂，各ホール，大学美術館(陳列館，正木記念館，取手館を含む)，美術学部・研究科の各棟に設けられた展示スペース等を使用した展示，演奏が数多く行われており，特に奏楽堂で実施する定期演奏会，公開試験や大学美術館等で行う卒業・修了作品展，取手校地や千住校地で行うアートパスなどは，教育課程とも関係した大規模な発表の場であり，毎年実施されている(中項目１の計画１－７(【７】)の資料７－１，７－２，７－３(P. 25-33)参照)。

こうした学内施設での定期的な発表や，学科・専攻（又は研究室）単位で学外のギャラリーや美術館での展示を積極的に行うこと，学外からの演奏依頼への出演をとおして，学外で活動していくためのノウハウを蓄積させることが，最も大きな支援であると言える。

また，資料７－３に記載した学外からの演奏依頼については，芸術活動推進委員会を通して学生に積極的に参加を促していること，計画２－１（【２３】）(P. 48-49)に記載した学生が学外において自主的な演奏活動を行う際の学外演奏の届出の廃止や東京芸術大学外国人留学生地域交流要項の制定なども，学生の学外での活動への支援である。

計画２－４「【２６】学内外での学生のための展示演奏発表スペースをつくる。」に係る状況

中項目１の計画１－７(【７】)の資料７－１，７－２，７－３(P.25-33)に記載の展示や演奏等は，学内の奏楽堂，各ホール，大学美術館(陳列館，正木記念館，取手館を含む)，美術学部・研究科の各棟に設けられた展示スペースや，学外のギャラリー等で行われている。資料に記載の展示や発表等は，いずれも大学(大学主催のものから，学部・研究科，学科・専攻，研究室など関与のレベルは異なるが)が関与したものである。

例えば，資料７－１のNo.7,54～56の「藝大アーツ イン 丸の内」は，「キャンパスから丸ビルへ進出して，「まち」とダイナミックな接点を持とう！」というコンセプトで，三菱地所株式会社と本学が共同しておこなった社会連携プロジェクトであるとともに，まちなかということでより学生にとって今後の刺激となる成果発表の場を提供するものでもあった。

資料26－1 藝大アーツ イン 丸の内

※http://www.geidai.ac.jp/info/20071109_01.html　より
プログラム詳細: http://www.geidai.ac.jp/guide/120th_anniv/GAinM_01.html

b)「小項目２」の達成状況

(達成状況の判断)　目標の達成状況が良好である

(判断理由)　アトリエや練習室等の制作や練習の環境や練習等に供する器具を整備していること(中項目１の計画３－１(【１８】)及び資料１８－１(P.42-43)，本小項目の計画２－１(【２３】)及び資料２３－１(P.49)参照)，数多くの顕彰制度を設けていること(計画２－２(【２４】及び資料２４－１(P.49-50))，学内外での展示演奏発表の実績が上がっていること(中項目１の計画１－７の資料７－１，７－２，７－３(P.25-33)参照)から，良好とした。

○小項目３「３．多様な芸術・学術情報源へのアクセスを可能とする環境を整備する。」の分析

a)関連する中期計画の分析

計画３－１「【２７】時代に即応したメデイア機器やネットワーク環境を整備する。」に係る状況

ネットワーク環境等の整備については，下記のとおり計画的に行った。今後も計画的に機器等を更新して行く予定である。

①┌平成 17 年度には，サーバコンピュータの更新を行った。これにより，従来のシステムの機能を継承しつつ，迷惑メール除去システムや学外とのファイル共用システムなどの

新しい機能が付加した。

②┌平成 18 年末までに全学対象のネットワークスイッチを ATM 方式からギガビットイーサー方式へと更新して，保守期限が切れた機材，旧式の機材等を一掃した。安定したネットワーク環境下での運用を可能とした。

③┌平成 20 年 2 月に上野校地－取手校地間の専用回線を ATM 方式からギガビットイーサー方式へと更新した。これにより，安定したネットワーク運用が可能となると同時に通信速度が 20M から 100M へと増強された。

④┌平成 19 年度に芸術情報センターコンピュータアトリエ，演習室，そして取手校地ブラウジングルームに新規コンピュータを導入し，機器の更新を行った。

計画３－２「【２８】大学美術館や附属図書館など学内各部局における芸術・教育資料の購入を進め，資料の充実・活用を図る。」に係る状況

大学美術館では，卒業・修了生の優秀作品及び自画像の買上を中心に新規資料の購入を行っている。また，主に退任される教員の代表作の寄贈も受けている（資料２８－１：美術工芸品・標本・資料の所蔵数　参照）。

また，新蔵品の購入だけでなく，既収蔵品の修復も，芸術資料の充実という面にとって重要な意義がある。平成 17 年度に修復が完了した重要文化財「小野雪見御幸絵巻」，３年かけて 18 年度に修復が完成した歌川広重「名所江戸百景」を平成 19 年度に芸大コレクション展として，公開し活用を図った。

附属図書館の蔵書，視聴覚資料等については，参照資料２８－２：附属図書館蔵書数のとおり，充実を図っている。また，従来からある上野校地・取手校地間に加え，上野校地・横浜校地間（平成 19 年度から）においてもデリバリーサービスを開始し，資料の活用を図っている。

資料28－1
美術工芸品･標本･資料　所蔵数
（「大学概要」より作成）

分類	H16.5.1	H19.5.1	増減
文化財	32	32	0
東洋画真蹟	1,942	1,954	12
東洋画模本	5,199	5,199	0
西洋画	1,281	1,289	8
版画	646	670	24
書蹟	53	55	2
彫刻	1,313	1,316	3
金工	1,790	1,795	5
漆工	1,239	1,243	4
陶磁器	804	806	2
染織	223	229	6
建築製図･模型	194	194	0
考古	488	488	
学生制作品(美術)	7,794	8,241	447
雑美術工芸品	563	567	
雑標本	838	838	0
写真	512	512	0
写真種版	78	78	0
石膏標本	379	379	0
動物標本	20	20	0
音楽資料	326	326	0
学生制作品(音楽)	16	16	0
版木	9	9	0
複製	1,279	1,279	0
拓本	399	399	0
計	27,417	27,934	517

資料28－2
附属図書館蔵書数
（「大学概要」より作成）

区分	H16.3.31	H19.3.31	増減
和書	230,670	245,119	14,449
洋書	104,986	110,047	5,061
楽譜	88,196	92,969	4,773
レコード	19,855	19,859	4
コンパクトディスク	4,656	5,679	1,023
レーザーディスク	1,135	1,134	-1
ビデオカセット	1,039	1,143	104
マイクロフィルム	2,177	2,202	25
マイクロフィッシュ	6,192	4,231	-1,961
CD-ROM	104	146	42
DVD	296	878	582
計	459,306	483,407	24,101

計画３－３「【２９】附属図書館の開館時間を延長し，教育の利便を図る。」に係る状況

平成 16 年度より授業期間外の土曜日開館を開始した。また平成 17 年度の後期から上野校地附属図書館本館において，開館時間延長によるサービス体制の充実の検討を行うため，学期末試験のための利用が増える時期にあわせて，開館時間を１時間延長し，21 時までとする試行を平日の 10 日間ずつ計３回実施した。試行の結果を受けて，平成 19 年度から試験期間中の開館時間延長を正式実施し，教育の利便を図る目的は達成することができた。

なお，平成 19 年度の実施実績は，前期は平成 19 年 7 月 3 日～7 月 12 日の平日の 8 日間を実施し入館者数 6,146 名，後期は平成 20 年 1 月 15 日～1 月 28 日の平日の 10 日間を実施し入館者数 8,471 名であった。

b)「小項目３」の達成状況

（達成状況の判断）　目標の達成状況が良好である

（判断理由）

①　本学附属図書館の蔵書の 8 割近くは，芸術関係の資料であり，文字通り，日本の代表的な総合芸術情報のセンターの一つとなっていること，また，蔵書のうち約 30 万点の所蔵データを，本学の Web OPAC や Webcat で国内外に公開しており，研究室や自宅のパソコンからアクセスが可能としていること。

②　教育・研究のための資料として「芸術資料」と呼んでいる大学美術館の収蔵品は，現在では指定物件（国宝・重要文化財）22 件を含む，約 28,000 件という日本有数のコレクションとなっている。その内訳は美術作品だけでなく，作家や作品にまつわる資料，制作教育のため，あるいは美術史研究のための資料，音楽資料など多岐にわたっていること。　また，東京美術学校の開校当初から収集してきた「学生制作品」がこのコレクションの特徴で，通常の課題として制作された平常制作，卒業や修了の際の優秀作品を買い上げた卒業制作・修了制作，油画（西洋画科）自画像などがこれにあたり，日本の近現代の美術史を語る上で欠かせない作品群を形成していること。

○小項目４「４．教育の質を改善するための，全学的なシステムを構築する。」の分析

a)関連する中期計画の分析

計画４－１「【３０】教育方法，教材開発などを研究開発するＦＤのための組織を立ち上げ，効果的な教育効果をあげる芸術教育内容・方法を研究する。」に係る状況

中項目１の計画１－２（【２】）（P.10-11)に記載のとおり，本学の専門教育は，個人指導，少人数グループでの指導を中心とした授業方法を採っている。こうした授業方法を採っていることから，専門実技（又は制作）に関する授業においては，常に教員と学生の間での双方向のやりとりが行われ，個別的にあるいは適時的に指導方法を見直しつつ進められており，教員は常日頃から学生から授業を評価され，ＦＤ的効果を得ていると言える。また，各科・専攻内での教員会議や，複数教員担当制の実施，講評会・公開試験演奏などを通して，教員間の指導方法の交換，評価を従前より行ってきている。

また，これらのやりとり等を通した指導の充実以外にも，例えば，「週１回，学生２～３人が制作等について発表し，教員・学生全員で討論する場を設けている（工芸科　鍛金)」，「研究室ごとに個別相談日を設け，随時指導教員がコンセプトから表現技術に至るまで具体的にアドバイスを行う機会を設けている（デザイン科，先端芸術表現科)」，「学生に年間目標，計画を作成，提出させ，各自の目的に合わせた指導実施（工芸科　鍛金，陶芸)」，「すべての授業記録などを整理・保管，データベース化し，カリキュラムの見直しや引継ぎ，ＦＤに活用（先端芸術表現科)」，「複数教員担当制の充実（声楽科)」，「アンケート調査を活用（ソルフェージュ)」など各科・専攻ごとによりきめ細やかな指導やよりよい教育内容・方法を追求するための取組がなされている。

さらに，授業内容，方法等の改善・向上に関する企画立案等を担当するＦＤ対策部会を教育推進室に置いて，教育内容改善のための検討や講習会等を実施している。（開催実績：平成16年度２回，平成17年度３回，平成18年度２回，平成19年度３回＋講習会１回，公開授業１回）

（資料３０－１：理事室規則　参照）

資料３０－１：理事室規則

○東京芸術大学理事室規則(H16.4.1制定　H19.3.28改正現在の抜粋)

（設置）

第１条 理事を補佐するため，理事のもとに次の各号に掲げる室等(以下「理事室」という。)を置く。

（１）教育推進室
（２）学生支援室
（３）研究推進室
（４）国際交流室
（５）広報室
（６）出版局
（７）管理・運営室
（８）企画・評価室

（任務）

第２条　理事室は，理事を補佐し，次の各号に掲げる任務を行う。ただし，東京芸術大学学長特命規則（以下「学長特命規則」という。)の規定により，学長特命が学長の指示する理事室の任務を所掌する場合には，学長特命を補佐するものとする。

（１）当該理事の職務に係る別表に掲げる事項についての，企画立案及びその実施並びに推進に関すること
（２）その他学長が指示する事項に関すること

２　前項の任務に関し必要な事項は，別に定める。

第３条～第７条　（略）

別表（第２条関係）

理事室	理 事 室 の 任 務	庶務担当
教育推進室	１全学教育計画部会 ・教育内容等に関すること ・教育の実施体制に関すること ２教養教育部会 ・教養教育に関すること ３FD対策部会 ・授業内容，方法等の改善・向上に関すること ４専門教育部会 ・専門教育（実技，発表会等）に関すること ５大学院部会 ・大学院教育に関すること ６その他 ・入学試験に関すること ・附属音楽高等学校との連携（教育面）に関すること ・生涯教育（公開講座等）に関すること ・教育推進に係る各部局等との連絡調整に関すること	入試・学務課
学生支援室	１．全学学生支援部会 ・学生の就職指導に関すること ・芸術祭，四芸祭及びクラブサークル等の課外活動支援に関すること ・学生寮の管理運営に関すること ・学生の厚生施設（大学会館，学生食堂，体育館等）の管理運営に関すること ・奨学金及び入学料免除，授業料免除に関すること ・学生の傷害保険に関すること ・附属音楽高等学校との連携（福利厚生面）	学生課

		に関すること ２．留学生部会 ・留学生の受入れ，派遣に関すること ・留学生の修学及び生活全般支援に関すること ・留学生の奨学金に関すること ・国際交流会館の管理運営に関すること ３．その他 ・学生支援に係る各部局等との連絡調整に関すること		
	研究推進室	・研究推進に係る基本方針の策定に関すること ・研究推進体制の整備に関すること ・知的財産に関すること ・競争的な研究資金に関すること ・国内研究機関との研究協力に関すること ・学長の諮問に応じ，本学の役職員の発明等に係る権利の帰属等に関し審議すること ・研究推進に係る各部局等との連絡調整に関すること	社会連携推進課	
	国際交流室	・国際交流に係る基本方針等の策定に関すること ・国際交流体制の整備に関すること ・国際研究交流に関すること ・東京芸術大学芸術国際交流基金に係る運用の基本方針，助成事業の採否及び助成額等について審議すること ・芸術国際交流協定の締結に関し審議すること ・国際交流に係る各部局等との連絡調整に関すること		
	広報室	・広報に係る基本方針等の策定に関すること ・ホームページの管理運営に関すること ・「藝大通信」，「大学概要」等の広報誌の発行に関すること ・情報公開に関すること ・本学訪問者への対応に関すること ・広報に係る各部局等との連絡調整に関すること	総務課参事役付企画評価・広報室	
	出版局	・研究成果等の出版に関すること ・教育用図書の出版に関すること ・大学年史の編集・出版に関すること ・出版に係る各部局等との連絡調整に関すること		
	管理･運営室	・事務組織の改組に関すること ・就業規則の制定及び改廃に関すること ・人事及び労務管理の基本方針等の策定に関すること ・人事制度の検討に関すること ・給与制度の検討に関すること ・兼業制度の検討及び審査に関すること ・情報セキュリティに関する基本方針等の策定に関すること ・個人情報保護に関する基本方針等の策定に関すること ・概算要求原案の作成に関すること ・予算編成に関すること ・決算の分析及び評価に関すること ・資金及び資産の運用計画に関すること ・業務の効率化・合理化に関すること ・管理・運営に係る各部局等との連絡調整に関すること	総務課 会計課	
		（施設・環境部会） ・施設・環境整備に関すること	施設課	
	企画･評価室	・中期目標・中期計画及び年度計画の取りまとめに関すること ・自己点検評価に関すること	総務課参事役付企画評価・	

		・国立大学法人評価委員会が実施する中期目標・中期計画期間終了時及び年度計画終了時の自己評価に関すること ・認証評価機関が実施する認証評価に係る自己評価に関すること ・教員総覧の作成・公表に関すること ・企画・評価に係る各部局等との連絡調整に関すること	広報室	

計画４－２「【３１】定期的に教育内容の検討を行い，その結果をフィードバックする仕組みをつくる。」に係る状況

平成16年度より教育推進室を新たに設け，本学の教育全般にかかわる事項の検討について所掌することとした。また，特定の事項については，専門部会を設けて，検討を行う体制を整えている。専門部会は，「教養教育部会」（教養教育に関すること），「ＦＤ対策部会」（授業内容，方法等の改善・向上に関すること），「大学院部会」（大学院教育に関すること）の３つとなっている。また，教育推進室及び各部会での検討内容は，各学部等の教務委員会及び教授会を通じてフィードバックする仕組みとなっている（計画４－１（【３０】）の資料３０-１（P. 54-55）参照）。

計画４－３「【３２】講座制を超えた，水平的・横断的な教育研究のあり方を研究，弾力的な教育研究組織の検討を行う。」に係る状況

平成 18 年 4 月の音楽研究科音楽学専攻の音楽文化学専攻への改組にあたっては，音楽学部楽理科と音楽環境創造科を基礎として，各研究分野の研究･学習を継続･発展させるとともに，「アウトリーチによる音楽基礎教育の可能性」や「音楽文化研究：日本のうた」などの研究分野をこえた授業の設定，協力的な指導体制の構築などにより，弾力的な教育研究の実施を図った。

また，平成 17 年度に新設した大学院映像研究科の整備にあたっては，博士後期課程では修士課程に置く３専攻を統合し，それらを横断する１つの映像メディア学専攻として，教育研究組織を整えた（中項目１－１の計画１－１（【１】）の資料１－３（P. 6）参照）。

計画４－４「【３３】他大学，他機関との提携により教員の交流を実施する。」に係る状況

例えば，外部講師に迎えた特別講義等（中項目１－１の計画１－１（【１】）の資料１－４（P. 6-10）参照），国際交流協定校やその他の芸術系大学を中心に交流展覧会及び交流演奏会を中心とした様々な活動（中項目１－１の計画１－４（【４】）の資料４－１，４－２（P. 11-15）参照）などを通じて，他大学，他機関の優れた教員，芸術家等との人材交流・情報交換を推進している。

特に平成 19 年度は，日中韓藝術大学交流事業「藝大アーツ・サミット’07」を，今後の海外における本学の芸術活動の拠点作りを見据え，本学に留学し，各々の母国で教員等として活躍する人達のネットワーク構築を整備する第一歩として，また，日中韓の文化・藝術交流を促進するため，本学が中国及び韓国を代表する芸術大学と連携して開催した。中国から 6 大学，韓国から 4 大学の学長を招聘して行った「藝術大学サミット」，記念講演会，教員作品展「美の環」，学生交流展「美の環」，伝統芸術の公演「舞の饗宴」，留学生による演奏会「音の架け橋」により，学長，教員，学生のそれぞれのレベルの交流を行った。「藝術大学サミット」では，今後の芸術及び芸術教育の方向性について，共通のメッセージとして『藝術宣言』を取りまとめて，世界に向けて発信した。

この「藝大アーツ・サミット’07」が契機となり，平成 20 年度より，アジア芸術振興のための高度研究交流事業とアジアの芸術系大学生のための東京芸術大学サマースクール事業などによる若手留学候補者層の拡大の実現目指した「アジア総合芸術センター」構想を特別教育研究経費（教育改革推進費）を獲得して実施することとなった。

さらに，国内においても平成 19 年 12 月 12 日に「五国公立芸術大学連携協定」を金沢美術工芸大学，愛知県立芸術大学，京都市立芸術大学，沖縄県立芸術大学と本学で締結し，「（１）地域に根ざしつつ，芸術の高等教育の根幹を形成する大学として，日本の芸術文化の発展に寄与すべく，連携して協力すること。（２）日本の芸術文化を世界に発信するため，それぞれの個性を生かし，連携協力すること。（３）心豊かな社会環境醸成のために，連携して協力する

こと。（４）芸術をめぐる教育研究環境の改善向上をめざして，連携して協力すること。（５）芸術の意義の理解を普く広げるべく，連携して協力すること。」の５つの精神を掲げて今後の連携・交流を推進していくこととした。

計画４－５「【３４】４－５．学生による授業評価を行うとともに，教員による相互評価について詳細に検討し，導入を図る。」に係る状況

計画４－１（【３０】）(P. 53)に記述したとおり，本学の専門教育の中心である実技科目では，授業中や講評会等を通じて日常的に授業評価が行われている。また，中項目２の計画４－１（【２１】）(P. 45)に記述したとおり，実技科目の成績は，担当教員だけでなく当該科或いは専攻の複数の教員の合議によって決定されるため，学生の成績評価を行うことを過程において，教員同士の相互評価と同様の効果を得ている。

さらに授業評価の取組としては，例えば「教養科目等の講義科目について学期末に理解度等を問うアンケートを実施(平成 18, 19 年度:美術学部)，「個人レッスン評価実施（平成 16, 17, 18 年度:音楽学部・音楽研究科の「ピアノ」について)，「入試，油画カリキュラム，教員スタッフ，アトリエ等についてのアンケート実施(平成 17 年度:美術学部絵画科油画専攻)」など，各分野の事情に応じたアンケートを行っている。

平成 19 年 6 月には，個々の授業についてではなく，学生生活全般に関する在学生アンケート「学習と学生生活」を全学的に実施し，学習に関する設問への回答結果や自由記述を分析した結果，改善を要する課題については，教育推進室や学部・研究科，部局へ依頼している。

b)「小項目４」の達成状況

（達成状況の判断）　目標の達成状況が良好である

（判断理由）　実技授業については，個人指導や少人数指導という授業形態の特性として，教員・学生間の双方向のやりとりが日常的に行われ，ＦＤや授業評価の効果を生んでいること。また，それぞれの分野の事情に応じた授業評価アンケートを行ったり，全学的なアンケート行ったりして，多角的に課題を見出すように努力していること。さらに，教育推進室及びＦＤ対策部会を設置して，教育内容，方法やその改善のための検討を行う全学的な組織を整備していることから，良好とした。

②中項目３の達成状況

（達成状況の判断）　目標の達成状況が良好である

（判断理由）

①国立大学の中で唯一の芸術大学として相応しい教員の質と量を保持していること(資料 A2-2007 入力データ集:2-1 専任教員，資料 A2-2007 入力データ集:2-9 兼務教員，計画１－１（【２２】）の資料２２－１，２２－２(P. 46-48)参照）。

②附属図書館，大学美術館，奏楽堂(演奏芸術センター)など，充実した教育環境を整えていること(計画３－２【２８】及び資料２８－１，２８－２(P. 52)，中項目１の計画３－１【１８】の資料１８－１(P. 42-43)参照）。

③学生の学習意欲を高める様々な顕彰制度等があること(計画２－２【２４】及び資料２４－１(P. 49-50)参照）。

③優れた点及び改善を要する点等

（優れた点）

・上記中項目３の達成状況の（判断理由）のとおり。

（改善を要する点）

・授業改善に関する取り組みについては，各学部・研究科においてそれぞれの分野の事情に合わせ，様々な工夫が行われているが，ＦＤ対策部会を中心とした全学的な講習会等については，さらに積極的に行っていく必要がある。

（特色ある点）

・学生の制作活動の一端を学外に発信することを目的とする全学生を対象とした作品コンペ

を実施し，受賞者及び入選者の作品展示と販売を行う「藝大アートプラザ大賞」(平成 18 年度から)，演奏会企画募集と最優秀企画の奏楽堂での上演を行う「奏楽堂企画学内募集」(平成 17 年度から)の２つは，顕彰制度と同様に学生のキャリア形成の一端を担うことが期待できる新たな取り組みとして特筆できる。

(３)中項目４「学生への支援に関する目標」の達成状況分析

①小項目の分析

○小項目１「１．学習に関する環境や相談体制を整備する。」の分析

a)関連する中期計画の分析

計画１－１「【３５】オフィスアワー制度の充実を図り，個々の学生に対応した支援体制を構築する。」に係る状況

中項目１の計画１－２（【２】）(P.10-11)に記述のとおり，本学の専門教育の中心である実技科目については，日常的，適時的に教員と学生の双方向のコミュニケーションが密接にとられており，その他の学習相談に係る取り組みも様々に行われている。

その他の講義科目等については，シラバスにオフィスアワー又は教員との連絡方法を掲載し，学生が教員に学習上の相談ができるように配慮している。（非常勤の教員については，本学に常時勤務していないので，原則として授業時間の前後に質問等を受け付けていただくようお願いしているが，一部の非常勤教員は，本務先への連絡方法や e-mail アドレスのシラバスへの記載というご協力をいただいている。）（資料３５－１：シラバス記載例　参照）

資料３５－１　シラバス記載例

専門基礎科目

科目番号	1A231	授　業 科目名	日本・東洋建築史 History of Japanese and Asian architecture	教員名	光井　渉
通年	金３			4単位	学部生
授業テーマ	この講義は、江戸時代以前に日本列島で展開した建築と都市・集落について解説します。講義はおおむね時代順に沿ったテーマを各回毎に設定し、社会的・技術的な背景とともに代表的な建築作品等を紹介し、現代の生活空間に継承されている多種多様な建築の形の意味を考えていきます。				
授業計画及び内容	各回のテーマは下記のものを予定していますが、進行状況に応じて適宜変更する可能性があります。 【前期】○日本の建築（ガイダンス）／○建築の誕生（原始住居）／○美意識の誕生（神社建築）／○技術と空間（飛鳥・奈良時代の寺院１）／○空間の大型化（飛鳥・奈良時代の寺院２）／○都市建築の理念（平城京と平安京）／○都市住宅の原形（御所と寝殿造）／○和様の感覚（平安時代の建築）／○災害と復興（重源と大仏様）／○禅宗の建築（禅宗様）／中世的世界の建築（密教建築） 【後期】○舗設から部屋へ（中世住宅）／○もてなしの空間（座敷飾りと書院造）／○綺麗と数奇（茶室と数奇屋）／○戦乱と惣構（中世京都と土豪屋敷）／○権力の象徴（城郭建築）／○現代都市の起源（城下町）／○町に暮らす（町並みと町家）／○村に暮らす（農村と農家）／○専用住居の誕生（武家住宅）／○賑わいの空間（近世寺社境内）				
受講に当たっての留意事項	『日本建築史図集』は講義中に使用するので常時持参すること。また、『日本建築様式史』の関連項目を授業前に参照しておくのが望ましい。				
成績評価方法	試験を予定（前後期それぞれ１回）				
教科書／参考書	『日本建築史図集』、日本建築学会編、影国社／『カラー版日本建築様式史』、太田博太郎監修				
備考(オフィスアワー)	月曜日　17：30～18：30　総合工房Ｂ棟４階　光井研究室				

計画１－２「【３６】学生支援のための組織を設ける。」に係る状況

本学における教育計画，学生支援に係る様々な取り組みに関して，企画立案し，推進していく機関としては，副学長(教育担当)の下に「教育推進室」と「学生支援室」が置かれている。(平成 16 年度より。中項目３の計画４－１(【３０】)の資料３０－１(P.54-55)参照)

この２つの室は，副学長(教育担当)を室長として，各学部等の教員と事務職員で構成され，学生支援窓口業務を行う各事務組織と密接に連携しつつ，大学運営に係る教育評価，入学試験，授

業計画(「教育推進室」)から，奨学金，課外活動，留学生関係まで幅広く担当している。学生支援窓口は，学生課，入試・学務課，各学部教務係，取手校地事務室，千住校地事務室，大学院映像研究科事務室，保健管理センター，留学生センターに分かれている。これらの窓口は，前述の教育推進室及び学生支援室での検討結果を受けて，互いに連携をとりながら学生支援にあたっている。またこれらのほかに，ハラスメントをはじめとする様々な修学上の悩みについての相談を受け付ける窓口として学生相談室を設置し，専用 e-mail アドレス等を学生に周知している(資料３６－１：　学生相談室案内参照)。

なお，学生支援機能をより充実させるために平成 20 年 4 月に学生課と入試・学務課を統合し，「学生支援課」に改組して窓口業務を行うこととした。

資料３６－１：　学生相談室案内

キャンパスライフ
学生生活情報

学生相談室

学生のみなさんが学業生活等において抱えている問題や悩み（修学，進路，対人関係，セクシャル・ハラスメント，健康等）について，本学の先生方が一緒に考え，問題解決の糸口を探ります。

個人的な問題や悩みは，自分ひとりでは解決できないこともあります。そんな時には，遠慮なく学生相談室を利用してください。

なお，プライバシー厳守については十分に配慮いたします。利用方法とシステムは，下記のとおりです。

受付窓口（学生課）

月～金　10 時～12 時，14 時～16 時　祝日を除く
学生相談室受付〔学生課課長補佐〕樫田繁利(かしだしげとし)
手紙，電話，FAX，Eメールでも受け付けます。
所在地
〒110-8714
東京都台東区上野公園 12-8
学生支援課（学生相談窓口）

電話　050-5525-2064
ＦＡＸ　050-5525-2481
Ｅメール　g-sodan@ml.geidai.ac.jp
(注)セクシャル・ハラスメントやアカデミック・ハラスメントなどの対策を講ずべきことが明らかになった場合には，別組織「ハラスメント防止対策委員会」が対応することになります。

学生相談員紹介

相談内容によって，学生相談員(本学の先生方)を紹介します。※相談の日時・場所等も紹介時に打ち合わせます。

学生相談室の組織

学生相談室は，副学長を室長に，学生相談員，保健管理センター教員，留学生センター長，その他学生相談室が必要と認めた者を構成員とし，全学的な体制で組織されています。

※　http://www.geidai.ac.jp/life/info/counsel.html　より

計画１－３「【３７】シラバス内容の見直しを行い，その充実を図るとともに，データをデジタル化し，ホームページ等で公開し，学生への周知を徹底する。」に係る状況

シラバスの充実等については，中項目２の計画３－３（【２０】）(P.44)を参照願う。本学公式 Web サイトでのシラバスの掲載は，平成 19 年度版から実施した。(本学トップページ http://www.geidai.ac.jp　→　キャンパスライフ　→　各学部・研究科ごとのシラバスを選択）(資料３７－１：Web サイトへのシラバス等の掲載 参照)

また，従前よりカリキュラムや学事暦は，Web サイトに掲載している。

資料３７－１　Web サイトへのシラバス等の掲載

※　シラバスへの直接リンクは，http://www.geidai.ac.jp/life/syllabus.html

計画１－４「【３８】附属図書館の学習図書館・研究図書館としての機能を充実させる。」に係る状況

中項目３の計画３－２(【２８】)の資料２８－２(P.52)に示したとおり，本学附属図書館は約 48 万点を所蔵している。その中には約 1,500 点の貴重資料や脇本十九郎旧蔵の和古書「脇本文庫」約 2,600 冊，音楽取調掛時代の手書き邦楽五線譜約 570 冊や音楽取調掛，東京音楽学校，東京美術学校以来の和古書等，他に類を見ない貴重な資料が多数含まれている。

本学の附属図書館の最大特徴は，約 9 万点の楽譜をはじめとして蔵書の 8 割近くは芸術関係

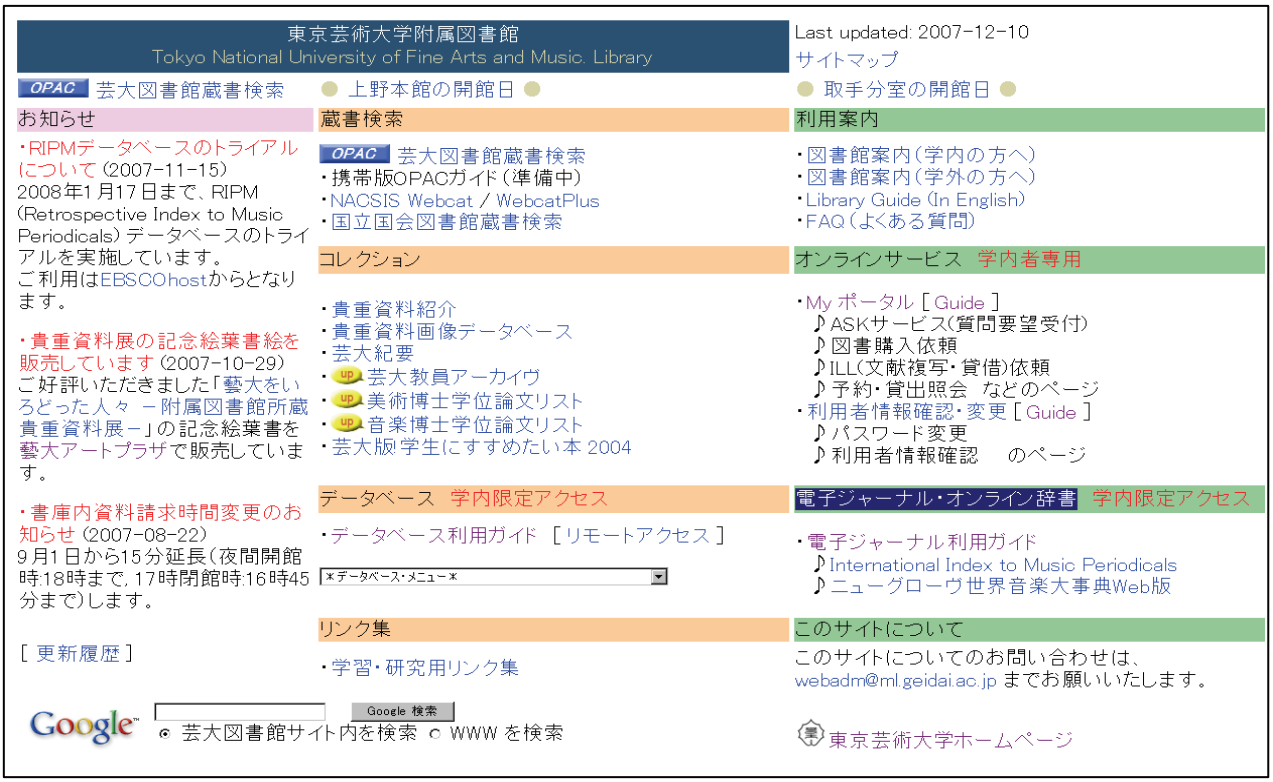
の資料であることである。

これらの蔵書のうち約 30 万点の所蔵データを，本学の Web OPAC や Webcat で国内外に公開しており，研究室や自宅のパソコンからアクセスが可能となっている。

また，学内限定アクセスの機能として，オンラインで図書購入依頼や ILL(文献複写・貸借)依頼も可能な学内者専用の My ポータルや芸術関連のデータベース，電子ジャーナル・オンライン辞書などを用意して，学習・研究の支援を行っている(資料３８－１：附属図書館ホームページ　参照)。

さらに平成 12 年から貴重資料の画像作成(電子データ化)に着手し，平成 13 年 4 月にデータの索引づけと検索機能の確立を行い，Web での公開利用を開始している。この「貴重資料データベース」について，平成 16 年度以降も科学研究費補助金（研究公開促進費）を獲得するなどして，画像作成を進めて継続的に充実を図っている。

資料３８－１：附属図書館ホームページ（http://www.lib.geidai.ac.jp/）



b)「小項目１」の達成状況

(達成状況の判断)　目標の達成状況が良好である

(判断理由)

① 附属図書館(計画１－４参照)，大学美術館，奏楽堂(演奏芸術センター)などをはじめとして，充実した学習環境を整えていること（中項目１の計画３－１【１８】の資料１８－１(P.42-43)，中項目３の計画３－２【２８】及び資料２８－１，２８－２(P.52)参照）。

② 実技科目における教員とのコミュニケーションの取りやすさに加え，オフィスアワーの設定，各研究室等でそれぞれ工夫した学習相談の取り組みを行っていること。

○小項目２「２．学生の生活面における支援を充実させる。」の分析

a)関連する中期計画の分析

計画２－１「【３９】セクシャルハラスメントの対策を強化する。」に係る状況

「東京芸術大学におけるセクシャル・ハラスメント防止等に関する規則」（平成16年4月1日制定）に基づき，セクシャル・ハラスメント防止対策委員会を置き，パンフレットの配布，ポスター掲示等の方法により防止対策を行ってきたが，平成17年12月よりアカデミック・ハ

ラスメントやパワー・ハラスメントなどあらゆるハラスメントの防止を目指す「東京芸術大学におけるハラスメント防止等に関する規則」（平成17年12月15日制定）を定め，委員会もハラスメント防止対策委員会とした。

平成 18 年度末には，ハラスメント防止と相談窓口の周知のためのパンフレットをハラスメントの種類ごとにどのようなことがハラスメントにあたるのかの解説も記載したものに更新し，平成 19 年度当初に学生及び教職員に配布し周知した。また，パンフレットの内容更新に合わせて，平成 19 年度より学生便覧でのハラスメントの防止と相談に関する記載を充実させた（資料３９－１：ハラスメント防止に関するパンフレット参照）。

ハラスメントの相談窓口に関しては，従来より，学生生活上の問題（修学，進路，対人関係，ハラスメント，健康等）についての総合的相談窓口として，「学生相談室」（計画１－２（【３６】）の資料３６－１（P. 59）参照）を設置し，学生便覧や本学 Web サイトへの掲載及び掲示等により周知している。

資料３９－１：ハラスメント防止に関するパンフレット（抜粋）

計画２－２「【４０】保健管理センターの機能を強化し，学生の健康管理等を促進する。」に係る状況

平成 16 年度から健康診断データの電子化と健康診断証明書の電子発行を開始した。

平成 18 年度には，学長裁量経費の配分を受けて保健管理センターを改修し，入口を分けることによりメンタルカウンセリングのための来訪者のプライバシーが保てる診療室や休養室等を整備した。これにより来所・相談しやすくなったと考えられる。特にメンタルヘルス・ケアーについての相談は，熟練した看護師を配置し，初期相談対応において親切・丁寧に接することを徹底したという要因もあるが，平成 19 年度の上半期の来所者を例年の上半期と比較すると３倍以上（例年は約 20 件程度であるが，19 年度は 76 件）に増加した。

毎年実施しているインフルエンザ予防接種は，年々，接種者数が増えている状況にある。平成 19 年度からは，さらに接種者の利便を図るため，予約制を止めて，実施期間中はいつでも接種を受付けることとした。

資料40－1
インフルエンザ予防接種者数

年度	教職員	学生
17	204	223
18	209	392
19	282	581

そのほか，附属音楽高校生対象のメンタルヘルスに関する講義「パニック障害と演奏」（平成 19 年度）を実施，健康増進のために平成 19 年度からヘルスキーパーを雇用し，予約制（5 人/日）でマッサージ治療を開始した。さらに平成 20 年度からは保健師を配置することとした。

計画２－３「【４１】国際交流会館の増築など留学生の生活環境の整備・向上を図る。」に係る状況

現在，本学では老朽化した学生寮（石神井寮）に代わる新寮建設について検討をしているところであるが，新寮を日本人学生，留学生の混住型とすることが案として取り上げられていることから，現状の国際交流会館の増築については，効率的な財源の使用の観点から行わないこととなった。

現状の国際交流会館においては，居室の鍵の更新，館内内線電話の設置や老朽物品（冷蔵庫，電子レンジ，掃除機等）の更新を行うことにより，安全対策の充実や生活環境の整備を行っている。

その他，配布していた外国人留学生向けのガイドブックについて，本学の公式 Web サイト上の留学生に有用な情報が記載されているページのＵＲＬや学生支援機構の各国語による留学生支援情報のページのＵＲＬ，ビザ等に関する外務省のページのＵＲＬなどを新たに記載するなど，内容の見直しを進め，更新版を作成し，平成 19 年度より配布を開始したり，留学生メーリングリストを作成して，留学生係から各種お知らせを周知する体制を整えたりしたことにより，支援の充実を図った。

計画２－４「【４２】学生の福利厚生を充実させる。」に係る状況

本学の学生の福利厚生施設は，学生寮，大学会館（食堂，喫茶室，生協売店，集会室，展示室，娯楽室，和室，サークル部室等），国際交流会館，那須高原研修施設，取手校地福利施設（生協食堂・売店），取手校地「利根川荘」（短期宿泊施設）及びその他大学美術館の開放スペースに食堂（2 か所），生協売店，画材店がある。また，本学が企画開発した作品や，本学の教員等が創作した作品等の教育研究成果を，社会に対して積極的に発信する場等としてオープンした「藝大アートプラザ」（平成 17 年 11 月から）でも，学生の学習等に役立つ芸術関係書籍，CD 等も販売しているだけでなく，プラザ前に設けられたカフェスペースがリラクゼーションスペースともなっている。

また，計画２－３（【４１】）に記載のとおり，本学では新しい学生寮の建設について検討をしているところだが，現状の学生寮については，ブロック入口鍵の更新，防犯センサーの設置（女子棟外側）（平成 16 年度），防犯カメラの設置（平成 19 年度）による安全対策の強化や共同トイレ設備の更新（平成 19 年度），ゴミの分別の徹底についての指導強化，粗大ごみ回収回数を増やす（平成 18 年度）などにより住環境の改善を図った。

平成 17，18 年度に開設した横浜校地，千住校地のキャンパス整備にあたっては，学生や訪問者のリラクゼーションスペースを確保したほか，上野校地学生課ロビーのスペース使用方法を見直して，リラクゼーションスペースを新たに確保（平成 18 年度から）した。

その他，取手校地の学バスの増便（平成 17 年 11 月から１日に 11 便から 14 便へ。平成 19 年１月にさらに２便を増便），学生の要望を取り入れた取手校地食堂のメニューの改善（平成 17～18 年度），那須高原研修施設の利用可能日を増やす（平成 17 年度から）など，学生の福利厚生の充実を図った。

計画２－５「【４３】学内外の奨学金についての情報伝達方法を確立し，積極的に支援する。」に係る状況

従来の冊子及び学内掲示板による伝達方法に加え，平成 17 年度から Web サイト上で奨学金募集情報の周知を開始した。①東京芸術大学奨学金制度，②日本学生支援機構奨学金制度，③地方公共団体及び財団法人奨学金制度に区分して掲載しており，①については本人の出願によるものではなく優秀者への顕彰であることから概要のみを掲載し，②については制度の概要を

掲載するほか，手続き日程等については随時更新し，③については地方公共団体等から応募書類等の送付が大学にあった場合，随時締切や提出先を掲載している。
（アクセス数平成 17 年 8 月→1,149 件，平成 18 年 8 月→2,628 件，平成 19 年 8 月→4,357 件）

b)「小項目２」の達成状況
（達成状況の判断）　目標の達成状況が良好である
（判断理由）
・ハラスメントの防止について，委員会を中心として学内の啓もう活動を推進していること（計画２－１（P.61-62）参照）。
・保健管理センターでの学生の健康管理に係る機能の充実が着実に進んでいること（計画２－２（P.62-63）参照）。
・学生の福利厚生施設について更新方策の検討を行うとともに，現有施設をできるだけ快適に使用できるよう努力していること（計画２－３，２－４（P.63）参照）。

②中項目４の達成状況
（達成状況の判断）　目標の達成状況が良好である
（判断理由）
・附属図書館（計画１－４参照），大学美術館，奏楽堂（演奏芸術センター）などをはじめとして，充実した学習環境を整えていること（中項目１の計画３－１【１８】の資料１８－１（P.42-43），中項目３の計画３－２【２８】及び資料２８－１，２８－２（P.52）参照）。
・保健管理センターでの学生の健康管理に係る機能の充実が着実に進んでいること（計画２－２（P.62）参照）。

③優れた点及び改善を要する点等
（優れた点）
・附属図書館（計画１－４（P.60-61）参照），大学美術館，奏楽堂（演奏芸術センター）など，充実した学習環境を整えていること（中項目１の計画３－１【１８】の資料１８－１（P.42-43），中項目３の計画３－２【２８】及び資料２８－１，２８－２（P.52）参照）。

（改善を要する点）
・平成 19 年 8 月にセクシャル・ハラスメントによる教員の処分が出たことを受けて，ハラスメント防止に関する意識向上を促すために，パンフレットの再配布や教授会で注意喚起を実施し，あわせてポスター掲示箇所を増やすなど啓蒙活動を進めているところであるが，なお，一層の努力と改善をしていく余地がある。

（特色ある点）
・特になし

２ 研究に関する目標(大項目)

(１)中項目１「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の達成状況分析

①小項目の分析

○小項目１「１．教員個人から学部・学科を超えた分野横断的な研究活動，国際的な研究活動を通して，独創性と発展性に富む芸術表現活動を実現し，伝統の継承・新しい芸術の創造における世界的な研究拠点形成を目指す。」の分析

a)関連する中期計画の分析

計画１－１「【４４】個々の教員の研究創造を基盤とし，芸術文化の継承発展を強力に推進する。」に係る状況

本学の教員は，作家，演奏家として個々に「表現者」「創造者」としても成り立っている者が多い。これらの教員の研究の成果すなわち，自己の技能，技量の研鑽の成果，自己の表現・新しい表現の追求の結果は，作品や演奏等として，展覧会や演奏会等の方法によって公表する場合が，論文・著書等による場合よりも一般的である。

平成 19 年 6 月に本学が行った調査によれば，平成 16 年 4 月から調査時点までに美術分野の教員(実技を主としない教員も含む)が行った個展，グループ展等の開催件数は平均 8.4 件，音楽分野の教員(同)が行ったリサイタル，演奏会（共演，一部出演含む）等の開催件数は平均 30.77 件となっており，個々教員がそれぞれに活発に研究創造活動を展開していることが分かる。

計画１－２「【４５】常に新しい芸術表現を模索し，各分野が有機的に結合した創造活動を展開する。」に係る状況

学科・専攻等が企画して大学美術館等で行う展覧会，奏楽堂で行う定期演奏会，演奏芸術センター企画演奏会などを通じて，学科・専攻としての組織的な研究の成果や，学科・専攻等の枠を越えた連携の成果を発信している。

特に音楽分野においては，演奏芸術センター企画演奏会において，① 藝大の響き：音楽学部各講座の枠を越えたインタラクティブな試み，② 奏楽堂シリーズ：音楽学部各講座の専門性，独自性を活かしたコンサートシリーズ，③ 藝大 21：広いパースペクティブで「今」という時代を見つめる企画）として企画内容を分けて，本学の特色を活かした他の演奏団体ではできない各種の企画を展開している。

例えば，③藝大 21 の「和楽の美」(資料４５－１の No.85-88，研究業績説明書 27-06-2001 参照）は，新たな邦楽総合アンサンブル（邦楽器演奏と能，狂言や日本舞踊によるコラボレーション）の創造をテーマとし，美術学部制作の舞台美術による新たな芸術表現創造を目指した企画であり，平成 14 年度より継続的に実施しているシリーズである。平成 19 年度の「新曲『浦島』」は坪内逍遥の原作を基に，邦楽科教員らが音楽を付けた和風楽劇で，邦楽の様々なジャンルを用いるだけでなく，邦楽と洋楽のコラボレーションまで行うことを意図したものとなっており，邦楽科を主軸に器楽科・声楽科も加わって教員・学生らがアンサンブルを構成して上演した。映像，舞台美術は美術学部デザイン科，絵画科油画専攻，美術研究科文化財保存学専攻保存修復(日本画)研究室が担当した。まさに，本学ならではと言えるこの公演は，藝大出版会から平成 20 年２月に DVD として刊行もした(資料４５－２：「新曲『浦島』」DVD　参照)。

また，創立 120 周年記念音楽祭や「第１回東京音楽学校定期演奏会」再現コンサート（資料４５－１の No.93-103，研究業績説明書 27-06-2003　参照）では，演奏面だけでなく，音楽史，芸大史の研究成果をも反映させ，音楽学部・音楽研究科の総合力を結集したものとなった。

資料４５－１　演奏芸術センター企画演奏会

※種類は本文中の①藝大の響き，②奏楽堂シリーズ，③藝大２１を示す。
※①～③に該当しない通常の定期演奏会は掲載していない。※備考欄に特に表示のない場合は，会場は本学奏楽堂。
※(数字「27-××-××××」は関連する研究業績説明書の番号)

No	種類	演　奏　会　名	年　月　日		入場者数	備　考
1	①	藝大ドヴォルザーク･プロジェクトⅠ　世界のマエストロを迎えて　第3回　クルト･マズア（27-05-2001）	H16.5.1	土	1,077	
2	①	藝大ドヴォルザーク･プロジェクトⅡ～レクチャー･コンサート第１回～（27-05-2001）	H16.5.22	土	374	

3	①	藝大ドヴォルザーク・プロジェクトⅢ　～レクチャーコンサート第2回～　(27-05-2001)	H16.5.29	土	391	
4	①	藝大ドヴォルザーク・プロジェクトⅣ　～レクチャー・コンサート第3回～　(27-05-2001)	H16.6.5	土	403	
5	①	藝大ドヴォルザーク・プロジェクトⅤ　～レクチャー・コンサート第4回～	H16.6.12	土	450	
6	①	藝大ドヴォルザーク・プロジェクトⅥ　～レクチャー・コンサート第5回～　(27-05-2001)	H16.6.19	土	384	
7	①	藝大ドヴォルザーク・プロジェクトⅦ　～藝大定期オーケストラ第309回～　藝大フィルハーモニア定期演奏会(27-05-2001)	H16.6.25	金	988	
8	①	藝大ドヴォルザーク・プロジェクトⅧ　～東京藝大チェンバーオーケストラ第3回定期演奏会～　(27-05-2001)	H16.6.26	土	292	
9	①＋②	藝大ドヴォルザーク・プロジェトⅨ 管楽器シリーズⅠ　～チェコ音楽の魅力～　(27-05-2001)	H16.7.11	日	530	
10	①	藝大ドヴォルザーク・プロジェトⅩ　藝大定期オーケストラ第310回　藝大フィルハーモニア定期演奏会(27-05-2001)	H16.10.23	土	647	
11	①	藝大ドヴォルザーク・プロジェトⅩⅠ　藝大定期オーケストラ第311回　藝大フィルハーモニア定期演奏会(合唱) (27-05-2001)	H16.11.19	金	679	
12	①＋②	藝大ドヴォルザーク・プロジェトⅩⅡ　“うた”シリーズⅣ－3 ドヴォルザークの独唱曲と重唱曲を集めて(27-05-2001)	H16.12.12	日	280	
13	①	ラヴェル・プロジェクト 第1回 「声楽と2台ピアノのタベ」〔レクチャー&コンサート1〕　(27-05-2002)	H17.5.21	土	664	
14	①	ラヴェル・プロジェクト 第2回 「ピアノ全曲演奏会」〔レクチャー&コンサート2〕　(27-05-2002)	H17.5.28	土	981	
15	①	ラヴェル・プロジェクト 第3回 「室内楽全曲演奏会」〔レクチャー&コンサート3〕　(27-05-2002)	H17.6.11	土	738	
16	①	ラヴェル・プロジェクト 第4回 「ラヴェルとその周辺」〔レクチャー&コンサート4〕　(27-05-2002)	H17.6.18	土	502	
17	①	ラヴェル・プロジェクト 第5回　藝大フィルハーモニア定期第314回　オール・ラヴェル・プログラム　(27-05-2002)	H17.6.24	金	915	
18	①＋②	ラヴェル・プロジェクト 第6回 “うた”シリーズⅤ－1　オペラのタベ　(27-05-2002)	H17.6.28	火	984	
19	①	「シューマン・プロジェクト第1回」 レクチャー＆コンサート1 (27-05-2003)	H18.5.20	土	378	
20	①	「シューマン・プロジェクト第2回」 レクチャー＆コンサート2 (27-05-2003)	H18.5.27	土	309	
21	①	「シューマン・プロジェクト第3回」 レクチャー＆コンサート3 (27-05-2003)	H18.6.10	土	503	
22	①	「シューマン・プロジェクト第4回」 レクチャー＆コンサート4 (27-05-2003)	H18.6.17	土	505	
23	①	「シューマン・プロジェクト第5回」 藝大フィルハーモニア定期第319回	H18.6.23	金	752	
24	①＋②	「シューマン・プロジェクト第6回」 上野の森オルガンシリーズ (27-05-2003)	H18.6.24	土	265	
25	①＋②	「シューマン・プロジェクト第7回」　うたシリーズ Ⅵ－1 (27-05-2003)	H18.6.27	火	897	
26	①	「シューマン・プロジェクト第8回」 藝大フィルハーモニア・合唱定期第321回　(27-05-2003)	H18.11.17	金	646	
27	①	学内演奏会(オーケストラ)グリーグ＆シベリウス・プロジェクト第1回　(27-05-2004)	H19.4.27	金	600	(無料)
28	①	グリーグ＆シベリウス・プロジェクト　第2回　レクチャー&コンサート1　(27-05-2004)	H19.5.12	土	362	
29	①	グリーグ＆シベリウス・プロジェクト　第3回　レクチャー&コンサート2　(27-05-2004)	H19.5.19	土	302	
30	①	グリーグ＆シベリウス・プロジェクト　第4回 レクチャー&コンサート3　(27-05-2004)	H19.5.26	土	222	
31	①	藝大フィルハーニア定期　グリーグ:劇音楽「ペールギュント」(全曲)　(27-05-2004)	H19.6.8	金	799	

32	①	藝大フィルハーニア定期　グリーグ:劇音楽「ペールギュント」（全曲）　(27-05-2004)	H19.6.8	金	950	
33	①	グリーグ＆シベリウス・プロジェクト　第６回 レクチャー&コンサート４　(27-05-2004)	H19.6.9	土	301	
34	①	グリーグ＆シベリウス・プロジェクト　第７回　藝大フィルハーモニア定期演奏会　(27-05-2004)	H19.10.25	木	576	
35	①	グリーグ＆シベリウス・プロジェクト　第８回　弦楽シリーズ～ドレスデン・シュターツカペレ弦楽器奏者と共に　(27-05-2004)	H19.11.27	火	395	
36	①	上野の春～藝大教官演奏会～第３回	H17.3.13	日	606	
37	②	“うた”シリーズⅣ－１　イタリアオペラ・ガラコンサート～ベルカントからヴェリズモへの流れのなかで～	H16.6.29	火	913	
38	②	“うた”シリーズⅣ－２　～名曲でたどるパノラマ・フランス歌曲～	H16.11.20	土	678	
39	②	うたシリーズⅤ－２　森鴎外訳オペラ「オルフエウス」(27-06-2002)	H17.9.18	日	1,039	
40	②	うたシリーズⅤ－２　森鴎外訳オペラ「オルフエウス」(27-06-2001)	H17.9.19	月	1,023	
41	②	うたシリーズⅤ－３ ドイツリートの夕べ　～ブラームスからウルマンまで～	H17.12.3	土	558	
42	②	うたシリーズ Ⅵ－２　イタリア近代歌曲の展望	H18.9.16	土	404	
43	②	うたシリーズⅥ－３　英米歌曲を中心として	H18.12.2	土	340	
44	②	うたシリーズⅦ－２　日本・中国歌の饗宴	H19.9.3	月	506	
45	②	ハイドン・シリーズ第１夜　ハイドン弦楽四重奏曲全曲演奏その６　(27-05-2005)	H16.11.4	木	371	
46	②	ハイドン･シリーズ第２夜　室内オーケストラ演奏会(27-05-2005)	H16.11.5	金	485	
47	②	ハイドン・シリーズ第１夜　室内オーケストラ演奏会(27-05-2005)	H17.11.2	水	481	
48	②	ハイドン・シリーズ第２夜　ハイドン弦楽四重奏曲全曲演奏その７　(27-05-2005)	H17.11.4	金	412	
49	②	ハイドン・シリーズ第１夜　オーケストラ演奏会(27-05-2005)	H18.11.2	木	187	
50	②	ハイドン・シリーズ第２夜　弦楽四重奏曲演奏シリーズその８　(27-05-2005)	H18.11.4	土	237	
51	②	ハイドン・シリーズ第１夜　オーケストラ演奏会(27-05-2005)	H19.11.1	木	337	
52	②	ハイドン・シリーズ第２夜　弦楽四重奏曲全曲演奏シリーズその９　(27-05-2005)	H19.11.3	土	286	
53	②	管楽器シリーズ　～藝大ブラスの歴史をふり返って～	H17.2.13	日	707	
54	②	管楽器シリーズ　モーツァルトの管楽器曲を集めて	H17.7.9	土	400	
55	②	管打楽器シリーズ　アンドレ・ジョリヴェとその周辺	H18.2.19	日	546	
56	②	管打楽器シリーズ　モーツァルト協奏曲のひととき（レクチャーあり）	H18.7.8	土	564	
57	②	管打楽器シリーズ　Saxophone　Day	H19.2.18	日	769	
58	②	管打楽器シリーズ　コンクールの華（モーツァルト管楽シリーズ）	H19.7.14	土	756	
59	②	管打楽器シリーズ～藝大管楽ソロイスツ	H20.2.16	土	523	
60	②	弦楽シリーズ　弦楽科教員による「モーツァルトの夕べ」	H18.9.12	火	699	
61	②	上野の森　オルガン･シリーズ　～賛歌の系譜Ⅰ～	H16.6.13	日	531	

62	②	上野の森 オルガン・シリーズ　～賛歌の系譜Ⅱ～	H16.10.31	日	425	
63	②	上野の森オルガンシリーズ 神秘のオルガン音楽～スペインの黄金時代～	H17.6.4	土	346	
64	②	上野の森オルガンシリーズ シンフォニックな響き～ロマン派のオルガン音楽～	H17.10.23	日	403	
65	②	上野の森オルガンシリーズ オルガンとトランペットの響き	H18.10.15	日	347	
66	②	上野の森オルガンシリーズ ブクステフーデ没後 300 年記念 Part1	H19.6.2	土	425	
67	②	上野の森オルガンシリーズ　ブクステフーデ没後 300 年記念 Part2	H19.11.17	土	396	
68	②	藝大リサイタルシリーズⅠ－1　伊藤　恵ピアノリサイタル	H19.9.5	水	498	
69	②	藝大リサイタルシリーズⅠ－2　川崎和憲ヴィオラ・リサイタル	H19.9.15	土	325	
70	②	藝大リサイタルシリーズⅠ－3　多田羅迪夫バリトン・リサイタル	H19.9.18	火	444	
71	③	藝大 21 創造の杜 ～ルチアーノ・ベリオ～ オーケストラ作品	H16.5.27	木	287	
72	③	藝大 21 創造の杜 ～ルチアーノ・ベリオ～セクエンツァ完全全曲演奏	H16.5.30	日	432	
73	③	藝大 21 創造の杜 藝大現代音楽の夕べ	H17.11.24	木	498	
74	③	藝大 21 創造の杜 ピエール・ブーレーズ オーケストラ作品演奏会	H18.4.21	金	477	
75	③	藝大 21 創造の杜 ピエール・ブーレーズ 室内楽作品演奏会	H18.4.22	土	437	
76	③	藝大 21 創造の杜 藝大現代音楽の夕べ	H19.4.19	木	289	
77	③	藝大 21 アジア・躍動する音たち～アジアの協奏曲～	H16.9.16	木	442	
78	③	藝大 21 アジア・躍動する音たち～上海音楽学院を迎えて～	H17.7.6	水	439	
79	③	藝大 21 アジア・躍動する音たち 韓国・ソリの伝統と現代の音楽	H18.9.15	金	485	
80	③	藝大 21 アジア・躍動する音たち　日本・中国・韓国の組歌	H19.6.23	土	336	
81	③	藝大 21 時の響き ジャズ in 藝大	H16.7.17	土	873	
82	③	藝大 21 時の響き ジャズ in 藝大 ～宮間利之とニューハードVSマント・ヴィーヴォ	H18.7.15	土	945	
83	③	藝大 21 時の響き　ジャズ in 藝大～邦楽転生～	H19.7.21	土	741	
84	③	藝大 21 時の響き JAZZ in 藝大 ～原 信夫とシャープス フラッツ VS Manto Vivo～	H17.7.16	土	992	
85	③	藝大 21 和楽の美 ～宮沢賢治～ (27-06-2001)	H16.5.7	金	771	
86	③	藝大 21 和楽の美 ～邦楽叙事詩「スサノヲ」～ (27-06-2001)	H17.5.6	金	850	
87	③	藝大 21 和楽の美 邦楽総合アンサンブル「今昔物語」 (27-06-2001)	H18.5.16	火	637	
88	③	藝大 21 和楽の美　新作「浦島」に基づく邦楽合奏 (27-06-2001)	H19.9.13	木	941	
89	③	藝大 21 藝大とあそぼう ～ゆかいな動物園～	H16.9.19	日	751	

90	③	藝大 21　藝大とあそぼう　～オーケストラの逆襲～	H17.7.3	日	826	
91	③	藝大 21　藝大とあそぼう　マザー・グースVS桃太郎	H18.7.2	日	607	
92	③	藝大 21　藝大とあそぼう　チャレンジ→明るい未来	H19.7.8	日	673	
93	③	創立 120 周年記念音楽祭　その時，西洋では！　～東京音楽学校創立期とその周辺のピアノ作品(27-06-2004)	H20.1.4	金	301	※旧奏楽堂
94	③	創立 120 周年記念音楽祭　日本近代音楽史に見る伝統の響き(27-06-2004)	H20.1.4	金	817	
95	③	創立 120 周年記念音楽祭　レクチャー＆シンポジウム「藝大の120年～藝大はアメリカの影響から始まった」(27-06-2004)	H20.1.5	土	260	※5-109
96	③	創立 120 周年記念音楽祭　日本の弦楽教育・草分けの時代(27-06-2004)	H20.1.5	土	278	※旧奏楽堂
97	③	創立 120 周年記念音楽祭　藝大ブラスの醍醐味・甦るサウンド	H20.1.5	土	649	
98	③	創立 120 周年記念音楽祭　シンポジウム「日本電子音楽の創成期～藝大音響研究室の活動～」(27-06-2004)	H20.1.6	日	156	※5-109
99	③	創立 120 周年記念音楽祭　黎明期の日本声楽曲(27-06-2004)	H20.1.6	日	254	※旧奏楽堂
100	③	創立 120 周年記念音楽祭　展示＆コンサート「日本電子音楽の創成期～藝大音響研究室の活動～」(27-06-2004)	H20.1.4～6	－	467	※第1ホール
101	③	創立 120 周年記念音楽祭　オーケストラ・コンサート＜藝大120年をふり返って＞(27-06-2004)	H20.1.6	日	1,027	
102	③	「第1回東京音楽学校定期演奏会」再現コンサート(27-06-2003)	H20.2.20	水	302	※旧奏楽堂
103	③	「第1回東京音楽学校定期演奏会」再現コンサート(27-06-2003)	H20.2.21	木	978	

※参考：(演奏会一覧)　http://www.geidai.ac.jp/facilities/sogakudou/info/index.html

資料４５－２：「新曲『浦島』」ＤＶＤ

※大学出版会紹介　http://www.geidai.ac.jp/facilities/press/index.html　より

美術分野においては，資料４５－３:大学美術館　展覧会一覧のとおり展覧会を開催している。本館での企画展は絵画系(資料４５-３の No. 1, 5, 69, 70 など)，彫刻系(No. 49, 51)，工芸・テザイン・建築系(No. 24, 30)，総合(No. 52, 72 など)と多彩な内容となっている。また本学の収蔵品によるコレクション展(No. 2, 6, 23, 25, 50, 55, 68, 71)でも企画性を持たせた内容としている。陳列館等では，各科・専攻の特色を生かした各種の展覧会を開催している。

特に，創立 120 周年記念として行った「創作茶席「五色界」展」(No. 86)は，５人の教員が５つの色をテーマに異なる素材と手法を用いて茶席を制作し，さらに美術分野の各学科・専攻の教員が茶道具を制作して展示するというプロジェクトで，領域の枠を超えたコラボレーションを行いながら構成された創作研究活動を展開した。(美術学部長を代表に，日本画５人，油画６人，彫刻４人，工芸彫金２人，鋳金２人，鍛金２人，漆芸２人，陶芸２人，染織２人，ガラス２人，木工芸１人，デザイン４人，先端３人，芸術学２人，文化財保存学２人，写真センター１人の専任教員及び名誉教授，教育研究助手らによる。資料４５－４:**創作茶席「五色界」展**参照)

資料45－3　大学美術館　展覧会一覧

※１：会場欄の「本」は大学美術館本館，「陳」は陳列館，「正」は正木記念館

※２：同時期開催の展覧会のチケットによる入場者についてカウントしていないため実入場者となっていない。

★(数字「27-××-××××」は関連する研究業績説明書の番号)

No	会場※1	有料	展覧会名	会期	合計	1日平均入場者数
1	本	○	「再考:近代日本の絵画」展	H16.4.10～6.20(63 日間)	39,174	622
2	本	○	芸大コレクション展　江戸から明治の金属芸術	H16.7.6～8.29(48 日間)	2,564※2	53
3	本	○	横山大観「海山十題」展	H16.7.27～8.29(30 日間)	97,889	3,263
4	本	○	興福寺国宝展	H16.9.18～11.3(40 日間)	100,124	2,503
5	本	○	「HANGA 東西交流の波」展	H16.11.13～1.16(49 日間)	20,535	419
6	本	○	芸大コレクション展 「ドイツ・ネーデルラントの近世版画 ―マクシミリアン 1 世の時代を中心に― 」	H16.11.13～H17.1.16(49 日間)	1,093※2	22
7	本		福井爽人・中林忠良展	H17.1.27～2.13(16 日間)	9,581	599
8	本		卒業・修了制作展卒業・修了制作展	H17.2.22～2.26(5 日間)	9,142	1,828
9	陳				7,299	1,460
10	陳		「東京藝大のガラスの作家たち」展	H16.4.24～5.9(16 日間)	6,960	435
11	陳		東京・北京・パリ交流ポスター展	H16.5.13～5.23(10 日間)	674	67
12	陳		「JEWELLERY」展	H16.6.29～7.11(12 日間)	547	46
13	陳		第 4 回「子供たちによる大型 C.G.プリント展」	H16.8.17～8.21(5 日間)	239	48
14	陳		椅子展 2004	H16.9.3～9.12(10 日間)	1,095	110
15	陳		「flowmotion」展	H16.9.14～9.20(7 日間)	1,058	151
16	陳		「Voice of Site Tokyo-Chicago-NewYork」展	H.16.9.24～10.10(15 日間)	2,312	154
17	陳		「ひびき・かたち・そざい-東西の改良楽器をめぐって-」展	H16.10.21～11.3 (12 日間)	4,038	337
18	陳		美術教育研究会展示発表	H16.11.6～11.10(5 日間)	718	144
19	陳		「版の記憶／現在／未来」展	H16.11.12～11.25(12 日間)	1,096	91
20	陳		ispa JAPAN 国際現代版画展「The PLATES」	H16.11.30～12.5(6 日間)	802	134
21	陳		スベレ・フェーン建築展	H16.12.12～H17.1.20(29 日間)	7,074	243
22	本	○	台風被災復興支援　厳島神社国宝展	H17.3.25～5.8(40 日間)	59,804	1,495
23	本	○	芸大コレクション展 資料は繋ぐ－名作と下絵・連作	H17.4.8～5.29(46 日間)	38,914	846
24	本	○	500 年の大系　植物画世界の至宝展	H17.6.11～7.18(33 日間)	35,908	1,088
25	本	○	芸大コレクション展 柴田是真－明治宮殿の天井画と写生帖	H17.6.11～8.7(50 日間)	33,475	670
26	本		「D/J Brand」展 ドイツに学んだアーティストの発火点	H17.9.1～9.25(22 日間)	5,450	248
27	本	○	「台東区のたからもの」展 ―寺社所蔵の文化財に見る歴史・文化―	H17.9.27～10.23(24 日間)	5,556	232

28	本		退任記念　堀越保二・手塚登久夫展	H17.10.6～10.23(16 日間)	5,513	345
29	本		退任記念　松永勲 染色作品展	H17.11.3～11.20(16 日間)	3,525	220
30	本	○	吉村順三建築展(27-01-2006)	H17.11.10～12.25(40 日間)	39,721	993
31	本		東京藝術大学・韓国藝術綜合学校交流展	H17.11.29～12.18(18 日間)	2,717	151
32	陳				1,495	83
33	本	○	「世界遺産からのSOS」展－アジア危機遺産からのメッセージ－	H18.1.14～2.5(20 日間)	8,884	444
34	本		退任記念　伊藤隆道展	H18.1.19～2.5(16 日間)	3,654	228
35	本		第 54 回　卒業・修了作品展	H18.2.22～2.26(5 日間)	10,732	2,146
36	陳				8,585	1,717
37	陳		第 1 回 企業のデザイン展　iichiko design 展	H17.4.11～4.24(13 日間)	3,938	303
38	陳		東京・北京・パリ交流ポスター展	H17.4.28～5.8(10 日間)	1,539	154
39	陳		「文化財保存教育の 40 年」展	H17.5.13～5.16(4 日間)	818	205
40	陳		「日本におけるダダ」展	H17.6.1～6.18(16 日間)	1,656	104
41	陳		にゅうす展。 油画新人スタッフ展 2005	H17.6.21～6.28(7 日間)	574	82
42	陳		「Reflex」展　－黄金背景テンペラ模写と現代における展開・構築－	H17.7.5～7.22(16 日間)	2,444	153
43	陳		東京藝術大学卒業制作作品　台東区長賞展	H17.7.29～8.9(10 日間)	1,016	102
44	陳		「Rosa！」展　あらわになる色　～ピンク	H17.9.1～9.25(22 日間)	4,019	183
45	陳		「石の思考」展－手塚登久夫と芸大石彫－	H17.10.6～10.23(16 日間)	1,512	95
46	陳		日本画第一研究室発表展	H17.10.26～10.30(5 日間)	960	192
47	陳		退任記念　戸津圭之介の軌跡展	H17.11.3～11.20(16 日間)	3,894	243
48	陳		「スキノデリック」展　彫刻の表層	H18.1.6～1.22(17 日間)	2,995	176
49	本	○	ドイツ・表現主義の彫刻家：ｴﾙﾝｽﾄ・ﾊﾞﾙﾗﾊ (27-01-2003)	H18.4.12～5.28(41 日間)	30,623	747
50	本	○	芸大コレクション展：大正・昭和前期の美術	H18.4.12～5.28(41 日間)	24,128	588
51	本	○	ルーヴル美術館展 －古代ギリシア芸術・神々の遺産－	H18.6.17～8.20(56 日間)	274,496	4,902
52	本	○	NHK日曜美術館30年展	H18.9.9～10.15(32 日間)	97,688	3,053
53	本		Japan & Korea 漆 arts exhibition 日本・韓国　現代漆芸作家による漆芸の現在	H18.9.28～10.15(16 日間)	12,481	780
54	本	○	The Wonder Box　－ユニヴァーシティ・ミュージアム合同展－	H18.11.4～12.17(38 日間)	6,789	179
55	本	○	芸大コレクション展　斎藤佳三の軌跡－大正・昭和の総合芸術の試み－	H18.11.4～12.17(38 日間)	6,797	179
56	本		野田哲也展	H19.1.11～1.28(16 日間)	3,500	219
57	本		羽生出展	H19.1.11～1.28(16 日間)	3,982	249
58	本		卒業・修了作品展	H19.2.21～2.26(6 日間)	11,662	1,944
59	陳				9,329	1,555
60	陳		版画研究室交流展：ヴィクトリア・カレッジ・オブ・アーツ，メルボルン大学－東京芸術大学美術学部	H18.4.18～5.2(13 日間)	574	44
61	陳		素描展　日本画第二研究室	H18.8.8～8.20(13 日間)	12,844	988
62	陳		日本画第一研究室発表展	H18.9.13～9.25(13 日間)	3,793	292
63	陳		Good Design Award 1957-2006 Gマーク 50 年，時代を創ったデザイナーと 100 のデザインの物語―展	H18.10.3～10.13(11 日間)	6,340	576
64	陳		伝統とデザイン　国際交流デザイン展　－日本・イギリス・韓国－　東京藝術大学，UCCA 芸術大学，中央大学校の 3 校の授業交換による学生作品	H18.10.19～10.29(11 日間)	652	59
65	陳		退任記念 堀口光彦展	H18.11.2～11.19(16 日間)	2,387	149
66	陳		林亘退任記念　東京藝術大学ガラス造形研究室展	H18.11.28～12.10(12 日間)	1,760	147
67	陳		東京藝術大学陶芸研究室・大倉陶園共同研究「ディナー食器への挑戦ーチャイナペインティングの美」	H.19.1.16～1.21 (6 日間)	4,838	806

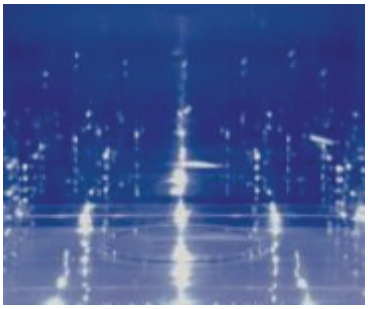
68	本	○	東京藝術大学創立 120 周年企画　芸大コレクション展　新入生歓迎・春の名品選	H19.4.10～6.10(54 日間)	58,823	1,089
69	本	○	パリへ―洋画家たち百年の夢(27-01-2004)	H19.4.19～6.10(46 日間)	76,658	1,666
70	本	○	金刀比羅宮　書院の美 ― 応挙・若冲・岸岱 ―	H19.7.7～9.9(56 日間)	159,065	2,840
71	本	○	芸大コレクション展　歌川広重《名所江戸百景》のすべて	H19.7.7～9.9 (56 日間)	143,528	2,563
72	本	○	岡倉天心　― 芸術教育の歩み ―(27-01-2005)	H19.10.4～11.18(40 日間)	25,363	634
73	本		東京藝術大学大学院美術研究科博士審査展	H19.12.4～12.16(12 日間)	4,587	382
74	本		卒業・修了作品展	H20.2 月 21 日～2 月 26 日(6 日間)	11,210	1,868
75	陳				8,968	1,495
76	陳		2006 年度受託研究　茨城県指定文化財　西念寺蔵　阿弥陀如来坐像修復研究発表会	H19.4.12～4.15(4 日間)	346	87
77	陳		東京藝術大学創立 120 周年企画 ケレン　―　主張する色彩　―	H19.4.19～5.3(15 日間)	3,939	263
78	陳		「油画の具」東京藝術大学・ホルベイン工業株式会社　産学共同研究「理想的な油絵具の研究」報告　産学共同開発　藝大ブランド油絵具「油一/YUICHI」発表(27-03-2005)	H19.5.8～5.20(13 日間)	2,297	177
79	陳		《写真》見えるもの／見えないもの	H19.5.29～6.17(18 日間)	9,547	530
80	陳		表層の内側 III　東京―大邱	H19.6.23～6.29(7 日間)	415	59
81	陳		第2回「企業のデザイン展」JR東日本展―“鉄道のデザイン～過去から現代・未来へ～”	H19.7.3～7.17(15 日間)	7,005	467
82	陳		東京藝術大学第二研究室 『素描展』―思索のなかで―	H19.7.22～7.31(10 日間)	2,306	231
83	陳		自画像の証言	H19.8.4～9.17(39 日間)	28,470	730
84	陳		東京藝術大学日本画第一研究室発表展 「ICHIKENTEN」	H19.9.20～9.27(8 日間)	1,159	145
85	正		田中コレクション展	H19.10.4～10.14(5 日間)	1,784	357
86	陳		創作茶席「五色界」展	H19.10.4～10.28(22 日間)	5,468	249
87	陳		「物語の彫刻」展	H19.11.16～12.2(15 日間)	6,020	401
88	正		田中コレクション展	H19.11.16～12.2(8 日間)	2,474	309
89	陳		東京藝術大学退任記念　益子義弘展　―住景―	H19.12.10～12.23(14 日間)	1,813	130
90	陳		国際交流デザイン展	H20.1.10～1.20(10 日間)	833	83
91	陳		陶芸企画展	H20.1.21～1.29(9 日間)	294	33

※参考:(展覧会:過去の催し物)http://www.geidai.ac.jp/museum/exhibit/2008/past2008_ja.htm

資料４５－４　創作茶席「五色界」展

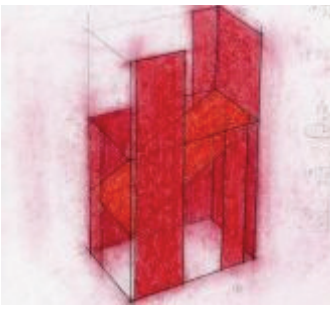
※http://www.geidai.ac.jp/guide/120th_anniv/chaseki_01.html　より

※参考：藝大茶会の詳細 http://www.geidai.ac.jp/guide/120th_anniv/geidaichakai_01.html
http://www.geidai.ac.jp/info/20071112_01.html



青:「零庵(ぜろあん)」(担当:デザイン科教員　尾登　誠一)

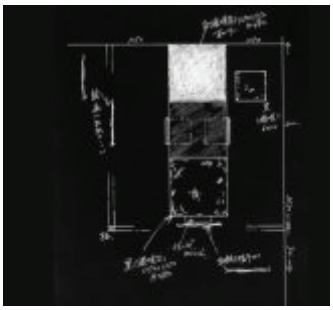
漆黒の宇宙に，青く輝き浮かぶ星…地球，青は漠とした中庸の色彩であり，また水を連想させる生命の色。大海は大地を抱き，地上の緑園には鳥や草花が喜びを詩う。いま，宇宙茶室に居し，ひとの吉兆を念う。風が吹き星に命をはこぶ，宇宙は生命の源なり。虚空宇宙の百条の光は，移ろいゆく生のダイナミズムと静かに同調し，ゼロの世界に精神を浮遊させる。



赤:「赧庵(たんあん)」(担当:工芸科教員　山下　了是)
「赧(たん)」という字は，恥かしくて顔を赤らめる様子を表します。紅(くれない)・緋(あけ)・銀朱(ぎんしゅ)・真朱(しんしゅ)。赤は，生きた血の色です。見る人に活力を感じさせる色です。そして，「赤(あか)」は「明(あか)るい」の語源です。「ワクワク」「ドキドキ」を色にすると，赤になりませんか？それは，赤が人間の体内にある色ですから。

黄:「幸庵(こうあん)」(担当:デザイン科教員　橋本　和幸)
古来より土をあらわす黄は幸運を呼ぶ色といわれている。木が朽ち蓄積され土と成る，再生を繰り返す自然のサイクルは，時として黄金をも生み出す。自然の堆積を思わせる触感を足の裏に感じ，大地に育まれた木々の香りで包まれる中，延々と続く森や山の景色を想起する。膨大な時間をかけて作り出された道具は，我々に余韻と開放，緊張感を同時に与えてくれる。この幾層にも重なる場の一席に臨み，人々は幸福感で満たされる。

白:「石間(いしま)」(担当:彫刻科教員　林　武史)
白い大理石で敷き詰められた不思議な4畳半。鑑賞者は靴を脱ぎ，作品の中に入り込む。静かに足下の石を感じ確かめながらゆっくりと歩く。石の床は不安定で座り心地は良くはないが自らの身体を石の作品の上で感じる。音の床の間，不思議な庭とともに白い茶室で静かなあるひと時を。



黒:「映幻(えいげん)」(担当:絵画科油画教員　小山　穂太郎)
黒は，水の喩えか，見えざるものの喩え，漆喰の黒と光井戸のなかを落ちてくるあかりの反映のなかで，そこには存在しないものに思いを巡らせる場所，絵画の描出の所作と映像のわずかな時間のなかのゆらめきのなかで，幻のような姿とかたちの諸々を黒い質のなかに観て取る場所，黒は風土の喩えともなりえる。

その他の例として，本学では，「東京都立学校 学校設定教科・科目『日本の伝統・文化』の開発」(東京都が進める日本の伝統・文化理解教育推進事業で，高等学校の教育課程において生徒一人一人が国際社会に生きる基礎・基本となる資質や能力を養うことを目的とした新しい科目を設けることとし，本学に開発の委託があったもの。)を平成 17～18 年度に受託研究として，美術分野教員(７名)，音楽分野教員(５名) の連携により実施した。同科目のカリキュラム，指導書，教材集を開発し，平成 19 年度には都立高校での教育支援も実施した。この受託研究は，両学部の連携としてまた，社会への貢献としての顕著な例と言える。

計画１－３「【４６】芸術・科学の枠を超えた創造性と発展性に富む創造研究活動を促進する。」に係る状況

本学の科学研究費，受託研究，共同研究等の研究課題については，デジタル化に関すること，芸術作品の保存・修復に関することを中心に芸術と科学を融合させたテーマが多く採り上げられている(資料４６－１：科学研究費研究課題一覧，資料４６－２:受託研究，共同研究課題一覧)。

資料４６－１：科学研究費研究課題一覧

※途中交代があった場合，代表者所属・氏名は採択初年度のものを記載。
※(数字「27-××-××××」は関連する研究業績説明書の番号)

年度	研究種目	研究代表者所属	氏名	研究課題
14-16	基盤研究(A)	美術学部	松尾　大	芸術における公共性
14-16	基盤研究(B)	音楽学部	土田英三郎	サウンド・アーカイヴの構築に向けての研究
15-16	基盤研究(B)	音楽学部	柘植元一	近現代アジア・オリエント文化圏における音楽伝統の継承と変容（27-07-2001）
15-16	基盤研究(C)	美術学部	伊藤隆道	流体と音響を用いたインタラクティブアートの制作と表現
15-16	基盤研究(C)	美術学部	北郷　悟	彫刻におけるコンピュータによる立体造形の可能性と新たな表現法の研究
15-16	基盤研究(C)	美術学部	佐藤時啓	始原的光学性を活用した体験型高精細多方位カメラの開発と相関芸術表現的運用
15-16	基盤研究(C)	美術学部	宮田亮平	歌舞伎銅鑼の形体と音響心理との関係についての研究
15-17	基盤研究(B)	美術研究科	桐野文良	金属文化財の腐食挙動と新防食法の開発
15-17	基盤研究(C)	美術学部	越川倫明	ティントレットの絵画と同時代出版文化の関係に関する研究(27-02-2007)
16-17	基盤研究(B)	美術学部	越　宏一	星座図像の研究－「アラテア」写本を中心に　(27-01-2005)
16-17	基盤研究(C)	音楽学部	山本文茂	日本の音楽教育学の再構築に関する基礎的研究
16-17	基盤研究(C)	美術学部	北川原　温	空間芸術と情報技術を融合した新たな都市空間の研究　－劇場的道空間の創出－　(27-03-2008)
16-17	特定領域	美術研究科	稲葉政満	ﾗｲﾃﾞﾝ国立民族学博物館所蔵ｼｰﾎﾞﾙﾄ和紙ｺﾚｸｼｮﾝの紙質調査
16-18	基盤研究(B)	美術学部	島田文雄	13 世紀～14 世紀の龍泉窯陶磁技法“青磁大皿”の復元的焼成研究（27-04-2011）
16-18	基盤研究(B)	美術学部	川俣　正	地域精神医療と芸術表現に関する総合的研究
16-18	基盤研究(B)	美術研究科	稲葉政満	アルカリ性紙と酸性紙の接触変色機構の解明
16-19	基盤研究(B)	美術学部	佐藤一郎	東京美術学校西洋画科卒業制作自画像の技法・材料に関する総合的研究（27-04-2008）
17-18	基盤研究(C)	音楽学部	佐野　靖	芸術表現教育に関する基礎的研究：幼・小・中の系統的音楽学習プログラムの開発
17-18	基盤研究(C)	音楽学部	塚原康子	近代日本の音楽家に関する研究
17-18	基盤研究(C)	美術学部	尾登誠一	宇宙茶室2－微小重力空間における“柔”環境デザイン－（27-03-2004）
17-18	基盤研究(C)	美術学部	古川　聖	音楽構造と建築空間の深層における共通構造の知識表現を通した総合表現システムの研究
17-18	基盤研究(C)	美術学部	北郷　悟	彫刻におけるデジタル立体造形の可能性と新たな表現法の研究と応用（27-03-2007）
17-19	基盤研究(B)	音楽学部	大角欣矢	近代日本における音楽専門教育の成立と展開
17-19	基盤研究(B)	美術学部	片山和俊	中国客家民居－遷移と住居形式の変容プロセス
17-19	基盤研究(B)	美術研究科	籔内佐斗司	平等院及び浄瑠璃寺阿弥陀像を中心に3Dデジタルデータによる定朝様式の比較研究（27-03-2006）
17-19	基盤研究(C)	音楽学部	杉本和寛	西沢一風を中心とする，近世前期出版界における作家・作品・書肆の関係性に関する研究
17-19	若手研究(B)	音楽学部	遠藤衣穂	15世紀初期における多声ミサ曲の研究
17-20	基盤研究(B)	音楽学部	土田英三郎	貴重音響資料デジタル化の試み
17-20	基盤研究(B)	美術学部	須賀みほ	天神縁起絵巻・ﾃﾞｼﾞﾀﾙｱｰｶｲﾌﾞによる類本の保存と基礎資料の構築
17-20	基盤研究(B)	美術学部	工藤晴也	世界遺産ガッラ・プラチディア廟モザイク壁画の保存修復調査と修復技法の実証的研究（27-04-2001）
17-20	基盤研究(C)	美術学部	光井　渉	初期書院造の空間構成に関する研究
18-19	基盤研究(B)	美術学部	北川原温	「聴く建築」，音の景相に基づいた新たな空間設計手法の立案に向けた研究
18-19	基盤研究(C)	音楽学部	尾高暁子	中華民国期上海のアマチュア組織活動と音楽消費の実態――国楽生成に焦点をあてて
18-19	特定領域研究	美術研究科	稲葉政満	和紙製造法の技術革新
18-20	基盤研究(B)	音楽学部	植村幸生	芸術系大学における楽器資料の教育資源化
18-20	基盤研究(B)	美術学部	竹内順一	明治期における音楽録音資料・蝋管（ろうかん）の保存体制と公開

				手法の研究
18-20	基盤研究(B)	美術研究科	北田正弘	日本刀のナノ組織を手本にした新しい超鉄鋼材料の開発 (27-04-2005)
18-20	基盤研究(C)	音楽学部	枝川明敬	文化活動が地域の経済的な活性化に及ぼす影響及びその方策に関する研究
18-20	基盤研究(C)	美術学部	越川倫明	ティントレット派素描のカタログ化:英国所蔵作品総目録の作成
18-20	萌芽研究	音楽学部	山下薫子	音・音楽環境と音楽的イメージの発達と相関に関する国際比較
18-20	萌芽研究	美術研究科	北田正弘	文化財のナノ構造分析のための極微量試料採取法の開発 (27-04-2006)
18-21	基盤研究(C)	美術学部	野口昌夫	中・南部トスカーナにおける歴史的小都市と地域の形成に関する研究
19-20	若手研究B)	音楽学部	磯部美和	子供の言語獲得における韻律情報の役割ー日本語・英語のあいまい文を通して
19-21	基盤研究(B)	美術研究科	木島隆康	新たなアフガニスタン壁画保存の展開ー高松塚・キトラ古墳を遡る壁画の保存と修復 (27-04-2004)
19-21	若手研究B)	音楽学部	丸井淳史	ヘッドホンによるサラウンド音楽再生のための仮想空間の開発 (27-08-2001)
19-21	若手研究B)	美術学部	星恵理子	金属元素に起因する日本画用和紙の焼け現象解明と新抑制法の開発
19-22	基盤研究(B)	美術研究科	桐野文良	金属文化財の腐食機構解析に基づく新防食法の開発

資料46－2:受託研究，共同研究課題一覧　※(数字「27-××-××××」は関連する研究業績説明書の番号)

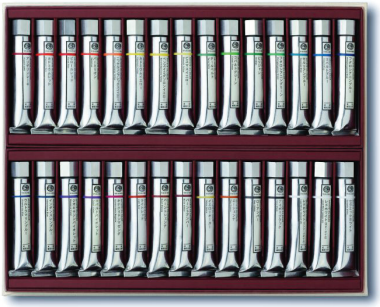
年度	種類	受入部局	研究代表者	研究題目	委託者
16	受託研究	美術学部	木島隆康	高橋由一作「上杉鷹山像」基礎調査研究と修復	独立行政法人国立博物館東京国立博物館
16	受託研究	美術学部	六角鬼丈	芸術・文化を軸とする地域連携の方法について	埼玉県吉川市
16	受託研究	美術学部	松下計	市章のデザイン及び市章使用事例に関する研究	江戸崎町・新利根町・桜川村・東町合併協議会
16	受託研究	美術学部	藤幡正樹	デジタルメディアを基盤とした新しい芸術創造に関する研究	独立行政法人科学技術振興機構
17	受託研究	美術学部	中村政人	日韓学生交流アートプロジェクトの研究	株式会社電通テック
17	受託研究	美術学部	清水泰博	「同愛会」施設の環境デザイン・マニュアルの作成	財団法人同愛会
17	受託研究	美術学部	工藤晴也	壁画によるまちづくり	取手市
17	受託研究	美術学部	宮田亮平	ストリートアートステージプロジェクト	取手市
17	受託研究	美術学部	黒川哲郎	「環境都市」ソウルの風景的都市改造に関する調査研究	財団法人アーバンハウジング
17	受託研究	美術学部	宮田亮平	日枝神社における古江戸，武蔵野の植物画(天井絵)の表現研究と創造	宗教法人日枝神社
17	受託研究	美術学部	長濱雅彦	取手競輪場取手競輪ファン送迎バスラッピングデザイン策定	茨城県自転車競技事務所
17	受託研究	美術学部	六角鬼丈	取手競輪場トータルイメージデザイン策定	茨城県競輪施行者協議会
17	受託研究	美術学部	六角鬼丈	取手“芸術の杜”における芸術・文化展開方策の研究	取手市
17	受託研究	美術学部	六角鬼丈	取手“芸術の杜”における芸術・文化展開方策の研究	株式会社日本設計
17	受託研究	美術学部	藤幡正樹	デジタルメディアを基盤とした新しい芸術創造に関する研究	独立行政法人科学技術振興機構
17	受託研究	美術学部・演奏藝術センター	六角鬼丈	野外空間における舞台芸術の研究ー発光する舞台を用いた現代能の創造ー	東京ガス豊洲開発株式会社
17	受託研究	美術研究科	藪内佐斗司	光照寺地蔵菩薩立像調査研究及び修復	宗教法人光照寺
17	受託研究	美術研究科	清水真一	取手市指定文化財　東漸寺観音堂及び仁王門の修復計画に関する調査研究	宗教法人東漸寺
17	受託研究	美術研究科	清水真一	旧吉田家住宅の調査研究	柏市

17	受託研究	音楽学部	佐野靖	都立高等学校における学校設定教科・科目「日本の伝統・文化（仮称）」のカリキュラムの研究開発委託	東京都教育委員会
18	受託研究	美術学部	松下 計	催事商品群のブランディング	(株)山形屋海苔店
18	受託研究	美術学部	日比野克彦	取手市コミュニティバス運行による地域情報伝達システムの開発研究	三菱ふそうトラック・バス株式会社
18	受託研究	美術研究科	清水真一	旧吉田邸建物の復原整備設計に関する調査研究	柏市
18	受託研究	美術学部	工藤晴也	壁画によるまちづくり	取手市
18	受託研究	美術研究科	薮内佐斗司	浄瑠璃寺灌頂堂大日如来座像保存修復の研究	宗教法人浄瑠璃寺
18	受託研究	美術研究科	清水真一	取手市指定文化財　東漸寺観音堂の解体調査研究	宗教法人東漸寺
18	受託研究	美術研究科	薮内佐斗司	茨城県坂東市西念寺「阿弥陀如来座像」の調査研究及び修復の研究	宗教法人西念寺
18	受託研究	美術研究科	宮廻正明	古典研究をベースにした現代涅槃図の再現研究	宗教法人青松寺
18	受託研究	美術学部	松下 計	寺社仏閣用チタン建材写真のデザイン方法に関する研究	新日本製鐵株式会社
18	受託研究	美術研究科	稲葉　政満	ベンガラ系塗装材の耐光性試験	宗教法人平等院
18	受託研究	美術研究科	木島隆康	陳澄波油画作品三点の調査と修復	陳重光
18	受託研究	美術研究科	木島隆康	中村不折油画作品の調査及び修復	財団法人台東区芸術文化財団
18	受託研究	美術学部	手塚雄二	寛永寺板戸の修復・調査	宗教法人寛永寺
18	受託研究	美術研究科	薮内佐斗司	光照寺地蔵菩薩立像調査研究及び修復	宗教法人常光院
18	受託研究	美術学部	黒川哲郎	「環境都市」ソウルの風景的都市改造に関する調査研究	財団法人アーバンハウジング
18	受託研究	美術学部	宮田亮平	日枝神社における古江戸，武蔵野の植物画（天井絵）の表現研究と創造 (27-04-2010)	宗教法人日枝神社
18	受託研究	音楽学部	畑　瞬一郎	区民への文化芸術に関する影響度等の調査研究委託	足立区教育委員会
18	受託研究	学長	宮田亮平	「日本の伝統・文化」の副教材の研究・開発委託	東京都教育委員会
18	受託研究	映像研究科	桐山孝司	独立行政法人科学技術振興機構の戦略的創造研究推進事業における「物語性を重視するデジタルメディアの制作配信基盤」の実施	独立行政法人科学技術振興機構
18	受託研究	映像研究科	藤幡正樹	デジタルメディアを基盤とした新しい芸術創造に関する研究	独立行政法人科学技術振興機構
19	受託研究	美術学部	大西　博	みなかみ町芸術文化村構想の基本構想策定提案	みなかみ町
19	受託研究	美術学部	箕浦　昇一	荒川区シンボルマークデザイン及びシンボルマーク使用事例に関する研究	荒川区
19	受託研究	美術学部	関　出 梅原　幸雄	絵画用紙の諸相とその発揮について (27-04-2009)	小津産業株式会社
19	受託研究	美術学部	手塚　雄二	国宝「源氏物語絵巻」現状模写（前期） (27-04-2007)	財団法人五島美術館
19	受託研究	美術学部	工藤　晴也	壁画によるまちづくり	取手市
19	受託研究	美術学部	長濱　雅彦	地球温暖化対策としての元気な森作り促進事業「人と環境にやさしい茨城県ベンチプロジェクト」	社団法人茨城県トラック協会
19	受託研究	美術学部	六角　鬼丈	歴史的建造物の保存・再生に関する事前調査	社団法人　日本住宅建設産業協会
19	受託研究	美術学部	三田村純一	世界の漆樹に関する比較研究	加賀市
19	受託研究	美術学部	三田村純一	世界の漆樹に関する比較研究	加賀市
19	受託研究	美術学部	片山　和俊	「COCOLABO（ココラボ）2007「1.5 階」の家。」	株式会社ｺｽﾓｽｲﾆｼｱ
19	受託研究	美術学部	六角　鬼丈	取手けいりんサイクルアートプロジェクトサードステージ	茨城県自転車競技事務所
19	受託研究	美術学部	尾登　誠一	安全安心の掲示板モデル色彩デザインに関する研究委託	台東区
19	受託研究	美術学部	宮田　亮平	日枝神社における古江戸，武蔵野の植物画（天井絵）の表現研究と創造 (27-04-2010)	宗教法人日枝神社

19	受託研究	美術学部	手塚　雄二	寛永寺板戸の修復，調査	宗教法人寛永寺
19	受託研究	美術研究科	上野　勝久	倉吉市打吹玉川地区の伝統的建造物群に関する調査研究	倉吉市
19	受託研究	美術研究科	上野　勝久	加賀市東谷地区の伝統的建造物群に関する調査研究	加賀市
19	受託研究	美術研究科	上野　勝久	取手市指定文化財　東漸寺観音堂の解体調査研究	宗教法人東漸寺
19	受託研究	美術研究科	籔内　佐斗司	茨城県取手市東漸寺「木造馬頭観音立像」の調査研究及び修復研究	宗教法人東漸寺
19	受託研究	美術研究科	籔内　佐斗司	茨城県取手市長禅寺「十一面観音立像（一木造り）」および「十一面観音立像（漆箔像）」の調査研究および修復研究	宗教法人長禅寺
19	受託研究	美術研究科	籔内　佐斗司	東京都文京区江戸千家「千利休坐像」および「千利休立像」の調査研究および修復研究	江戸千家宗家十世家元　川上不白
19	受託研究	美術学部	尾登　誠一	足立区千住地区・回遊性のある街区実現のための環境デザイン調査及び計画提案	足立区　政策経営部長
19	受託研究	美術研究科	籔内　佐斗司	小西大閑堂所蔵の木造阿弥陀如来坐像，木造阿弥陀如来立像（小），木造阿弥陀如来立像（大），木造文殊菩薩坐像　調査研究および修復研究	小西大閑堂
19	受託研究	美術研究科	木島　隆	望月　桂　油画作品 15 点の調査と修復	望月明美
19	受託研究	美術学部	片山　和俊	台東区谷中地区　街路・景観デザイン計画	台東区
19	受託研究	美術研究科	籔内　佐斗司	茨城県桜川市小山寺「薬師如来立像」の調査研究および修復研究	天台宗小山寺
19	受託研究	美術研究科	田渕俊夫	消失した重要文化財大徳寺方丈障壁画狩野探幽筆「猿曳図」の再現模写	宗教法人　大徳寺
19	受託研究	美術研究科	稲葉　政満	ベンガラ系塗装材の耐光性試験	宗教法人平等院
19	受託研究	美術研究科	木島　隆康	陳澄波油画作品三点の調査と修復	陳重光
19	受託研究	美術研究科	木島　隆康	伊藤康「海景」の調査と修復	愛知県公立学校法人
19	受託研究	美術研究科	菅野　健一	山口産業（株）社屋外壁全体サイン化（デザイン）による景観的役割	山口産業（株）
19	受託研究	音楽学部	西岡　龍彦	店舗空間における音楽とその音響効果に関する研究(27-08-2003)	株式会社ハーフノート
19	受託研究	音楽学部	熊倉　純子	台東区芸術支援施設の運営モデルに関する研究(27-01-2010)	台東区
19	受託研究	音楽学部	畑　瞬一郎	足立区における多層的文化芸術環境の創造に関する調査研究(27-01-2011)	足立区教育委員会
19	受託研究	映像研究科	藤幡　正樹	デジタルメディアを基盤とした新しい芸術創造に関する研究(27-09-2001)	独立行政法人科学技術振興機構
19	受託研究	映像研究科	桐山　孝司	物語性を重視するデジタルメディアの制作配信基盤	独立行政法人科学技術振興機構
16	共同研究	美術学部	佐藤一郎	理想的な油絵具の研究(27-03-2005)	ホルベイン工業株式会社
17	共同研究	美術学部	佐藤一郎	理想的な油絵具の研究(27-03-2005)	ホルベイン工業株式会社
18	共同研究	美術学部	佐藤一郎	理想的な油絵具の研究(27-03-2005)	ホルベイン工業株式会社
18	共同研究	音楽学部	迫　昭嘉	ピアノアクションの演奏性についての研究	株式会社河合楽器製作所
18	共同研究	美術研究科	清水真一	台東区上野・谷中地区の歴史を活かしたまちづくりに関する調査研究	特定非営利活動法人たいとう歴史都市研究会
18	共同研究	美術学部	片山和俊	谷中地区まちづくりデザイン指針調査研究	社団法人日本交通計画協会
19	共同研究	音楽学部	亀川　徹	次世代サラウンド再生の研究(27-08-2002)	パイオニア株式会社技術戦略部
19	共同研究	音楽学部	迫　昭嘉	ピアノアクションの演奏性についての研究	株式会社河合楽器製作所
19	共同研究	映像研究科	桂　英史	全天周と極小領域映像を扱うための入出力機器の研究開発	独立行政法人科学技術振興機構

特に平成 18 年度まで５年間にわたって行った「理想的な油絵具の研究」（油画技法・材料研究室とホルベイン工業株式会社との共同研究）では，既存の油絵具の物性を画家の立場と自然科学的立場から調査研究し，理想的な油絵具「油一/YUICHI」を開発し，芸大ブランドの産学協同開発品として発売した（資料４６－３：「油一/YUICHI」参照）。

資料４６－３：「油一/YUICHI」（平成 19 年５月発売）



※参考：研究業績説明書　27-03-2005
http://www.geidai.ac.jp/museum/exhibit/2007/yuichi/yuichi_ja.htm
http://www.geidai.ac.jp/info/20080522_01.html

また，例えば本学美術学部デザイン科の「嗅覚ディスプレイを用いた香る料理体験コンテンツ」研究では，東京工業大学と共同で「匂（にお）いのデザイン」の研究では，東京工業大学が開発したインターネットなどで匂いをデジタル情報として送るための装置を利用し，「匂いには色があるのだろうか？」とか，「名作アニメに匂いをつけ，各場面の印象度がどう変化するか？」といった研究を皮切りに，画面上でカレーライス作りができる料理体験コンテンツを作成した。映像をデザイン科が担当し，音声は音楽学部音楽環境創造科学生の協力を得て作成し，工学，美術，音楽が連携した成果となっている（資料４６－４：「嗅覚ディスプレイを用いた香る料理体験コンテンツ」参照）。

資料４６－４：「嗅覚ディスプレイを用いた香る料理体験コンテンツ」

※参考：研究業績説明書　27-03-2001

計画１－４「【４７】国際的な芸術交流の拠点として，世界各国との人材・情報交流を促進する。」に係る状況

大項目１の中項目１の計画１－４（【４】）(P. 11)及び資料４－２(P. 12-15)に記載のとおり，国際交流展や交流演奏会を初めとする様々な国際交流活動を行っている。

特に平成 19 年度には，創立 120 周年を記念して，「藝大アーツ・サミット」を開催し，日中韓の 11 大学の学長が，「東アジアから藝術を世界に」をテーマに，今後の芸術及び芸術教育の方向性について意見交換を行い，共通のメッセージとして『藝術宣言』を取りまとめて，署

名し，世界に向けて発信したことが特筆される(資料４７－１：藝術宣言　参照)。

また，この宣言の具現化に向けたフォローアップとして，平成 20 年度より「アジア藝術宣言プロジェクトー世界トップレベルの芸術系大学院の形成ー」を開始することとした。本プロジェクトは，これまで培ってきた本学とアジアの諸芸術系大学との交流や留学生受け入れの実績をアジア芸術振興のための高度研究交流事業，アジアの芸術系大学生のための東京芸術大学サマースクール事業などを展開し，本学に国内外の優れた学生，研究者が集い，芸術創造活動を行うことで，本学がアジアの芸術人材育成事業の拠点として機能していくことを目指したものである。

資料47－1:藝術宣言

『藝術宣言』

東アジアの悠久の歴史の中で，
私たちは多くの文化交流を重ねて来た。
現在，日本，中国，韓国を代表する藝術大学は，
それぞれが自国の伝統的な藝術を尊重したうえで，
新しい藝術を創出し，世界に向けて発信している。
ここに集った十一の藝術大学は，
お互いの藝術の展望について話し合い，
藝術こそが人間性を豊かにし，
藝術文化の交流こそが平和で豊かな国際社会の構築に
大きく寄与することを確認した。
このような認識に立ち，私たち十一の藝術大学は，
国を越えて協力し，次世代の優れた藝術家を育成し，
世界の藝術の発展に貢献していくことについて，
ここに合意し宣言する。

【参加大学】中央美術学院，中央音楽学院，
清華大学美術学院，上海音楽学院，中国美術学院，
新疆藝術学院(以上，中国)
ソウル大学校美術大学，ソウル大学校音楽大学，
韓国藝術綜合学校，大邱大学校造形藝術大学
(以上，韓国)
東京藝術大学

※参考: http://www.geidai.ac.jp/info/071005_01.html

また，例えば「ハイドン共同研究プロジェクト」(資料４－２の No.15(P.15))は，本学音楽学部器楽科(室内楽)とウィーン音楽演劇大学がこれまで行ってきたハイドンの室内楽研究(作品分析と演奏解釈及び室内楽レッスンの指導方法についての共同研究，演奏会)の成果を学外に広く発表するために，平成 19 年度秋から３年間に亘って“Haydn Total”というタイトルでハイドンの弦楽四重奏曲全 68 曲の CD 録音を行おうとするもので，国際的な交流というだけでなく，社会への発信の両面での意義が高いものとなっている。

資料４７－２　ハイドン共同研究プロジェクト　関連演奏会

第２夜　11 月３日（土・祝） 弦楽四重奏曲全曲演奏シリーズ	
J.ハイドン	弦楽四重奏曲　ハ長調　Hob.Ⅲ-19 ト長調　Hob.Ⅲ-41
演奏	クァルテット・クライゼル(本学大学院修了生)
J.ハイドン	弦楽四重奏曲　ホ長調　Hob.Ⅲ-25 変ホ長調　Hob.Ⅲ-38
演奏	クァルテット・アルモニコ(本学大学院修了生)

b)「小項目１」の達成状況

(達成状況の判断)　目標の達成状況が良好である

（判断理由）　教員のそれぞれの志向による活発な芸術表現活動の実施状況（計画１－１（【４４】）（P.65）参照），組織的な芸術表現活動の実施状況（計画１－２（【４５】）（P.65-73）参照），他分野との発展的な協力（計画１－２（【４５】）（P.65-73），計画１－３（【４６】）（P.73-78）参照），国際的な活動の広がり（計画１－４（【４７】）（P.78-79）参照）からみて，本学が世界，特にアジアにおける芸術研究拠点を目指すという目標に明確に向かっていると判断できる。

○小項目２「２．国内外における芸術文化振興，社会貢献の拠点としての活動を促進する。」の分析

a）関連する中期計画の分析

計画２－１「【４８】大学美術館，奏楽堂＝演奏芸術センターを活用した展示，演奏企画を促進する。」に係る状況

小項目１の計画１－２（【４５】）の資料４５－１，４５－３（P.65-72）及び下記の資料４８－１「奏楽堂での定期演奏会等（H16-19）」のとおり，大学美術館及び奏楽堂において，各種の展示，演奏会及び関連企画を実施している。資料の展覧会名等のリストから分かるように，本学の大学美術館，奏楽堂における展示や演奏会の企画内容は，特定のジャンルに偏ることなく多様性がある。（展覧会にあっては，絵画，彫刻，工芸，デザイン，建築，写真など。演奏会にあっては，洋楽（オペラ，オーケストラ，アンサンブル，リサイタル，現代音楽，古楽など），邦楽など）これは，本学には美術，音楽の諸分野をカバーする教員が所属していることに由来しており，大きな特徴と言える。また，演奏会にあっては，その出演者のほとんどを教員，学生，卒業生でアレンジできるという点も一般の他の演奏団体にはない特徴と言える。

特に，奏楽堂は大項目１の中項目２の計画３－１（【１８】）の資料１８－１（P.42-43）にも示したとおり，授業及び学生・教員の練習の用にも供しており，その活用については教育研究面での必要を考慮しながら行う必要があるという状況を勘案すると，演奏芸術センター及び音楽学部・音楽研究科が，計画１－２（【４５】）の資料４５－１（P.65-69）に示したような各種の演奏企画を展開していることは，特筆に値する。

資料48－1　奏楽堂での定期演奏会等(H16-19)

※下記は資料４５－１に記載のもの以外に奏楽堂で行った演奏会等である。ただし，モーニングコンサート（年 12～13 回），卒業演奏・修了演奏，博士リサイタルなどの試験の公開や学内演奏会（計年 50～60 回程度），藝術祭での学生の公演が行われているが割愛した。また，外部主催公演は除いた。

No	演　奏　会　等　名	年月日		開演時間	終了時間	入場者合計
1	同声会新人演奏会　第 1 回	H16.4.23	金	18:30	20:45	367
2	同声会新人演奏会　第 2 回	H16.4.24	土	14:00	16:00	367
3	同声会新人演奏会　第 3 回	H16.4.24	土	18:30	20:45	350
4	藝大定期邦楽第 68 回	H16.6.1	火	18:30	21:20	902
5	藝大定期オーケストラ第 308 回　新卒業生紹介演奏会	H16.6.18	金	18:30	21:05	661
6	藝大定期オーケストラ第 309 回	H16.6.25	金	19:00	21:10	988
7	藝大チェンバー･オーケストラ第 3 回定期演奏会	H16.6.26	土	17:00	18:36	292
8	藝大定期オペラ第 50 回　第 1 日	H16.10.9	土	18:45	22:00	291
9	藝大定期オペラ第 50 回　第 2 日	H16.10.10	日	14:00	17:15	836
10	藝大定期オーケストラ　第 310 回	H16.10.23	土	17:05	19:20	647
11	音楽学部附属音楽高等学校「第16回　定期演奏会」	H16.11.6	土	15:00	17:00	776
12	藝大定期吹奏楽第 70 回	H16.11.8	月	18:30	20:30	615
13	藝大定期合唱･オーケストラ第 311 回	H16.11.19	金	19:00	21:05	679
14	藝大定期オーケストラ第 312 回～学生オーケストラ演奏会～	H16.11.26	金	18:30	20:50	709
15	藝大定期邦楽第 69 回	H16.11.30	火	18:00	21:15	1,073
16	台東区立御徒町台東中学校第 4 回奏楽堂演奏会	H16.12.23	木	14:00	16:25	950
17	山本邦山　尺八の世界（山本泰正教授退職記念演奏会）	H17.1.22	土	17:00	18:55	1,096
18	藝大定期室内楽第 31 回　第 1 日	H17.2.9	水	18:30	20:55	473

19	藝大定期室内楽第 31 回　第 2 日	H17.2.10	木	18:30	21:00	407
20	藝大チェンバー・オーケストラ第 4 回定期演奏会	H17.2.18	金	19:00	20:50	414
21	同声会新人演奏会　第 1 回	H17.4.22	金	18:30	21:00	392
22	同声会新人演奏会　第 2 回　（昼の部）	H17.4.23	土	14:00	16:15	314
23	同声会新人演奏会　第 3 回　（夜の部）	H17.4.23	土	18:30	20:55	145
24	藝大フィル特別演奏会「ゲルハルト・ボッセ先生を迎えて」	H17.4.28	木	19:00	21:10	511
25	文化財保存修復学会第 27 回大会　第 1 日	H17.5.14	土	10:00	17:40	900
26	文化財保存修復学会第 27 回大会　第 2 日	H17.5.15	日	10:00	15:50	900
27	邦楽定期演奏会　第 70 回	H17.5.31	火	18:30	21:20	811
28	藝大フィルハーモニア定期　第 313 回　新卒業生紹介演奏会	H17.6.17	金	18:30	21:25	685
29	東京藝大チェンバーオーケストラ第 5 回定期演奏会	H17.6.25	土	15:00	16:50	325
30	地中美術館 1 周年記念関連イベント(美術学部特別講演会)	H17.7.14	木	17:40	20:55	485
31	藝大オペラ定期第 51 回	H17.10.9	日	14:00	16:45	850
32	藝大オペラ定期第 51 回	H17.10.10	月	14:00	16:45	840
33	藝大フィルハーモニア定期　第 315 回	H17.10.21	金	19:00	20:55	559
34	附属音楽高等学校第 17 回定期演奏会	H17.10.27	木	18:30	21:15	939
35	東京藝術大学音楽学部・韓国藝術綜合学校音楽院「友好交流学生オーケストラ演奏会」	H17.10.28	金	19:00	21:10	カウントせず
36	藝大フィルハーモニア・合唱定期　第 316 回	H17.11.18	金	18:35	20:45	708
37	藝大学生オーケストラ定期　第 317 回	H17.11.25	金	18:30	20:10	1,103
38	藝大定期吹奏楽　第 71 回	H17.11.30	水	18:30	20:40	774
39	邦楽定期演奏会　第 71 回	H17.12.6	火	18:00	20:45	868
40	第 5 回奏楽堂演奏会～御徒町台東中と芸大による～	H17.12.23	金	14:00	16:00	850
41	創造の今日と未来　1227雪	H17.12.27	火	18:30	20:15	181
42	藝大定期室内楽第 32 回　第 1 夜	H18.2.9	木	18:30	20:45	416
43	藝大定期室内楽第 32 回　第 2 夜	H18.2.10	金	18:30	21:00	467
44	東京藝大チェンバーオーケストラ　第 6 回定期演奏会	H18.2.17	金	19:00	20:50	424
45	第一回東京藝術大学奏楽堂企画学内募集　最優秀企画 中島敦　原作　山月記　～光と音の無言劇～	H18.3.19	日	19:00	20:45	717
46	三林輝夫テノールリサイタル（退職記念演奏会）	H18.3.21	火	15:00	17:10	924
47	同声会新人演奏会　第 1 回	H18.4.23	日	14:00	16:00	471
48	同声会新人演奏会　第 2 回	H18.4.23	日	18:00	21:00	575
49	藝大定期邦楽　第 72 回	H18.5.30	火	18:00	21:30	678
50	藝大フィル定期第 318 回　新卒業生紹介演奏会	H18.6.16	金	18:30	20:45	690
51	東京藝大チェンバーオケ第 7 回定期演奏会	H18.7.3	月	19:00	20:55	462
52	東京藝大チェンバーオーケストラヨーロッパ公演特別演奏会	H18.9.19	火	19:00	20:35	688
53	オペラ定期第 52 回「セヴィリャの理髪師」第 1 日	H18.10.8	日	14:00	17:10	767
54	オペラ定期第 52 回「セヴィリャの理髪師」第 2 日	H18.10.9	月	14:00	17:15	771
55	東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校定期演奏会	H18.10.20	金	18:30	21:20	1,140
56	ロジェストヴェンスキー　学生オーケストラ特別演奏会	H18.10.17	火	19:00	20:32	602
57	藝大フィル定期第 320 回　ショスタコーヴィチ生誕 100 年	H18.10.21	土	17:00	18:55	666
58	藝大定期吹奏楽　第 72 回	H18.11.28	火	18:30	20:30	391
59	藝大学生オケ定期（藝大定期オケ第 322 回）	H18.12.1	金	19:00	20:55	1,072
60	藝大邦楽定期　第 73 回	H18.12.5	火	18:00	20:40	557
61	平井丈二郎先生退任記念演奏会	H19.1.9	火	15:00	16:15	790
62	藝大定期室内楽第 33 回　第 1 夜	H19.2.8	木	18:30	20:45	450

63	藝大定期室内楽第 33 回 第 2 夜	H19.2.9	金	18:30	21:00	384
64	東京藝大チェンバーオケ第 8 回定期演奏会	H19.2.16	金	19:00	21:07	583
65	第2回奏楽堂企画学内募集演奏会　《想像作曲法》伊東光介の世界	H19.3.17	土	15:00	17:00	383
66	村井祐児先生退任記念演奏会	H19.3.18	日	15:00	17:30	925
67	廣野嗣雄先生退任記念演奏会	H19.3.20	火	18:00	20:10	800
68	奏楽堂トーク＆コンサート　学長と語ろう	H19.4.14	土	15:00	17:05	662
69	東京藝大附属音楽高校オーケストラパリ公演記念特別演奏会	H19.4.15	日	14:30	16:15	734
70	同声会新人演奏会　第1回	H19.4.21	土	13:00	15:57	408
71	同声会新人演奏会　第2回			18:00	21:15	556
72	藝大フィルハーモニア定期第323回　新卒業生紹介演奏会	H19.4.26	木	18:30	21:25	721
73	邦楽定期演奏会　第74回	H19.5.29	火	18:30	20:59	956
74	東京藝大チェンバーオーケストラ第9回定期演奏会	H19.6.30	土	15:00	16:57	587
75	舞の饗宴	H19.10.4	木	15:00	17:30	520
76	岡倉天心シンポジウム	H19.10.5	金	15:00	18:30	558
77	藝大オペラ定期第53回　第1日	H19.10.13	土	14:00	16:31	787
78	藝大オペラ定期第53回　第2日	H19.10.14	日	14:00	16:28	815
79	奏楽堂トーク＆コンサート2　学長と語ろう	H19.10.27	土	15:00	17:03	743
80	芸高定期演奏会	H19.11.2	金	18:30	21:26	1,008
81	藝大フィルハーモニア　合唱定期第326回	H19.11.23	金	17:00	19:07	1,091
82	「芸術と教育 2007」シンポジウム	H19.11.25	日	10:00	－	－
83	藝大定期吹奏楽　第73回	H19.11.28	水	19:00	21:07	468
84	藝大学生オーケストラ定期（藝大定期第327回）	H19.11.30	金	19:00	20:47	577
85	御徒町台東中学校演奏会	H19.12.22	土	15:00		723
86	藝大定期室内楽第33回　第1夜	H20.2.7	木	18:30	21:40	412
87	藝大定期室内楽第33回　第2夜	H20.2.8	金	18:30	21:15	451
88	東京藝大チェンバーオーケストラ第10回定期演奏会	H20.2.15	金	19:00	21:00	694
89	野田暉行先生退任コンサート	H20.2.19	火	19:00	21:00	488
90	第3回奏楽堂企画学内公募演奏会「国撃タレテ響キ在リ」	H20.3.15	土	15:00	16:56	569
91	浦川宜也先生退任コンサート	H20.3.19	水	19:00	21:15	891

※参考:(演奏会一覧) http://www.geidai.ac.jp/facilities/sogakudou/info/index.html

計画２－２「【４９】様々な企画を推進し，研究成果を他の機関と協力しながら社会に発信する。」に係る状況

本学では，大項目１の中項目１の計画１－４（【４】）(P.11-22)，大項目２の中項目１の計画１－２（【４５】）(P.65-73)，計画１－３（【４６】）(P.73-78)，計画１－４（【４７】）(P.78-79)，計画２－１（【４８】）(P.80-82)に記載のとおり，様々な企画を実施している。これらの企画の実施にあたっては，様々な外部の組織・機関と協力している。

資料４５－３(P.70-72)に記載の本学大学美術館での展覧会の中から例を挙げれば，「エルンスト・バルラハ展」(P.71，No.49)は，エルンスト・バルラハ・ハウス，エルンスト・バルラハ財団との連携協力し，ドイツ表現主義を代表する彫刻家の世界で初めての大規模な日独共同プロジェクトによる回顧展として行ったものであったり，「ルーヴル美術館展」(P.71，No.51)は，ルーヴル美術館との連携協力の下に同美術館所蔵の古代ギリシア美術及びその模刻を通じて，紀元前 5 世紀及び 4 世紀のアテネを中心とするギリシア古典期の人々の日常生活から精神世界までを，可能な限り今日の日本において考察する試みで，この２つの展覧会ともに，日独，日仏バイリンガルのカタログを編集し，両国の複数の研究者が対等の立場から論文を執筆・掲載したことなどが特筆される。また，ドイツのバウハウス大学との国際交流プロジェクトの成果を発表した「Rosa!あらわになる色」(P.71，No.44)をはじめとする各

国の芸術系大学との国際交流展(P.70-72,No.11,16,26,31,32,60,64,90)，ホルベイン株式会社との共同研究成果を発表した「理想的な油絵の具の研究」(P.72，No.78)，NHK の特集番組ともなった「自画像の証言」展(P.72，No.83)など，多くの企画が他の機関との共同で行われている。さらに，協賛，助成，出品協力などといった面からも他機関との協力は不可欠となっている。奏楽堂で実施している演奏会についても同様で，共演，招聘，指導協力などだけでなく，協賛，助成などといった面からも他機関と協力により行っている。

さらに携帯電話による映像表現の発展を目指し，日本初の携帯電話を撮影機材とした映画祭である「ポケットフィルム・フェスティバル」では，海外の機関との連携だけでなく，ソフトバンク，シャープといった企業との産学連携の取組となっていることも特筆される。

資料４９－１　ポケットフィルムフスティバル

※http://www.pocketfilms.jp/2007/ja/　より

計画２－３「【５０】研究成果を多様なメディアを通して社会へ発信するために有効な組織を策定する。」に係る状況

本学の教育研究成果を社会に発信する最も大きな場として，従来から「大学美術館」及び「奏楽堂」を有し，それぞれその企画，運営等を行う組織として「大学美術館」と「演奏芸術センター」がある。

これらの施設を活用した直接的な発信は，展覧会や演奏会の開催中だけとなってしまうが，本学が企画開発した作品や，本学の教員等が創作した作品等の教育研究成果を，社会に対して積極的に常に発信できる場として，また，文化芸術を身近なものにして，心豊かな生活や活力ある社会の実現に寄与するために，平成 17 年 11 月に「藝大アートプラザ」を設立した。同プラザでは，教員が制作した作品，本学が企画開発した作品(教員のデザインによるＴシャツ，ネクタイ，アクセサリーなど)，展覧会の図録及び教員の著作，作品集，ＣＤ，ＤＶＤなど，奏楽堂で開催する演奏会チケットを展示・販売している(資料５０－１：藝大アートプラザについて　参照)。

また平成 19 年８月には，藝術・学術関連図書等，教科書及び啓蒙書の刊行・頒布を主たる事業として行い，本学の研究とその成果の発表を助成するとともに，我が国の芸術・学術・教育・文化の振興・発展に寄与するための組織として，東京藝術大学出版会を設立した。平成 19 年度末までに，美術学部著の「藝大素述－美術学部の教育現場から－」，文化財保存学保存修復日本画研究室著「日本絵画の謎を解く－東京藝術大学文化財保存学日本画博士の研究」，大学院映像研究科制作「東京藝術大学大学院映像研究科　第一期生修了制作作品集 2007」(DVD)，音楽学部邦楽科制作「新曲『浦島』」(DVD)を刊行している(資料５０－２:東京藝術大学出版会について　参照)。

資料５０－１　藝大アートプラザについて

①規則

○ 東京芸術大学藝大アートプラザ規則(平成17年11月17日制定)抜粋

（ 趣旨）

第１ 条この規則は，東京芸術大学学則第22条の規定に基づき，東京芸術大学藝大アートプラザ（ 以下「プラザ」という。)の目的その他必要な事項について定める。

（ 目的）

第２ 条プラザは，本学が企画開発した作品等並びに本学の教職員，学生及び本学の卒業生が創作した作品等を社会に対して積極的に発信することにより，本学の教育研究成果を広く一般に提供するとともに，文化芸術を社会の身近なものとし，もって心豊かな生活や活力ある社会の実現に寄与することを目的とする。

（ 業務）

第３ 条プラザは，次の各号に掲げる業務を行う。

（ １ ） 本学が企画開発した作品等並びに本学の教職員及び学生が創作した作品等を展示及び頒布すること。

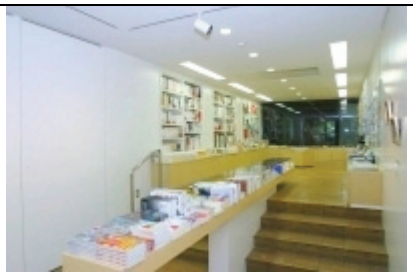
（ ２ ） 本学の卒業生が創作した作品等を展示及び頒布すること。

（ ３ ） 芸術教育に関し有用な資料を展示及び頒布すること。

（ ４ ） その他プラザの目的を達成するための業務に関すること。

（以下略）

②藝大アートプラザの様子



資料５０－２　東京藝術大学出版会について

①規則

○東京芸術大学出版会細則(平成19年７月23日制定)抜粋

（趣旨）

第１条　この細則は，東京芸術大学理事室規則第６条の規定に基づき，東京芸術大学出版局（以下「出版局」という。)の出版に関する組織及び運営について定めるものとする。

（名称）

第２条　前条における出版に関する組織名称は，東京芸術大学出版会（「東京藝術大学出版会」と称する。以下「出版会」という。)とする。

（目的）

第３条　出版会は，芸術，学術関連図書等及び教科書の刊行，頒布を主たる事業とし，本学の研究とその成果の発表を助成するとともに，芸術，学術，教育，文化の振興，発展に寄与することを目的とする。

（業務）

第４条　出版会は，次の各号に掲げる業務を行う。

（１）出版会の年間事業に関すること。

（２）出版会の運営に関すること。

（３）出版会の財務に関すること。

（４）出版会の広報に関すること。

（５）その他出版会の管理運営に関すること。

２　出版会は，毎月又は必要に応じ，前項に掲げる各業務について，出版局に報告しなければならない。

（以下略）

②平成１９年度中に刊行された出版物

※(東京芸術大学出版会 web サイト)http://www.geidai.ac.jp/facilities/press/index.html

b)「小項目２」の達成状況

（達成状況の判断）　目標の達成状況が良好である

（判断理由）　本学の専門である芸術の諸分野は，いずれも社会との接点を持ってこそ成り立つものである。作品や演奏は，それを観たり聴いたり感じたりする他者を必要とするため，本学の教育研究の成果については，社会へ発信していくことを常に念頭に置いておかねばならない。ゆえに，本学では，例えば大項目１の中項目１の計画１－４（【４】）の資料４－２，４－３(P.12-22)，計画１－７（【７】）の資料７－１，７－２，７－３(P.25-33)，大項目２の中項目１の計画１－２（【４５】）の資料４５－１，４５－３(P.65-72)，計画２－１（【４８】）の資料４８－１(P.80-82)などのとおり，大学美術館及び奏楽堂などの学内又は学外において，各種の展示，演奏会及び関連企画やイベント等を実施して「本学から社会に向けた芸術文化の発信」を行っているが，これらの学内外における様々な芸術文化の発信という行為は，どこまでが「教育」，どこまでが「研究」，どこまでが「社会貢献」という明確な区別がなく，その全てを含んだ行為ということができる。

これらの大学としての展示等の実施状況やその企画内容，教員の個人としての活動の状況(計画１－１（【４４】）(P.65)参照)，藝大アートプラザ，東京藝術大学出版会といった本学として新しい発信メディアを創設したことなどからみて，芸術文化振興，社会貢献の拠点としての役割を十分達成していると考えられる。

②中項目１の達成状況

（達成状況の判断）　目標の達成状況が良好である

（判断理由）　教員のそれぞれの志向による活発な芸術表現活動の実施状況(計画１－１（【４４】）(P.65)参照)，組織的な芸術表現活動の実施状況(計画１－２（【４５】）(P.65-73)参照)，他分野との発展的な協力(計画１－２（【４５】）(P.65-73)，計画１－３（【４６】）(P.73-78)参照)，国際的な活動の広がり(計画１－４（【４７】）(P.78-79)参照)からみて，本学が世界，特にアジアにおける芸術研究拠点を目指すという目標に明確に向かっていると判断でき，かつ，別添資料２(新聞記事)に現れているとおり，本学への社会からの高い評価と関心が示されていることから，良好とした。

③優れた点及び改善を要する点等

（優れた点）

大学美術館及び奏楽堂での展覧会，演奏会等をはじめ，学内外において，様々な企画を行い，研究成果を発表し，本学が芸術文化の拠点として，機能していること。

（改善を要する点）

特になし

（特色ある点）

藝大アートプラザ，東京藝術大学出版会といった本学として新しい発信メディアを創設したこと。

（２）中項目２「研究実施体制等の整備に関する目標」の達成状況分析

①小項目の分析

○小項目１「個人研究，共同研究，各種プロジェクト等，研究内容に即した研究実施体制・研究環境の整備を図る。」の分析

a)関連する中期計画の分析

計画１－１「【５１】全学的な視点から重点的に推進すべき教育研究を審議する体制を整備するとともに，それに従って，学内における予算配分を公正かつ効率的に配分する。」に係る状況

本学では，円滑な大学運営を行うために理事を補佐する理事室を置いている。各理事室ではそれぞれ所掌している事項に関する企画立案及びその実施並びに推進に関することがその任務とされており，教育については教育推進室，研究については研究推進室がその任務としてい

る(資料３０－１：理事室規則(P.54-55)　参照)。

学長裁量経費については，毎年１億円の予算を確保して，全学的な視点から，(1)教育研究内容・体制の改善充実や国際交流の推進など，大学改革の取組や特色ある大学づくりを目的としたプロジェクトへの優先的な配分を行う『教育研究改革・改善プロジェクト経費』と(2)教育上必要な設備の陳腐化対応，先端設備の導入により，設備の充実を図るものへ優先的な配分を行う『教育基盤設備充実経費』に分けて公募を行っている。

また，(1)については，Ａ．学内公募プロジェクト（本学にとって重要と考えられる課題に関する調査研究プロジェクトを公募するもの)，Ｂ．学長発信プロジェクト（学長が設定したテーマについて，そのプロジェクト研究を公募するもの)，Ｃ．学長プロジェクト（学長の判断により特定の研究課題についてのプロジェクトチームメンバーを公募するもの)に分けて公募している。これらの応募にあたっては，教育推進室，研究推進室において，当該応募案件の企画や各学部等の企画の推薦など，を行っている(主な採択プロジェクトは資料５１－１のとおり）。

資料５１－１　学長裁量経費『教育研究改革・改善プロジェクト経費』の主な採択課題

(16～18年度Ａ)	徳川源氏物語絵巻の研究
(16～17年度Ｂ)	本学における外部資金導入方法の研究
(17～18年度Ｂ)	本学における知的財産戦略に関する研究
(17年度Ｂ)	リサーチセンターに関する調査研究
(17～19年度Ｂ)	世界遺産高句麗古墳壁画の超高品位ディジタルアーカイブ構築と復元のための基礎的実験
(16～17年度Ｃ)	地方公共団体と連携して行う芸術家村の在り方検討プロジェクト
(18～19年度Ｃ)	地方公共団体と連携して行う学外拠点形成検討プロジェクト
(16～19年度Ｃ)	児童生徒を対象とした早期英才教育の在り方検討プロジェクト
(18年度Ａ)	芸術と教育-美術学部の現在-
(19年度Ａ)	裸の俑（漢陽陵彩俑）研究プロジェクト
(19年度Ａ)	東京藝術大学の収蔵品の３Ｄデータの活用研究と応用
など	

これらの研究やプロジェクトで得た具体的な成果としては，例えば，「地方公共団体と連携して行う芸術家村の在り方検討プロジェクト」が「地方公共団体と連携して行う学外拠点形成検討プロジェクト」へと発展し，平成19年12月に「井野アーティストヴィレッジ」開設を実現させたことなどがあげられる。この「井野アーティストヴィレッジ」は，取手市と本学が連携して，独立行政法人都市再生機構（ＵＲ都市機構）の協力により，茨城県取手市井野団地内にあるショッピングセンター一棟を改修して，若い芸術家のための共同アトリエとして，運営するもので，本学卒業生らの意欲ある若手アーティストに割安な条件で共同の制作場所を提供することにより，創作活動を支援するとともに，作家相互の交流を促進し，また地域住民との交流を通して地域の文化的活性化を図っていくことを目的としている。

資料５１－２　井野アーティストビレッジ外観

※http://www.geidai.ac.jp/info/20071220_03.html　より
(参考:http://www.ima.fa.geidai.ac.jp/ino/)

また，例えば本学として新たな分野となる映像・コンテンツ分野の大学院である映像研究科の整備など多額の経費を要するものや，学長裁量経費で進めていた「リサーチセンターに関する調査研究」，美術学部・美術研究科の複数の学科・専攻がそれぞれ個別に行っていた大学院生教育に社会連携を取り入れる指導方法のより一層の推進などに関しては，大学として特別教育研究経費を積極的に獲得して，重点的におこなうこととした(資料５１－３:特別教育研究経費の主な獲得事項 参照)。

資料５１－３:特別教育研究経費の主な獲得事項

(17年度　教育改革)　「我が国の映像文化全般の将来像を展望することができる次世代の映画映像創造者の育成」
(18年度　特別支援)　「映像メディアコンテンツ発信型教育研究基盤整備」
(20年度　基盤的教育研究設備)　「映像研究科「アニメーション専攻」教育研究基盤整備」
(19 年度～　連携融合)　「地域連携によるタウンアートミュージアムの研究事業
－東京都台東区における実践的取組－」
(20年度～　教育改革)　「芸術系大学院における学位授与プロセスの研究
－芸術系リサーチセンターの設立と「芸大プログラム」の開発－」
など

計画１－２「【５２】教員個人の学内外における研究創造活動を支援する体制を構築する。」に係る状況

本学の教員の多くは，作家，演奏家として個々に「表現者」「芸術家」として成り立っていることが大きな特徴といえる。そのため本学教員の「研究活動」は，狭義のいわゆる学術的研究だけでなく創造的表現活動を含んでいる。その成果物は，論文等として発表されるのではなく，展覧会への出品，演奏会への出演などとして発表される。また，単に出品や出演するだけでなく，展覧会や演奏会，その他のイベントなどを総合的に企画・運営・実施することなどまでに及ぶものである。ここでは，本学のこのような研究活動の特徴を表すために，「研究創造活動」と言い表している。

本学では，教員の学内外での研究創造活動を支援するため下記のような施策をとった。

① 受託事業制度の導入

従来の受託研究制度では，大学において委託を受けて実施することが難しかった内容（例えば演奏会等の企画及び実施）についての受入れを可能とする受託事業の制度を創設した。これにより，例えば，「日銀ウォーキングミュージアム　KINCO ～日本銀行×東京藝術大学　地下金庫展～」では，地下という場を生かし，場とともに成立するインスタレーションや地下回廊の特殊な音響特性を用いた音響作品の展示を教員が企画し，学生とともに制作，発表を，豊洲プロジェクト『蒼楽』では，美術学部建築科教員と音楽学部邦楽科教員の監修の下，芝生の中に発光する野外舞台を設け，夕闇に溶け込む臨海都市を背景に，演舞・演奏を行った。これらは，本学教員の持つ多様な資質の社会への還元という意味だけでなく，教員及び学生の教育研究成果を学外において発表する場や実験的な試みをおこなう機会などを創出したと言える。

資料52－1　平成 17～19 年度　受託事業　主な受入れ題目

年度	題　目	委託者
19	2007年日本国際賞授賞式式典及び祝宴における演奏	財団法人国際科学技術財団
19	「藝大　Design Project in ADACHI 展」の運営	足立区産業経済部　部長
19	メープルヒル病院アート展示プロジェクト	株式会社イリア
19	赤倉芸術交流センターを拠点としたアカデミー・イン・レジデンス	地縁法人赤倉温泉区　区長
19	日銀ウォーキングミュージアム　KINCO　～日本銀行×東京藝術大学　地下金庫展～	日本銀行，名橋「日本橋」保存会
19	「埼玉大学　大学歌」及び「埼玉大学祝典序曲」の録音原盤制作	埼玉大学
19	岡倉天心作オペラ「白狐」公演委託	台東区
19	北とぴあ国際音楽祭2007「藝大と遊ぼうin北とぴあ」	財団法人北区文化振興財団
18	浅草公会堂改修記念演奏会実施	台東区
18	ジャン＝マルク・ルイサダ氏（ピアニスト）と東京芸術大学学生によ	株式会社東京アイエムシー

	るオーケストラの共演	
18	メンデルスゾーン基金チャリティ・ガラ・コンサート	株式会社梶本音楽事務所
18	「LEXUSコンサートin東京藝大'06－ハッピーバースデー・ベートーヴェン－」	東京トヨペット株式会社
18	「取手けいりんサイクルアートプロジェクトセカンドステージ」全体デザイン委託	茨城県自転車競技事務所
17	国際シンポジウム「映画作りは学校で学べるか？」	文化庁
17	豊洲プロジェクト『蒼楽』	東京ガス豊洲開発株式会社

左：豊洲プロジェクト『蒼楽』

右： KINCO ～日本銀行×東京藝術大学　地下金庫展～
（参考:http://www.boj.or.jp/type/release/zuiji07/un0709b.htm）

② 事務組織の整備・外部資金の受入れの促進

学外との連携を推進するため，平成 17 年 4 月に学外連携・研究協力課を新たに設置。これまで総務課専門職員（1 名）が各部局庶務担当を通じて行っていた研究協力，国際交流にかかる業務ついて，より全学的な視点から行える体制を構築した。

同課では，研究助成情報ページを設置（平成 17 年 8 月より）し，外部助成金等の情報提供を Web 上で行い，教員へ更新情報を一斉メールで配信，周知を開始，平成 18 年 3 月からは同ページを学外連携・研究協力課のホームページとして移管し，学外向けに奨学寄附金，受託研究，受託事業，共同研究の募集案内や実績等も掲載し，学内外に総合的な情報提供を行って，外部資金の受入れの促進を図った。（なお，同課は平成 19 年 4 月より社会連携推進課に名称を変更。）

さらに本学の教育研究及びその成果発表の場として重要な意味を持つ，大学美術館や奏楽堂の運営助成，並びに学内外での成果発表への助成や教育研究活動や環境整備の充実を図るため，「藝大フレンズ」を創設し，広く賛助金を募集する制度を整えた。（平成 17 年度より募集，助成は平成 18 年度より開始。資料５２－２　藝大フレンズ　助成事業一覧　参照）

資料52－2　藝大フレンズ　助成事業一覧

年度	種別	部局	事業名称
18	2	演奏芸術センター	うたシリーズⅦ－2 日本・中国歌の饗宴
18	2	演奏芸術センター	藝大 21　藝大とあそぼう　チャレンジ→明るい未来
18	3	美術学部	東京芸術大学日本画第二研究室「素描展」
18	3	美術学部	第 2 回アトリエの末裔あるいは未来展
18	3	美術学部	「東京芸大・筑波大金属彫刻作家新鋭展」
18	3	美術学部	「東京芸術大学 DESIGN PROJECT in ADACHI」
18	3	美術学部	第 6 回保存科学研究室発表会

19	1	大学美術館	新入生歓迎　ー　春のコレクション展
19	1	美術学部	東京芸術大学日本画第二研究室「素描展」
19	1	美術学部	物語の彫刻
19	1	美術学部	疎通と拡散　日・中・韓　陶芸シンポジウム＆国際陶芸展
19	1	美術学部	工藝考　-素材へのまなざし-　展
19	3	美術学部	漆のかたち展
19	3	美術学部	東京藝術大学　文化財保存学　日本画研究室　博士展 『日本絵画の謎を解く』
19	3	美術学部	新薬師寺蔵・地蔵菩薩立像「通称・夜泣き地蔵」における調査および教育研究成果報告会および研究成果報告書配付
19	3	音楽学部	古典舞踏とバロック音楽への誘い　～動きと音楽によるワークショップ・コンサート～
19	3	音楽学部	学生の企画・マネージメントによる邦楽ワークショップ
19	3	音楽学部	文化としての日本の「うた」　ー　ことば・音楽・身体からの再考　ー
19	3	音楽学部	高性能音楽スタジオにおける音楽録音セミナー

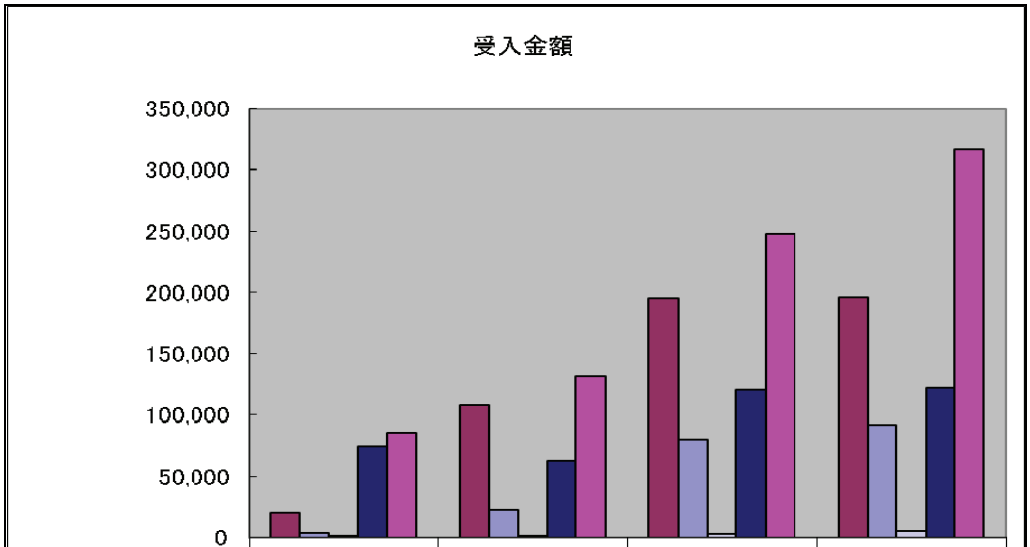
※種別
1. 大学美術館で開催される展覧会への助成
2. 奏楽堂で開催される演奏会への助成
3. 本学の教育研究成果を社会に発信・還元するための活動への助成（学内外の活動を問わない）
4. 教育研究環境整備（芸術資料の購入を含む）を目的とした事業への助成

科学研究費補助金に関しては，平成 16 年度より毎年 1 回（平成 16 年 10 月 14 日，平成 17 年 10 月 11 日，平成 18 年 10 月 16 日，平成 19 年 10 月 18 日）科学研究費補助金説明会を開催し，制度説明（外部講師），経理処理についての説明（本学会計課長）など行い，申請数・採択数の増加を図っている。（参加者，平成 16 年度 51 名（近隣他機関からの参加者含む），平成 17 年度 23 名，平成 18 年 36 名，平成 19 年 70 名）

特に兼ねてより本学からも働きかけを行っていた芸術に関する分科が平成 20 年度申請分より新設された（分科「芸術学」）ことから，19 年の説明会では高い関心と参加者があった。またこれまで申請を行ったことがない教員が多数いるため，学長裁量経費（人件費分）を活用して，「科学研究費補助金申請サポーター」として，書類作成の補助を行う人員を一時的に雇って，教員への支援を行った。

本学の外部資金の導入については，上記のような各種の努力により，資料５２－３のとおり，法人化初年度の平成 16 年に比べて，受託研究については，平成 19 年度は 9.2 倍と著しい増加となっている。また全体でも 3.9 倍となっていることは，特筆に値する。

資料５２－３　外部資金の導入状況（単位：千円）



	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
受託研究 金額	21,254	108,127	195,712	196,684
受託事業 金額	3,866	23,149	80,054	92,213
共同研究 金額	1,816	1,816	3,612	5,820
科学研究費 金額	74,490	62,900	120,960	123,010
寄附金 受入金額	85,845	131,826	248,445	316,801

③「教員・学生の展覧会・演奏会・イベント情報」

本学の教員の研究創造活動の発表形態は，展覧会，演奏会，イベント等の形式をとることが多い。こうした発表においては，広く開催を周知し，多くの観客から評価をいただくことが重要である。しかし，本学教員が学外での展覧会等の開催・出演数がかなり多数となるため，これまで本学公式 Web サイト上では，本学学内や本学の事業として行う展覧会等以外については掲載してこなかった。

平成 19 年 2 月に導入した「教員・学生の展覧会・演奏会・イベント情報」システムでは，大学広報担当係が掲載に係る作業を行うのではなく，各科・専攻ごとに ID を設定することにより，それぞれが適時適切に周知を図りたい展覧会等の情報を掲載することが可能となった(資料５２－４:教員・学生の展覧会・演奏会・イベント情報 参照)。

資料５２－４:教員・学生の展覧会・演奏会・イベント情報

※http://www.geidai.info/event/index.php　より

計画１－３「【５３】学科・学部・大学院の枠を超えた研究グループの編成法や全学的な支援体制に関する具体的な検討を行う。」に係る状況

計画１－２(【５２】)(P.88-91)に記載した受託事業制度は，本学での学科・学部・大学院の枠を超えた新しい研究創造活動を生み出している。計画　１－２で例として挙げた「日銀ウォーキングミュージアム　KINCO ～日本銀行×東京藝術大学　地下金庫展～」，豊洲プロジェクト『蒼楽』も，美術と音楽の両分野の教員が連携して実現したものである。

このような学内での分野を超えた連携や学外の教育研究機関との連携を推進するための支援体制については，計画１－１（【５１】）(P.86-88)に記述した研究推進室や計画１－２(【５２】）(P.88-91)に記載した学外連携・研究協力課として整備した。

しかし，近年「感性」の持つ創造的力や商品作りへの「感性価値」の付加といったことが，

特に産業界を中心に叫ばれてきており，工学系等の本学とは異なった観点でものづくりを行っている分野などにあっては，科学(技術)と芸術の枠を超えた研究，あるいは融合させた研究ということへの関心が高まってきている。

本学としても，中項目１の計画１－３(【４６】)(P. 73-78)に記載のとおり，科学と芸術の枠を超えた研究成果をあげてきているところではあるが，学外から共同研究の可能性について打診があった際に，それを発展させていくための仕組みづくりが必要と考えられること，また，上野校地(美術学部・音楽学部)，取手校地(主として美術学部先端芸術表現科)，千住校地（主として音楽学部音楽環境創造科），横浜校地（映像研究科）とキャンパスが分散しており，学内において学際的意味合いの強い先端芸術表現と音楽環境創造，映像研究科が，最も多くの教員の属する上野校地と離れてしまっていることから，学内における分野を超えた研究をこれまで以上に推進していくためには，やはり一定の仕組みづくりが必要であると考えられることから，本学の研究全般について所掌している研究推進室とは別に，学際的研究に関して専門的に企画・立案（コーディネイト）を行う支援組織を置く方向で，現在検討を進めているところである。

計画１－４「【５４】附属図書館の開館時間を延長し，研究の利便を図る。」に係る状況

大項目１の中項目３，計画３－３(【２９】)(P. 53)に記載のとおり，土曜開館や学期末試験期間中の開館時間延長をはじめた。また，大項目１の中項目３，計画３－２(【２８】)(P. 52)に記載したとおり，蔵書の購入，校地間のデリバリーサービスなどを含めて，これらにより教育だけでなく，研究面での利便性も向上させた。

b)「小項目１」の達成状況

(達成状況の判断)　目標の達成状況が良好である

(判断理由)　計画１－１(【５１】)(P. 86-88)，計画１－２(【５２】)(P. 88-91)，計画１－３(【５３】)(P. 91-92)に記載のとおり，担当理事室及び担当課の設置，学長裁量経費等の配分，特別教育研究経費の獲得，受託事業制度をはじめとする外部資金の獲得のための支援などにより，法人化前に比べて，研究推進を図っていく環境が整ったと考えられる。また，計画１－２(【５２】)の資料５２－３(P. 90)のとおり，外部資金の導入額の急増にその効果がはっきりと現れている。

○小項目２「芸術創造に関する研究体制の多様化を促進し，研究の高度化，重点化を目指す。」の分析

a)関連する中期計画の分析

計画２－１「【５５】全学的な重点テーマに関する横断的なプロジェクトを立ち上げ，そのための専用スペースを用意する。」に係る状況

大項目１の中項目１の計画２－２(【１１】)(P. 37-38)に記載のとおり，本学では，博士後期課程における学位授与学内制度等を見直しているところである。この一環として，大項目２の中項目２の計画１－１(【５１】)(P. 86-88)に記載したとおり，平成19年度は学長裁量経費を配分し，平成20年度からは特別教育研究経費を獲得して，「芸術系大学院における学位授与プロセスの研究－芸術系リサーチセンターの設立と「芸大プログラム」の開発－」を平成20年度から５ヶ年計画で行うこととした。

これは，本学大学院においては，実技を中心とした研究分野においては，研究論文と作品（演奏）の両方を用い，作品自体とその作品を客観的に位置づける研究能力をあわせて評価することで学位審査を行うというスキームを採用していることが特徴と言えるが，このスキームにより客観性を与え，(1)芸術分野における学位の在り方の研究，(2)作品審査の透明性の獲得，(3)研究論文と作品の一体審査，を実現するための研究であり，他の芸術系大学のモデルとなるスキームを開発しようとする先駆的な取り組みである。

この研究のため，美術，音楽それぞれのセンター室を平成 20 年度より用意した。(美術:中央棟２階の１室，音楽:４号館１階の１室)　(資料１１－２：東京芸術大学芸術リサーチセンターイメージ図(P. 38)参照)

計画２－２「【５６】優れた業績をあげている研究創造や特色ある研究創造を支援する体制を整え，重点的な資金配分等を行う。またその成果の公表を大学美術館や奏楽堂などで定期的に行えるようにする。」に係る状況

計画１－１（【５１】）(P. 86-88)，計画１－２（【５２】）(P. 88-91)，計画１－３（【５３】）(P. 91-92)に記載のとおり，研究推進体制を整え，特定のテーマに対して重点的な資金配分等を行っている。また，本学の大学美術館や奏楽堂での展覧会，演奏会の実施状況は，大項目２の中項目１の計画１－２（【４５】）の資料４５－１，４５－３(P. 65-72)，計画２－１の資料４８－１(P. 80-82)のとおりである。これらの本学大学美術館，奏楽堂で行う展覧会，演奏会等の経費として，合計で毎年おおよそ 115,000 千円前後の予算を配分している。（このほかに，協賛会社からの寄付，藝大フレンズ等の助成などを合わせて実施されている。）

計画２－３「【５７】企業等からの特別研究員，外国人研究者，外国人芸術家，他機関の専門スタッフなどの積極的な受入体制を整備し，研究開発，発信能力の向上を図る。」に係る状況

外国人客員研究員については，各部局で異なる取扱い要項を定めていたため，新たに「東京芸術大学外国人客員研究員規則（平成18年11月20日制定）」を定め，本学で研究を行うことを希望する海外の研究者の円滑な受入が行える体制を整備した(資料５７－１：東京芸術大学外国人客員研究員規則，資料５７－２：外国人客員研究員受入数 参照)。

資料５７－１

○東京芸術大学外国人客員研究員規則

（平成18年11月20日制定）

（趣旨）

第１条　この規則は，本学の教育研究及び芸術国際交流を推進するため，本学において研究活動に従事する外国人客員研究員を受け入れる場合の取扱いについて必要な事項を定めるものとする。

（定義）

第２条　この規則において，「部局」とは，各学部，各大学院研究科，大学美術館，言語・音声トレーニングセンター，演奏芸術センター及び保健管理センターをいう。

２　この規則において，「部局長」とは，前項の部局の長をいう。

３　この規則において，「教授会等」とは，第１項の部局のうち各学部，大学院映像研究科においては教授会を，大学院美術研究科及び大学院音楽研究科においては研究科委員会を，その他の部局においては運営委員会をいう。

（対象の範囲）

第３条　外国人客員研究員となることができる者は，次の各号に掲げる者をいう。

（１）本学が招へいする外国人研究者

（２）国際交流基金，国際教育協会等による国際交流計画に基づき受け入れる外国人研究者

（３）外国の政府機関又はこれに準ずる機関から派遣される外国人研究者

（４）前各号に掲げる者のほか，本学が特に認める外国人研究者

（受入れ）

第４条　研究を希望する者は，次の各号に掲げる書類を申請者の所属機関を経て当該部局長に申請するものとする。

（１）申請書（別紙様式１）

（２）前条第２号及び第３号に定める場合については，当該派遣元機関が定める所定の様式

（３）その他当該部局長が必要と認める書類

２　前項により申請があった場合は，当該部局長は，教育研究に支障のない場合に限り教授会等の議を経て，受入れを決定し受入承認書（別紙様式２）を交付するものとする。

（期間）

第５条　研究の期間は１年以内とする。ただし，特別の事情がある場合は，当該部局長は教授会等の議を経て，その期間を１年以内に限り延長することができる。

（承認の取消し）

第６条　外国人客員研究員が病気その他の事由により研究を継続することができないと認められるときは，当該部局長は教授会等の議を経てその承認を取り消すことができる。

（報告）

第７条　当該部局長は，外国人客員研究員の受入れを承認した場合は，速やかにその旨を学長へ報告するものとする。期間の変更及び受入れを取り消した場合も同様とする。

（待遇等）

第８条　大学は，外国人客員研究員に対し経済的な援助は行わないものとし，外国人客員研究員の研究に要する経費は，本人が負担するものとする。

（経費等）

第９条　外国人客員研究員のうち，第３条第２号及び第３号により受け入れる外国人客員研究員について，当該派遣機関等が外国人客員研究員の受入れに要する経費（以下「受入れ経費」という。）を措置している場合は，当該派遣機関等が定める要項等に基づき受入れ経費を徴収できる。

（施設等の利用）

第１０条　外国人客員研究員は本学の施設及び設備を所定の手続きを経て利用することができる。

（規則の遵守）

第１１条　外国人客員研究員は，本学の規則等を守らなければならない。

（雑則）

第１２条　この規則に定めるもののほか，外国人客員研究員に関する必要な事項については，別に定めるものとする。

附　則

１　この規則は，平成19年４月１日から施行する。

２　東京芸術大学美術学部客員研究員の取扱いに関する申合せ事項（昭和55年10月９日教授会決定）及び東京芸術大学音楽学部客員研究員の取扱いに関する申合せ事項（昭和55年11月13日教授会承認）は，廃止する。

３　この規則施行の日以前から美術学部客員研究員及び音楽学部客員研究員として在籍している者で，この規則施行後も引き続き在籍する者については，研究期間が満了するまで，前項の規定にかかわらず，なお従前の例による。

(様式　略)

資料５７－２　外国人客員研究員受入数

年度	人数	備考
16	22	中国政府派遣5名，国際交流基金日本研究フェローシップ１名を含む
17	25	中国政府派遣2名，JBIC　中国「内陸部・人材育成事業」研修員　1名，国際交流基金日本研究フェローシップ3名を含む
18	22	中国政府派遣1名，JBIC　中国「内陸部・人材育成事業」研修員　1名，国際交流基金日本研究フェローシップ3名を含む
19	10	JBIC「中国人材育成支援事業」2名を含む

※19 年度は，創立 120 周年事業実施のための業務が一時的に増えるため，受け入れた研究員に対する十分な指導を確保するため，人数が少なくなった。

また，「特別招聘教授制度」を導入し（「特別招聘教授の業務の委嘱に関する取扱要項」を平成19年３月に制定），本学の教育研究等にとって極めて有為と考えられる国内外の著名な芸術家，研究者を短期間雇用して本学の教育研究の充実を図る制度を構築した（資料５７―３：東京芸術大学特別招聘教授の業務の委嘱等に関する取扱要項，資料５７－４：平成 19 年度特別招聘教授　参照）。

資料５７―３

○東京芸術大学特別招聘教授の業務の委嘱等に関する取扱要項

（平成19年３月28日制　　定）

（目的）

第１条　この要項は，本学の特別招聘教授の業務を委嘱する場合の取扱いについて定めることを目的とする

（定義）

第２条　特別招聘教授とは，国内外において，特に顕著な業績，極めて高度の専門的学識又は技能を有する者で，本学において期間を定めて業務を委嘱し，教育研究等の業務を行う者をいう。

（契約の期間等）

第３条　本学が特別招聘教授との間で締結する委嘱契約（以下「契約」という。）は，３月を超えない範囲で締結するものとする。

２　前項の契約の終期が年度末を超えることとなる場合は，当該契約の終期は当該年度末までとし，通算３月間を限度として翌年度に更新することができる。

３　特別な事情により学長が特に必要と認めた場合は，前２項の規定にかかわらず，３月を超えて更新することができる。

（委嘱料）

第４条　特別招聘教授の業務１月当たりの委嘱料は，別表１に掲げるとおりとする。

２　前項に規定する委嘱料の決定に当たっては，当該特別招聘教授に対し，学長が必要と認める書類の提出を求め，その者の学歴及び経過年数に基づき，別表２の基準委嘱料表により算定した基準委嘱料とし，その者の業績等を勘案して，下位又は上位にそれぞれ４号を限度として委嘱料を調整することができる。

３　月の途中において，委嘱を開始又は終了する場合のその月の委嘱料は，その月の委嘱期間が１月に満たない場合，当該１月に満たない委嘱期間が15日以上のときは委嘱料の月額とし，15日未満のときは委嘱料の月額の２分の１の額とする。なお，第７条第２項第２号による契約終了の場合は，当該事由がなかったものとした場合に当該月に支給することとなる額とする。

（旅費・滞在費）

第５条　特別招聘教授を招聘するときは，当該特別招聘教授に対し，東京芸術大学旅費規則（以下「旅費規則」という。)に基づき，旅費を支給する。なお，この場合は旅費規則中，「役員」の区分を適用する。

（契約書の締結）

第６条　本学が特別招聘教授との間で委嘱契約を締結する場合は，次に掲げる事項を記載した契約書を取り交わすものとする。

（１）委嘱料に関する事項

（２）業務に従事すべき場所，時間その他の業務の実施に関する事項

（３）契約の期間に関する事項

（４）契約の解除等に関する事項

（５）業務委嘱に当たっての注意事項等

（契約の解除等に関する事項）

第７条　前条第４号に規定する契約の解除等に関する事項は，次の各項に定めるとおりとする。

２　特別招聘教授が次の各号のいずれかに該当するときは，当該各号に掲げる日をもって，契約は終了したものとする。

（１）契約の期間が満了したとき。(契約を更新したときを除く。)期期間満了日

（２）特別招聘教授が死亡したとき。　死亡日

３　本学及び特別招聘教授はやむを得ない事由があるときは契約期間の途中であってもそれぞれ相手方に対して契約の解除を申し出ることができる。

４　前項の申し出は，契約を解除しようとする日の30日前までに行わなければならない。ただし，特別招聘教授から緊急やむを得ない事由のため申し出があった場合は，この限りでない。

（業務委嘱に当たっての注意事項等）

第８条　第６条第５号に規定する業務委嘱に当たっての注意事項等は，次の各項に定めるとおりとする。
２　特別招聘教授は，業務上知ることのできた秘密を他に漏らしてはならない。ただし，法令に基づく証人又は鑑定人等として，本学の許可を得て証言する場合には，この限りでない。
３　特別招聘教授は，セクシュアル・ハラスメント及びアカデミック・ハラスメント等，あらゆるハラスメントをしないように注意しなければならない。
４　本学は，特別招聘教授の良好な業務環境の確保を図るため，ハラスメントの防止等に関する措置を講ずるものとする。
５　特別招聘教授が故意又は重大な過失によって本学に損害を与えた場合は，その損害の全部又は一部を賠償させるものとする。
６　本学は，特別招聘教授の安全・衛生と危険防止のために必要な措置を講ずるものとする。
７　特別招聘教授は，安全・衛生に関する関係法令等を遵守するとともに，本学が行う安全・衛生に関する指示に従わなければならない。
８　特別招聘教授が次の各号のいずれかに該当するときは，その業務を禁止する。
（１）本人，同居人又は近隣の者が伝染病にかかったとき又はそのおそれのあるとき。
（２）業務を継続すれば病勢が悪化するおそれがあるとき。
（３）前２号に準ずる事情があるとき。
９　特別招聘教授は，前項各号のいずれかに該当するときは，直ちに本学に届け出て，その指示に従わなければならない。

附　則
この要項は，平成19年４月１日から施行する。

(別表　略)

資料５７－４：平成 19 年度特別招聘教授

●ダグラス・ボストック（指揮科）
●アンドラーシュ・リゲティ（指揮科）
●ゲルハルト・ボッセ（チェンバーオーケストラ）
●冨田　勲（音楽環境創造科）
●ジョルト・ナジ（指揮科）
●マルコム・レイフィールド（チェンバーオーケストラ）
●ジャン・ピエール・ヴァレーズ（チェンバーオーケストラ）

その他，プロジェクト研究等の大学が行う特定の研究に関して，研究体制の充実を図るため，非常勤の研究職ポストとして「特任研究員」を設置し，企業等から大学が行う特定の研究に関して常勤教員と協同して研究業務に従事する者を雇用できるように整備した（「東京芸術大学教育研究等非常勤職員就業規則」平成 19 年 4 月 1 日改正。資料５７－５参照。利用実績なし）。

資料５７－５

○東京芸術大学教育研究等非常勤職員就業規則（抜粋）

第１章　総則
（目的）
第１条　この規則は，東京芸術大学職員就業規則（以下「就業規則」という。）第２条第４項の規定に基づき，本学に勤務する雇用の期間又は日・時間を定めて雇用する常時勤務を要しない教育研究等職員（以下「教育研究等非常勤職員」という。）の就業に関して，必要な事項を定めることを目的とする。
（定義）
第２条　この規則において教育研究等非常勤職員は，雇用の期間又は時間を定めて雇用する常時勤務を要しない時間雇用職員で，雇用することのできる職種は，次

の各号に定めるとおりとする。
（１）教育研究助手　大学の行う教育及び研究に関して常勤教員と協同して教育研究業務に従事する者をいう。
（２）学芸研究員　大学美術館の行う美術館業務に関して常勤教員と協同して学芸業務に従事する者をいう。
（３）特任研究員　大学が行う特定の研究に関して常勤教員と協同して研究業務に従事する者をいう。

（以下　略）

b)「小項目２」の達成状況
（達成状況の判断）　目標の達成状況が良好である
（判断理由）　「芸術創造に関する研究体制の多様化」という観点では，計画１－１（【５１】）(P. 86-88)に記載した学長裁量経費や計画１－２（【５２】）(P. 88-91)に記載した受託事業制度などを通じて，新しい試みを推進したり，学科・学部・大学院の枠を超えた連携を生み出したりしている。また，計画２－３（【５７】）(P. 93-97)に記載したとおり，外国人研究者をはじめとする外部の研究者等の受入れ体制を整えた。

○小項目３「知的，美的資産の創出・取得・管理・活用に関する具体的な方策を検討する。」の分析
a)関連する中期計画の分析
計画３－１「【５８】知的，美的資産の創出・活用に関するプロジェクトを全学的問題として立ち上げ，シンポジウム開催などを通じて，著作権の国際ルール作りなどの問題を検討，解決策の提言などを行う。」に係る状況
研究推進室において，平成16年度にワーキンググループを作って「知的財産の取扱い」「作品を成果の一部とする受託研究における著作権等の取扱い」について検討を行い，平成17年度からは学長裁量経費の配分を受けて「知的財産戦略策定プロジェクト」を開始し，専門家からの意見聴取，基本資料の整備を実施した。平成18年度には東京芸術大学としてあるべき知的財産戦略の策定に資するため，アンケート形式による学内調査，学外の専門家を招いての勉強会，他大学の実態調査を実施した。平成19年度には，前年度までに把握した本学の現状や課題を整理した結果，本学で従来定めていた発明等に関する規定について，不備な内容(知的財産権として取扱う範囲等)が明らかになり，規則を整備することができた。(平成19年９月25日に「東京芸術大学役職員の発明に係る特許等の取扱いに関する規則（平成16年４月１日制定）を廃止し，新たに「東京芸術大学役職員等の発明等に係る知的財産権の取扱規則」を制定。資料５８－１参照)
また，平成20年４月から，本学における知的財産の中心である著作権等の取扱いに関して，随時相談できるように顧問弁護士を委託した。今後はさらに本学で実施する演奏会等について，DVD制作，テレビ放映等の２次利用を行う際に考えられる諸問題について，円滑に対処できるようあらかじめ対処方法を整理し，演奏会等の企画・運営の実務にフィードバックする予定である。

資料５８－１
○東京芸術大学役職員等の発明等に係る知的財産権の取扱規則(抜粋)

第１章総則
（目的）
第１条　この規則は，本学の役職員等が創作した発明等に係る知的財産権の取扱い等について基本的事項を定め，もって，学術研究の成果の社会的活用を図るとともに，その振興に資することを目的とする。
（用語の定義）
第２条この規則において，次の各号に掲げる用語の意義は，当該各号に定めるところによる。

（１）「発明等」とは，次に掲げるものをいう。
イ　特許法（昭和34年法律第1 2 1号）第２条第１項に規定する発明
ロ　実用新案法（昭和34年法律第1 2 3号）第２条第１項に規定する考案
ハ　意匠法（昭和34年法律第1 2 5号）第２条第１項に規定する意匠
二　商標法（昭和34年法律第1 2 7号）第２条第１項に規定する商標
ホ　半導体集積回路の回路配置に関する法律（昭和60年法律第43号）第２条第１項に規定する半導体集積回路の創作
ヘ　著作権法（昭和45年法律第48号）第２条第１項第10号の２に規定するプログラム及び同項第10号の３に規定するデータベースの創作
ト　種苗法（平成10年法律第83号）第２条第２項に規定する品種の育成
チ　秘匿することが可能な技術情報であって，かつ，財産的価値を有するもの（以下「ノウハウ」という。）の案出
リ　研究の過程において得られた材料，試料，試作品，モデル品，実験装置，並びに各種研究成果情報・結果を記録した電子記録媒体，紙記録媒体であって，学術的又は財産的価値があるもの（以下「成果有体物」という。）の創作又は取得
（２）「職務発明等」とは，本学又は公的機関等から支給された研究経費（外部機関等との共同研究，受託研究，受託事業，寄附金等を含む。）により行う研究及び本学が管理する施設設備を利用して行う研究に基づき，役職員等が創作した発明等をいう。
（３）「知的財産権」とは，次に掲げるものをいう。
イ　特許法に規定する特許権，実用新案法に規定する実用新案権，意匠法に規定する意匠権，商標法に規定する商標権，半導体集積回路の回路配置に関する法律に規定する回路配置利用権及び種苗法に規定する育成者権並びに外国におけるこれらに相当する権利
ロ　特許法に規定する特許を受ける権利，実用新案法に規定する実用新案登録を受ける権利，意匠法に規定する意匠登録を受ける権利，商標法に規定する商標登録を受ける権利，半導体集積回路の回路配置に関する法律第３条第１項に規定する回路配置利用権の設定の登録を受ける権利及び種苗法第３条に規定する品種登録を受ける権利並びに外国におけるこれらに相当する権利
ハ　著作権法第２条第１項第10号の２のプログラム著作物及び同項第10号の３のデータベースの著作物に係る同法第21条から第28条までに規定する著作権並びに外国におけるこれらの権利に相当する権利
二　技術情報のうち秘匿することが可能な財産的価値があるもので，学長が特に指定するノウハウの権利
ホ　研究により生じた物質，細胞株，実験動物等の新たな研究資材であって，学術的・財産的価値その他価値のある成果有体物（著作権に関するものを除く。）に関する権利
（４）「役職員等」とは，本学の役員，本学と雇用関係にある職員及び本学と研究に係る契約関係にある者をいう。
（５）「発明者」とは，職務発明等を行った役職員等をいう。
（６）「出願等」とは，特許出願及び登録出願等の発明等に関して法令で定められた権利保護のために必要な手続きを行うことをいう。
（７）「知的財産権の実施」とは，特許法第２条第３項に定める行為，実用新案法第２条第３項に定める行為，意匠法第２条第３項に定める行為，商標法第２条第３項に定める行為，半導体集積回路の回路配置に関する法律第２条第３項に定める行為，種苗法第２条第５項に定める行為，著作権法第２条第１項第15号及び第19号に定められる行為並びにノウハウ及び成果有体物の利用をいう。

（権利の帰属）
第３条　本学は，役職員等が行った職務発明等に係る知的財産権の全部又は一部を承継し，これを所有するものとする。ただし，本学が認めるときは，役職員等に帰属させることができる。

（以下　略）

計画３－２「【５９】教育現場においても著作権に関する全学的な授業科目を，教養教育委員会などを活用して立ち上げ，著作権の知識や著作権保護意識の徹底を図る。」に係る状況

教養科目として「著作権概論」(資料５９－１参照)，「法学」を開設している。

また，美術学部デザイン科では，特に知的財産研究の専門家による授業「知的財産とデザイン」を集中講義で行ってきたが，学部では通年授業の「デザイン原論」，大学院では新設授業の「デザインプロジェクト」にその内容を取り入れ，より具体的な知識を深めた内容となる授業を展開している。さらに音楽学部音楽環境創造科では，芸術運営論１「著作権」を開講し，アートマネジャーにとって必須の知識である著作権等についての知識を教授している。

資料５９－１　平成 19 年度音楽学部　授業計画　より

科目番号：科目名	2B371　著作権概論	４単位	通年
担　当　教　員		曜日：時限	月曜　Ⅱ限
授業のテーマ	芸術と最も縁が深い法律である著作権法について，その基本的な考え方を習得すること。		
授業計画及び内容	法律の基本的な読み方，考え方を説明し，その上で著作権法の全体像について講義を行う。私は学者ではなく弁護士なので，机上の議論にとらわれず，裁判になった事例や私が携わった事件なども適宜紹介しながら，著作権法をめぐる紛争の実態も紹介したいと考えている。芸術に携わる者として社会に出た際には否が応でも著作権法と関わり合うことになるので，最低限の知識を習得してもらいたいと考えている。		
教材・参考書	講義の際にレジュメを配布する。参考資料等は適宜講義の際に紹介する。		
成績評価の方法	レポートを提出してもらう。課題については講義の際に指示をする。		
履修上の指示事項	著作権法が問題になる事例は諸君にとっても身近な問題が多いので，関心をもって積極的に取り組む学生の参加を希望する。		
備考（ｵﾌｨｽｱﾜｰ）			

b)「小項目３」の達成状況

(達成状況の判断)　目標の達成状況が良好である

(判断理由)　知的財産権のなかでも著作権に関する諸問題は，個人(著作者)に帰属する権利の束(たば)であるため，複雑で大変難しい。現在までに，本学の知的財産権に係る規則上の不備を是正し，顧問弁護士を置くことにより今後の適切な運用を図る体制を整えることができたことは，「知的財産プロジェクト」を研究推進室で実施し，検討してきた成果である。

○小項目４「研究活動の状況・問題点を把握し，研究の質の向上を図るシステムを機能させるとともに，研究活動を評価し，成果をフィードバックする具体的なシステムを考案する。」の分析

a)関連する中期計画の分析

計画４－１「【６０】点検評価委員会を拡充した評価室(仮称)を設置し，研究活動の状況・問題点を把握した上で研究活動の質的向上を図る。」に係る状況

研究活動全般については，計画１－１(【５１】)に記載したとおり研究推進室で所掌しているが，平成 17 年度から 18 年度にかけて，企画・評価室では教員の研究活動の状況を「教員総覧」としてまとめるプロジェクトを実施し，平成 18 年 7 月より本学 Web サイト上での公開を開始した(資料６０－１：教員総覧ページ例　参照)。

また，本学では，教員の任期制を全学的に導入していることから，平成 16 年度より，学部等の特性に応じて，教育，研究，学内運営，社会貢献等の活動に関し多面的に評価できる任期の更新時の教員評価制度の検討を開始し，管理・運営室（人事・総務部会）で全学的な視点から調整を行いつつ，学部ごとに評価基準等を定めた実施要項を策定し，平成 18 年度からは任期更新を希望する教員への評価を開始した（資料６０－２：東京芸術大学における大学教員の任期に関する規則　参照)。

資料６０－１　教員総覧ページ例　※http://www.geidai.ac.jp/guide/organization/list/index.html より

トップ > 教員総覧 > 美術学部、大学院美術研究科 >　　English

北郷　悟　教授－彫刻科　　2007.6.1現在

くり返される呼吸-日常　2001

1953	福島県生まれ
1977	東京造形大学彫刻科卒業
1979	東京芸術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了
1987～91	東京芸術大学美術学部彫刻科非常勤講師
1991～97	新潟大学教育学部助教授
1996～97	文化庁在外研修、イタリアミラノブレラアカデミア美術学校
1997～06	東京芸術大学美術学部彫刻科助教授
2006～	東京芸術大学美術学部彫刻科教授
	新制作協会会員

研究活動

展覧会・受賞

1979	新制作展／新作家賞受賞（受賞’80,’82）
1981	現代美術選抜展（文化庁）
1983	天理ビエンナーレ／大賞受賞
1990	通産省グッドデザイン賞受賞
1992	現代日本具象彫刻展（千葉県立美術展）
1994	文化庁作品買い上げ
1997	NUOVEREALTA展（イタリアミラノ/ロアルテギャラリー）
1999	彫刻・具象表現の解体と構築展（芸大美術館陳列館）
2000	現代の陶彫＝日本とアメリカ（岐阜県土岐市）
	世界の美術学校によるコンピュータによる彫刻展（研究室）グランプリ受賞（アメリカ）
2001	DOMANI・明日展2001（安田火災東郷青児美術館）
2002	東日本一彫刻　優秀賞受賞（東京ステーションギャラリー）
2003	「コンスタンティンブランクーシ大賞展」奨励賞
2005	「世界の呼吸法-アートの呼吸　呼吸のアート」展（川村記念美術館）
	現代日本彫刻展（宇部市野外彫刻美術館）
	スキノデリック-彫刻の表層展（大学美術館・陳列館）
2006	倉吉緑の彫刻賞（鳥取県倉吉市）

個展

銀座みゆき画廊、東京（87,88）／いわき市文化センター、福島（89）／武蔵野画廊、福島（89）／ギャラリーせいほう、東京（91,93,98,01）／ときの忘れもの、東京（01）／天満屋美術画廊、高松（02）／いわき市立美術館（04）

教育活動

彫刻科学部学生の彫刻実技指導、塑像・テラコッタ・樹脂・ブロンズ等、他実材制作研究指導
彫刻科大学院の彫刻実技指導、塑造・テラコッタ・樹脂・ブロンズ・コンピュータ等、他実材制作研究指導
美術学部における各科の基礎彫刻教育の指導

社会活動

いわき市立美術品選定評価委・いわき市彫刻のある街づくり委員・第15回全国健康福祉祭ねんりんピック2002美術審査委員・第23回素形材シンポジウム・NASDAとの共同研究（宇宙開発事業団）・高村光雲作広瀬宰平像の復元研究（広瀬記念館）・金属造形新鋭作家展（芸大・筑波大）（メタルアートミュージアム）・彫刻科企画展の実施（芸大美術館陳列館）・奏楽堂定期演奏会オペラ「ドンジョバンニ」・航空機による無重力実験コンテスト選定委員

パブリックコレクション

国立近代美術館　東京芸術大学大学美術館　東京都　いわき市立美術館　新潟大学　福島県　いわき市　遠野市　函館市　松山市　鳥取県

キーワード

新しい表現としての具象表現／テラコッタ素材における表現の可能性と展開／コンピュータによる立体造形の可能性と表現性

附属図書館芸大教員アーカイヴ

http://www.lib.geidai.ac.jp/Archive/kitago.html

資料６０－２

○東京芸術大学における大学教員の任期に関する規則

（平成16年４月１日
制　　定）
最終改正　平成20年４月24日

（趣旨）

第１条　この規則は，東京芸術大学教員の採用等に関する規則（以下「教員採用等規則」という。）第７条第４項の規定に基づき，本学における大学教員の任期その他必要な事項について定めるものとする。

（任期等）

第２条　本学において，任期を定めて雇用する大学教員（以下「任期付教員」という。）の職及び任期等は，別表のとおりとする。なお，講師以上の職に昇任又は配置換（同じ学部等で，別表に定める学科，講座等の項を異にして異動する場合も含む。）する場合は，発令日をもって新たな任期等を付すものとする。

２　前項の規定により任期が満了し，更新が有とされている任期付教員は，教育研究評議会の審査を経て更新することができる。

３　本学は，任期付教員を，その任期の期間中雇用するものとする。ただし，東京芸術大学職員就業規則（以下「就業規則」という。）第19条第４号，第24条，第25条及び第43条第１項第４号の規定に該当する場合を除く。

４　任期付教員は，その任期中に退職することができる。

（任期の期間停止）

第３条　前条第１項又は第２項の規定に基づく任期は，次の各号に掲げる期間を含まないものとする。

（１）東京芸術大学職員の育児休業等に関する規則第３条及び第５条の規定による育児休業のうち継続した期間が１年以上の期間。ただし，東京芸術大学職員の勤務時間，休暇等に関する規則第28条第１項第５号及び第６号の規定による産前産後の特別休暇に引き続いている場合は，その特別休暇の期間を含めるものとする。

（２）就業規則第14条第１項第１号の規定による病気休職のうち継続した期間が１年以上の期間。

２　前項に関し必要な事項は，学長が別に定める。

（同意）

第４条　第２条の規定に基づき雇用を行う場合は，当該任期付教員の文書（別紙様式）による同意を得なければならない。

（定年）

第５条　第２条第１項又は第２項の規定に基づき任期を定める場合においては，教員採用等規則第８条に定める定年により退職する日を超えて任期を定めることはできない。

（更新希望の確認等）

第６条　学長は，更新が有とされている任期付教員について，任期が満了する日の１年６月前までに，更新希望の有無を確認するものとする。

２　前項の確認は，文書でしなければならない。

（更新の審査）

第７条　学長は，前条の規定により確認を行った場合において，更新を希望する者（以下「更新希望者」という。）があるときは，その更新の可否について，教育研究評議会に審査を求めるものとする。

２　教育研究評議会は，審査に先立ち，教授会（保健管理センター運営委員会及び芸術情報センター運営委員会を含む。以下同じ。）に当該更新希望者の業績等についての専門的な審査を付託するものとする。

３　教授会は，前項に規定する審査の付託を受けた場合，当該更新希望者から次の各号に掲げる事項を記載した業績調書の提出を受け，審査を行うものとする。教授会は，必要に応じ，専門委員会に審査を委託することができる。

（１）研究業績

（２）教育実績

（３）大学運営上の貢献

（４）社会への貢献
（５）その他
４　教育研究評議会は，教授会の審査結果に基づき，更新の可否を審査するものとする。この際，教授会の審査結果を尊重するものとする。
（通知）
第８条　学長は，教育研究評議会の審査結果に基づき，更新の可否を決定し，当該更新希望者に対し，任期が満了する日の１年前までに通知をするものとする。
２　前項の規定により更新を否と決定した場合は，当該更新希望者に不服申立ての機会を与えるものとする。
（プロジェクト職の特例）
第９条　本学が定める又は参画する特定の時限付き計画に基づき教育研究を行う職（以下「プロジェクト職」という。）にあっては，第２条第２項，第６条，第７条及び第８条に定める任期の更新にかかる審査手続等を適用しない。
２　プロジェクト職の任期の更新にかかる審査手続等については，別に定める。
３　プロジェクト職にあっては，第３条の規定は適用しない。

（附則　略）

別表（第２条第１項関係）

<table>
<tr><th colspan="2">教育研究組織</th><th rowspan="2">対象教員</th><th rowspan="2">任期</th><th rowspan="2">任期の更新に関する事項</th></tr>
<tr><th>学部等</th><th>学科，講座等</th></tr>
<tr><td rowspan="6">美術学部</td><td rowspan="4">全学科の全講座</td><td>教　授</td><td rowspan="2">10年</td><td rowspan="2">有</td></tr>
<tr><td>准教授</td></tr>
<tr><td>助　教</td><td rowspan="2">３年</td><td rowspan="2">無</td></tr>
<tr><td>助　手</td></tr>
<tr><td>絵画科，工芸科，デザイン科，建築科，先端芸術表現科，美術教育，美術解剖学，体育</td><td>講　師</td><td>５年</td><td rowspan="2">有</td></tr>
<tr><td>彫刻科，芸術学科</td><td>講　師</td><td>10年</td></tr>
<tr><td>附属写真センター
附属古美術研究施設</td><td>助　教
助　手</td><td>３年</td><td>有。１回限りとする。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">美術研究科</td><td rowspan="4">文化財保存学専攻</td><td>教　授</td><td rowspan="2">10年</td><td rowspan="3">有</td></tr>
<tr><td>准教授</td></tr>
<tr><td>講　師</td><td>５年</td></tr>
<tr><td>助　教
助　手</td><td>３年</td><td>無</td></tr>
<tr><td rowspan="5">音楽学部</td><td rowspan="5">全学科の全講座</td><td>教　授</td><td rowspan="2">10年</td><td rowspan="3">有</td></tr>
<tr><td>准教授</td></tr>
<tr><td>講　師</td><td>５年</td></tr>
<tr><td>助　教</td><td rowspan="2">３年
ただし，プロジェクト職に雇用された者の任期は，プロジェクト終了日を超えないものとする。</td><td rowspan="2">有。１回限りとする。ただし，プロジェクト職に雇用された者は，プロジェクト終了日を超えて更新はしない。</td></tr>
<tr><td>助　手</td></tr>
<tr><td>映像研究科</td><td>映画専攻</td><td>教　授</td><td>３年</td><td>有</td></tr>
</table>

	メディア映像専攻（コンテンツ産業研究プロジェクトを除く。） アニメーション専攻	准教授		
		講　師 助　教 助　手	３年	有。１回限りとする。
	コンテンツ産業研究プロジェクト	助　教	１年 ただし，プロジェクト終了日を超える任期及び年度を超える任期は付さない。	有。ただしプロジェクト終了日を超えて更新はしない。
大学美術館		教　授 准教授	10 年	有
		講　師	５年	有。１回限りとし，更新の場合の任期は２年とする。
		助　教 助　手	３年	有。１回限りとする。
言語・音声トレーニングセンター		助　教 助　手	３年	有。１回限りとする。
演奏芸術センター		教　授 准教授	10 年	有
		講　師	５年	
		助　教 助　手	３年	有。１回限りとする。
芸術情報センター		助　教 助　手	３年	有。１回限りとする。
保健管理センター		教　授 准教授	10 年	有

計画４－２「【６１】競争的資金を獲得した教員のための共同利用スペースを用意するなど，優れた教員に対する支援制度を検討する。」に係る状況

平成 17 年度に実施した施設の点検・評価に基づく専有及び共用スペースの調査結果を分析し，共用スペースの利用状況について重点的に追調査を行った。その結果，有効利用されていない共用スペースの使用者に利用計画の提出を求めた。提出された計画が，利用率の向上を達成し，かつ，教育研究等に貢献できる計画であるかどうかを審議したうえで，利用を認めるという方策をとって，利用状況の改善を図っている。

調査の結果，共用スペースが限られていることからスペースの用意が難しいため，優れた教員に対する支援という点では，間接経費の活用により配慮することとした。

競争的資金や外部資金に関連する間接経費の配分については，内部補助という観点からも，競争的資金を獲得した優れた教員に対するインセンティブという観点からも非常に重要な意味を持つため，一般管理経費 50%，教育研究経費 50%（内，競争的資金等を獲得した教員へこの半分=全体の 25%）として運用してきた。さらに平成 20 年度からは下記の資料のとおり配分方法を見直し，最大 50%の間接経費を教員へ再配分できるように改めた（資料６１－１：受託研究・事業費及び寄附金等の間接経費について　参照）。

資料６１－１

受託研究・事業費及び寄附金等の間接経費（必要経費）について

間接経費（必要経費）については、平成１９事業年度の年度計画においても「間接経費を学長裁量経費等として、活用する。」とされており、また、今後も増額されることが予測されることから、より効率的・効果的な活用を図るため、以下のとおり使途及び配分を見直すこととする。
また、科学研究費補助金にかかる間接経費についても、受託研究等の間接経費の考え方に統合することとする。

１．間接経費（必要経費）の額
（１）受託研究費　：　原則として、直接経費の30%の額
（２）受託事業費　：　原則として、直接経費の30%の額
（３）寄　附　金　：　標準として寄附金の10%に相当する額
（４）科学研究費補助金　：　科学研究費補助金の交付を受けた研究代表者から譲渡される額（直接経費の30%の額）

２．間接経費（必要経費）の使途及び配分
○現状は、
（１）間接経費（必要経費）の二分の一は、教育研究活動を活性化するための経費として使用する。
（２）間接経費（必要経費）の二分の一は、一般管理経費として使用する。

※（１）の教育研究活動を活性化するための経費の二分の一は、全学的観点から教育研究経費として再配分し、残額二分の一は受託研究若しくは受託事業又は寄附金の受入れに功労のあった教員の教育研究経費として使用することができる。

間接経費		配分（１）			配分（２）		部局配分	
１００%	⇨	教育研究活動活性化経費	５０%	⇨	全学的教育研究経費	２５%	全学	５０%
					受入部局教育研究経費	２５%		
		一般管理経費	５０%		全学的一般管理経費	２５%	受入部局	５０%
					受入部局一般管理経費	２５%		

○今後は、
（１）間接経費（必要経費）の二分の一は、全学的観点から学長裁量により、教育研究経費及び一般管理経費として使用する。
（２）間接経費（必要経費）の二分の一は、受入部局の部局長裁量により、教育研究経費及び一般管理経費として使用する。

間接経費		配分（１）		執行目的
１００%	⇨	全学的経費	５０%	全学的観点から学長裁量により、教育研究経費及び一般管理経費として使用する。
		受入部局経費	５０%	受入部局の部局長裁量により、教育研究経費及び一般管理経費として使用する。

※学長裁量分の活用、配分方法は、研究推進室において検討するものとし、その方針及び配分結果を公表するものとする。
※部局長裁量分の活用、配分方法は、各学部において検討するものとし、その方針及び配分結果を公表するものとする。

b)「小項目４」の達成状況
（達成状況の判断）　目標の達成状況が良好である
（判断理由）　従前は書籍として数年に１度刊行していた教員総覧を，本学公式 Web 上に作成公表するとともに，年１回の定期的更新を行うことにより，教員個人の研究活動のアクティビティを把握できるように改めた。また，法人化と同時に，従前は対象外の職位もあった教員の任期制を全面的に導入したことにともない，任期更新時の評価の手順等について，各学部等の特性に応じて定めた。

②中項目２の達成状況
（達成状況の判断）　目標の達成状況が良好である
（判断理由）　担当理事室及び担当課の設置，学長裁量経費等の配分，特別教育研究経費の獲得，受託事業制度をはじめとする外部資金の獲得のための支援などにより，法人化前に比べて，研究推進を図っていく環境が整ったと考えられること，計画１－２（【５２】）の資料５２－３(P.90)のとおり，外部資金の導入額の急増や，新しい試みや学科・学部・大学院の枠を超えた連携を促すといった効果が現れていることから良好とした。

③優れた点及び改善を要する点等

（優れた点）
組織的な外部資金導入努力により，外部資金額が法人化初年度の平成 16 年に比べて，受託件究については，平成 19 年度は 9.2 倍と著しい増加となっている。また全体でも 3.9 倍となっている。

（改善を要する点）
特になし

（特色ある点）

大学教員の任期制を全面的に導入しており，任期付教員の割合は，平成 16 年度末 56．9%，平成 19 年度末 84%となっている。よって順次(任期３年の教員については，既に更新評価を実施済みであるが)任期更新時の評価を行うこととしている。

３ 社会との連携，国際交流等に関する目標（大項目）

（１）中項目１「社会との連携，国際交流等に関する目標」の達成状況分析

①小項目の分析

○小項目１「芸術大学としての特色を生かした，教育面・研究面での社会貢献，国際交流を促進する。」の分析

a)関連する中期計画の分析

計画１－１「【６２】両学部，大学美術館，奏楽堂＝演奏芸術センターにおいて様々な企画を推進し地域の芸術文化向上，生涯学習に資するとともに，自治体や学外機関等と共同して保存修復支援，様々なレベルでの芸術教育提供・支援，芸術鑑賞提供・支援等に積極的に取り組む。」に係る状況

大学美術館，奏楽堂を中心として実施している本学の教育研究に関する様々な成果発表はすべて，社会への芸術鑑賞機会の提供という観点で，社会貢献的要素を含んだ取り組みである。その実施例は，大項目１の中項目１の計画１－７（【７】）の資料７－１：東京芸術大学　学生の学内外での成果発表例(P. 25-28)，資料７－２：東京芸術大学　公開試験等一覧(P. 28-30)，資料７－３：演奏依頼等一覧(P. 30-33)及び大項目２の中項目１の計画１－２（【４５】）の資料４５－１:演奏芸術センター企画演奏会(P. 65-69)，資料４５－３：大学美術館　展覧会一覧(P. 70-72)，計画２－１（【４８】）の資料４８－１：奏楽堂での定期演奏会等(P. 80-82)を参照願う。

また，本学においては，キャンパスが所在する台東区，取手市，横浜市，足立区を始め，その周辺地域を中心に様々な日本の諸地域において，芸術文化向上，生涯学習に資する芸術教育提供・支援，芸術鑑賞提供・支援等に積極的に取り組んでいる（大項目１の中項目１の計画１－４（【４】）の資料４－３(P. 16-22)参照)。

なかでも，平成 11 年より市民と取手市，東京芸術大学の三者が連携して行っているアートプロジェクトである「取手アートプロジェクト（ＴＡＰ）」は，芸術家やアートマネジメントなどの人材育成と地域文化の振興を推進しており，本学と取手市との連携活動の中核をなす活動となっている。毎年，11 月の土・日を中心に取手市内各所で展示，演奏，パフォーマンス等のイベントを実施しており，イベント期間中以外も，展示やアーティストの学校派遣などを行っている。本プロジェクトには取手校地の学生を中心に多くの学生が運営への参画，企画への参加などしており，学科・専攻を超えた交流や教育面での効果も得られている。ＴＡＰは，平成 16 年度文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」採択（平成 16～18 年度），平成 18 年度文化庁「文化芸術による創造のまち」支援事業採択，平成 18 年度地域づくり表彰国土交通大臣賞受賞など，教育面そして地域振興面からも高い評価を得ている。

また，平成 18 年 9 月の音楽学部千住校地開設に伴い，「足立区と国立大学法人東京芸術大学との相互協力に関する協定書」，「同連携・協力に関する覚書」を締結し，地域活性化のための連携事業が円滑に実施できるようにしたところでもあり，シンポジウム，演奏会，展覧会，文化講座等の実施だけでなく，区内の教員のリカレント教育，モニュメントの制作，デザインプロジェクトなど幅広い地域貢献活動を開始している。

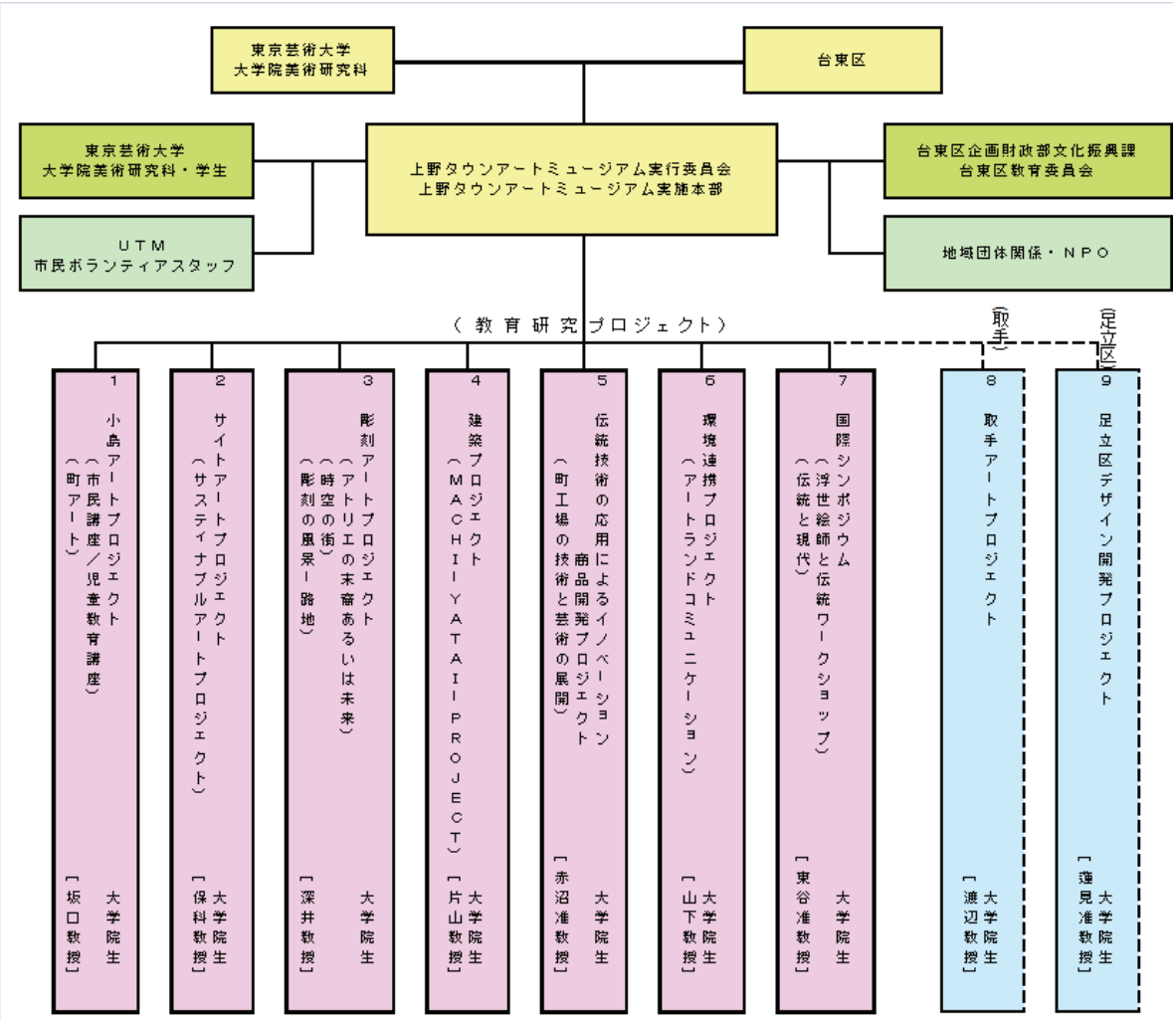
さらに，これまで美術研究科の各専攻で個別的に行ってきた「社会と連携した芸術教育プロジェクト」(大学院学生の教育研究指導に社会と連携した活動を取り入れたもの)を「上野タウンアートミュージアム(UTM)」として位置づけて，平成 19 年度より台東区と組織的な協力のもとに，組織的に実施することとした。UTM は，教育研究活動実施及びその社会への還元というだけでなく，地域文化の活性化にも寄与する内容となっている点で，本学の特徴を十分に生かした取り組みとなっている(資料６２－１:上野タウンアートミュージアム 参照）。

その他，本学が持っている専門的・総合的芸術教育機能を活用し，広く社会に学習の機会を提供するものとして「東京芸術大学公開講座」を毎年開設して多くの市民が受講している(資料６２－２：公開講座数受講者数，資料６２－３：平成１９年度　東京芸術大学公開講座　実施状況等　参照)。

さらに保存修復支援に関しては，具体的には受託研究等として委託されて仏像等の修復の実施や町並み保存調査等，を行ったものが数多くある(大項目２中項目１の計画１－３（【４６】）の資料４６－２(P. 75-77)　参照)。また，『日枝神社における古江戸，武蔵野の植物画（天井絵）の表現研究と創造』では，古色を使った植物画の表現方法を歴史的に考察しつつ，現代的なアレンジを施して天井絵 123 枚を描いたもので，保存修復とも異なる，いわば新しい文化

財の創造とも言える受託研究となった(資料６２－４:日枝神社天井絵　参照)。

資料６２－１:上野タウンアートミュージアム



※概算要求資料より(取手，足立区のプロジェクトは上野タウンアートミュージアムと同様に地域連携を院生教育に取り入れたプロジェクトとして参考掲載)

※参考: http://www.geidai.ac.jp/guide/kinen/program.html →タウンアートミュージアムの各ページ

資料６２－２：公開講座受講者数

年度	講座数	受講者数	備考（左記以外に委託等により本学が実施した公開講座等）
16	30	934	
17	27	927	
18	36	892	文化庁芸術団体人材育成事業　1 講座 70 名 足立区委託　8 講座 436 名
19	36	862	文化庁芸術団体人材育成事業　5 講座 662 名 上野タウンアートミュージアム 8 講座 181 名 足立区委託 8 講座 362 名

※参考: http://www.geidai.ac.jp/guide/extension/index.html →　各年度のページ

資料６２－３：平成１９年度　東京芸術大学公開講座　実施状況等

No.	部局	講座名	会場	開講日数	募集人数	受講者数	備考
1	美術	陶芸（初級）	総合工房棟２F 多目的ラウンジ	4	50 名 市民一般	45 名	土曜開講
2	美術	陶芸中級(てびねり)	総合工房棟１Ｆオープンアトリエ A-112	6	30 名 市民一般	30 名	土日開講

3	美術	陶芸上級（ロクロ）	総合工房棟１Ｆオープンアトリエ A-112	6	15 名 市民一般	15 名	土日開講
4	美術	油画（前期）	絵画棟 油画実習室	7	63 名 市民一般	63 名	(7/22 を除く)
5	美術	今日の美術を楽しむ	絵画棟 油画実習室	7	30 名 市民一般	32 名	(7/22 を除く)
6	美術	木版画実技	絵画棟 木版画教室	7	18 名 市民一般 （20 歳以上）	18 名	(7/22 を除く)
7	美術	銅版画実技	絵画棟 銅版画教室	7	18 名 市民一般 （20 歳以上）	16 名	(7/22 を除く)
8	美術	テラコッタ技法による彫刻制作 （ヒトを造る）	総合工房棟２Ｆ 多目的ラウンジ	8	21 名 市民一般	23 名	土日開講
9	美術	針穴写真を撮ろう！（自家製ピンホールカメラ）	中央棟 写真センター	4	12 名 市民一般	11 名	
10	美術	みんなで作る木工作	金工棟 木工室	5	10 組 20 名 小・中学生と保護者	12 名	親子講座
11	美術	油画（後期）	絵画棟 油画実習室	7	63 名 市民一般	66 名	
12	美術	銀でつくる装身具	金工棟 ｵｰﾌﾟﾝｱﾄﾘｴ２	6	22 名 市民一般 （18 歳以上）	22 名	(9/18～9/21 を除く)
13	音楽	声楽公開講座	奏楽堂ホワイエ	3	100 名 市民一般	110 名	
14	音楽	《さくら》《春の海》を弾こう	練習ホール館 H412，H413，H414	3	50 名 市民一般及び音楽教員	29 名	
15	音楽	はじめてのシタール	練習ホール館 第２ホール	3	20 名 市民一般 (中学生以上)	17 名	
16	芸術情報センター	サウンドプログラミングワークショップ	芸術情報センター内 演習室	3	20 名 市民一般 （学生以上）	20 名	
17	美術	きらびやかな漆の世界　～蒔絵～	専門教育棟 A－214 講義室	7	20 名 市民一般	20 名	
18	美術	手作り木工 ～卓上整理小箱～	共通工房 木材造形工房	7	20 名 市民一般	19 名	
19	美術	七宝でつくる －金銀彩七宝－	共通工房 金属表面処理工房	6	20 名 市民一般	19 名	
20	美術	吹きガラス体験 土曜コース	共通工房 ガラス造形工房	2	6 名 市民一般	5 名	土曜開講
21	美術	吹きガラス体験 日曜コース	共通工房 ガラス造形工房	2	6 名 市民一般	4 名	日曜開講
22	美術	紙を中心としたドローイング	小島アートプラザ （旧小島小学校）	12	15 名 市民一般	29 名	月曜開講 夜間開講
23	美術	紙を中心としたドローイング	小島アートプラザ （旧小島小学校）	8	15 名 市民一般	22 名	火曜開講 夜間開講
24	美術	紙を中心としたドローイング	小島アートプラザ （旧小島小学校）	11	15 名 市民一般	26 名	火曜開講 夜間開講
25	美術	絵画制作（春期） 火曜日コースＡ（基礎）	小島アートプラザ （旧小島小学校）	12	30 名 市民一般	19 名	火曜開講
26	美術	絵画制作（春期） 火曜日コースＢ	小島アートプラザ （旧小島小学校）	12		14 名	火曜開講
27	美術	絵画制作（春期） 水曜日コースＡ（基礎）	小島アートプラザ （旧小島小学校）	12	30 名 市民一般	20 名	水曜開講
28	美術	絵画制作（春期） 水曜日コースＢ	小島アートプラザ （旧小島小学校）	12		9 名	水曜開講

29	美術	人体（ヌードクロッキー）	小島アートプラザ（旧小島小学校）	6	20 名 市民一般	38 名	金曜開講
30	美術	人体（ヌードクロッキー）	小島アートプラザ（旧小島小学校）	6	20 名 市民一般	28 名	金曜開講
31	美術	絵画制作(秋期) 火曜コースＡ（基礎）	小島アートプラザ（旧小島小学校）	14	30 名 市民一般	16 名	火曜開講
32	美術	絵画制作(秋期) 火曜コースＢ	小島アートプラザ（旧小島小学校）	14		13 名	火曜開講
33	美術	絵画制作(秋期) 水曜コースＡ（基礎）	小島アートプラザ（旧小島小学校）	14	30 名 市民一般	15 名	水曜開講
34	美術	絵画制作(秋期) 水曜コースＢ	小島アートプラザ（旧小島小学校）	14		17 名	水曜開講

受講者数計 862 名

参考*その他

① 文化庁芸術団体人材育成事業によるもの

No.	部局	講座名	会場	開講日数	募集人数	受講者数	備考
1	音楽	高性能音楽スタジオにおける音楽録音セミナー	千住校地	1	25 名	29 名	藝大フレンズ賛助金による支援も受けている。
2	音楽	古典舞踏とバロック音楽への誘い	千住校地	1	80 名	91 名	
3	音楽	学生の企画・マネージメントによる邦楽ワークショップ	上野校地	1	175 名	90 名	
4	音楽	コンサート＆ワークショップ「下北の子どもたち＆若手演奏家によるジョイントコンサート　心に響く『日本のうた』	下北文化会館	1	1,186 名	322 名	
5	音楽	レクチャーコンサート「藝大ゆかりの日本のうたを若手音楽家と楽しもう！　～童謡・唱歌や日本歌曲から昭和歌謡まで～」	千住校地	1	80 名	130 名	

受講者数計 662 名

② 上野タウンアートミュージアムで実施したもの

No.	部局	講座名	会場	開講日数	募集人数	受講者数	備考
1	美術	英語で美術を楽しもう/フロッタージュで町をタッチ	小島アートプラザ（旧小島小学校）	2	15 名	19	
2	美術	墨で表現しよう	小島アートプラザ（旧小島小学校）	2	20 名	42	
3	美術	アニメーションを作ろう	小島アートプラザ（旧小島小学校）	2	15 名	8	
4	美術	写真で町を切り取ろう	小島アートプラザ（旧小島小学校）	2	20 名	8	
5	美術	此処はどこ？	小島アートプラザ（旧小島小学校）	2	20 名	18	
6	美術	上野美術探訪（大学美術館や陳列館の見学会など）	小島アートプラザ（旧小島小学校）	2	20 名	20	
7	美術	十人十色の混色法（ワークショップ）	小島アートプラザ（旧小島小学校）	2	20 名	20	
8	美術	児童教育プロジェクト「地球と宇宙を結ぶひとがたワークショップ」	台東区生涯学習センター	1	80 名	46	

受講者数計 181 名

③ 足立区からの委託によるもの

No.	部局	講座名	会場	開講日数	募集人数	受講者数	備考
1	音楽	第 2 期　おとあそび♪親子教室	千住校地行動室	6	80 名	80 名	対象:足立区在住の 2-3

2	音楽	第３期　おとあそび♪親子教室	千住校地行動室	6	80 名	84 名	歳児親子又は 4-5 歳児親子（2 名 1 組）
3	音楽	光のお化け煙突に君の作品を飾ろう！ ～渡辺五大先生と作る光のイルミネーション～	シアター1010「ギャラリーB」	1	60 名	35 名	足立区在住の 4 歳～15 歳までの児童・生徒
4	音楽	東京芸術大学公開講座「足立の音風景　～匠の音～足立の伝統工芸」（第１回）　作業場訪問と振り返り「東京銀器と東京籐工芸」	伝統工芸士作業場，千住校地	1	5 名	6 名	足立区民優先
	音楽	東京芸術大学公開講座「足立の音風景　～匠の音～足立の伝統工芸」（第２回）　作業場訪問と振り返り「東京彫金と東京打刃物」	伝統工芸士作業場，千住校地	1	5 名	5 名	
	音楽	東京芸術大学公開講座「足立の音風景　～匠の音～足立の伝統工芸」（第３回）　「音の意味を考える　ーサウンドスケープという考え方からー」	伝統工芸士作業場，千住校地	1	50 名	26 名	
5	音楽	音楽療法講習会　～音楽療法に触れてみませんか？～(1)	イーストピア東和(足立区内高齢者施設)	1	15 名程度	8 名	足立区内高齢者施設スタッフ対象
	音楽	音楽療法講習会　～音楽療法に触れてみませんか？～(2)	イーストピア東和(足立区内高齢者施設)	1	15 名程度	6 名	
	音楽	音楽療法講習会　～音楽療法に触れてみませんか？～(1)	伊興園(足立区内高齢者施設)	1	15 名程度	13 名	
	音楽	音楽療法講習会　～音楽療法に触れてみませんか？～(2)	伊興園(足立区内高齢者施設)	1	15 名程度	15 名	
6	音楽	東京芸術大学公開講座「足立区立小学校の音楽教諭を対象とした実技研修　邦楽研修会」	千住校地スタジオ A	1	20 名	23 名	足立区立小学校音楽教諭対象
7	音楽	春の文化講座『三味線でめぐる日本の芸能』	千住校地	3	30 名程度	24 名	足立区民優先
8	音楽	春の文化講座『音楽で旅するイタリア』	千住校地	3	30 名程度	37 名	

受講者数計 362 名

資料６２－４：日枝神社天井絵

※参考：http://www.geidai.ac.jp/info/20080605_01.html

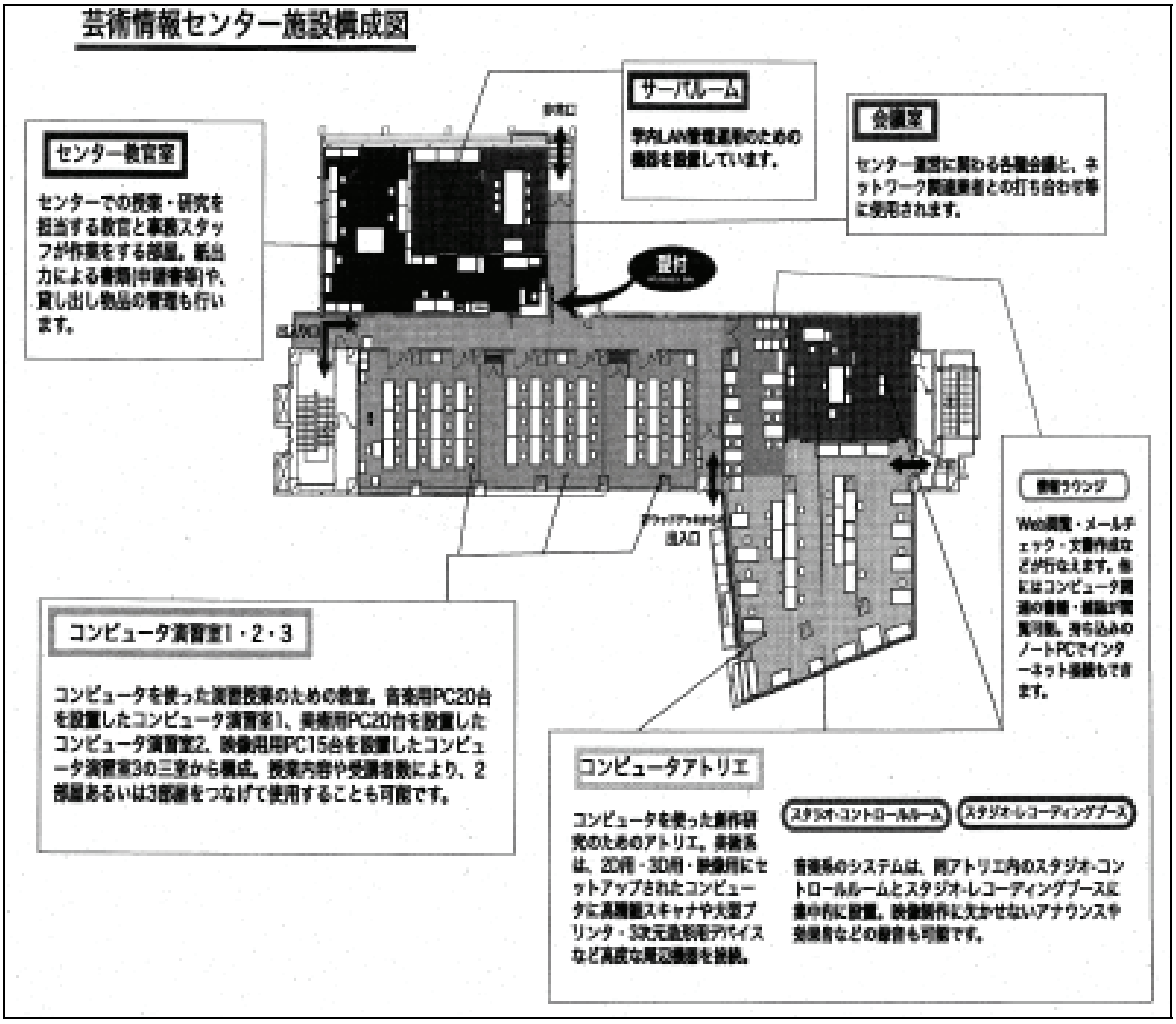
計画１－２「【６３】大学美術館，附属図書館，奏楽堂等の広報情報発信を統合する情報発信システムを芸術情報センターを中心として整備し，学内芸術情報を整備するとともに，情報発信を促進する。」に係る状況

平成 16 年８月の総合工房棟竣功に伴い，芸術情報センターを中央棟２階から総合工房棟２階へ移転し，床面積(廊下等除く)が約２倍（296 ㎡から 583 ㎡へ）となった。コンピュータ演習室に 15 台の映像制作・編集用の PC を導入した。(センター内の PC 台数:69 台→84 台，現在

は 91 台）

また，平成 17 年度には芸術情報センター内のコンピュータシステム（サーバコンピュータ及びコンピュータアトリエ室のメディア機器）の更新を行い，全学的な情報の拠点として整備できた。平成 18 年度以降も計画的に機器やソフトの更新を行い，センター施設の充実を図っている。例えば平成 18 年末までに全学対象のネットワークスイッチを ATM 方式からギガビットイーサー方式へと更新し，平成 19 年度には上野・取手キャンパス間の通信回線を ATM 専用線からイーサーネット型専用通信回線へと変更し，安定したネットワーク環境下での運用を可能とした。

資料６３－１芸術情報センター構成図



情報発信の強化については，広報室と芸術情報センターが連携して行っている。広報室は，平成 17 年 12 月に情報発信についての企画部門を強化するため，各理事室で分散していた広報関連部分を集約して企画する理事室として設置されたものである。

広報室では芸術情報センターのサポートの下，まず本学 Web サイトの全面リニューアルについて検討を進め，平成 18 年６月１日に新 Web サイトをオープンさせた。

このリニューアルにより，情報更新の適時性を高めるため，各部局から得た情報を広報係が作成し，Web サイトへ掲載する従来の方法を改め，情報提供部局において情報を作成し，広報責任部局が承認するだけで掲載可能なシステムとなった。

また，コンテンツの充実にも努めており，リニューアル後に追加された新たなコンテンツの例としては，下記のものがある。

・卒展・修了作品展の図録
・卒業試験公開演奏会のプログラム
・教育課程表，シラバス
・教員総覧

・「NEWS＆TOPICS」（英語サイト）
・「教員・学生の展覧会・演奏会 イベント情報」管理システム
・東京藝術大学出版会のページ(出版物の紹介，販売)　　など

計画１－３「【６４】ボランテイア活動等の社会活動への参加を学生に奨励・支援していく。」に係る状況

平成 15 年度より毎年東京国立博物館と行っている連携事業である「学生ボランティアギャラリートーク」は，博物館来館者への学習機会の提供とともに将来，美術館・博物館で学芸員として働くことに関心を持つ本学学生の実地研修の一つの機会にもなっている。本事業を継続して実施することにより，社会貢献面，教育面両面での効果を得られるものとして学生の参加を奨励している。平成 19 年度も日本・東洋美術史研究室，工芸史研究室の大学院生６名が，各人 5～10 回ずつ 20 分間の解説を行なった(総実施回数　55 回)。

また，上野ミュージアムクラブ（本部：国立科学博物館展示・学習部学習課）主催のワークショップ，社会を明るくする運動（法務省）におけるワークショップ，美術ワークショップイン小豆島，伊沢修二記念音楽祭などをはじめとする外部組織主催の社会活動への協力にあたっても，実技指導補助者等として学生の参加を奨励している。

また，外部からの演奏依頼(大項目１の中項目１の計画１－７(【７】)の資料７－３(P. 30-33)参照)についても，学生に積極的に紹介している。

資料６４－１:学生ボランティアギャラリートーク

計画１－４「【６５】現職芸術系教員のリカレント教育など社会人の受入れを促進するとともに，その受入れの窓口を整備する。」に係る状況

科目等履修生(派遣)，委託生として，芸術系の現職教員等を含めた社会人の受入を行っている。なお，一般の科目等履修生は資格取得を目的とした本学卒業生が主となっており，卒業生ケアのための制度としても活用されている(資料６５－１：科目等履修生等数 参照)。

その他に，下記のような研修会等を実施して，現職の芸術系教員等の社会人に対するリカレント教育を実施した。

○伝統音楽指導者研修会（毎年８月，文部科学省と共催。小・中・高の音楽教員等のための

邦楽実技指導者研修会。）
○取手市との交流事業における小・中学校教諭のブラッシュアップ研修会
○邦楽実技研修会（足立区との連携事業。足立区の小中学校の音楽教諭を対象とした音楽教育支援，18・19 年度）
○「ピアノ・レスナーズ・クリニック～ピアノ教師のためのレクチャーとワークショップ～（全２回）」（足立区との連携事業。足立区内のピアノ指導者が対象，18 年度）など

資料65－1:科目等履修生等数

年度	科目等履修生等人数				
	美術	うち委託生	音楽	うち派遣	計
１６	３１	２	１８	７	４９
１７	２１	１	２１	９	４２
１８	１８	１	１２	４	３０
１９	２１	１	１８	６	３９

計画１－５「【６６】様々な自治体，企業，各機関との連携のもと積極的に大学の人材，資産を活用できるように体制を整備する。」に係る状況

本学では，自治体等と連携して様々な活動を実施しており（大項目１の中項目の１の計画１－４（【４】）の資料４－３（P. 16-22）参照），それらの活動をより円滑に推進できるように，特に本学のキャンパス周辺自治体との間では下記のとおり体制整備に努めてきた。

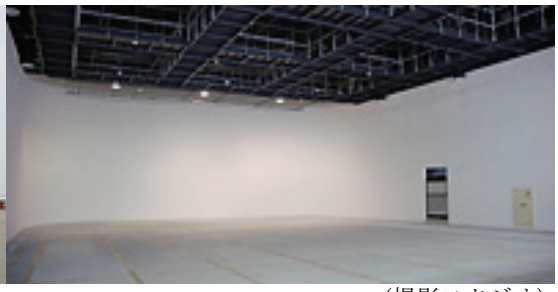
○台東区とは，「台東区と東京芸術大学との芸術・文化懇談会に関する覚書」，「同設置要綱」を締結（昭和 59 年 5 月 24 日）しており，現在協定書の締結に向けた見直しも行っているところである。また，上野タウンアートミュージアム・プロジェクトの実施にあたっては，実行委員会を本学と台東区で構成して，プロジェクトの内容，実施時期，進捗状況等を定期的（月１回程度）に話し合って進めている（計画１－１（【６２】）の資料６２－１（P. 107）参照）。
○取手市とは，平成４年６月１日に締結した「取手市と東京芸術大学との芸術・文化に関する覚書」を「取手市と東京芸術大学との連携に関する協定書」に締結（平成 18 年８月８日）しなおし，より包括的に連携に対応できる体制にした。取手市との連携の下，取手アートプロジェクトの実施，壁画のあるまちづくり，などの実施，井野アーティストビレッジの設置などが実現している。
○横浜市とは，大学院映像研究科の新設と，横浜校地の開設に伴い，「東京芸術大学と横浜市との連携・協力に関する協定書」を平成 17 年４月１日に締結し，横浜市の映像文化都市構想の推進と本学の映像分野の人材育成を相互協力して行っていくこととしている。
○足立区とは，平成 18 年９月の音楽学部千住校地開設に伴い，地域活性化のための連携事業を円滑に実施するため，「足立区と国立大学法人東京芸術大学との相互協力に関する協定書」，「同連携・協力に関する覚書」を締結（平成 18 年８月 30 日）し，音楽学部では足立区との多様な連携事業の企画・立案・調整を行うとともに，その連携事業の効果等を調査研究するため，千住校地にアートリエゾンセンター（ＡＬＣ）を置いて，各種の事業を実施しているところである。

なお，横浜校地と千住校地は，それぞれ横浜市と足立区が本学との協定に基づき，校舎となる施設を整備し，本学に提供（貸与）している（資料６６－１：横浜校地・千住校地参照）。

資料６６－１　横浜校地・千住校地

横浜校地馬車道校舎

（大視聴覚室）



横浜校地新港校舎　　（撮影スタジオ）

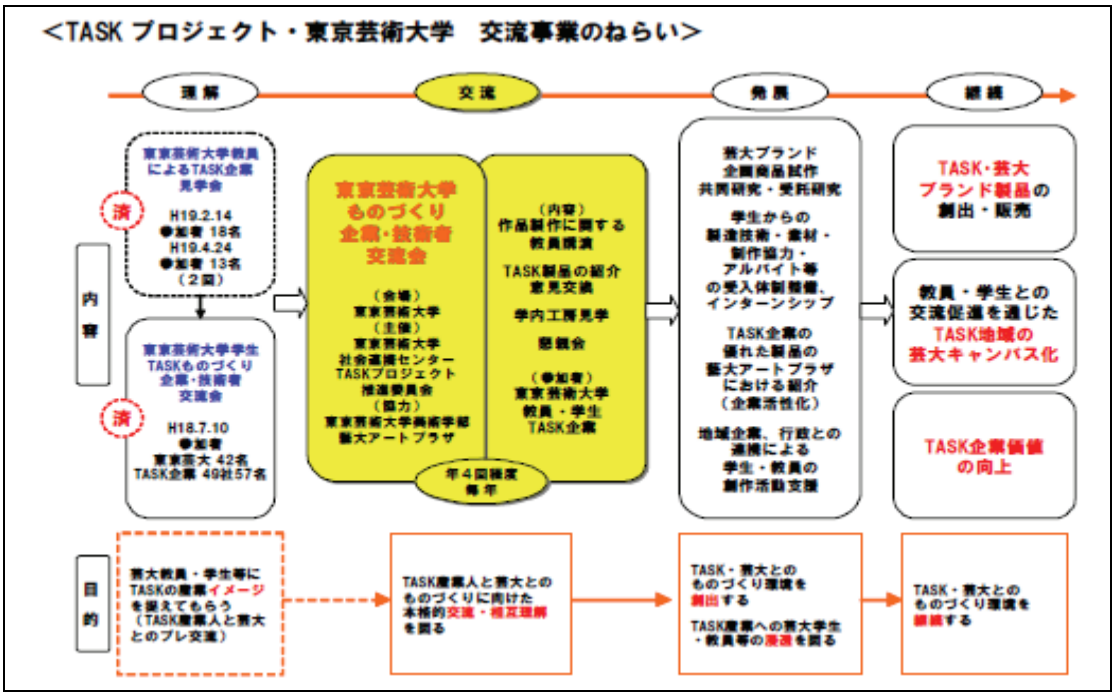
千住校地　　（スタジオ A）

○常磐線沿線４区（台東・荒川・足立・葛飾）４市（松戸・柏・我孫子・取手）と東日本旅客鉄道（株）東京支社，本学からなる「JOBAN アートライン協議会」を設立(平成 18 年 7 月 25 日)し，アートによる地域の活性化について連携していくことになった。

○まちづくりの幅広い分野において，産学官の交流と事業化支援機能を深めることにより，大学と地域及び大学間の連携協働を促進することを目的とした「大学コンソーシアム柏」(平成 18 年 11 月 22 日設立)に，オブザーバーとして参加。

○台東区(T)・荒川区(A)・墨田区(S)・葛飾区(K)が策定したTASK プロジェクト(地域産業の活性化を図るため，４区に存在する様々な地域資源を最大限に活用しながら，消費者ニーズにあった新商品等の開発等に結びつけていくプロジェクト)に協力，本学の財とTASK 地域内企業の財とが結びついたものづくり（商品の開発）や学生等との継続的な交流を目標とした「交流会」を定期的に開催(資料６６－２： TASKプロジェクト参照）。

資料６６－２　TASKプロジェクト(平成19年10月23日（火）開催の交流会案内チラシより)



※TASK プロジェクト傘下の企業が美術学部工芸科染織研究室山下了是教授から布素材の提供を受けて制作した「藝大アートプラザオリジナル・ウォレット」(長財布)(平成 20 年 2 月発売)

※参考: http://www.task-tokyo.net/ (TASK プロジェクト概要)
http://www.geidai.ac.jp/info/071029_01.html(交流会)
http://www.geidai.ac.jp/info/20080229_02.html(財布)

こうした社会連携･地域連携活動の総合窓口として,地域社会や産業界等との連携を推進し,教育研究の振興を図るとともに,地域社会への貢献を行えるようにするため,理事室の一つである社会連携推進室を事務部門の学外連携･研究協力課とより一体的に運営できるように発展改組し,平成 19 年４月より役員会のもとに「社会連携センター」として設置し,体制を強化した。(学外連携・研究協力課は「社会連携推進課」に名称変更した。)

計画１－６「【６７】国内外の芸術系大学や芸術研究機関との連携・交流を推進し,相互の資源交流を行うプロジェクトについて検討する。」に係る状況

創立 120 周年を契機に,海外における本学の芸術活動の拠点作りを未来に見据え,各々の母国で活躍する人達のネットワーク構築を整備する第一歩として,また,日中韓の文化・藝術交流を促進するプロジェクトである「藝大アーツ・サミット’07」を開催した。日中韓の 11 大学の学長が,「東アジアから藝術を世界に」をテーマに,今後の芸術及び芸術教育の方向性について意見交換を行い,共通のメッセージとして『藝術宣言』を取りまとめて署名し,世界に向けて発信し,今後の交流をより一層推進していくことを確認した(大項目１の中項目１の計画１－４(【４７】)の資料４７－１：藝術宣言(P.79)参照)。同サミットでは,各大学の学長だけでなく,現在母国で教員として活躍している元本学留学生のホームカミングを行うことによるネットワークの強化も行うことができた。

また,この宣言の具現化に向けたフォローアップとして,平成 20 年度より「アジア藝術宣言プロジェクトー世界トップレベルの芸術系大学院の形成ー」を開始したところである。本プロジェクトは,これまで培ってきた本学とアジアの諸芸術系大学との交流や留学生受け入れの実績をアジア芸術振興のための高度研究交流事業,アジアの芸術系大学生のための東京芸術大学サマースクール事業などを展開し,本学に国内外の優れた学生,研究者が集い,芸術創造活動を行うことで,本学がアジアの芸術人材育成事業の拠点として機能していくことを目指したものである。

さらに,国内においても平成 19 年 12 月 12 日に「五国公立芸術大学連携協定」を金沢美術工芸大学,愛知県立芸術大学,京都市立芸術大学,沖縄県立芸術大学と本学で締結し,「(１)地域に根ざしつつ,芸術の高等教育の根幹を形成する大学として,日本の芸術文化の発展に寄与すべく,連携して協力すること。(２)日本の芸術文化を世界に発信するため,それぞれの個性を生かし,連携協力すること。(３)心豊かな社会環境醸成のために,連携して協力すること。(４)芸術をめぐる教育研究環境の改善向上をめざして,連携して協力すること。(５)芸術の意義の理解を普く広げるべく,連携して協力すること。」の５つの精神を掲げて今後の連携・交流を推進していくこととした。

計画１－７「【６８】外国人研究者と留学生受入れを促進するとともに,地域と連携したアーチスト・イン・レジデンスなどの新しい仕組みを持った受入体制を整備する。」に係る状況

本学では,国際交流体制の整備を図るため,大学等間国際交流協定の締結や交流計画の立案等を所掌する国際交流推進室を置いている。

資料６８－１：外国人留学生数

年度	外国人留学生人数		
	国費	私費	計
１６	３７	６７	１０４
１７	３９	６８	１０７
１８	３２	７４	１０６
１９	３８	８２	１２０

本学の外国人留学生は，全学生数の約3.6％（平成19年度学校基本調査による全学生数3338人÷資料68-1の19年度外国人留学生人数）である。この人数には，大学等間交流協定による短期受入留学生は含んでいない。（協定締結校との交流による短期留学生の受入れについては，平成17年度4名，平成18年度7名，平成19年度14名となっている。

外国人研究者の受入については，大項目２の中項目２の計画２－３（【５７】）(P.93-97)に記載したとおり，外国人客員研究員制度，特別招聘教授制度を整備して，本学の教育研究及び国際交流に資する研究者，作家，演奏家等を受け入れることができる体制を整えた。

また，アーチスト・イン・レジデンスに係る取り組みとしては，平成17～18年度の美術学部のＡＩＲ事業と平成19年12月に開設した「井野アーティストヴィレッジ」がある。

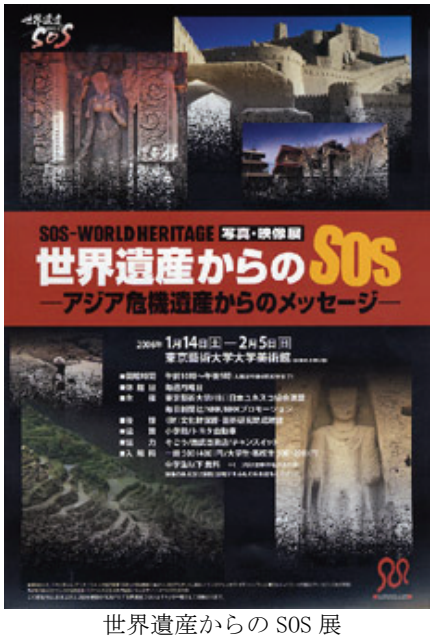
平成17～18年度のＡＩＲ事業では，ＡＭＯ（オランダの建築家レム・クールハースによる都市と建築のためのクリエイティヴシンクタンク）から招聘したクリエーターと本学教員，大学院生が「都市のSMLXL-共同体の記憶と継承」をテーマとした共同教育研究プロジェクトを行った。

「井野アーティストヴィレッジ」については，大項目２の中項目２，計画１－１（【５１】）(P.87)を参照願う。

計画１－８「【６９】ユネスコ等の国内外の諸機関とも協力し，芸術による国際協力を推進する。」に係る状況

（社）日本ユネスコ協会連盟がおこなうアジアの危機遺産救済のための募金活動，『SOS アジア世界遺産』の一環として，チャリティ企画「写真・映像展 世界遺産からのＳＯＳ」展を本学大学美術館で平成 18 年 1 月 14 日～2 月 5 日に開催し，会場内に募金箱を設けて当該活動へ協力を行った。

また，平成 19 年４月にユネスコ本部（パリ）で行われた「ユネスコ平和祈念コンサート」（東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校オーケストラパリ公演）は，世界の紛争や貧困に苦しむ子どもたちのために，平和祈念とコンサートを通じての募金活動による教育環境向上を願うもので，平山郁夫前学長が発案し，2 年以上をかけて準備し実施したものである。平成 18 年度の卒業生及び平成 19 年度の 2 年生，3 年生の弦楽器，管楽器，打楽器，ピアノ科(チェンバロ演奏)，及び演奏補助の大学生数名の約 70 名が参加し，芸術の道を志す若者が国際的な舞台で文化の交流を行う機会となるとともに芸術による国際協力にもなる活動であり，NHK ニュースでも大きく取り上げられた。



世界遺産からの SOS 展
（平成 18 年 1 月 14 日-2 月 5 日）
※参考: http://www.geidai.ac.jp/museum/exhibit/2005/sos/sos_ja.htm

ユネスコ平和祈念コンサート(平成 19 年 4 月 23 日，25 日)
※参考：http://www.geidai.ac.jp/info/070509_01.html

b)「小項目１」の達成状況

（達成状況の判断）　目標の達成状況が非常に優れている

（判断理由）　大項目１の中項目１の計画１－４（【４】）の資料４－３(P.16-22)，計画１－７（【７】）の資料７－１(P.25-28)，資料７－２(P.28-30)，資料７－３(P.30-33)及び大項目２の中項目１の計画１－２（【４５】）の資料４５－１(P.65-69)，資料４５－３(P.70-72)，計画２－１（【４８】）の資料４８－１(P.80-82)，大項目３の中項目１の計画１－１（【６２】）の資料６２－３(P.107-110)に示したとおり，本学においては，学内施設を使った教育研究成果の発表を通じた芸術文化の発信とキャンパスが所在する台東区，取手市，横浜市，足立区を始め，その周辺地域を中心に様々な日本の諸地域において，芸術文化向上，生涯学習に資する芸術教育提供・支援，芸術鑑賞提供・支援等に積極的に取り組んでいる。

②中項目１の達成状況

（達成状況の判断）　目標の達成状況が非常に優れている

（判断理由）　「小項目１」の判断理由のとおり

③優れた点及び改善を要する点等

（優れた点）

本学においては，学内施設を使った教育研究成果の発表を通じた芸術文化の発信と芸術鑑賞機会の提供やキャンパスが所在する台東区，取手市，横浜市，足立区を始め，その周辺地域を中心に様々な日本の諸地域において，芸術文化向上，生涯学習に資する芸術教育提供・支援，芸術鑑賞提供・支援等に積極的に取り組んでいること。

特に，上野タウンアートミュージアムや取手アートプロジェクト，デザインプロジェクトなど地域連携を教育に取入れた取り組みが優れている(大項目１の中項目１の計画１－４(【４】)の資料４－３(P.16-22)の No.1-1～1-12，No11,No23 を参照）。

（改善を要する点）

特になし

（特色ある点）

特になし